

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、大阪市男女共同参画基本計画の指標・数値目標をはじめする男女共同参画に関する市民の意識や生活状況などを把握し、今後の大阪市の男女共同参画施策の推進に資することを目的に実施する。

## 2. 調査の方法

<b>調査対象</b>	20歳以上の大阪市内居住者 10,000人(住民基本台帳より無作為抽出)
<b>調査方法</b>	配布・回収とも郵送法(督促状を1回発送)
<b>調査期間</b>	調査票発送:平成25年10月30日 督促状発送:平成25年11月6日 調査票締切:平成25年11月30日
<b>調査項目</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・あなたの現在の生活などについて</li><li>・男女の平等、家庭や結婚生活などについて</li><li>・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について</li><li>・地域活動や社会活動に参加することについて</li><li>・子どもの教育について</li><li>・男女共同参画に関する学習経験などについて</li><li>・男女間における暴力について</li><li>・男女共同参画に関連した制度や施策などについて</li><li>・自由回答意見</li></ul>
<b>設問及び回答の改訂</b>	本調査は、意識や日常生活の状況の変化や動向を概観することで、大阪市の男女共同参画施策の促進に資することを目的に定期的に実施してきた。 そのため、前回調査(平成20年度調査)においては、設問および回答の内容を過去調査と同様にして実施したが、社会情勢、男女共同参画施策の動き等や激しい時代の変化に対応するため、本調査において、設問及び選択肢の改訂を行った。
<b>調査実施機関</b>	大阪市立男女共同参画センター中央館(クレオ大阪中央) 指定管理者:大阪市男女共同参画推進事業体代表者 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会

## 3. 回収状況

調査年度	発送数	有効回収数	有効回収率
平成25年度	10,000	3,495	35.0%
平成20年度	3,000	1,110	37.0%
平成16年度	3,000	1,228	40.9%

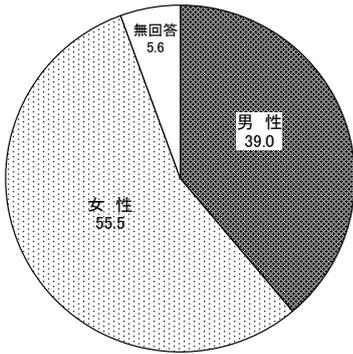
### 集計結果について

○グラフ内の数字は特記のない限り、百分比(%)であり、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分比の合計値が100.0にならないことがある。複数回答の場合は、百分比の合計が100を超えることがある。

○「SA」は1つ選択する設問、「MA」はあてはまるものすべてを選択する設問、「ML3」などはあてはまるもの3つ以内を選択する設問である。

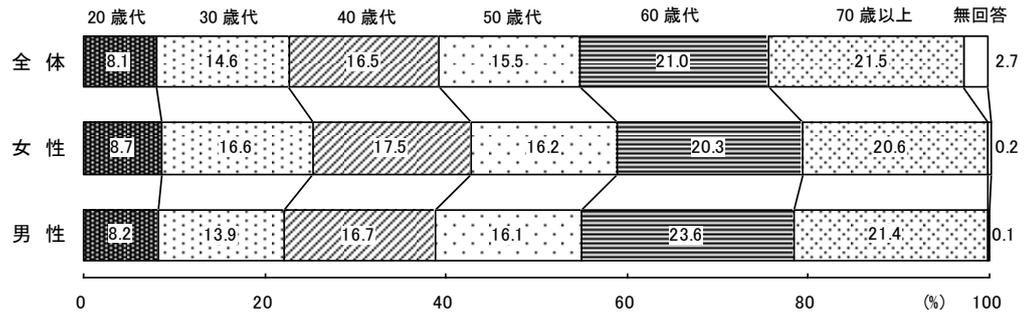
## 4. 回答者の属性

### F1 性別



### F2 年齢

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



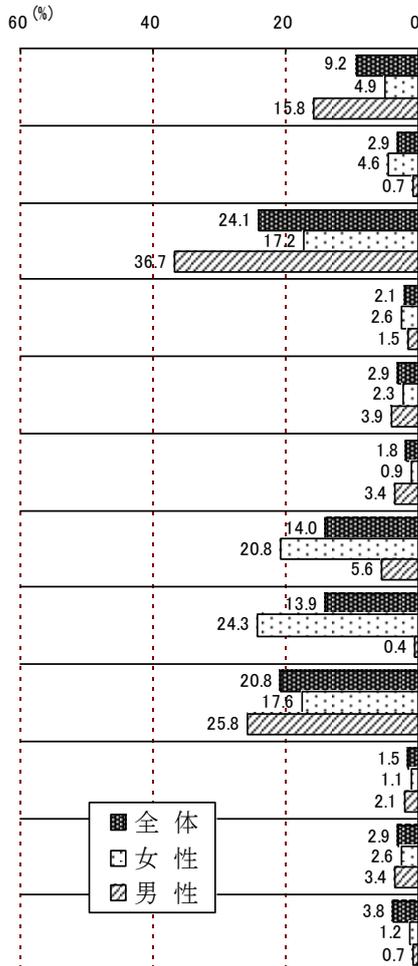
性別不明を除くと、女性が約6割、男性が約4割で、人口の男女比より女性は約10ポイント多く、男性は10ポイント少ない。(平成25年9月末住民基本台帳及び外国人登録人口)

下の表は、年代区分を集約したものであるが、全体、女性、男性とも、20-30歳代が約4分1、40-50歳代が3分の1、60歳以上が最も多く約4割となっている。実際の年齢構成に比べ、20-30歳代が約10ポイント少なく、逆に60歳以上が約10ポイント多い。40-50歳代はほぼ変わらない。(平成25年9月末住民基本台帳及び外国人登録人口)

	全体	女性	男性
20-30歳代	22.7	25.3	22.1
40-50歳代	32.0	33.7	32.8
60歳代以上	42.5	40.9	45.0

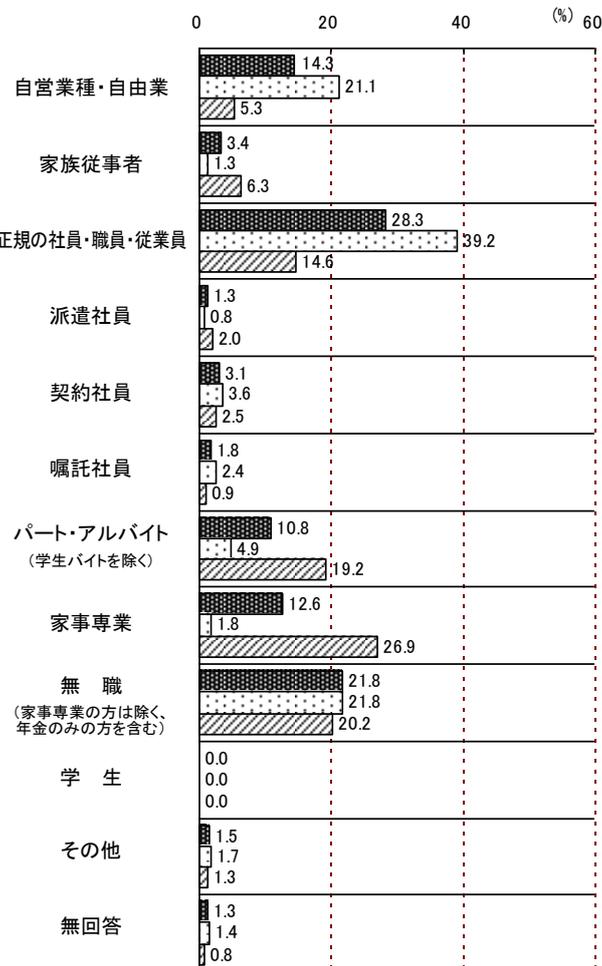
### F3 本人の職業

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



### F8 配偶者の職業

SA/全体:2,119 女性:1,189、男性:870



回答者	回答者本人の職業				回答者の配偶者の職業			
	回答者 女性		回答者 男性		回答者 女性		回答者 男性	
1位	家事専業	24.3	正規	36.7	正規	39.2	家事専業	26.9
2位	パート・アルバイト	20.8	無職	25.8	無職	21.8	無職	20.2
3位	無職	17.6	自営業	15.8	自営業	21.1	パート・アルバイト	19.2
4位	正規	17.2	パート・アルバイト	5.6	パート・アルバイト	4.9	正規	14.6
5位	自営業	4.9	契約社員	3.9	契約社員	3.6	家族従業者	6.3

単位：%

上の表は、「本人の職業」及び「配偶者の職業」のそれぞれの上位5位である。

回答者本人が男性の場合及び女性回答者の配偶者の場合は、順位や割合は、大きく変わらず、「正規の社員等」が4割程度を占めている。一方、回答者本人が女性の場合及び男性回答者の配偶者の場合は、「パート・アルバイト」「無職」の順位変動はあるものの割合は大きく変わらず、「家事専業」が約1/4を占め、上位3位を合わせると6割を超えている。

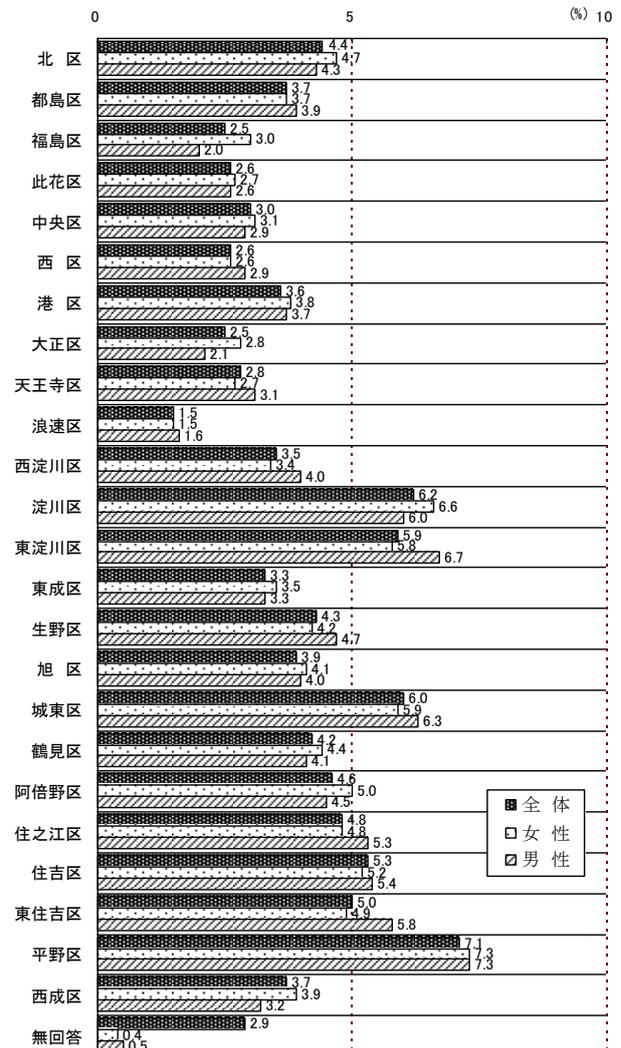
「就業構造基本調査」(平成24年)の結果と比べると、「正規の社員等」「パート・アルバイト」「契約社員」の割合はほぼ変わらないが、男性回答者本人及び女性回答者の配偶者の「自営業」は約2倍、女性回答者本人及び男性回答者の配偶者の「家族従業者」は約3倍となっている。また、「家事専業」「無職」「学生」を合わせたものを「無業者」とすると、回答者の方が女性で7ポイント、男性で5ポイント、全体で6ポイント程度少なく、「有業者」の回答者が多くなっている。

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363

#### F4 居住区

全体で回答者が多い5区は、平野区7.1%、淀川区6.2%、城東区6.0%、東淀川区5.9%、住吉区5.3%であり、少ない5区は、浪速区1.5%、福島区・大正区2.5%、此花区・西区2.6%である。また、回答者の男女差が目立つ区は、女性が多い区は福島区1.0ポイント、大正区・西成区0.7ポイント、淀川区0.6ポイント、阿倍野区0.5ポイントなど、男性が多い区は、東淀川区・東住吉区0.9ポイント、西淀川区0.6ポイント、生野区・住之江区0.5ポイントなどである。

住民基本台帳及び外国人登録人口(平成25年9月末現在)による20歳以上人口の各区の割合と各区回答者の割合を比べると、回答者が0.5ポイント以上上回っている区は、阿倍野区0.8、港区0.5旭区0.5、逆に0.5ポイント以上下回っている区は、生野区1.5、浪速区1.1、西成区0.8、中央区・西区0.6、東淀川区0.5である。



また、男女別に見ると、浪速区の男女、生野区の男女、西成区の男性では、大きく下回っているのが目立っている一方、回答者の割合が上回っているのが目に付くのは、阿倍野区の男女、東住吉区の男性である。

回答者が0.5ポイント以上、下回っている区

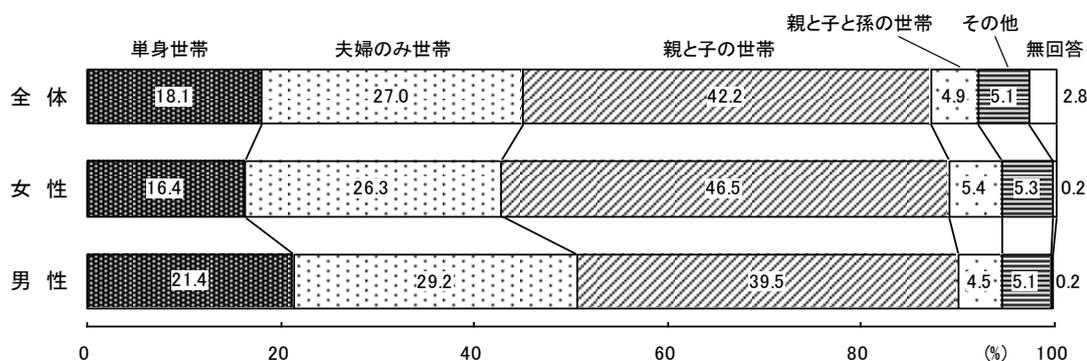
区名	割合
生野区	-1.5
浪速区	-1.10
西成区	-0.8
中央区	-0.6
西区	-0.6

回答者が0.5ポイント以上、上回っている区

区名	割合
阿倍野	0.8
港	0.5
旭	0.5

## F5 家族形態

SA／全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



ほぼ核家族世帯と見ることができる「親と子の世帯」及び「夫婦のみの世帯」がそれぞれ 42.2%、27.0%で合わせて約7割に上り、「単身世帯」は18.1%となっている。性別で見てもこの3つの家族形態の順位は変わらないが、「親と子の世帯」は女性の方が男性より7ポイント高く、逆に「単身世帯」は男性の方が5ポイント高い。

回答者の家族形態の割合を国勢調査(平成22年)の結果と比較すると、「単身世帯」の割合が約1/3であり、それ以外の家族形態は「夫婦のみ世帯」約1.7倍、「親と子の世帯」約1.4倍をはじめ、回答者の方がかなり多くなっており、回答者では家族と暮らす世帯が多い。

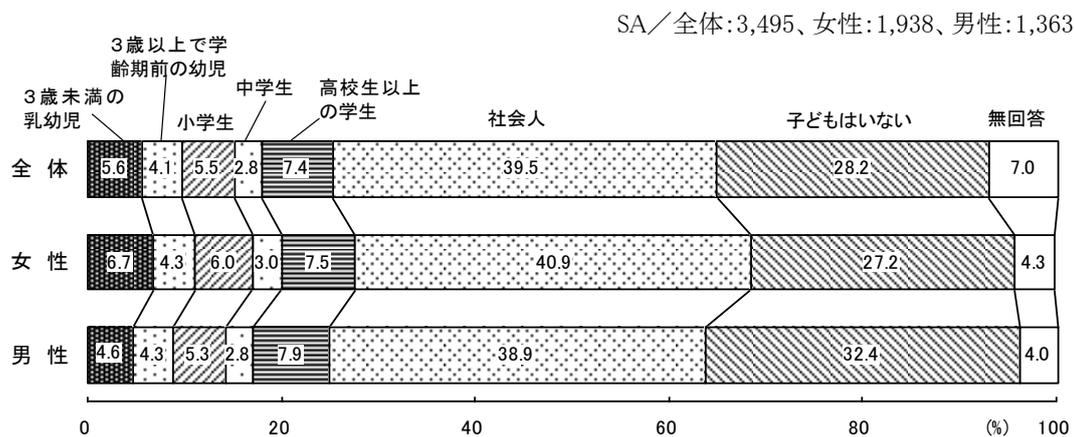
全体	単身世帯	夫婦のみ世帯	親と子の世帯	親と子と孫の世帯	その他
今回調査	18.1	27.0	42.2	4.9	5.1
国勢調査	47.5	16.2	31.1	1.4	3.9

単位:%

注 1:国勢調査は、「家族類型 不詳」を除いた総数を100とする割合である。

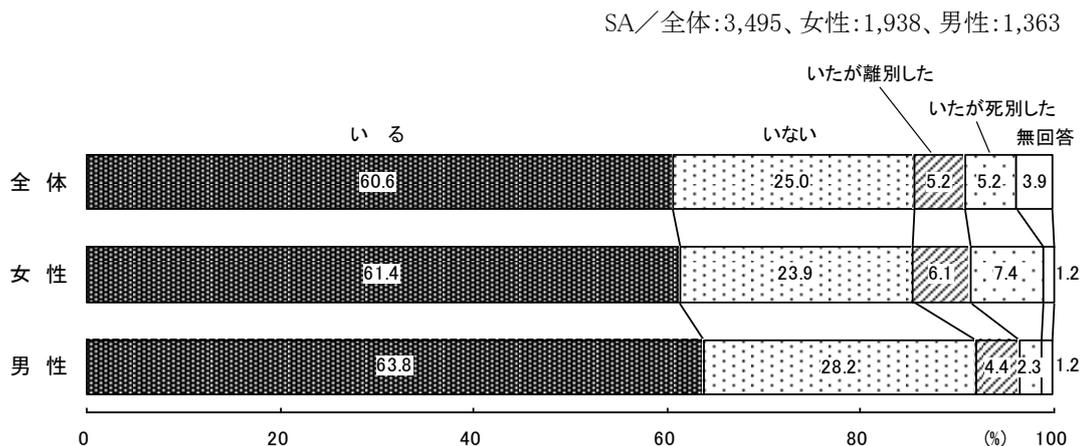
注 2:「親と子の世帯」は、「夫婦と子供からなる世帯」「ひとり親と子供からなる世帯」「夫婦と親からなる世帯」の合計とし、「親と子と孫の世帯」は、「夫婦と子供と親からなる世帯」とした。

## F6 一番下の子どもの年代



就学前までの子どもを持つ回答者が 9.7%、「小学生」5.5%であり、末子が小学生以下の子どもをもつ回答者は、全体の 15.2%、ほぼ子育てに手がかからなくなった「中学生」と「高校生以上の学生」は合わせて約 10%となっている。一方で、「社会人」39.5%、「子どもはいない」28.2%で、すでに子育てを卒業あるいは子どもがいない回答者が約 7 割を占めている。

## F7 配偶者の有無



全体、女性、男性ともに、配偶者が「いる」とする回答者の割合が 6 割を占めている。

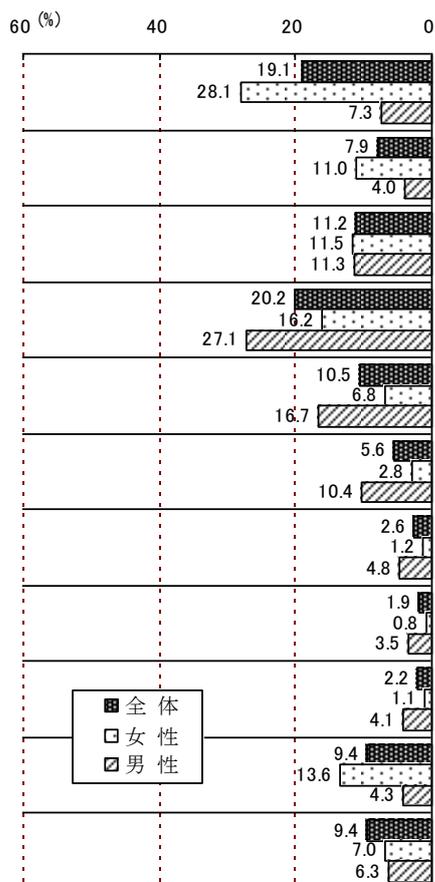
国勢調査(平成 22 年)の結果と比較すると、配偶者が「いる」とする回答者の方が約 1.3 倍に上り、一方、「いない」、「いたが離別した」、「いたが死別した」は、国勢調査結果より低くなっており、安定した世帯や家族形態の回答者の割合が高い。

	全体		女性		男性	
	今回調査	国勢調査	今回調査	国勢調査	今回調査	国勢調査
いる	60.6	48.2	61.4	46.3	63.8	50.4
いない	25.0	31.7	23.9	28.5	28.2	35.1
いたが離別した	5.2	6.6	6.1	7.5	4.4	5.6
いたが死別した	5.2	7.9	7.4	12.6	2.3	2.9

単位:%

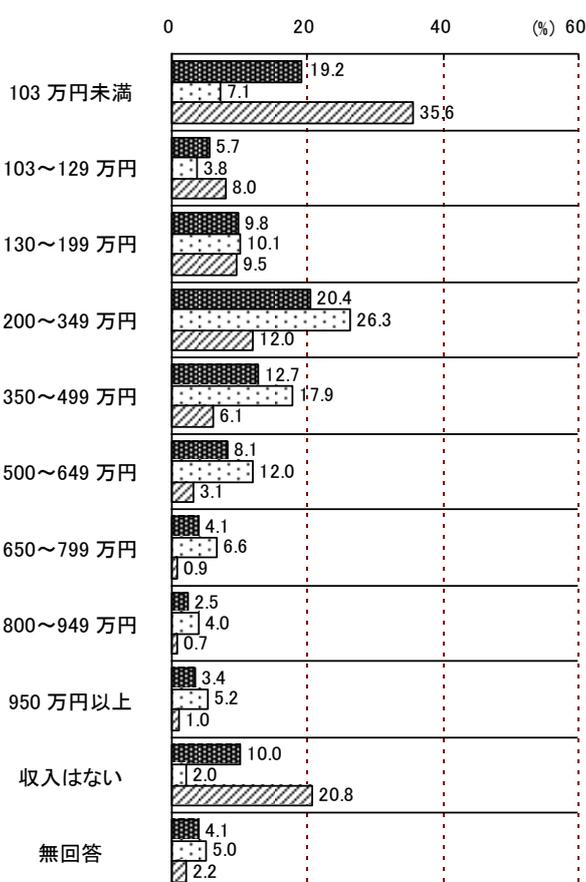
## F9 本人の収入

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



## F10 配偶者の収入

SA/全体:2,119 女性:1,189、男性:870



全体では、「200～349万円」20.2%、「103万円未満」19.1%、「130～199万円」11.2%、「350～499万円」10.5%などの順となっているが、性別でみると大きく異なる。女性では「103万円未満」が28.1%で最も多く、次いで「200～349万円」が16.2%であるが、第3位には、「収入はない」が13.6%となっている。男性では、「200～349万円」27.1%で最も多く、「350～499万円」16.7%、「130～199万円」「500～649万円」がそれぞれ11.2%、10.4%とほぼ並んでいる。

一方、配偶者の収入についてみると、回答者が女性の場合、「200～349万円」が26.3%で最も多いが、それより上位の収入階層の割合が高く、回答者が男性の場合は「103万円未満」35.6%、「収入はない」20.8%が飛び抜けて多い。男性回答者の配偶者の「収入がない」は、女性回答者本人の「収入がない」の約1.5倍となっている。

次の表は、「本人の収入」及び「配偶者の収入」について、収入の区分を集約して取りまとめたものである。

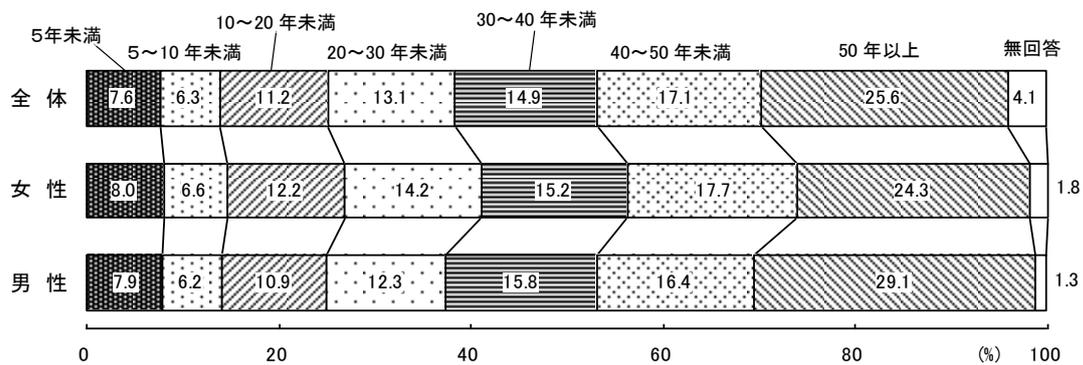
回答者本人が女性の場合、男性回答者の配偶者の場合ともに、収入が199万円以下とする割合が約5割を占め、「収入はない」も男性回答者の配偶者では2割を超え、女性回答者本人の場合も1割を超えている。

回答者本人が男性の場合、女性回答者の配偶者の場合ともに、「200～349万円」が約1/4を占めて最も多いが、女性回答者の配偶者の方が、より上位の収入階層の割合が多くなっている。

年収	回答者本人の職業		回答者の配偶者の職業	
	回答者 女性	回答者 男性	回答者 女性	回答者 男性
199万円以下	50.6%	22.6%	21.0	53.1%
200～349万円	16.2%	27.1%	26.3	12.0%
350～499万円	6.8%	16.7%	17.9	6.1%
500～649万円	2.8%	10.4%	12.0	3.1%
650万円以上	3.1%	12.4%	15.8	2.6%
収入はない	13.6%	4.3%	2.0	20.8%

## F11 通算市内居住年数

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



回答者の8割以上(全体81.9%)が10年以上の居住者であり、居住年数が10年未満と短い回答者は、15%程度に止まる。

居住年数が長く定住性の高い回答者の割合が高く、20年以上が7割に上り、特に、男性は、50年以上の居住者が約3割(29.1%)を占めている。本調査結果は、大阪に定住する市民の意識・本音といったものを示す結果ともなっている。

## 回答者の属性「時系列」

本報告書では、本文全体にわたり、平成16年度、平成20年度との調査の比較になっている。

過去調査の回答者の属性と比較したものが下の表である。

調査結果については、これらの属性の占める割合の変化に留意する必要がある。

		平成25年度		平成20年度		平成16年度		平成8年度	
総数		3,495	100.0%	1,110	100.0%	1,228	100.0%	1,093	100.0%
女性		1,938	55.5%	615	55.4%	709	57.7%	694	63.5%
20歳代		168	4.8%	72	6.5%	76	6.2%	111	10.2%
30歳代		321	9.2%	114	10.3%	100	8.1%	137	12.5%
40歳代		339	9.7%	94	8.5%	110	9.0%	165	15.1%
50歳代		314	9.0%	113	10.2%	133	10.8%	112	10.2%
60歳代		393	11.2%	116	10.5%	153	12.5%	117	10.7%
70歳以上		400	11.4%	103	9.3%	135	11.0%	52	4.8%
平成8～20年度	勤め人(フルタイム)			130	11.7%	138	11.2%	158	14.5%
	勤め人(パートタイム等)			122	11.0%	117	9.5%	125	11.4%
平成25年度	正規の社員・職員・従業員	333	9.5%						
	派遣社員	50	1.4%						
	契約社員	44	1.3%						
	嘱託社員	17	0.5%						
	パート・アルバイト	403	11.5%						
自営業・自由業		95	2.7%	47	4.2%	55	4.5%	38	3.5%
家族従業者		90	2.6%	29	2.6%	42	3.4%	53	4.8%
平成8～20年度	内職			8	0.7%	3	0.2%	7	0.6%
家事専業		470	13.4%	162	14.6%	231	18.8%	210	19.2%
学生		21	0.6%	6	0.5%	11	0.9%	15	1.4%
無職		342	9.8%	73	6.6%	90	7.3%	70	6.4%
その他		50	1.4%	16	1.4%	15	1.2%	14	1.3%
配偶者あり		1,189	34.0%	396	35.7%	468	38.1%	485	44.4%
配偶者なし		464	13.3%	124	11.2%	149	12.1%	129	11.8%
いたが離別・死別		119	3.4%	80	7.2%	73	5.9%	80	7.3%
男性		1,363	39.0%	402	36.2%	504	41.0%	392	35.9%
20歳代		112	3.2%	46	4.1%	48	3.9%	67	6.1%
30歳代		189	5.4%	64	5.8%	65	5.3%	68	6.2%
40歳代		228	6.5%	54	4.9%	82	6.7%	72	6.6%
50歳代		220	6.3%	79	7.1%	109	8.9%	70	6.4%
60歳代		321	9.2%	76	6.8%	112	9.1%	77	7.0%
70歳以上		292	8.4%	82	7.4%	87	7.1%	38	3.5%
平成8～20年度	勤め人(フルタイム)			169	15.2%	233	19.0%	198	18.1%
	勤め人(パートタイム等)			25	2.3%	31	2.5%	7	0.6%
平成25年度	正規の社員・職員・従業員	500	14.3%						
	派遣社員	21	0.6%						
	契約社員	53	1.5%						
	嘱託社員	47	1.3%						
	パート・アルバイト	77	2.2%						
自営業・自由業		215	6.2%	96	8.6%	113	9.2%	75	6.9%
家族従業者		9	0.3%	1	0.1%	5	0.4%	6	0.5%
平成8～20年度	内職			2	0.2%	1	0.1%	0	0.0%
家事専業		5	0.1%	1	0.1%	3	0.2%	0	0.0%
学生		29	0.8%	8	0.7%	8	0.7%	15	1.4%
無職		351	10.0%	90	8.1%	97	7.9%	65	5.9%
その他		46	1.3%	6	0.5%	11	0.9%	22	2.0%
配偶者あり		870	24.9%	252	22.7%	374	30.5%	270	24.7%
配偶者なし		385	11.0%	115	10.4%	89	7.2%	90	8.2%
いたが離別・死別		91	2.6%	16	1.4%	27	2.2%	30	2.7%

## Ⅱ．結果の概要

### 【利用にあたって】

- ・「Ⅱ．結果の概要」においては、平成25年度の結果を中心に、各設問に対する回答総数及び男女別を中心に紹介している。各設問の見出しの後の( )内は、「Ⅲ．調査結果の個別分析」の該当ページである。
- ・年齢別、過去の調査結果(平成16年度、平成20年度)との時系列比較で、特徴的な結果が見られる場合は、「Ⅲ．調査結果の個別分析」で記述した内容を踏まえて紹介している。
- ・以下の記述においては、選択肢の表現が長文に及ぶ場合、意味を理解できる範囲で表現を省略している。正式な選択肢の表現は、各設問の解説中の図表等でご確認ください。

### 1. 結果のまとめ

#### (1) 現在の生活など

##### 問1 【現在の生活の満足(安心)度】(P35～39)

###### (全体の概況)

- ・「とても満足(安心)」「やや満足(安心)」を合わせた“満足(安心)”(以下、同じ。)は、「経済的なゆとり」13.7%、「時間的なゆとり」21.9%、「心身の健康」16.0%、「社会全体として」5.7%となっており、最も多い「時間的なゆとり」でも2割を超える程度に止まっている。
- ・一方「とても不満(不安)」「やや不満(不安)」を合わせた“不満(不安)”(以下、同じ。)は、「経済的なゆとり」55.7%、「時間的なゆとり」33.8%、「心身の健康」44.0%、「社会全体として」63.4%であり、最も少ない「時間的なゆとり」でも3分の1を超え、「経済的なゆとり」は5割、「社会全体として」は6割を超えている。生活の様々な面で不安定さが増し、“不満(不安)”を感じる市民が多い。
- ・また、「普通」は、「時間的なゆとり」で41.2%となっているが、回答者のうち60歳以上が4割を超えていることや男性で「無職」が4分の1、女性で「家事専業」「無職」も合わせて4割を超えていることなども影響していると考えられる。

###### (性別等による特徴)

- ・その他の特徴としては、性別では大きな差はみられない。また、年齢別では、“不満(不安)”は、女性の70歳以上、男性の60歳代、70歳以上を除き、各年代で5割を超えているが、特に、女性40歳代、男性30歳代～50歳代で6割を超えている。

##### 問2 【豊かな老後を送るために必要なこと】(P40・41)

###### (全体の概況)

- ・「社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること」が50.1%と半数を超えて最も多く、以下、「財産や預金が十分あること」42.8%、「安心して住める家があること」38.2%、「家族との人間関係が円滑であること」31.0%、「楽しめる趣味があること」30.4%、「働く場所があること」「介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること」が25.1%と、この7項目が4分の1を超え、「仲の良い友人・知人がいること」が24.1%と続いている。充実した社会保障制度と衣食住の確保による生活の安定と併せて、趣味や友人との楽しみがあることといった人とのつながりが重視されている。
- ・以上の8項目以外の項目は、その割合は大幅に低下し、「病気になったとき看病してくれる人がいること」は13.1%、「日頃、身の回りの世話をしてくれる人がいること」は6.7%に止まっているが、これは、回答者に60歳以上は多いものの単身者の割合が少ないことや、このアンケート内容の性質上、回答意欲を持つ回答者がある程度限られる可能性が高いことなどによるものと考えられる。
- ・また、「趣味」「友人」の重要性に比べ、地域活動等への「参加」は、5%程度あるいはそれ以下であり、地

域活動等への興味の喚起や経験できる多様な機会の創出などが必要である。

#### (性別等による特徴)

- このような傾向は、男女間で重要性の認識の順位に若干の違いも見られる。女性では、「働く場所があること」が 22.9%に止まっているのに対し、全体ではこれを下回っている「介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること」「仲の良い友人・知人がいること」がそれぞれ、27.3%、26.2%と、順位が逆転している。一方、男性では「家族との人間関係が円滑であること」27.1%に対し、「楽しめる趣味があること」33.9%、「働く場所があること」28.8%となり、女性に比べ実益(収入)と趣味とを重視する傾向がある。
- 女性の方が男性より高い数値を示しているのは、「社会保障制度がしっかりしていること」3.5ポイント(女性 51.9%、男性 48.4%)、「安心して住める家があること」5.6ポイント(女性 40.6%、男性 35.0%)、「家族との人間関係が円滑であること」7.0ポイント(女性 34.1%、男性 27.1%)、「仲の良い友人・知人がいること」4.8ポイント(女性 26.2%、男性 21.4%)「介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること」5.1ポイント(女性 27.3%、男性 22.2%)などである。
- 一方、男性の方が女性より多いのは、「楽しめる趣味があること」5.4ポイント(男性 33.5%、女性 28.1%)「働く場所があること」5.9ポイント(男性 28.8%、女性 22.9%)などである。

### (2) 男女の地位の平等感、性別役割分業意識など

#### 問3 【男女の地位の平等感】(P42~58)

##### (全体の概況)

- 8項目のうち、「平等である」が最も多いのは、「学校教育の場で」が唯一 54.4%と5割を超えており、以下、「地域活動・社会活動の場で」37.4%、「家庭生活で」34.4%、「法律や制度のういで」33.3%の3項目で3割を超えている。一方、「政治の場で」が12.8%で最も少なく、「社会通念・慣習・しきたりなどで」14.1%、「社会全体として」18.4%と続き、「職場の場で」は20.7%となっている。
- 「平等である」が、「非常に」「どちらかといえば」を合わせた“男性優遇”(以下同じ。)より多いのは、「学校教育の場で」が「平等」54.0%、「男性優遇」13.1%、「地域社会・社会活動の場で」が「平等」37.4%、「男性優遇」30.3%の2項目であるが、前者では「平等」が“男性優遇”のほぼ4倍に上っているのに比べ、後者はわずか7.1ポイントの差に止まっており、ほぼ拮抗していると見てよい。
- 一方、“男性優遇”が「平等である」より多いのは6項目に上り、特に、「政治の場で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「社会全体として」、「職場の場で」の4項目は、半数を超えている。

「政治の場で」…	“男性優遇” 68.8%	「平等」 12.8%
「社会通念・慣習・しきたりなどで」…	“男性優遇” 68.7%	「平等」 14.1%
「社会全体として」…	“男性優遇” 61.9%	「平等」 18.4%
「職場の場で」…	“男性優遇” 55.5%	「平等」 20.7%
「家庭生活で」…	“男性優遇” 45.7%	「平等」 34.4%
「法律や制度のういで」…	“男性優遇” 37.9%	「平等」 33.3%

##### (性別等による特徴)

- 全ての項目で、女性の方が「平等である」より“男性優遇”が多く、男女間の認識の差は大きい。“男性優遇”についての男女の認識の差は、「学校教育」2.7ポイント、「政治」8.2ポイントを除き、10ポイントを超えており、特に「家庭生活」では20ポイントを超えている。「平等」と感じる割合の差でも、「学校教育」0.6ポイント、「職場」5.6ポイントを除き、10ポイント程度の差があり、「家庭生活」「法律」では15ポイントを超える差となっている。
- 家事・育児等を例にすると、男性は「してやっている」「今までよりやっている」という観点から評価するのに対し、女性は「期待する姿」さらには「あるべき姿」の観点から評価することによる差と考えられる。こうした点を踏まえると、掛け声としての「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍促進」ではなく、様々な場面におけ

る男女共同参画の「期待像」や「あるべき姿」について、その標準的なレベルや目標とするレベルを明確にしつつ、行動や取組の具体例（例えば、ノー残業デー、記念日休暇、カジダンの日など）を示し、家庭内、企業内、社会的な合意の下で一つずつ実現していく取組が必要である。

#### （時系列比較）

- ・全体的には“男性優遇”とする割合は低下し、「平等である」とする割合は上昇する傾向にあるが、「政治」については、男女とも「男性優遇」「平等」とする割合の改善は見られない。

### 問4 【今後、女性がもっと増える方がよいとあなたが思うもの】(P59・60)

#### （全体の概況）

- ・「医師」41.1%、「国会議員・地方議員などの政治家」36.3%、「企業の管理職」35.1%、「大臣や閣僚」31.7%、「地方自治体の首長」31.1%が3割を超え、以下、「裁判官・検察官・弁護士」28.4%、「国家公務員・地方公務員の管理職」27.6%、「起業家・経営者」25.7%などとなり、専門職、政策・方針の決定過程に関与する職業、組織の管理職が多くなっている。

#### （性別等による特徴）

- ・男女間で項目の順位には大きな変動はないが、期待度に若干違いがあり、女性は、実生活等に直接影響のある職業が多いのに対し、男性では客観的に女性が少ない職業を挙げている傾向が見られる。

- ・女性の方が男性より多い職業

「医師」…5.7ポイント

「企業の管理職」…5.5ポイント

「裁判官・検察官・弁護士」…3.9ポイント

「大臣や閣僚」「地方自治体の首長」…1.5ポイント

「国家公務員・地方公務員の管理職」…0.3ポイント

- ・逆に、男性の方が女性より多い職業

「科学者」…4.6ポイント

「新聞・放送の記者」…2.7ポイント

「国会議員・地方議員などの政治家」…1.3ポイント

「大学教授」…1.1ポイント

「団体の役員」…0.5ポイント

「学校長・大学学長」…0.3ポイント

### 問5 【男女共同参画に関する意識】(P61～68)

#### ◇「男は仕事、女は家庭を中心にする」(性別役割分業意識)

#### （全体の概況）

- ・「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた“同感する”(以下、同じ)は48.9%、「そう思わない」「あまりそう思わない」を合わせた“同感しない”(以下、同じ)は46.7%であり、その差はわずか、2.7ポイントである。

#### （性別等による特徴）

- ・“同感する”では、男性は52.3%と5割を超え、女性は男性より5ポイント低いとは言え、47.3%となっている。また、女性の“同感しない”が49.1%で、“同感する”との差は、わずか1.8ポイントに過ぎない。

- ・これは、性別・年代別の回答者の状況を勘案すると、60歳以上の回答者の割合が高いことも要因の一つと見ることができる。(P63 参照)

#### （時系列比較）

- ・女性で“同感する”が増加し、総数としても“同感する”が増加しており、高齢回答者の割合の高さが影響しているものと考えられる。

### ◇「女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる」

#### (全体の概況)

- ・“同感する”は、65.3%と5割を超え、“同感しない”の30.6%の2倍以上となっている。

#### (性別等による特徴)

- ・“同感する”では、女性61.1%、男性71.9%と女性より男性の方が10.8ポイント高くなっているが、内訳をみると、「そう思う」より「ある程度そう思う」の方が、女性では2.6倍、男性でも1.3倍となっており、絶対的な意識ではなく相対的な意識が多くなっている。
- ・“同感しない”は、女性36.0%、男性24.3%に止まっている。

#### (時系列比較)

- ・“同感する”の内訳の変化はより明確であり、前回の平成20年度と今回を比べると、「そう思う」は、女性では27.2%から17.0%へ、男性では47.3%から31.0%へ、それぞれ10.2ポイント、16.3ポイント低下し、絶対的な意識から相対的な意識に変化しつつあると言える。

### ◇「理科や数学は、女子より男子が向いている」

#### (全体の概況)

- ・“同感する”は26.5%、“同感しない”は64.3%であり、“同感しない”が“同感する”の2.4倍に上っている。

#### (性別等による特徴)

- ・性別での違いもほとんど見られない。

### ◇「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい」

#### (全体の概況)

- ・“同感する”が57.4%と、6割近くになっている。

#### (性別等による特徴)

- ・“同感する”は、女性63.2%、男性51.5%と、女性は6割を超え、男性を10ポイント以上上回っている。内訳をみても「そう思う」「ある程度そう思う」ともに、女性が男性を5ポイント以上上回っており、男性より女性の方が結婚に拘らない傾向が強い。
- ・年齢別では、女性の20歳代から60歳代、男性の20歳代から50歳代において、“同感する”が5割を超えているが、年代が若くなるほど“同感する”が多くなる傾向となっており、特に、20歳代は、女性で約8割、男性で約7割に上っている。
- ・20歳代では結婚を将来的な問題としてまだ現実的に捉えていない面もあると思われるが、各種の結婚に関する意識調査等(例えば、平成22年内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書」)の結果では、20歳代男女とも「結婚したい」とする割合が8割を越えており、結婚に対する願望と、ここで示された「結婚は個人の自由である」あるいは、結果として「してもしなくてもどちらでもよい」といった意識とは必ずしもリンクする結果とはなっていない。

### ◇「家事、育児、介護などは男女ともに行う方がよい」

#### (全体の概況)

- ・“同感する”が88.1%と、約9割を占めている。

#### (性別等による特徴)

- ・“同感する”は、女性91.9%、男性84.5%で、男性でも8割を超えているが、なお、女性の方が男性より7.4ポイント高い。
- ・また、その内訳をみると、「そう思う」とする割合は、女性54.2%に対し、男性はその約7割程度の38.7%に

止まる一方、消極的同感である「ある程度そう思う」は、逆に、女性 37.7%に対し、男性は 1.2 倍の 45.8% になっており、男女間の認識にはなおギャップがあるものと言える。

- ・さらに、年代別では、女性の 20 歳代、30 歳代では、「そう思う」がいずれも約 70%であるのに対し、男性の 20 歳代では 50%強、30 歳代では 45%程度に止まり、若い年代の男女の認識の差は大きい。
- ・問 3 の「家庭生活」における「平等感」の結果とも合わせると、男性の認識と女性の認識（「あるべき姿」への期待感）とのギャップは、数字の差以上に大きいと見ることができる。

## 問6 【「女性の働き方」について】(P69・70)

### (全体の概況)

- ・「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートで仕事を続ける」(以下、「パートで復帰」)が 28.2%で最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」(同「仕事を続ける」)20.3%、「子育てのときだけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(同「フルタイムで復帰」)17.8%、「子どもができるまでは仕事をもち、子供ができたなら家事や子育てに専念する」(同「出産を機に家事等専念」)15.8%と続き、以下、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する」(同「結婚を機に家事等専念」)5.4%、「仕事に就かない」0.6%となっている。
- ・大括りに整理すると、「仕事を続ける」が約 5 人に 1 人(20.3%)、「フルタイムかパートで復帰」が概ね 2 人に 1 人(46.0%)、「結婚や出産を機に家事専念」が約 5 人に 1 人(21.2%)で、「仕事を続ける」と「家事等専念」がほぼ同じ割合となっている。

### (性別等による特徴)

- ・女性では「パートタイムで復帰」32.0%、「仕事を続ける」22.8%、「フルタイムで復帰」17.3%と、何らかの形で仕事を続けるという割合が 7 割を超え、「家事等専念」は合わせて 18.1%と 2 割を下回っている。
- ・一方、男性でも「パートで復帰」が 23.9%と最も多く、次いで「フルタイムで復帰」と「出産を機に家事専念」がそれぞれ 18.8%、18.7%でほぼ並び、「仕事を続ける」17.7%などとなり、何らかの形で仕事を続けるという割合は 6 割に低下し、「家事等専念」は 25.4%と、4人に 1 人が「家事専業」を求める結果となっている。
- ・年代別では、女性の 40 歳代で「仕事を続ける」が 3 割を超えているが、「パートで復帰」が 70 歳以上を除く他の年代で 3 割を超えて多くなっている。

## 問7 【進路や職業の選択における性別の意識】(P71・72)

### (全体の概況)

- ・「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」(以下、「ほとんど意識せず」)が 44.1%で最も多いが、次いで「どちらかといえば性別を意識して選択した」(同「どちらかといえば意識」)が 20.1%と多くなっている。以下、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」(同「どちらかといえば意識せず」)19.3%、「性別をかなり意識して選択した」(同「かなり意識」)6.2%となっている。

### (性別等による特徴)

- ・「ほとんど意識せず」は、女性は 36.0%に止まるのに対し、男性は 56.7%と、女性の 1.5 倍以上に上り、「どちらかといえば意識せず」を合わせた割合でも、女性 57.6%、男性 73.6%と、約 1.3 倍となっている。
- ・一方、「かなり意識」「どちらかといえば意識」を合わせた割合は、女性では 32.8%と 3 人に 1 人に上るのに対し、男性では女性のほぼ半数の 17.6%に止まっている。
- ・現実の就職機会における男性の優位性に止まらず、心理面でもハンディキャップを感じる女性が多いことが伺える結果となっている。

## 問8 【今後、男性が女性とともに家事等に積極的に参加していくために、特に必要なこと】(P73-74)

### (全体の概況)

・「男性自身の抵抗感をなくす」55.4%、「夫婦・家族間のコミュニケーション」54.2%と、この2項目が半数を超え、以下、「労働時間短縮や休暇を取りやすくする」47.6%、「家事等への参加の社会的評価を高める」43.8%、「仕事中心の生き方、考え方を改める」37.0%、「女性も経済的に自立し、男性の負担を軽減する」35.4%となっており、男性の意識改革を促すための家庭や社会の取組に期待する割合が多くなっている。

### (性別等による特徴)

- ・男女間で差が大きい項目は、女性で最も多い「男性自身の抵抗感をなくす」64.2%に対し、男性は46.0%に止まり、その差は18.2ポイントに上っている。以下、差が大きい順にあげると、「社会の評価を高める」11.7ポイント、「年配者等が当事者の考え方を尊重する」11.1ポイント、「女性も経済的に自立し、男性の負担を軽減する」10.7ポイント、「女性の側の抵抗感をなくす」8.7ポイントなどとなっている。
- ・女性の側からは、社会的な評価や周囲の条件整備等に対する期待が大きいですが、男性側でもその取組の必要性は認めつつも、女性が期待するほどには重要性を感じていない状況が伺われ、強調しすぎることによって却って参加の意欲を削ぐことにも留意する必要がある。

## 問9 問10 【「男もつらい」と感じること】(P75~77)

### ◇「男もつらい」と感じることもあるか」

- ・「ある」が、61.7%と6割を越え、「ない」21.7%、「わからない」14.0%となっている。
- ・性別にみると、男性自身で感じているのは53.8%に対し、身近にいる女性が感じる割合は69.2%であり、男性本人より15.4ポイントも多く、身近にいる女性の方がより「男もつらい」と感じている結果となっている。

### ◇「男もつらい」と感じる内容」

#### (総数の概況)

・「扶養は男の責任」が53.7%で最も多く、以下、「仕事の責任が大きいなど」49.2%、「男だから、男のくせに」30.3%、「やりたい仕事を選べない」30.1%と、この4項目が3割を超えている。

#### (性別等による特徴)

- ・「扶養は男の責任」が、女性59.7%、男性44.7%、「仕事の責任が大きい等」が、女性51.9%、男性44.6%で、男女ともこの2項目が他の項目に比べて多くなっているが、女性と男性の差も、それぞれ15ポイント、7.3ポイントとかなり大きい。
- ・女性から見たとき、「男はそこまでやらなければならないのか、男は大変だな」とわが身に置き換えて感じるのに対し、男性自身も結果に見られるようにその「大変さ」はもとより自覚しているが、一方で「やむをえない、当然のことだ」と受け止めている面もあり、男女間の置かれている環境の違いや経験の差等が反映された結果ともいえる。

## (3) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

## 問11 問12 【「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度における「希望」と「現実(現状)」】(P78~82)

### ◇「優先度の「希望」」

#### (全体の概況)

・「仕事と家庭生活優先」が33.2%で最も多く、以下「家庭生活優先」19.0%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活優先」16.9%、「家庭生活と地域・個人の生活優先」10.7%、「仕事優先」6.9%、「仕事と地域・個人の生活優先」3.8%、「地域・個人生活優先」3.1%となっている。

- ・「地域・個人の生活」を含む項目の割合が高いが、先の「問 2」での地域活動に関連した項目に対する割合の低さや後に紹介する「問 15」の結果を勘案すると、選択肢の中の「地域の生活」よりも「個人の生活」に重きをおいた回答者が多いものと考えられる。

**(性別等による特徴)**

- ・男女とも「仕事と家庭生活優先」とする割合が最も高く、女性 32.0%、男性 36.4%となっているが、女性では「家庭生活優先」が 23.1%に対し男性は 13.6%に止まる一方、「仕事優先」は女性ではわずかに 2.5%であるのに対し、男性では 12.9%と女性の 5 倍を越え、性別による差も大きい。

◇「優先度の「現実(現状)」」

**(全体の概況)**

- ・「仕事優先」が 26.8%で最も多くなり、次いで「家庭生活優先」24.6%、「仕事と家庭生活を優先」 22.1%と、この3項目がほぼ拮抗し、以下、「家庭生活と地域・個人の生活優先」7.0%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活優先」4.9%、「仕事と地域・個人の生活優先」3.7%、「地域・個人生活優先」2.9%となり、項目の順番も割合も、「希望」とはかなり異なる傾向となっている。

**(性別等による特徴)**

- ・女性では、「家庭生活優先」が 32.1%で最も多いが、「仕事優先」も 19.1%となっている。一方、男性では「仕事優先」が 38.5%と 4 割近くを占め、次いで「仕事と家庭生活優先」が 22.9%となり、「希望」と「現実(現状)」とのギャップの大きさが目立つ結果となっている。

**問 13 【男女がともに「仕事と生活の調和を図るために必要な企業の取組み」(P83・84)**

**(全体の概況)**

- ・「給料を上げる」が 36.1%、「育児休業・介護休業をとりやすく」35.9%でほぼ同じ割合で最も多く、次いで「無駄な業務等をなくす」31.8%、「管理職の意識改革」31.7%、「在宅勤務等柔軟な勤務制度」31.7%と、この3項目がほぼ同じ割合で続いている。
- ・以下、「年間労働時間の短縮」25.6%、「社長等のリーダーシップ」23.2%が 2 割を超え、「社員をふやす」「もうからない仕事はやめる」などは 10%を下回っている。

**(性別等による特徴)**

- ・「給料をあげる」「無駄な作業等をなくす」「管理職の意識改革」「年間労働時間の短縮」は、男女とも全体の割合とほぼ同じである。
- ・これに対し、女性では「育児休業や介護休業をとりやすく」41.1%、「在宅勤務等柔軟な勤務制度」36.3%と男性に比べ、それぞれ 11.6 ポイント、8.9 ポイント高い一方、男性では、「社長等のリーダーシップ」が 27.2%と女性に比べ 5.9 ポイント高くなっている。
- ・社会的に必要な条件整備はほぼ男女に共通しているが、特に、女性では、家庭生活との両立のための現実的な制度の充実、男性ではトップによる組織方針の明確化等、社会的な認知・合意といったことに対する期待が大きい。

**問 14 【男女がともに「仕事と生活の調和を図るために効果的な行政の取組み」(P85・86)**

**(全体の概況)**

- ・「保育や介護の施設・サービスの拡充」が 53.9%と半数を超え、以下、「法規制の強化」27.9%、「企業に助成金」26.2%、「企業情報の公開」23.9%、「企業事例の紹介」22.9%、「重要性について PR」21.9%、「企業表彰」11.2%となっている。

**(性別等による特徴)**

- ・女性では「保育や介護の施設・サービスの拡充」が 59.2%とほぼ 6 割を占めて圧倒的に多くなっており、男性の 47.8%と比べると 11.6 ポイント上回り、女性の強い切実感が現れている。
- ・それ以外の項目では、全て、男性が女性を上回っており、「法規制の強化」32.8%、7.2 ポイント、「企業に助成金」28.5%、3.4 ポイント、「重要性についてPR」25.6%、5.4 ポイント、「企業表彰」13.5%、3.5 ポイントなど、男性の場合は、女性に比べ、法律や制度の整備、社会的な認知・合意に向けた取組の強化など、女性の現実的・直接的な要望に比べて制度的・抽象的要望が多い傾向がみられる。

**(4) 地域活動や社会活動に参加すること**

**問 15 【地域活動の現状】(P87・88)**

**(全体の概況)**

- ・「よく知らない」が、48.3%とほぼ半数に上り、地域の活動に対する関心の薄さが目立つ結果となっている。
- ・そうした中で、「女性は補助的役職に就く慣行」が 25.9%で最も多く、「男性の参加が少ない」18.1%、「準備、後片付けなどは女性が行う慣行」15.9%、「女性が役職に就きたがらない」11.7%などが 1 割を超えている。

**(性別等による特徴)**

- ・「女性は補助的役職に就く慣行」が、女性 27.1%、男性 24.5%と最も多く、次いで、女性では、「準備や後片付けなどは女性が行う慣行」が 17.8%、「男性の参加が少ない」17.4%となっている。
- ・男性では、「男性の参加が少ない」19.7%、「準備や後片付けは女性が行う慣行」14.2%と続いている。
- ・男女で若干の順位の変動があるが、女性と男性を比べると、「女性は補助的役職に就く慣行」をはじめ対等でない役割や慣行などの項目で男性の割合を上回っている。
- ・一方、男性では、「よく知らない」が女性をわずかではあるが上回っているほか、「男性の参加が少ない」「女性の参加が少ない」など現実の状況を表す項目で女性の割合を上回っており、男女間で受け止め方に差が見られる。

**問 16 【地域活動における方針決定の場で、女性が増えるための具体的施策として効果的と思うこと】(P89・90)**

**(全体の概況)**

- ・「組織運営の見直し」が 57.5%と半数を超え、以下、「女性の活動を支援する組織・連携づくり」28.0%、「団体・活動の紹介」15.7%、「地域での研修」15.0%、「女性役職者増加への働きかけ」14.2%、「女性リーダー研修」13.5%と回答が分散している。

**(性別等による特徴)**

- ・男女とも、「組織運営の見直し」が女性 59.1%、男性 57.4%で最も多く、次いで「女性の活動を支援する組織・連携づくり」が女性 31.1%、男性 24.8%となっているが、この2項目では、女性の方がそれぞれ 1.7 ポイント、6.2 ポイント上回っている。
- ・一方、その他の項目では男性の方が女性を、「地域での研修」4.3 ポイント、「女性の役職者増加への働きかけ」6.6 ポイント、「女性リーダー研修」1.6 ポイント、「団体・活動の紹介」0.9 ポイントそれぞれ上回っており、女性に比べ、知識の習得、情報の提供・収集といった取組への期待が大きい。

## (5)子どもの教育について

### 問 17 【子どもに受けさせたい教育】(P91～94)

#### (全体の概況)

- ・「女の子」では、「4年制大学」が 53.2%で最も多く、「短期大学・高等専門学校」14.8%、「各種学校・専門学校」8.8%、「大学院」6.1%などとなっており、「4年制大学」「大学院」を合わせると 59.3%とほぼ 6 割となり高い学歴を望む人が多い。
- ・一方、「男の子」ではこの傾向がさらに強く、「4年制大学」64.2%、次いで「大学院」12.0%、「各種学校・専門学校」5.8%などとなっており、「4年制大学」「大学院」を合わせると 76.2%と4分の3を超えている。

#### (性別等による特徴)

- ・「女の子」「男の子」いずれに対しても、女性の方が男性より「4年生大学」「大学院」が多く、高い学歴を望む傾向が見られる。

「4年制大学」:女の子…女性 56.5%、男性 51.7% 男の子…女性 66.8%、男性 63.2%

「大学院」 :女の子…女性 5.4%、男性 7.0% 男の子…女性 12.1%、男性 11.9%

#### (時系列比較)

- ・「女の子」では「短期大学・高等専門学校」が減少する一方、「4年制大学」「大学院」が増加し、「男の子」では、「各種学校・専門学校」が減少する一方「4年制大学」「大学院」が増加している。
- ・なお、平成 20 年度調査では、例えば、全体で「4年制大学」44.9%、「大学院」3.7%と、16 年度調査の 44.5%、4.1%と、ほとんど変化がない。平成 20 年 9 月に発生したいわゆる「リーマン・ショック」による急激な景気の悪化による影響や、また「無回答」が 16 年度の 2.4 倍、今回調査の 3.4 倍の 14%を超えていることなどにも見られるように、こうした景気の悪化に伴って子どもの教育について明確な方針が示せない状況となったことを反映したことによるものと考えられる。

### 問 18 【子どもに身につけてほしいこと】(P95～106)

#### (全体の概況)

- ・「女の子」で「必ず身につけるべきだ」が多いのは、「家事・育児の能力」62.5%、「協調して円満に暮らす力」61.1%、「自立心」57.9%の 3 項目で、ほぼ 6 割となっている。
- ・「できれば身につけてほしい」が多いのは、「個性を伸ばすこと」51.9%、「自立できる経済力」は 5 割をわずかに下回る 48.5%となっている。
- ・「女の子」には、「自立心」「個性」も大事とする一方で、やはり「家事・育児能力」「協調性」を期待する割合が高い。
- ・一方、「男の子」では、「必ず身につけるべきだ」が多いのは、「自立できる経済力」が 80.4%に達しており、また「自立心」72.4%、「協調して円満に暮らす力」58.0%であり、「できれば身につけてほしい」は、「家事・育児の能力」58.5%、「個性を伸ばすこと」44.5%となっている。
- ・「男の子」には、「家事・育児能力」の必要性も認識されつつはあるものの、「女の子」に比べ、「経済力」「自立心」など、家計を支える「大黒柱」としての役割が期待されている。
- ・「できれば身につけてほしい」は、「女の子」では「経済力」が概ね 5 割、「男の子」では「家事・育児能力」が概ね 6 割と、性別の役割意識が変わりつつあるようにも見られるが、先に見たように、なお「男は仕事」「女は家庭」という役割分担意識の根強さも伺われ、今後の動向を注視する必要がある。

#### (性別等による特徴)

- ・特に「女の子」の「経済力」「自立」について、「必ず身につけるべきだ」が、女性の方が男性より多く、それぞれ女性 46.4%、男性 38.8%、女性 62.5%、男性 53.3%となっている。
- ・また、「男の子」の「自立心」についても、女性 76.0%、男性 70.3%と、女性が期待する割合が高くなっている。

## 問 19 【男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと思うもの】(P107・108)

### (全体の概況)

・「進路指導や職業観の育成での配慮」55.9%、「学校生活の中での性別役割分担をなくす」45.9%、「男女の平等意識を育てる授業」38.0%、「保護者の平等理解を促す」25.7%、「男女平等についての教職員研修」22.5%、「女性の校長、教頭の増加」18.8%などの順となっている。

### (性別等による特徴)

・男女間で大きな相違は見られないが、女性の方が男性より多い項目は、「進路指導や職業観の育成での配慮」「学校生活の中での性別役割分担をなくす」「女性の校長、教頭の増加」といった直接的な効果が期待できる具体的な取組であるのに対し、男性の方が多い項目は、「男女の平等意識を育てる授業」「保護者の平等理解を促す」「男女平等についての教職員研修」といった意識改革等に向けた間接的な取組への期待が大きく、男女の違いが大きい。

## (6) 男女共同参画に関する学習経験について

### 問 20 【男女平等や男女共同参画に関する学習経験】(P109・110)

#### (全体の概況)

・「受けたことがない」44.9%、次いで「はっきりと覚えていない」21.9%となっているが、この二つの選択肢の重複回答は、まずないと考えられるので、回答者の 66.8%、ほぼ3分の2が、学習経験がない現状であるといえる。

・残り、3分の1のうち、「職場の研修」が 18.0%で最も多く、次いで「中学校」5.8%「高校」4.9%などで、小学校から大学までの学校教育は、延べ割合で 20.5%に止まっている。

#### (性別等による特徴)

・男女とも「職場の研修」が 21.2%、16.4%と最も多いが、男性の方が女性を 4.8 ポイント上回っている。  
・女性は、「高校」「大学」のほか、「市民対象の講座」「PTA等が主催する研修」で、割合は数%にとどまるものの、男性を上回っている。

### 問 21 【男女共同参画の意識を高めるうえで、とくに役に立った(最も印象に残っている)もの】

(P111・112)

#### (全体の概況)

・「職場の研修」が 45.2%と最も多く、次いで「役に立ったものはない」14.3%で、学校教育等の項目は 1 割にも満たない。

・仕事に関連するなど、必要に迫られて受ける研修の効果が高く、学びとしての研修は印象に残りにくい状況が伺われ、今後の学校教育等における学習の手法や内容等について工夫していく必要性もあるものと思われる。

#### (性別等による特徴)

・男女とも「受けたことはない」「はっきりと覚えていない」を併せて、いずれも 65%～70%程度と多くなっている。

・それ以外では、男女とも「職場の研修」が最も多いが、女性 40.5%、男性 52.0%と、男性の方が 11.5 ポイント上回っており、「職場研修」は就業者が多い男性に対して極めて効果の大きいことが分かる。

・また、女性では、「高校」「市民対象の講座」「PTA 主催の研修」などが 1 割弱を占めて、男性に比べて割合も高く、男女共同参画の重要性を理解し実感できる年齢に達して以降の学校教育やその他の研修機会の効果が大きいものと考えられる。

## 問 22 【とくに役に立った(最も印象に残っている)形式】(P113・114)

### (全体の概況)

- ・「映像媒体を用いたもの」が 27.8%で最も多く、以下、「学者等による講義・講演」「参加・体験型学習」16.7%、「教員による授業・講義」15.9%、「各種啓発冊子」13.7%、「著名人等による講演会」11.2%が 1 割を超えている。
- ・やはり、視聴覚に訴えるものの効果大きい。

### (性別等による特徴)

- ・男女とも、全体の状況とほぼ変わらないが、男性で、「教員による授業・講義」が 11.9%であるのに対し、「各種啓発冊子」が 14.6%と逆転しているのが目立っている。「教員による授業・講義」は、女性を 6.8 ポイント下回っている。
- ・女性が男性より多いのは、「教員による授業・講義」のほか、「著名人等による講演会」2.9 ポイントであり、男性が女性より多いのは、「映像媒体を用いたもの」5.9 ポイント、「参加・体験型学習」2.2 ポイント、「学者等による講義・講演」1.5 ポイント、「各種啓発冊子」0.9 ポイントなどとなっている。
- ・女性はより身近で教養としての知識習得的なもの、男性は体験型とともに理論的なものといった傾向が伺われる。
- ・また、「覚えていない」が、14.4%であり、男女で大きな差はない。

## (7) 男女間における暴力について

### 問 23 【ドメスティック・バイオレンスについて、見聞きしたこと】(P115～118)

#### (全体の概況)

- ・「問題になっていることは知っている」が 70.8%、「当事者を知っている」11.8%、「相談を受けたことがある」「自分が直接経験している」もそれぞれ 6.8%あるが、「見聞きしたことはない」も、なお 11.2%と 1 割を超えている。

#### (性別等による特徴)

- ・「問題になっていることは知っている」は 71.5%と男女同じ割合であるが、「見聞きしたことはない」は男性が 14.7%と女性を 5.9 ポイント上回っている。これに対し、それ以外の項目は、当然のことながら女性の方が男性を上回っている。

### 問 24 【男女間の暴力に関する法律や用語の認知度】(P119～124)

#### ◇「配偶者からの暴力防止および被害者の保護に関する法律(DV法)」

- ・「聞いたことがある」50.4%、「ある程度内容を知っている」27.1%「知らない」17.5%となっており、法律の認知度は比較的高い。
- ・性別でみても、大きな相違は見られない。

#### ◇「ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)」

- ・「聞いたことがある」50.2%、「ある程度内容を知っている」32.4%、「知らない」12.1%と、前の項目の DV 法よりもさらに認知度が高い。
- ・性別では、「聞いたことがある」「ある程度内容を知っている」ともに、男性の方が、女性より認知度が高い。(問 20～22)の回答結果を考え併せると、職場での研修等の効果が大きいものと見ることができる。

#### ◇「デートDV」

- ・「デートDV」については、「知らない」が 60.9%と最も多く、「聞いたことがある」は 22.4%、「ある程度内容を知っている」はわずか 9.6%に止まっている。

- ・性別でみると、男性の認知度が低く、「知らない」が 65.3%と 6 割を超えているが、女性も 59.9%と 6 割が知らないとしている。
- ・「デートDV」は、新しい DV の態様を表す概念であり、早急に正しい知識の普及を図る必要がある。

## 問 25 【女性に対する暴力についての相談機関・対応窓口の認知度】(P125～131)

### (全体の概況)

- ・「知っている」は、「警察署、交番」が 76.3%と群を抜いており、以下「各区保健福祉センター」30.3%、「民間相談機関」23.9%、「大阪府女性相談センター」17.6%、「クレオ大阪中央相談室」12.5%、「大阪市配偶者暴力相談支援センター」11.0%となっている。
- ・市民から見て、直接、抑止や公権力行使が期待できる組織や古くから専門的な相談機関として知られている民間機関等の認知度が高い。

### (性別等による特徴)

- ・「民間相談機関」の認知度は、男女で差があり、女性 29.4%と 3 割に近いのに対し、男性は 17.1%に止まっているが、「警察署、交番」「各区保健福祉センター」を除くその他の相談機関よりも認知度が高い。
- ・その他の相談機関等の認知度は、男女間で大きな相違は見られない。

## 問 26 【ドメスティック・バイオレンス防止の取組みとして必要なこと】(P132・133)

### (全体の概況)

- ・「身近な相談窓口を増やす」が 51.6%で最も多く、半数を越えている。一方で、(問 25)の「相談機関」の認知状況が極めて低いことを見ると、大阪府・市の相談機関等について更に積極的な PR・広報を行うことが必要である。
- ・以下、「加害者への罰則強化」41.6%、「家庭での教育」34.6%、「学校等での教育」32.4%、「暴力を振るったことのあるものに対する教育」21.0%、「積極的な広報・啓発活動」20.7%と 2 割を超え、「暴力を助長する情報の取締り」18.5%、「警察、医療関係者等への研修・啓発」17.7%などとなっている。

### (性別等による特徴)

- ・女性の方が男性より多い項目は、「相談窓口」8.5 ポイント、「情報の取締り」6.0 ポイント、「暴力を振るったことのあるものに対する教育」3.4 ポイントなどとなっている。
- ・一方、男性の方が女性より多い項目は、「積極的な広報・啓発活動」3.1 ポイントなどとなっている。

## (8) 男女共同参画に関連した制度や施策など

### 問 27 【男女共同参画に関連した法律や用語の認知度】(P134～143)

#### (全体の概況)

- ・「知っている」が最も多いのは、「男女雇用機会均等法」で 41.9%、次いで「育児・介護休業法・制度」27.2%となっている。
- ・それ以外の項目は、「ワーク・ライフ・バランス」が 10.0%であるが、他はいずれの項目も 10%に満たず、「知らない」が 5 割を超えており、「ポジティブアクション」「ダイバーシティ」では、78.4%、71.5%と 7 割を超えている。

#### (性別等による特徴)

- ・「ポジティブアクション」「ワーク・ライフ・バランス」といった政策的な用語や「男女共同参画基本法」「男女雇用機会均等法」などの仕事上不可欠な基礎知識となっている用語については、男性の方が女性に比べてわずかながら認知度が高くなっている。一方、「育児・介護休業法・制度」については女性の方がわずかに高い。
- ・「ダイバーシティ」については、極めて新しい用語であるため、男性の方がやや認知度が高いものの、男

女とも「知らない」が、7割を超えている。

(時系列比較)

- ・時系列でみると、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法・制度」については、男女とも顕著に認知度が低下してきていることが注目される。

## 問 28 【大阪市における男女共同参画に関連した条例や施策などの認知度】(P144~151)

(全体の概況)

- ・「知っている」は、「クレオ大阪」が 7.2%、「大阪市男女共同参画推進条例」3.0%、「私も子どもはぐくめる」2.2%、「クレオ大阪男性相談」1.4%などとなり、「聞いたことがある」を併せても、「クレオ大阪」の 26.8%が最も多く、「きらめき企業賞」の 5.0%が最も少ない。

(性別等による特徴)

- ・「クレオ大阪男性相談」がわずかに 1.9 ポイントであるが、男性の認知度が高く、「私も子どもはぐくめる」は当然のことながら女性の方の認知度が 5.6 ポイント高い。

## 問 29 【「クレオ大阪」に期待する事業】(P152・153)

(全体の概況)

- ・「子育て期のパパ・ママへの支援」35.0%、「女性の就業・就労支援」34.6%、「DV に関する相談・支援窓口の充実」30.6%が、3割を超えているが、男性と女性では、期待する項目にかなり差が見られる。

(性別等による特徴)

- ・女性では、「女性の就業・就労支援」40.8%、「子育て期のパパ・ママへの支援」39.5%、「女性相談窓口の機能の充実」33.9%、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」31.2%、「DV に関する相談・支援窓口の充実」30.5%の5項目が 3割を超え、その他の項目を大きく上回っている。
- ・男性では、「DVに関する相談・支援窓口の充実」32.1%、「子育て期のパパ・ママへの支援」30.6%と、この2項目が 3割を超え、以下、「女性の就業・就労支援」27.1%、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」26.2%、「女性相談窓口の機能の充実」22.0%、「男女共同参画に関する情報等の収集・提供」21.6%などとなり、女性に比べ回答が分散している。
- ・また、「分からない」が、男性で 24.4%、4人に一人、女性で 19.0%、5人に一人に上っており、これまで以上にニーズに合った事業を企画・実施し、幅広い市民に認知してもらい、活用してもらえよう取り組んでいく必要がある。

## 問 30 【男女共同参画社会の実現に向けて、国・府・市が力を入れるべきもの】(P154~156)

(全体の概況)

- ・「介護制度の充実等」53.1%、「育児・保育施策の充実等」50.9%、「ひとり親家庭施策」40.7%、「労働時間短縮」30.0%、「女性の就労に対する支援」28.9%などとなり、介護制度、育児・保育施策に対するニーズが 5割を超えている。

(性別等による特徴)

- ・男女間で大きな違いは見られず、概ね全体の傾向と同じである。
- ・全体の概況に挙げた項目は、全て女性の方が男性を上回っており、特に、「介護制度の充実等」7.9 ポイント、「女性の就労に対する支援」8.8 ポイントと差が大きく、女性が生活に密着した支援等の充実・強化に対する期待の大きさが伺われる。
- ・一方、男性では、「経営者等への指導・啓発」26.3%、3.0 ポイント、「情報提供や普及・啓発活動」17.9%、4.5 ポイント、「学習機会の充実」15.6%、3.5 ポイントなどとなり、女性に比べ学習・啓発等、社会的な合意やトップ等の意識改革に向けた項目が多くなっている。

**問 31 【仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまち】(P157・158)**

(全体の概況)

・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「賛同する」割合は、43.2%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「賛同しない」割合は、49.2%で、「賛同しない」が 6.0 ポイント上回っている。

(性別等による特徴)

- ・「賛同しない」は女性 49.7%、男性 50.8%、「賛同する」は女性 43.6%、男性 43.1%で、その差は、女性では 6.1 ポイント、男性では 7.7 ポイントであり、男性の方が「賛同しない」とする割合が多い。
- ・年代別では、特に、男女とも最も活力のある、子育て世代の中心である 40 歳代において「賛同しない」が 6 割近くにまで上っている。

## (参考)平成8年—平成25年の比較

本調査は、男女共同参画に関する意識や日常生活の状況の変化や動向を概観することで、大阪市の男女共同参画施策の促進に資することを目的に平成8年度から定期的実施してきた。

そのため、前回調査(平成20年度調査)では、設問及び選択肢の内容を過去調査と同様にして実施したが、社会情勢、男女共同参画施策の動き等や激しい時代の変化に対応するため、今回の調査において、設問及び選択肢の改訂を行った。

ここでは、平成8年度から設問を変更していない項目について、平成8年度と平成25年度の結果を比較し、この17年間の変化をみていく。

### ■男女の地位の平等感(25年度調査 問3)

平成8年度から平成25年度において、「家庭生活で」「職場で」「学校教育の場で」「地域社会・社会活動の場で」「政治の場で」「法律や制度の上で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「社会全体として」の8項目すべてで、「非常に」「どちらかといえば」を合わせた「男性優遇」は減少する一方、「平等である」は増加している。

「男性優遇」で減少幅が大きいものは、「家庭生活で」17.4ポイント(63.1%→45.7%)、「法律や制度のうえで」12.4ポイント(50.3%→37.9%)、「地域社会・社会活動の場で」10.4ポイント(40.7%→30.3%)などである。そして、「非常に優遇されている」の減少幅が大きいものは、「社会通念・慣習・しきたりのうえで」17.4ポイント(33.6%→16.2%)、「職場で」15.4ポイント(28.4%→13.0%)、「家庭生活で」13.0ポイント(19.9%→6.9%)などである。

また、「平等である」で増加幅が大きい項目は、「家庭生活で」13.4ポイント(21.0%→34.4%)、「地域社会・社会活動の場で」10.5ポイント(26.9%→37.4%)の2つである。

このように平成8年度から平成25年度の間で、徐々に男女共同参画に対する意識が高まっていることがうかがえる。

(1)家庭生活で	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	19.9	6.9
どちらかといえば男性の方が優遇	43.2	38.8
平等である	21.0	34.4
どちらかといえば女性の方が優遇	3.7	7.5
女性の方が非常に優遇されている	0.9	1.2
わからない	5.9	8.2
無回答	5.4	3.0
計	100.0	100.0

(単位:%)

(3)学校教育の場で	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	3.3	1.3
どちらかといえば男性の方が優遇	13.1	11.8
平等である	48.1	54.0
どちらかといえば女性の方が優遇	2.7	3.4
女性の方が非常に優遇されている	0.8	0.4
わからない	18.5	22.6
無回答	13.6	6.5
計	100.0	100.0

(単位:%)

(2)職場で	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	28.4	13.0
どちらかといえば男性の方が優遇	35.9	42.5
平等である	12.4	20.7
どちらかといえば女性の方が優遇	3.4	5.8
女性の方が非常に優遇されている	1.0	1.1
わからない	9.0	11.4
無回答	9.9	5.5
計	100.0	100.0

(単位:%)

(4)地域社会・社会活動の場で	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	9.3	3.7
どちらかといえば男性の方が優遇	31.4	26.6
平等である	26.9	37.4
どちらかといえば女性の方が優遇	5.9	7.8
女性の方が非常に優遇されている	0.4	1.1
わからない	14.8	17.1
無回答	11.3	6.3
計	100.0	100.0

(単位:%)

(5) 政治の場で	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	34.7	26.1
どちらかといえば男性の方が優遇	34.7	42.7
平等である	8.7	12.8
どちらかといえば女性の方が優遇	0.5	1.5
女性の方が非常に優遇されている	0.1	0.4
わからない	11.5	12.1
無回答	9.8	4.4
計	100.0	100.0

(単位：%)

(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	33.6	16.2
どちらかといえば男性の方が優遇	43.8	52.5
平等である	7.9	14.1
どちらかといえば女性の方が優遇	1.1	3.0
女性の方が非常に優遇されている	0.3	0.6
わからない	6.2	9.1
無回答	7.1	4.4
計	100.0	100.0

(単位：%)

(6) 法律や制度のうえで	平成8年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	17.7	8.0
どちらかといえば男性の方が優遇	32.6	29.9
平等である	24.7	33.3
どちらかといえば女性の方が優遇	3.4	7.0
女性の方が非常に優遇されている	0.5	1.2
わからない	11.4	15.3
無回答	9.7	5.3
計	100.0	100.0

(単位：%)

(8) 社会全体として	平成16年度	平成25年度
男性の方が非常に優遇されている	12.4	9.1
どちらかといえば男性の方が優遇	54.7	52.8
平等である	14.2	18.4
どちらかといえば女性の方が優遇	4.4	4.9
女性の方が非常に優遇されている	0.5	0.6
わからない	6.8	10.2
無回答	7.1	4.0
計	100.0	100.0

※「社会全体として」の項目は、平成16年度から実施。

(単位：%)

		H8全体	H25全体	H25-H8	
(1) 家庭生活で	“男性優遇”	63.1	45.7	-17.4	↓
	男性の方が非常に優遇されている	19.9	6.9	-13.0	↓
	平等である	21.0	34.4	13.4	↑
(2) 職場で	“男性優遇”	64.3	55.5	-8.8	↓
	男性の方が非常に優遇されている	28.4	13.0	-15.4	↓
	平等である	12.4	20.7	8.3	↑
(3) 学校教育の場で	“男性優遇”	16.4	13.1	-3.3	↓
	男性の方が非常に優遇されている	3.3	1.3	-2.0	↓
	平等である	48.1	54.0	5.9	↑
(4) 地域社会・社会活動の場で	“男性優遇”	40.7	30.3	-10.4	↓
	男性の方が非常に優遇されている	9.3	3.7	-5.6	↓
	平等である	26.9	37.4	10.5	↑
(5) 政治の場で	“男性優遇”	69.4	68.8	-0.6	↓
	男性の方が非常に優遇されている	34.7	26.1	-8.6	↓
	平等である	8.7	12.8	4.1	↑
(6) 法律や制度のうえで	“男性優遇”	50.3	37.9	-12.4	↓
	男性の方が非常に優遇されている	17.7	8.0	-9.7	↓
	平等である	24.7	33.3	8.6	↑
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	“男性優遇”	77.4	68.7	-8.7	↓
	男性の方が非常に優遇されている	33.6	16.2	-17.4	↓
	平等である	7.9	14.1	6.2	↑
(8) 社会全体として ※平成16年度比	“男性優遇”	67.1	61.9	-5.2	↓
	男性の方が非常に優遇されている	12.4	9.1	-3.3	↓
	平等である	14.2	18.4	4.2	↑

(単位：%)

## ■男女共同参画に関する意識

### ◇「男は仕事、女は家庭を中心にする」(性別役割分業意識)(同 問5(1))

「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた“同感する”(以下、同じ)は、平成8年度40.8%から平成25年度では48.9%へと8.1ポイント上昇している。

しかし、その内訳は、「そう思う」が11.8%から7.3%に4.5ポイント低下し、一方で「ある程度そう思う」が29.0%から41.6%に12.6ポイント上昇しており、固定的な男女の性別役割分業意識に対する積極的な支持は少なくなっている。

(1) 男は仕事、女は家庭を中心にする	平成8年度	平成25年度
そう思う	11.8	7.3
ある程度そう思う	29.0	41.6
あまりそう思わない	25.5	26.0
そう思わない	28.9	20.7
わからない	0.8	1.7
無回答	4.0	2.7
計	100.0	100.0

(単位：%)

### ◇「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てる」(同 問5(2))

“同感する”が、平成8年度61.8%から、平成25年度65.3%となり、3.5ポイント増とわずかながら上昇している。

なお、そのうち「そう思う」は、33.7%から 23.2%に 10.5 ポイント低下する一方、「ある程度そう思う」が 28.1%から 42.1%に 14.0 ポイント上昇している。ここでも“同感する”の内訳が変化し、積極的に肯定する割合は弱まってはいるが、「そう思う」が約4分の1に上っており、「男は仕事、女は家庭中心」を支持する性別役割分業意識に比べ、子どもの育て方については、性別を意識する傾向がなお強い。

(2) 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる	平成8年度	平成25年度
そう思う	33.7	23.2
ある程度そう思う	28.1	42.1
あまりそう思わない	20.6	19.3
そう思わない	12.1	11.3
わからない	1.7	1.6
無回答	3.8	2.4
計	100.0	100.0

(単位: %)

### ◇子どもに受けさせたい教育(同 問17)

「女の子」では、「4年制大学」が、平成8年度 36.4%から平成25年度 53.2%に大幅に増加している。また、「大学院」とする割合も 3.7%から 6.1%へ増加し、「4年制大学」と「大学院」を合わせた割合は、40.1%から 59.3%と 19.2 ポイント上昇し、ほぼ 6割に達している。なお、「短期大学・高等専門学校」は、28.4%から 14.8%へ減少している。

一方、「男の子」では、「4年制大学」が 64.6%、64.2%と変化はないが、「大学院」は 7.2%から 12.0%へ 4.8 ポイント上昇している。「4年制大学」と「大学院」を合わせた割合は、71.8%から 76.2%と 4.4 ポイント上昇し、4分の3以上となっている。

男女とも高学歴教育指向が強まっている。「男の子」と「女の子」で、「4年制大学」と「大学院」を合わせた割合は、平成25年度で 16.9 ポイントの差がみられるが、平成8年度の 31.7 ポイントの差からは半減している。

子どもに受けさせたい教育(女の子)	平成8年度	平成25年度	子どもに受けさせたい教育(男の子)	平成8年度	平成25年度
中学校	0.3	0.2	中学校	0.3	0.1
高等学校	10.1	5.3	高等学校	6.7	3.5
各種学校・専門学校	9.0	8.8	各種学校・専門学校	6.6	5.8
短期大学・高等専門学校	28.4	14.8	短期大学・高等専門学校	3.6	3.1
4年制大学	36.4	53.2	4年制大学	64.6	64.2
大学院	3.7	6.1	大学院	7.2	12.0
その他		4.3	その他		4.3
わからない	5.6	2.9	わからない	5.1	2.9
無回答	6.5	4.3	無回答	5.9	4.1
計	100.0	100.0	計	100.0	100.0

※平成8年度では、「その他」が回答にはない。(単位: %)

### ■男女共同参画に関する用語の認知度(同 問27)

平成8年度と25年度で質問項目が共通する「女子(性)差別撤廃条約」「男女雇用機会均等法」「ポジティブアクション」の3項目に関する認知度は、いずれの項目についても低下している。

「ある程度内容を知っている」「聞いたことがある」を合わせた「認知度」(以下、同じ。)は、「女子(性)差別撤廃条約」では、46.0%から 34.9%に 11.1 ポイント低下し、また、「男女雇用機会均等法」では 86.0%から 78.9%と 7.1 ポイント低下している。加えて、「ある程度内容を知っている」は、「撤廃条約」では、10.5%から 6.5%に 4 ポイント、「均等法」では 54.6%から 41.9%に 12.7 ポイントも低下している。

「ポジティブアクション」は 13.4%から 12.8%とわずかに減少している。

「女子(性)差別撤廃条約」	平成8年度	平成25年度
ある程度内容を知っている	10.5	6.5
聞いたことがある	35.5	28.4
知らない	40.2	57.5
無回答	13.8	7.6
計	100.0	100.0

(単位:%)

「男女雇用機会均等法」	平成8年度	平成25年度
ある程度内容を知っている	54.6	41.9
聞いたことがある	31.4	37.0
知らない	6.1	14.6
無回答	7.9	6.4
計	100.0	100.0

(単位:%)

「ポジティブアクション」	平成8年度	平成25年度
ある程度内容を知っている	2.3	1.7
聞いたことがある	11.1	11.1
知らない	72.9	78.4
無回答	13.7	8.8
計	100.0	100.0

(単位:%)

「女子(性)差別撤廃条約」の批准、「男女雇用機会均等法」の公布は、ともに昭和 60 年であり、その当時は、時代背景や社会的意味などマスコミや行政でも多く取り上げられていたが、その後、「撤廃条約」や「均等法」などの名称や条約・法律そのものよりも、これらに基づく具体的な取組の議論が中心となり、議論の根源である条約や法律についての認識が低下してきたものと考えられる。こうした現象は一般的に見られるものであり、一面では社会の中での具体的な動きに昇華したものとして積極的に評価することができるが、根本条約、根本法律としての知識をもち、常に原点に立ち戻れるよう意識を喚起していくことも重要である。

## ■大阪市の男女共同参画関連施策の認知度(同 問28)

両年度の調査に共通する「大阪市男女きらめき計画」「クレオ大阪」に関する「認知度」は、「大阪市男女きらめき計画」では、平成 8 年度 6.1%から平成 25 年度 9.1%に 3 ポイント増と、わずかながら上昇している。

一方、「クレオ大阪」では、57.8%から 26.8%に、31 ポイント減と大幅に低下している。「男女共同参画」といった施策目的の実現をめざす施設の特異性に加え、生涯学習センター、各区の区民センターの整備の進捗など、なじみやすく使用目的が限定されない施設が整備されてきたことも一因と考えられる。

「大阪市男女きらめき計画」	平成8年度	平成25年度
ある程度内容を知っている	0.5	0.9
聞いたことがある	5.6	8.2
知らない	81.7	83.1
無回答	12.2	7.8
計	100.0	100.0

(単位:%)

「クレオ大阪」	平成8年度	平成25年度
ある程度内容を知っている	19.0	7.2
聞いたことがある	38.8	19.6
知らない	35.7	65.7
無回答	6.5	7.6
計	100.0	100.0

(単位:%)

※「大阪市男女きらめき計画」の平成 8 年度の数値は、「第 2 次大阪市女性施策に関する基本計画」について尋ねた結果である。

※「クレオ大阪」の平成 8 年度の数値は、「ある程度内容を知っている(または参加したことがある)」と回答したものである。

## 2. 「大阪市男女共同参画基本計画－大阪市男女きらめき計画－(改訂)」の指標・数値目標

「大阪市男女共同参画基本計画－大阪市男女きらめき計画－(改訂)」において、実効性のある計画を策定し、的確な進捗管理を行うため、10の課題「指標・数値目標」を設定している。

「指標・数値目標」について市民意識調査の該当項目は、次のとおりである。

### 課題 2 社会制度・慣行の見直し、意識の改革

#### ・大阪市の男女共同参画関連施策の周知度

「ある程度内容を知っている」と

「聞いたことがある」を合わせた周知度	平成16年度	平成20年度	平成 25 年度	平成 27 年度 数値目標
「大阪市男女共同参画推進条例」	17.2%	20.0%	20.6%	50%以上
「大阪市男女共同参画基本計画」 (「大阪市男女共同参画プラン」)	13.7%	10.8%	9.1%	50%以上

#### ・男女の地位の平等感

「社会全体でみて」平等であると答える人の割合

	平成16年度	平成20年度	平成 25 年度	平成 27 年度 数値目標
	14.2%	13.2%	18.4%	↗

### 課題 3 就業における男女の均等な機会を確保するための支援

#### ・男女の地位の平等感

社会・生活における男女平等について、  
「職場で」平等であると思う人の割合

	平成16年度	平成20年度	平成 25 年度	平成 27 年度 数値目標
	16.0%	15.6%	20.7%	↗

### 課題 6 女性に対するあらゆる暴力の根絶

#### ・「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」

(DV防止法)の周知度

「ある程度内容を知っている」と答えた人の割合

	平成20年度	平成 25 年度	平成 27 年度 数値目標
	29.9%	27.1%	70%以上

#### ・DV関係相談機関・対応窓口の周知度

「知っている」と答えた人の割合

	平成20年度	平成 25 年度	平成 27 年度 数値目標
クレオ大阪(中央)相談室(女性総合相談センター)	13.5%	12.5%	70%以上
各区 保健福祉センター	26.5%	30.3%	70%以上

### 課題 8 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

#### ・男女の地位の平等感

「学校教育の場で」平等である”と感じている人の割合

	平成16年度	平成20年度	平成 25 年度	平成 27 年度 数値目標
	52.0%	46.9%	54.0%	↗

「↗」は、毎年その数値をあげることが目標としているもの。

### 3. 結果の考察

#### ■はじめに

男女共同参画施策は、昭和 60 年の「女子(性)差別撤廃条約」批准以降、国では、「男女雇用機会均等法」公布(昭和 60 年)や「男女共同参画社会基本法」制定(平成 11 年)をはじめ、「育児・介護休業法」施行(平成 7 年)、「介護保険法」施行(平成 12 年)、「配偶者からの暴力行為および被害者の保護に関する法律(DV 防止法)」施行(平成 13 年)などの法律の整備、計画の策定等が進められてきた。また、大阪市では、「大阪市男女共同参画センター(クレオ大阪)5 館体制整備」(平成 13 年)、「大阪市男女共同参画推進条例」施行(平成 15 年)、「大阪市男女共同参画基本計画」策定(平成 18 年度)など、施設整備や条例施行・計画策定等が着実に実行され、国、大阪府、大阪市を通じて男女共同参画社会の実現に向けたハード・ソフトの両面が整備されてきた。

また、前回調査を実施した平成 20 年度以降においても、「クレオ大阪女性総合相談センター」設置(平成 21 年)、「次世代育成支援対策推進法」(一般事業主行動計画の公表、従業員への周知の義務化の拡大、届出義務企業の拡大)改正(平成 21 年)、「第 3 次男女共同参画基本計画」改訂(平成 22 年)、「育児・介護休業法」(短時間勤務の義務化、父母がともに育児休業を取得する場合、育児休業期間を 1 歳2カ月まで延長など)改正(平成 22 年)、「大阪市男女共同参画基本計画」改訂(平成 23 年)、「大阪市配偶者暴力相談支援センター」設置(平成 23 年)など、国、大阪市において、男女共同参画施策がさらに推進されている。

#### ■男女の地位の平等

男女の地位の平等については、先に見たように(P23「(参考)平成 8 年—平成 25 年の比較」)、徐々に男女共同参画意識が高まっていることは伺えるが、平成 25 年度においても、「男性優遇」が「政治の場で」(68.8%)、「社会通念・慣習・しきたりなどで」(68.7%)、「社会全体として」(61.9%)、「職場で」(55.5%)の 4 項目では、なお 50%を越えている。また「平等である」が「男性優遇」を上回っている項目は、「学校教育の場で」54.0%、「地域社会・社会活動の場で」37.4%の 2 項目のみである。個人や家庭での生活レベルでは「男性優遇」の改善や平等感の進展が見られるものの、社会の根本的な意識や価値観のレベルでは依然として男女平等が進んでいるとは言いにくい状況であり、今後も、より一層の男女共同参画施策についての取組みが求められる。

#### ■性別役割分業の「意識」と「実態」の変化

◇「男は仕事、女は家庭を中心にする」(問 5(1))について

平成 8 年度の調査以降、“同感する”は増加傾向(40.8%→48.9%)にあり、5 割近くに上っている。これを裏返しの“同感しない”割合について性別・年代別の状況を見ると、女性の 40 歳代が 59.0%、20 歳代の男性が 59.8%と 6 割に近くなっているが、女性では 40 歳代を除く 60 歳代以下の年代、男性でも 20 歳代を除く 50 歳代以下の年代で 5 割を少し超える程度に止まっている。女性の 70 歳以上では 33.8%、男性の 60 歳代は 41.4%、70 歳以上では、わずか 27.7%である。男性側の意識変革の必要性も必要であるが、なお、女性自身の意識向上に向けた啓発等も重要である。

ただし、明るい傾向も見られる。全体の“同感する”の内訳について、平成 8 年度と平成 25 年度を比較すると、積極的に「そう思う」は減少(11.8%→7.8%)し、消極的な「ある程度そう思う」は大幅に増加(29.0%→41.6%)しており、“同感する”の内訳が変化し、はっきりと性別役割分業を肯定する人は確実に減ってきている。

◇「家事、育児、介護等は男女がともに行う方がよい」(問 5(5))について

“同感する”が、88.1%となり、そのうち積極的に「そう思う」は 47.5%と、「ある程度そう思う」を約 7 ポイント上回り、男女がともに家庭責任を担うことを肯定する傾向が強まっている。

以下の表は、問 5(1)「男は仕事、女は家庭を中心にする」と、問 11「「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望」のクロス集計結果である。

「男は仕事、女は家庭を中心にする」を「そう思う」として性別役割分業をはっきりと肯定する男性が、「ワーク・ライフ・バランスの理想」とする実生活の理想像は、「「仕事」を優先したい」と「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが、ともに 27.2%で最も多い。「性別役割分業」の肯定＝仕事を優先ではなく、「性別役割分業」は肯定しても、仕事と同等に家庭生活を大事にすることは、「性別役割分業」とは別のことと考える人も多いことが伺われる。

一方、「そう思う」とする女性が、「ワーク・ライフ・バランスの理想」とする実生活の理想像は、「「家庭生活」を優先したい」が 40.2%と最も多いが、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」も男性の場合とほぼ同じ 27.1%となっている。回答者に「家事専業」も多いと思われることから、「「家庭生活」を優先したい」が多いものの、仕事と家庭の両立をめざしたいという思いも表れた結果となっている。

また、性別役割分業について「ある程度そう思う」とする男性では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が 40.8%と最も多く、「「仕事」を優先したい」は 13.3%と、「そう思う」とする人の半数程度となっている。一方、女性の「ある程度そう思う」では、「「家庭生活」を優先したい」(29.0%)と「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」(29.6%)が拮抗しており、男女で仕事重視と家庭重視の違いはあるものの、男性の「そう思う」と似た傾向が見られる。女性で「ある程度そう思う」は、家庭生活を大事にしたいものの、仕事も大事にしたいという思いも見ることができる。

「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた性別役割分業に“同感する”男性では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」68.0%、「「仕事」を優先したい」40.5%であり、「「家庭生活」を優先したい」も 25.8%に上っており、性別役割分業に対する意識と、仕事優先か家庭優先かとは直接関係がないものと見ることができる。一方、女性では「「家庭生活」を優先したい」69.2%で約 7 割に達しているが、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」も 56.7%に上っており、回答者に占める「家事専業」や「配偶者あり」の割合が比較的多いことを勘案すると、一般的に女性の意識向上も必要であるが、仕事との両立を図っていくための家庭内での協力に向けた啓発や、社会的な支援の充実などに取り組むことが必要である。

		問11 ワーク・ライフ・バランスの理想									
問5(1)男は仕事、女は家庭を中心にする		1.「仕事」を優先したい	2.「家庭生活」を優先したい	3.「地域・個人の生活」を優先したい	4.「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	5.「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	6.「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	7.「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.わからない	無回答	総計
女性	そう思う	6	43	1	29	1	15	6	5	1	107
		5.6%	40.2%	0.9%	27.1%	0.9%	14.0%	5.6%	4.7%	0.9%	100.0%
	ある程度そう思う	15	235	18	240	25	132	121	17	7	810
		1.9%	29.0%	2.2%	29.6%	3.1%	16.3%	14.9%	2.1%	0.9%	100.0%
	あまりそう思わない	15	96	17	175	15	61	103	18	4	504
		3.0%	19.0%	3.4%	34.7%	3.0%	12.1%	20.4%	3.6%	0.8%	100.0%
	そう思わない	10	66	11	163	25	44	104	19	6	448
	2.2%	14.7%	2.5%	36.4%	5.6%	9.8%	23.2%	4.2%	1.3%	100.0%	
わからない		6		6		2	6	10		30	
	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	6.7%	20.0%	33.3%	0.0%	100.0%	
無回答		2	2		8	2	8	7	2	39	
	5.1%	5.1%	0.0%	20.5%	5.1%	20.5%	20.5%	17.9%	5.1%	100.0%	
女性計		48	448	47	621	68	262	348	76	20	1938
		2.5%	23.1%	2.4%	32.0%	3.5%	13.5%	18.0%	3.9%	1.0%	100.0%
男性	そう思う	34	18	3	34	3	8	16	7	2	125
		27.2%	14.4%	2.4%	27.2%	2.4%	6.4%	12.8%	5.6%	1.6%	100.0%
	ある程度そう思う	78	67	17	240	30	34	98	14	10	588
		13.3%	11.4%	2.9%	40.8%	5.1%	5.8%	16.7%	2.4%	1.7%	100.0%
	あまりそう思わない	38	51	18	130	13	33	62	11	5	361
		10.5%	14.1%	5.0%	36.0%	3.6%	9.1%	17.2%	3.0%	1.4%	100.0%
	そう思わない	20	42	14	83	11	20	36	11	5	242
	8.3%	17.4%	5.8%	34.3%	4.5%	8.3%	14.9%	4.5%	2.1%	100.0%	
わからない		4	1	5			4	11		26	
	3.8%	15.4%	3.8%	19.2%	0.0%	0.0%	15.4%	42.3%	0.0%	100.0%	
無回答		3	4	3	4	1	1	2	1	21	
	14.3%	19.0%	14.3%	19.0%	4.8%	4.8%	9.5%	4.8%	9.5%	100.0%	
男性計		174	186	56	496	58	96	218	55	24	1363
		12.8%	13.6%	4.1%	36.4%	4.3%	7.0%	16.0%	4.0%	1.8%	100.0%
全体		241	663	110	1162	133	373	590	151	72	3495
		6.9%	19.0%	3.1%	33.2%	3.8%	10.7%	16.9%	4.3%	2.1%	100.0%

◇「子どもに身につけてほしいこと」(問 18)について

「必ず身につけるべきだ」は、「自立できる経済力」が男の子は 8 割を越え、女の子の約 2 倍、「家事・育児の能力」が、逆に女の子は 6 割を超え男の子の 2.5 倍となり、女の子には「家事・育児の力」を、男の子には

「経済力」が期待され、性別役割分業の意識を反映する結果となっている。

しかし、「必ず身につけるべきだ」「できれば身につけてほしい」を合わせた“身につけてほしい”では、「自立できる経済力」は女の子が91.3%と男の子の90.4%を上回り、一方、「家事・育児の能力」は女の子91.1%、男の子83.5%と8割を超えており、女の子、男の子ともに、「経済力」と「家事・育児の力」の両方とも身につけることを期待する結果となっている。

「男は仕事、女は家庭を中心にする」という「性別役割分業」意識は依然としてあるものの、そうした意識とは関係なく、男女がともに経済力、家事・育児の力をつけ、仕事と家庭を分かちあうことについて、概ね社会的な合意が形勢されつつあると見ることができる。

実際の世帯における働き方を見ても、平成9年以降、「雇用者の共働き世帯」が、「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」の割合を上回り、平成24年には、「雇用者の共働き世帯」(1,054万世帯)が、「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」(787万世帯)の1.3倍(内閣府「平成25年男女共同参画白書」)となり、「性別役割分業」の意識にかかわらず、現実的にも、女性の経済力と男性の家事力が重要となる状況が進展しつつあると言える。

## ■男女共同参画に関する学習経験と施策の進展

◇「男女共同参画に関する学習経験(複数回答)」(問20)について

全体では「学校教育」における学習経験は10%に満たないが、年代別にみると、20歳代では、「小学校で受けた」(女性7.7%、男性13.4%)、「中学校で受けた」(女性23.8%、男性26.8%)、「高校で受けた」(女性28.0%、男性18.8%)、「大学で受けた」(女性18.5%、男性13.4%)であり、学校教育の場での学習経験が多くなっている。これは、現在20歳代の若者は、昭和59(1984)年から平成4(1993)年生まれにあたり、昭和60(1985)年の「男女雇用機会均等法」公布、平成11(1999)年「男女共同参画基本法」公布、平成18(2003)年度「大阪市男女共同参画推進条例」施行など、生まれたときから、男女平等や男女共同参画施策が推進されている世代であることが背景にあるものと考えられる。

また、30歳代は20歳代の「学校教育」を下回るものの、40歳代以上に比べると、ほぼ2倍程度の割合となっている。これは、家庭科の男女共修が中学校で1993年、高校で1994年に開始され、当時、10歳から19歳であった現在30歳代以下の世代では、中学生、高校生の時代に家庭科を履修していることが、男女共同参画に関する学習経験として少なからず影響を与えているものと考えられる。

一方、30歳代から60歳代までは、「職場での研修で受けた」とする回答が最も多くなっている。

現在の50歳代・60歳代は、1985年の「男女雇用機会均等法」公布当時、大学卒業年齢の22歳から47歳と、ほぼ社会人になっている世代である。また、30歳代から60歳代までは、「男女雇用機会均等法」公布以降、最近では、平成19年「男女雇用機会均等法」改正による「セクハラ防止対策の義務化」などをはじめ様々な法整備等に伴い、これに対応して職場における制度づくりや教育・研修の実施などに直面している世代であることから、男女共同参画の学習経験として「職場での研修で受けた」が多くなっているものと見られる。

また、「PTA や民間団体等が主催する研修で受けた」は男性より女性の方が多く、「市民対象の講座などで受けた」は、60歳代・70歳以上で多くなっている。

なお、右の表は、問20の回答者の全体から「はっきりと覚えていない」「受けたことがない」「無回答」を除いたものを、何らかの形で学習経験があるもの(「受けたことがある」として)とみて再計算したものである。学校教育の積み重ね、法律等の整備に伴う職場等での研修・学習機会の充実・強化の進展などを反映して、年代が若いほど『受けたことがある』とする割合が多くなっていると評価でき、引き続き着実な取組みが重要である。

問20 男女平等や男女共同参画に関する学習経験

上段:実数 下段:横%	合計	はっきりと覚えていない	受けたことがない	無回答	『受けたことがある』
全体	3495	767	1568	95	1065
	100.0	21.9	44.9	2.7	30.5
女性・20歳代	168	48	78	1	91
	100.0	28.6	16.7	0.6	54.1
女性・30歳代	321	120	74	—	127
	100.0	37.4	23.1	—	39.5
女性・40歳代	339	91	146	2	100
	100.0	26.8	43.1	0.6	29.5
女性・50歳代	314	73	149	2	90
	100.0	23.2	47.5	0.6	28.7
女性・60歳代	393	66	233	8	86
	100.0	16.8	59.3	2.0	21.9
女性・70歳以上	400	70	230	24	76
	100.0	17.5	57.5	6.0	19
女性	1938	468	862	37	571
	100.0	24.1	44.5	1.9	29.5
男性・20歳代	112	35	20	1	56
	100.0	31.3	17.9	0.9	49.9
男性・30歳代	189	52	60	1	76
	100.0	27.5	31.7	0.5	40.9
男性・40歳代	228	44	103	4	77
	100.0	19.3	45.2	1.8	33.7
男性・50歳代	220	36	96	4	84
	100.0	16.4	43.6	1.8	38.2
男性・60歳代	321	49	172	3	97
	100.0	15.3	53.6	0.9	30.2
男性・70歳以上	292	57	167	14	54
	100.0	19.5	57.2	4.8	18.5
男性	1363	273	619	27	444
	100.0	20.0	45.4	2.0	32.6

(単位:%)

※何らかの形で学習経験があると答えた総数を『受けたことがある』として、再計算

◇「男女共同参画の意識を高めるうえで、とくに役に立った(最も印象に残っているもの)(問 21)について性別・年代別にみると、女性の 20 歳代を除くすべての世代において、「職場の研修で受けたもの」が最も多くなっている。

20 歳代においては、「小学校で受けたもの」「中学校で受けたもの」「高校で受けたもの」も他の年代に比べて多く、30 歳代では「大学で受けたもの」が多くなっており、学校教育で早い段階から学習できる機会を作っていくことの重要性を認めることができる。

また、「市民対象の講座などで受けたもの」とする回答は、年代が高くなるほど割合も多くなっている。

女性の 40 歳代以上では、「PTA や民間団体等が主催するもの」が男性よりも多くなっている。

◆以上の結果から、今後は、若年層に対しては、小・中・高校・大学とそれぞれの理解できるレベルを十分考慮し、適切な学習内容を提供していくとともに、働く世代に対しては企業等の職場における研修・学習機会の充実を働きかけ、高齢者に対しては生涯学習の一環として興味を持てるよう工夫をした講座・講演等の機会を拡充していくことが効果的であるとみることができる。

## ■「政策方針決定の場」、「女性の進出が少ない分野への女性の進出」、「女の子に対する高等教育」

### －女性の活躍促進に向けて

#### ・政策方針決定の場へ女性を

「今後、女性がもっと増える方がよいと思うもの(職業)はどれか(複数回答)」(問 4)では、「医師」41.1%に続いて、「国会議員・地方議員などの政治家」36.3%、「企業の管理職」35.1%、「大臣や閣僚」31.7%、「地方自治体の首長(知事、市長など)」31.1%、「裁判官、検察官・弁護士」28.4%、「国家公務員の管理職」27.6%、「起業家・経営者」25.7%といった政治、企業、行政における「政策方針決定の場」に女性を増やしたいとする回答が多くなっている。

#### ・若年層の女性が望む『女性の進出が少ない分野』へのチャレンジ支援

「男女共同参画社会の実現に向けて国・府・市などの行政機関がすべきこと」(問 30)では、性別・年代別にみると、全体の順位としては必ずしも上位ではないが、女性 20 歳代、30 歳代で、「従来、女性の進出が少ない分野への女性の進出支援」が、それぞれ 31.0%、29.6%と 3 割を占めており、若い女性のモチベーションの高さが伺われ、今後こうした点にも配慮した支援の取組が必要である。

#### ・女の子に対して受けさせたい教育－「4 年制大学」「大学院」の合計が約 6 割に

「子どもに受けさせたい教育」(問 17)では、女の子に対して「4 年制大学」が平成 8 年度 36.4%から 53.2%に上昇している。また、「大学院」も 3.7%から 6.1%となり、「4 年制大学」と「大学院」の合計は、平成 8 年度 40.1%から平成 25 年度には 59.3%と 19.2 ポイント上昇している。

一方、男の子に対しては「4 年制大学」は 64.6%、64.2%とほぼ変わらないが、「大学院」は 7.2%から 12.0%に上昇し、両者の合計は、平成 8 年度の 71.8%から平成 25 年度には 76.2%となっている。女の子と男の子の差は、平成 25 年度で 16.9 ポイント、なお女の子が下回っているが、その差は縮まる傾向にあると言える。

◆以上のように「政策・方針決定の場への女性の参画」についての社会的な理解と女性の意欲、また、若い女性の新しい分野へのチャレンジ精神、そして 6 割に及ぶ「4 年制大学」「大学院」進学への期待などを踏まえると、女性の活躍促進を支える土壌は十分に整いつつあると言え、今後は、実際に女性が活躍できる機会の創出とそのための環境整備をしていくことが重要である。

## ■両立を望む男性－男性の家庭・地域生活への参画促進に向けて

### ・仕事と家庭生活等との調和－「両立」を望むが実現が難しい男性の現状

「生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望」(問 11)では、男性は、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」36.4%、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」16.0%の合計が 52.4%となり、「仕事」とともに「家庭生活」や「地域・個人の生活」との両立を希望する割合が 5 割を超え、男性が、「家庭生活」や「家庭生活」と併せて「地域・個人の生活」を大事にしたいとしていることが伺える。

また、「家事、育児、介護等は男女がともに行う方がよい」(問 5(5))では、“同感する”が 9 割を占め、男性が家事、育児等へも参画する意向が見られる。

以下の表は、「「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度」について、問 11「希望」と問 12「現実(現状)」のクロス集計結果である。

「理想」として、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」を希望している人が、「現実」には、それぞれ 39.5%、16.1%に止まっている。一方で、「現実」には、「「仕事」を優先している」がそれぞれ、42.3%、32.6%に上り、「理想」を十分に実現できない結果となっている。

性別	問11 理想	問12 現実									
		合計	仕事優先	「家庭生活」優先	「地域・個人生活」優先	「仕事」と「家庭生活」優先	「仕事」と「地域・個人生活」優先	「家庭生活」と「地域・個人生活」優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」優先	わからない	無回答
女性	「仕事」優先	48	29	6	0.0%	5	1	2	2	1	2
		100.0%	60.4%	12.5%	0.0%	10.4%	2.1%	4.2%	4.2%	2.1%	4.2%
	「家庭生活」優先	448	53	309	2	53	2	9	5	13	2
		100.0%	11.8%	69.0%	0.4%	11.8%	0.4%	2.0%	1.1%	2.9%	0.4%
	「地域・個人生活」優先	47	11	5	12	3	4	6	2	2	2
		100.0%	23.4%	10.6%	25.5%	6.4%	8.5%	12.8%	4.3%	4.3%	4.3%
	「仕事」と「家庭生活」	621	151	134	5	273	8	19	13	15	3
		100.0%	24.3%	21.6%	0.8%	44.0%	1.3%	3.1%	2.1%	2.4%	0.5%
	「仕事」と「地域・個人生活」	68	27	11	4	6	13	5	2	2	0.0%
		100.0%	39.7%	16.2%	5.9%	8.8%	19.1%	7.4%	0.0%	2.9%	0.0%
	「家庭生活」と「地域・個人生活」	262	22	83	9	16	11	104	8	9	0.0%
	100.0%	8.4%	31.7%	3.4%	6.1%	4.2%	39.7%	3.1%	3.4%	0.0%	
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」	348	68	57	9	70	20	28	78	15	3	
	100.0%	19.5%	16.4%	2.6%	20.1%	5.7%	8.0%	22.4%	4.3%	0.9%	
わからない	76	9	1	5	1	1	1	43	1	1	
	100.0%	11.8%	2.1%	1.3%	6.6%	1.3%	0.0%	0.0%	56.6%	1.3%	
無回答	20	2	1	1	1	1	1	1	1	16	
	100.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	80.0%	
女性計		1938	370	623	42	432	60	173	109	100	29
		100.0%	19.1%	32.1%	2.2%	22.3%	3.1%	8.9%	5.6%	5.2%	1.5%
男性	「仕事」優先	174	124	8	4	19	5	3	8	2	2
		100.0%	71.3%	4.6%	2.3%	10.9%	2.9%	0.6%	1.7%	4.6%	1.1%
	「家庭生活」優先	186	54	95	5	23	3	2	4	4	0.0%
		100.0%	29.0%	51.1%	2.7%	12.4%	0.0%	1.6%	1.1%	2.2%	0.0%
	「地域・個人生活」優先	56	16	8	15	1	5	6	3	2	2
		100.0%	28.6%	14.3%	26.8%	1.8%	8.9%	10.7%	5.4%	3.6%	0.0%
	「仕事」と「家庭生活」	496	210	43	8	196	10	3	4	19	3
		100.0%	42.3%	8.7%	1.6%	39.5%	2.0%	0.6%	0.8%	3.8%	0.6%
	「仕事」と「地域・個人生活」	58	21	2	6	8	17	1	1	2	1
		100.0%	36.2%	3.4%	10.3%	13.8%	29.3%	0.0%	1.7%	3.4%	1.7%
	「家庭生活」と「地域・個人生活」	96	21	23	11	7	4	22	2	6	6
	100.0%	21.9%	24.0%	11.5%	7.3%	4.2%	22.9%	2.1%	6.3%	0.0%	
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」	218	71	11	6	47	21	18	35	8	1	
	100.0%	32.6%	5.0%	2.8%	21.6%	9.6%	8.3%	16.1%	3.7%	0.5%	
わからない	55	8	3	1	2	1	2	4	33	1	
	100.0%	14.5%	5.5%	1.8%	3.6%	1.8%	3.6%	7.3%	60.0%	1.8%	
無回答	24	1	1	3	3	1	3	1	1	16	
	100.0%	0.0%	4.2%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	4.2%	66.7%	
男性計		1363	525	194	56	306	63	55	57	83	24
		100.0%	38.5%	14.2%	4.1%	22.5%	4.6%	4.0%	4.2%	6.1%	1.8%

### ・男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加するために特に必要なこと

男性が望む「両立」が実現できていない状況のなか、家事や地域活動などに参加するために、男性が特に必要だとするのは、「家族間でのコミュニケーション」が51.8%と最も多く、「労働時間短縮や休暇をとりやすく」48.0%、「男性自身の抵抗感をなくす」46.0%などとなっている。

### ・男性が望む企業の取組み－給料、管理職の意識改革、無駄な業務などをなくすこと

「「仕事と生活の調和」を図るための企業の取組み」(問 13)として、男性が企業に期待している内容は、「給料を上げる」36.5%、「管理職の意識改革を行う」32.9%、「無駄な業務・作業をなくす」31.1%が上位3項目であり、次いで、「在宅勤務等、柔軟な勤務制度」27.4%、「社長等のリーダーシップ」27.2%などとなっている。男性の場合、企業内の意識醸成や社会的な制度の変革などへの期待が強い。

## ・男性が効果的と考える行政の取組み－実行につながるもの

同様に、「行政の取組み」(問 14)として。男性が行政に期待している内容は、「保育や介護のためのサービスを充実する」47.8%、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」32.8%、「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」28.5%が上位 3 項目であり、以下、ワーク・ライフ・バランスについての「重要性についてPR」25.6%、「企業情報の公開」24.5%、「企業事例の紹介」23.6%などとなっている。

男性の場合、企業に対する場合以上に、法律や制度の整備、PR や情報の共有など社会的な認知・合意といったものへの期待が大きい。

◆10 ページ(問3)で述べたことを敷衍すると、掛け声としての「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍促進」「イクメン」などではなく、家庭生活、就業の場、国や社会などの様々な場面における男女共同参画の「期待像」「あるべき姿」について、その標準的なレベルや目標とするレベル、具体的な行動目標・内容(例えば、ノー残業デー、記念日休暇、カジダンの日など)を定めて家庭生活、就業の場、社会など様々な場面で共有化して実現していく取組みが必要である。

## ■ライフステージごとの課題解決の必要性

◇「男女共同参画社会の実現に向けて国・府・市などの行政機関がすべきこと」(問 30)について

「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」、「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」が男女とも 5 割～6 割程度であり、次いで「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」がほぼ 4 割と上位 3 位を占めている。

性別・年代別でみると、「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」が、女性の 20 歳代・30 歳代で 7 割、男性の 30 歳代で 6 割を占め、当然のことながら他の年代に比べて多くなっている。また、男女とも、20 歳代・30 歳代では、「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」、「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」についても 4 割～5 割を占めて多くなっている。一方、40 歳代から 70 歳以上では、男女とも「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」が 5 割～6 割に達している。

また、女性 20 歳代から 50 歳代では、「女性の就労に対する支援施策」が 4 割程度と多く、この年代の女性の就労希望の強さと支援に対する切実さが感じとることができる。

◇「クレオ大阪に期待する事業」(問 29)について

女性では、「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」「子育て期のパパ・ママへの支援」がそれぞれ 4 割を占め、次いで「女性相談窓口の機能の充実」3 割強となっている。一方、男性では、「DVに関する相談・支援窓口の充実」「子育て期のパパ・ママへの支援」「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」がそれぞれ 3 割程度であり、上位 3 位となっている。

また、男女とも 20 歳代、30 歳代では「子育て期のパパ・ママへの支援」が女性で 6 割、男性で 4 割と最も多い。女性の 20 歳代から 50 歳代では、「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」が 5 割程度と、他の年代に比べて高くなっている。「いつでもどこでも立ち寄れる交流の場」は、男女各年代とも概ね 2～3 割を占め、幅広いニーズが表れており、「交流の場」としての一層の機能充実を図る必要がある。

◇「男女共同参画社会の実現に向けて国・府・市などの行政機関がすべきこと」(問 30)及び「クレオ大阪に期待する事業」(問 29)についてのニーズ整理

次に示した表は、この 2 つの設問に対する回答について、性別・年代別にニーズが高いと見込まれる内容を整理したものである。ライフステージごとの課題を解決するために具体的に取り組むべき内容が顕著であり、着実に対応していく必要がある。

		問 30「男女共同参画社会の実現に向けて国・府・市などの行政機関がすべきこと」			問 29「クレオ大阪に期待する事業」		
女性	20 歳代	育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着	男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮	ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定の施策	女性の就労に対する支援施策	子育て期のパパ・ママへの支援	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援
	30 歳代						
	40 歳代	高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着					
	50 歳代						
	60 歳代						
	70 歳以上						いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
男性	20 歳代		男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮		子育て期のパパ・ママへの支援	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
	30 歳代	育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着					
	40 歳代	高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着					
	50 歳代						
	60 歳代					いつでも誰でも立ち寄れる交流の場	
	70 歳以上						

## ■総括—今後の方向性

前述のとおり、「平等感」について、平成 8 年度から平成 25 年度にかけて「平等とする」割合が増加傾向、「男性優遇」とする割合が減少傾向にあり、男女共同参画社会の実現に向けて、この 17 年間で少しずつではあるが、進展している様子が伺える。

しかし、「平等である」割合が最も高い「学校教育の場で」でも 5 割強であり、「男性優遇」は、今なお、社会の根本部分と言える「政治の場で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」が約 7 割、「社会全体として」「職場で」が約 6 割に上っており、今後も、より一層、男女共同参画施策を推進する必要がある。

「男女共同参画社会の実現に向けて国・府・市などの行政機関がすべきこと」「クレオ大阪に期待する事業」として、ライフステージごとの課題について具体的な解決策が期待され、20 歳代・30 歳代の若年層では「子育て支援の充実」「労働時間の短縮」が、40 歳代以上の世代では「介護制度の充実」が、また、男女とも、女性に対する「就業・就労支援」が期待されている。

このようなことから、従来の「サラリーマンの夫、専業の妻、子どもが二人」の世帯モデルではなく、例えば「正規雇用の夫婦と子ども二人」世帯や「ひとり親(母子・父子)」世帯などさまざまな形の世帯において、子どもを産み育てながら、継続就労ができ、また、介護についても安心できる社会をめざし、「男女ともに仕事と家庭・地域生活の両立が可能とする働き方」が実現できるように、具体性、現実性、実行性のある取組みが求められている。

昨今の大阪市や国が取組みを進めている「女性の活躍促進」や「男性の家庭・地域生活への参画促進」については、前述したように、すでに基礎的な理解が形成されつつあることがうかがえることに加え、誰もが子どもを産み育てながら、継続就労が可能であり、また、介護についても安心な社会をめざす着実な取組みが下支えとなり、市民の幅広い理解の下、より一層促進されていくと考えられる。

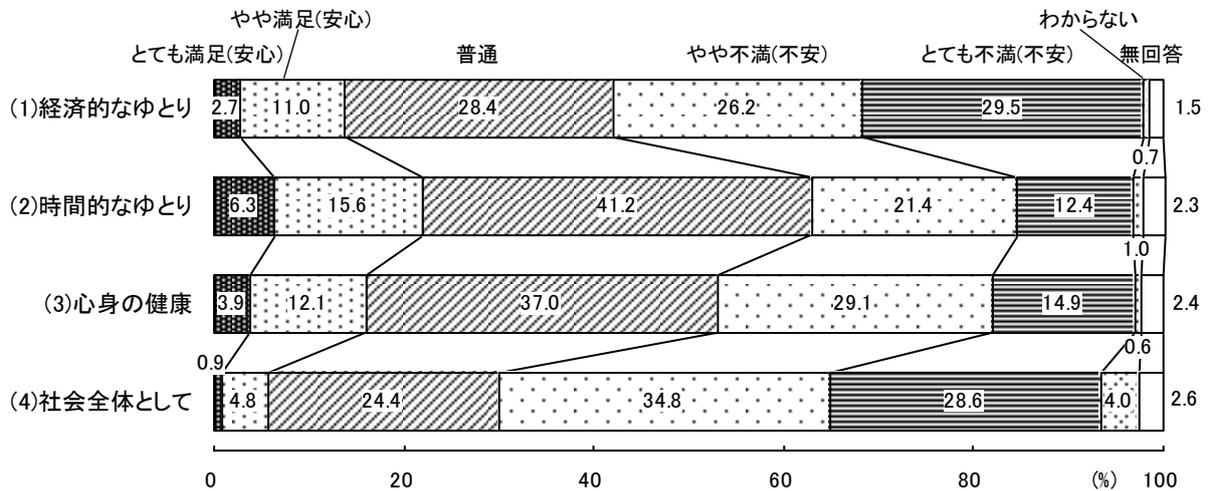
以上のことから、今後、大阪市における男女が抱える様々な課題に対して、現状を改善する具体性、現実性、実行性のある取組みを進めることが、男女がともに仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまちにつながっていくと考えられる。

### Ⅲ. 調査結果の個別分析

#### 1. あなたの現在の生活などについて

問1 次の項目について、現在、あなたはどの程度、満足(安心)していますか。(1)~(4)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA/全体:3,495



「時間的なゆとり」を除き、「不満(不安)」とする割合が最も高く、「心身の健康」(44.0%)、「経済的なゆとり」(55.7%)、「社会全体として」(63.4%)となっている。

「時間的なゆとり」では、「普通」とする割合(41.2%)が最も高くなっている。

なお、すべての項目において、「満足(安心)」とする割合が最も低くなっている。

項目	普通		“不満(不安)”
(2)時間的なゆとり	41.2%	>	33.8%
(3)心身の健康	37.0%	<	44.0%
(1)経済的なゆとり	28.4%	<	55.7%
(4)社会全体として	24.4%	<	63.4%

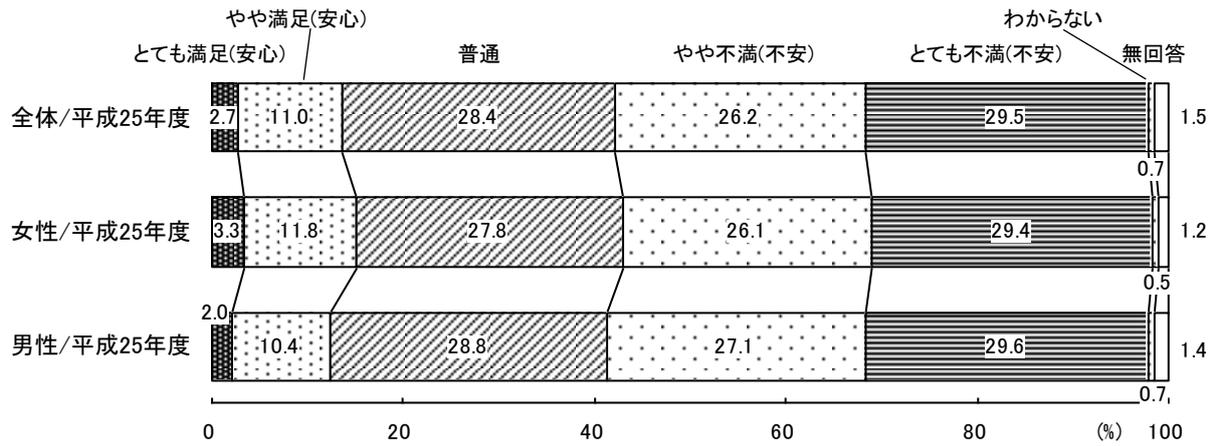
※”満足(安心)”=「とても満足(安心)」+「やや満足(安心)」

※”不満(不安)”=「とても不満(不安)」+「やや不満(不安)」

また、「とても不満(不安)」とする割合が、「経済的なゆとり」(29.5%)、「社会全体として」(28.6%)の2項目で、高い割合となっている。

(1)「経済的なゆとり」の満足(安心)度

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“不満(不安)”とする割合が 55.7%、「普通」とする割合 28.4%、「満足(安心)」とする割合 13.7%となっている。

[性別]

男女とも、“不満(不安)”とする割合が女性 55.5%、男性 56.7%となっている。

また、男女とも、「とても不満(不安)」とする割合が最も高く、女性 29.4%、男性 29.6%となっている。

[性別・年代別]

男女とも 20 歳代から 50 歳代までと、女性 60 歳代において、“不満(不安)”とする割合が 6 割前後となっている。なかでも、女性 40 歳代 61.1%、男性 30 歳代 61.3%、40 歳代 64.0%、50 歳代 68.6%では、“不満(不安)”とする割合が高くなっている。

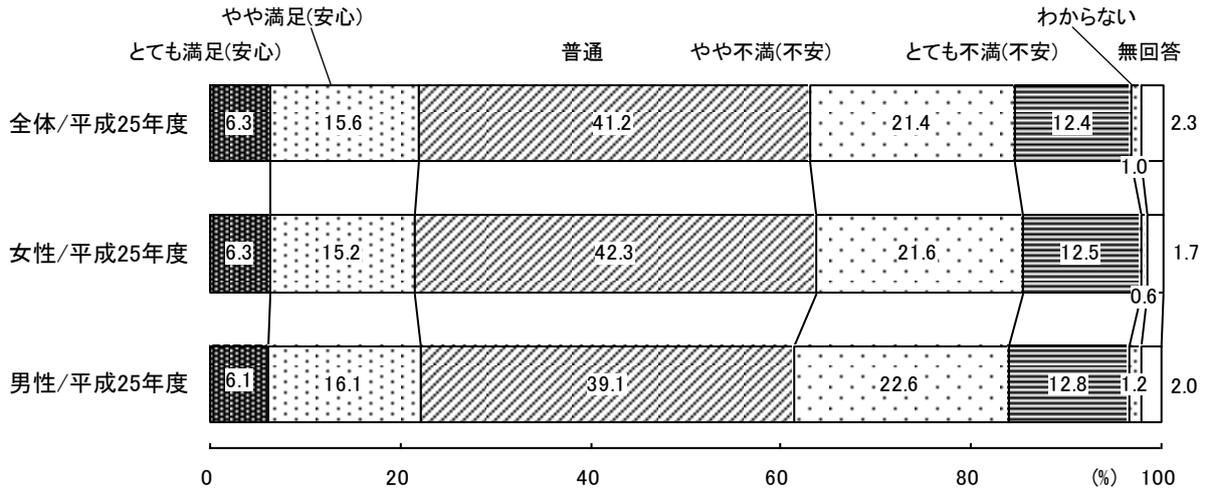
また、女性 20 歳代、30 歳代、40 歳代、60 歳代、男性 30 歳代、40 歳代、50 歳代では「とても不満」とする割合が、約 3~4 割となっている。

問1 現在の生活の満足(安心)度(1)経済的なゆとり

上段:実数 下段:積%	合計	とても満足 (安心)	やや満足 (安心)	“満足”	普通	“不満”	やや不満 (不安)	とても不満 (不安)	わからない	無回答
全体	3495	94	384	478	993	1945	914	1031	25	54
	100.0	2.7	11.0	13.7	28.4	55.7	26.2	29.5	0.7	1.5
女性・20歳代	168	5	18	23	42	97	45	52	3	3
	100.0	3.0	10.7	13.7	25.0	57.8	26.8	31.0	1.8	1.8
女性・30歳代	321	12	37	49	87	183	91	92	—	2
	100.0	3.7	11.5	15.2	27.1	57.0	28.3	28.7	—	0.6
女性・40歳代	339	12	48	60	68	207	80	127	—	4
	100.0	3.5	14.2	17.7	20.1	61.1	23.6	37.5	—	1.2
女性・50歳代	314	10	42	52	82	178	93	85	—	2
	100.0	3.2	13.4	16.6	26.1	56.7	29.6	27.1	—	0.6
女性・60歳代	393	13	44	57	112	221	103	118	3	—
	100.0	3.3	11.2	14.5	28.5	56.2	26.2	30.0	0.8	—
女性・70歳以上	400	11	40	51	146	187	93	94	4	12
	100.0	2.8	10.0	12.8	36.5	46.8	23.3	23.5	1.0	3.0
女性	1938	63	229	292	539	1074	505	569	10	23
	100.0	3.3	11.8	15.1	27.8	55.5	26.1	29.4	0.5	1.2
男性・20歳代	112	1	5	6	41	63	36	27	1	1
	100.0	0.9	4.5	5.4	36.6	56.2	32.1	24.1	0.9	0.9
男性・30歳代	189	4	18	22	50	116	56	60	—	—
	100.0	2.1	9.5	11.6	26.5	61.3	29.6	31.7	0.5	—
男性・40歳代	228	3	27	30	50	146	53	93	2	—
	100.0	1.3	11.8	13.1	21.9	64.0	23.2	40.8	0.9	—
男性・50歳代	220	6	20	26	42	151	66	85	1	—
	100.0	2.7	9.1	11.8	19.1	68.6	30.0	38.6	0.5	—
男性・60歳代	321	5	41	46	107	158	75	83	2	8
	100.0	1.6	12.8	14.4	33.3	49.3	23.4	25.9	0.6	2.5
男性・70歳以上	292	8	30	38	102	139	84	55	3	10
	100.0	2.7	10.3	13.0	34.9	47.6	28.8	18.8	1.0	3.4
男性	1363	27	142	169	392	773	370	403	10	19
	100.0	2.0	10.4	12.4	28.8	56.7	27.1	29.6	0.7	1.4
男女差(女性-男性)		1.3	1.4	2.7	-1.0	-1.2	-1.0	-0.2	-0.2	-0.2

(2)「時間的なゆとり」の満足(安心)度

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「普通」とする割合が41.2%、次いで、“不満(不安)”とする割合33.8%、“満足(安心)”とする割合21.9%となっている。

[性別]

男女とも、「普通」とする割合が最も高く、女性 42.3%、男性 39.1%となっている。

“不満(不安)”とする割合は、女性 34.1%、男性 35.4%となっている。

[性別・年代別]

男女とも 20 歳代から 50 歳代まで、“不満(不安)”とする割合が最も高くなっている。

その中でも、男性 30 歳代、男性 40 歳代では、“不満(不安)”とする割合が 56.6%、55.7%と高い傾向にある。

また、男女とも、60 歳代、70 歳以上では、「普通」とする割合が最も高く、女性では 52.9%、50.8%、男性では 44.9%、46.6%となっている。

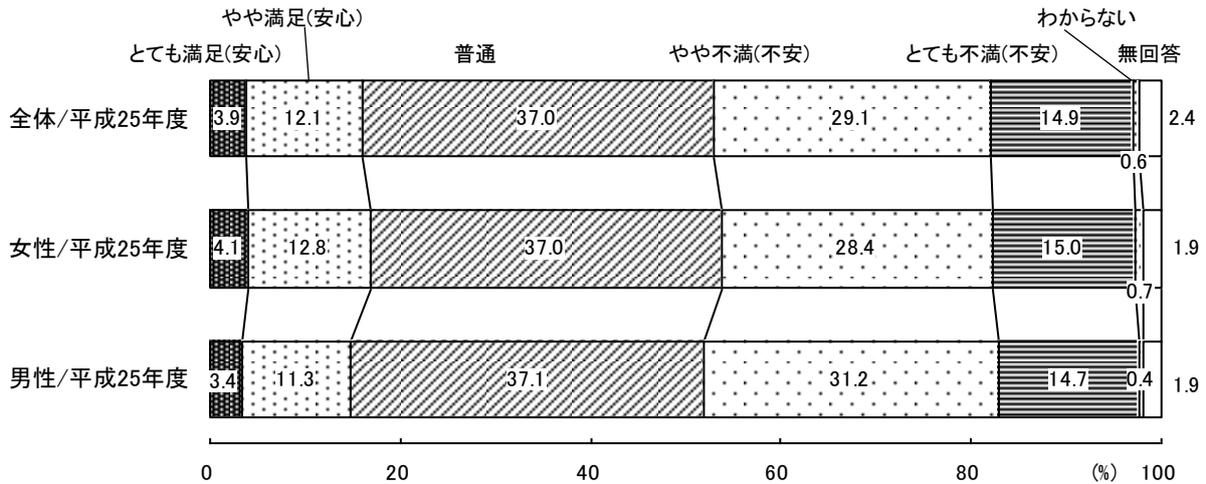
男性 60 歳代(32.4%)、男女 70 歳以上(女性 29.8%、男性 35.3%)では、“満足(安心)”とする割合が高くなっている。

問1 現在の生活の満足(安心)度(2)時間的なゆとり

上段:実数 下段:横%	合計	とも満足 (安心)	やや満足 (安心)	“満足”	普通	“不満”	やや不満 (不安)	とても不満 (不安)	わからない	無回答
全体	3495	219	544	763	1439	1180	747	433	34	79
	100.0	6.3	15.6	21.9	41.2	33.8	21.4	12.4	1.0	2.3
女性・20歳代	168	9	29	38	55	72	40	32	2	1
	100.0	5.4	17.3	22.7	32.7	42.8	23.8	19.0	1.2	0.6
女性・30歳代	321	15	43	58	116	143	97	46	1	3
	100.0	4.7	13.4	18.1	36.1	44.5	30.2	14.3	0.3	0.9
女性・40歳代	339	12	42	54	113	168	103	65	—	4
	100.0	3.5	12.4	15.9	33.3	49.6	30.4	19.2	—	1.2
女性・50歳代	314	19	38	57	121	133	82	51	1	2
	100.0	6.1	12.1	18.2	38.5	42.3	26.1	16.2	0.3	0.6
女性・60歳代	393	29	61	90	208	90	57	33	4	1
	100.0	7.4	15.5	22.9	52.9	22.9	14.5	8.4	1.0	0.3
女性・70歳以上	400	38	81	119	203	54	39	15	3	21
	100.0	9.5	20.3	29.8	50.8	13.6	9.8	3.8	0.8	5.3
女性	1938	122	294	416	819	660	418	242	11	32
	100.0	6.3	15.2	21.5	42.3	34.1	21.6	12.5	0.6	1.7
男性・20歳代	112	5	14	19	43	48	29	19	1	1
	100.0	4.5	12.5	17.0	38.4	42.9	25.9	17.0	0.9	0.9
男性・30歳代	189	6	17	23	56	107	62	45	3	—
	100.0	3.2	9.0	12.2	29.6	56.6	32.8	23.8	1.6	—
男性・40歳代	228	8	14	22	76	127	72	55	3	—
	100.0	3.5	6.1	9.6	33.3	55.7	31.6	24.1	1.3	—
男性・50歳代	220	8	24	32	77	105	67	38	3	3
	100.0	3.6	10.9	14.5	35.0	47.8	30.5	17.3	1.4	1.4
男性・60歳代	321	28	76	104	144	62	50	12	4	7
	100.0	8.7	23.7	32.4	44.9	19.3	15.6	3.7	1.2	2.2
男性・70歳以上	292	28	75	103	136	34	28	6	3	16
	100.0	9.6	25.7	35.3	46.6	11.7	9.6	2.1	1.0	5.5
男性	1363	83	220	303	533	483	308	175	17	27
	100	6.1	16.1	22.2	39.1	35.4	22.6	12.8	1.2	2
男女差(女性-男性)		0.2	-0.9	-0.7	3.2	-1.3	-1.0	-0.3	-0.6	-0.3

(3)「心身の健康」の満足(安心)度

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“不満(不安)”とする割合が44.0%となり、「普通」とする割合37.0%、「満足(安心)」とする割合16.0%となっている。

[性別]

男女とも、“不満(不安)”とする割合が最も高く、女性43.4%、男性45.9%となっている。

[性別・年代別]

男女とも、40歳代より上の世代において、“不満(不安)”とする割合が最も高くなっている。なかでも、男性40歳代、男性50歳代、女性70歳以上では、“不満(不安)”とする割合がそれぞれ50.5%、57.7%、50.0%となっている。

一方、男女とも20歳代(女性44.6%、男性44.6%)、30歳代(女性40.8%、男性42.9%)では、「普通」とする割合が最も高くなっている。

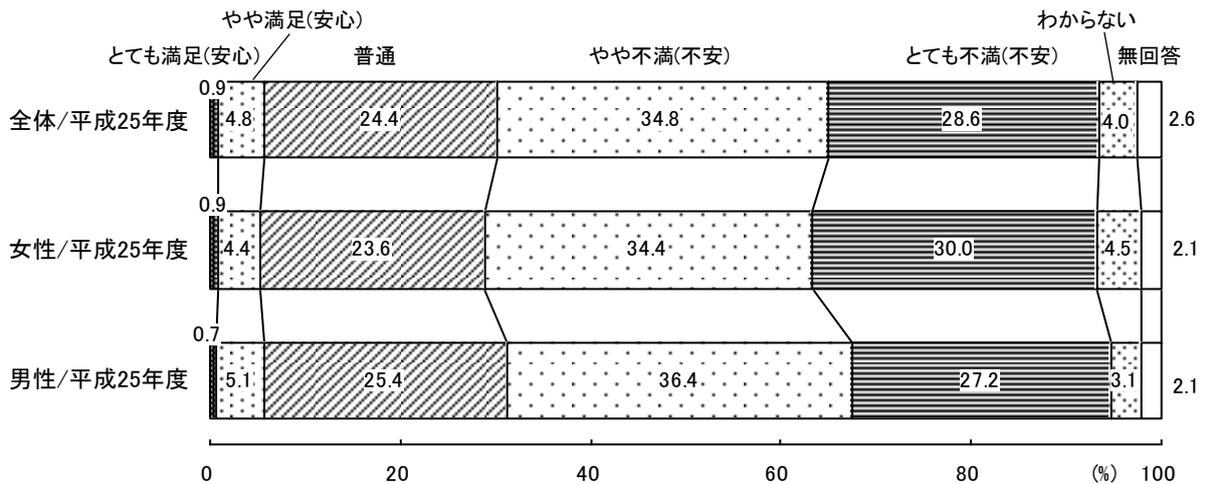
なお、男女とも20歳代では、“満足(安心)”とする割合と、“不満(不安)”とする割合が拮抗している。

問1 現在の生活の満足(安心)度(3)心身の健康

上段:実数 下段:横%	合計	とても満足(安心)	やや満足(安心)	“満足”	普通	“不満”	やや不満(不安)	とても不満(不安)	わからない	無回答
全体	3495	135	424	559	1294	1538	1018	520	21	83
	100.0	3.9	12.1	16.0	37.0	44.0	29.1	14.9	0.6	2.4
女性・20歳代	168	13	31	44	75	44	30	14	3	2
	100.0	7.7	18.5	26.2	44.6	26.2	17.9	8.3	1.8	1.2
女性・30歳代	321	25	47	72	131	114	78	36	1	3
	100.0	7.8	14.6	22.4	40.8	35.5	24.3	11.2	0.3	0.9
女性・40歳代	339	9	40	49	121	164	120	44	—	5
	100.0	2.7	11.8	14.5	35.7	48.4	35.4	13.0	—	1.5
女性・50歳代	314	9	39	48	123	138	81	57	2	3
	100.0	2.9	12.4	15.3	39.2	44.0	25.8	18.2	0.6	1.0
女性・60歳代	393	7	42	49	153	182	118	64	5	4
	100.0	1.8	10.7	12.5	38.9	46.3	30.0	16.3	1.3	1.0
女性・70歳以上	400	15	50	65	112	200	124	76	3	20
	100.0	3.8	12.5	16.3	28.0	50.0	31.0	19.0	0.8	5.0
女性	1938	79	249	328	717	842	551	291	14	37
	100.0	4.1	12.8	16.9	37.0	43.4	28.4	15.0	0.7	1.9
男性・20歳代	112	12	18	30	50	31	24	7	—	1
	100.0	10.7	16.1	26.8	44.6	27.7	21.4	6.3	—	0.9
男性・30歳代	189	10	21	31	81	77	60	17	—	—
	100.0	5.3	11.1	16.4	42.9	40.7	31.7	9.0	—	—
男性・40歳代	228	5	18	23	89	115	74	41	—	—
	100.0	2.2	7.9	10.1	39.0	50.5	32.5	18.0	0.4	—
男性・50歳代	220	6	14	20	70	127	79	48	1	2
	100.0	2.7	6.4	9.1	31.8	57.7	35.9	21.8	0.5	0.9
男性・60歳代	321	7	45	52	118	141	103	38	2	8
	100.0	2.2	14.0	16.2	36.8	43.9	32.1	11.8	0.6	2.5
男性・70歳以上	292	7	38	45	96	135	85	50	1	15
	100.0	2.4	13.0	15.4	32.9	46.2	29.1	17.1	0.3	5.1
男性	1363	47	154	201	505	626	425	201	5	26
	100.0	3.4	11.3	14.7	37.1	45.9	31.2	14.7	0.4	1.9
男女差(女性-男性)		0.7	1.5	2.2	-0.1	-2.5	-2.8	0.3	0.3	0.0

(4)「社会全体として」の満足(安心)度

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“不満(不安)”とする割合 63.4%、「普通」とする割合 24.4%、“満足(安心)”とする割合 5.7%となっている。

[性別]

男女とも、“不満(不安)”とする割合が、女性 64.4%、男性 63.6%となっている。

[性別・年代別]

男女ともすべての年代において、“不満(不安)”とする割合が、5割を超えている。

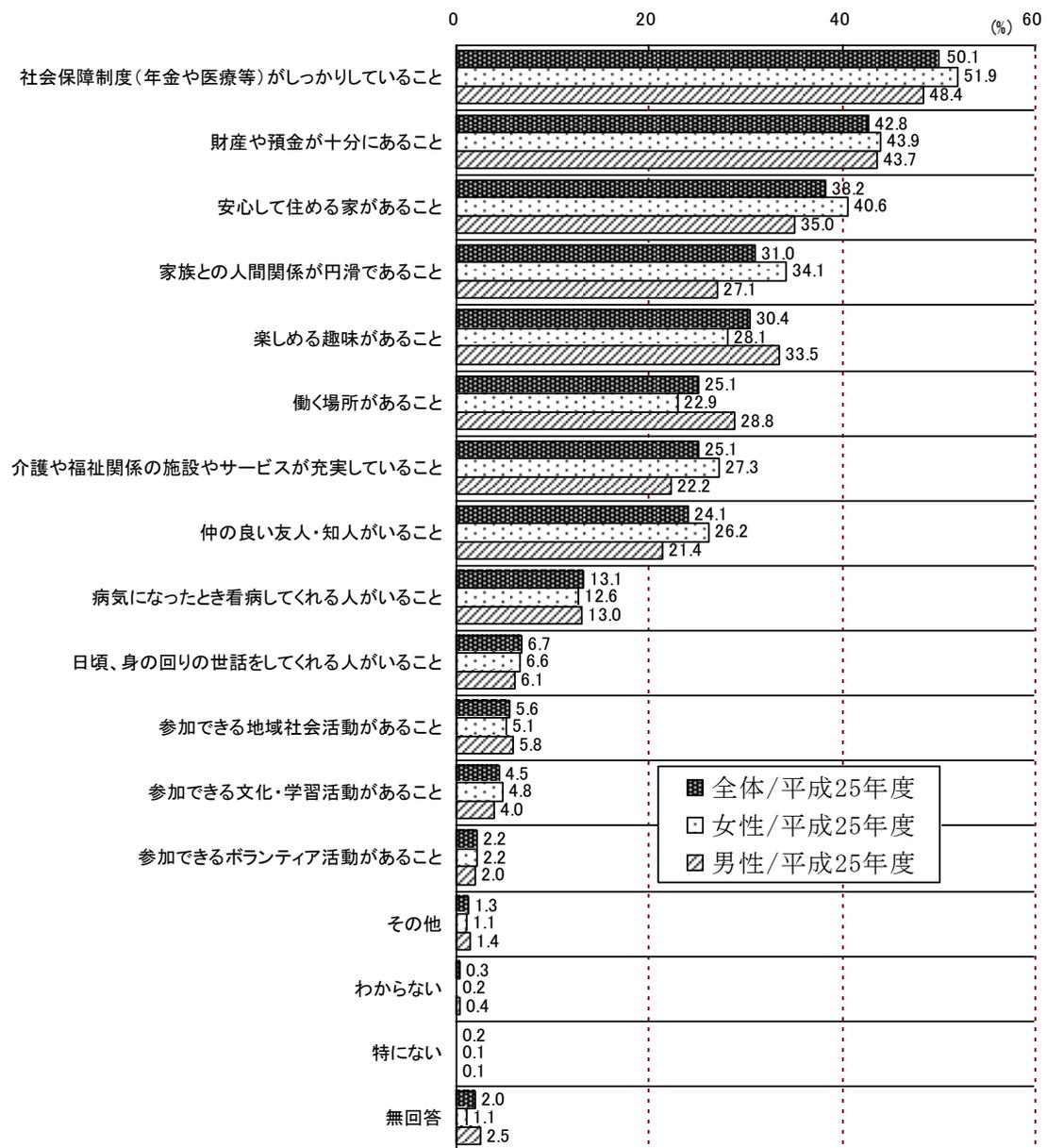
その中でも、男性(40歳代 74.1%、50歳代 74.6%)、女性(40歳代 71.4%、50歳代 76.7%)と、男女とも40歳代、50歳代では7割を超え、高くなっている。

問1 現在の生活の満足(安心)度(4)社会全体として

上段:実数 下段:横%	合計	とても満足 (安心)	やや満足 (安心)	“満足”	普通	“不満”	やや不満 (不安)	とても不満 (不安)	わからない	無回答
全体	3495	30	167	197	853	2215	1215	1000	140	90
	100.0	0.9	4.8	5.7	24.4	63.4	34.8	28.6	4.0	2.6
女性・20歳代	168	1	12	13	40	107	65	42	6	2
	100.0	0.6	7.1	7.7	23.8	63.7	38.7	25.0	3.6	1.2
女性・30歳代	321	3	18	21	87	204	110	94	6	3
	100.0	0.9	5.6	6.5	27.1	63.6	34.3	29.3	1.9	0.9
女性・40歳代	339	1	16	17	67	242	116	126	7	6
	100.0	0.3	4.7	5.0	19.8	71.4	34.2	37.2	2.1	1.8
女性・50歳代	314	4	9	13	49	241	125	116	8	3
	100.0	1.3	2.9	4.2	15.6	76.7	39.8	36.9	2.5	1.0
女性・60歳代	393	3	15	18	107	247	142	105	19	2
	100.0	0.8	3.8	4.6	27.2	62.8	36.1	26.7	4.8	0.5
女性・70歳以上	400	6	16	22	106	206	107	99	41	25
	100.0	1.5	4.0	5.5	26.5	51.6	26.8	24.8	10.3	6.3
女性	1938	18	86	104	458	1248	666	582	87	41
	100.0	0.9	4.4	5.3	23.6	64.4	34.4	30.0	4.5	2.1
男性・20歳代	112	1	8	9	33	64	39	25	5	1
	100.0	0.9	7.1	8.0	29.5	57.1	34.8	22.3	4.5	0.9
男性・30歳代	189	3	8	11	50	123	72	51	5	—
	100.0	1.6	4.2	5.8	26.5	65.1	38.1	27.0	2.6	—
男性・40歳代	228	1	5	6	46	169	85	84	7	—
	100.0	0.4	2.2	2.6	20.2	74.1	37.3	36.8	3.1	—
男性・50歳代	220	2	8	10	37	164	80	84	6	3
	100.0	0.9	3.6	4.5	16.8	74.6	36.4	38.2	2.7	1.4
男性・60歳代	321	1	21	22	91	196	128	68	5	7
	100.0	0.3	6.5	6.8	28.3	61.1	39.9	21.2	1.6	2.2
男性・70歳以上	292	1	20	21	88	151	92	59	14	18
	100.0	0.3	6.8	7.1	30.1	51.7	31.5	20.2	4.8	6.2
男性	1363	9	70	79	346	867	496	371	42	29
	100.0	0.7	5.1	5.8	25.4	63.6	36.4	27.2	3.1	2.1
男女差(女性-男性)		0.2	-0.7	-0.5	-1.8	0.8	-2.0	2.8	1.4	0.0

問2 あなたは、豊かな老後を送るためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

L3/全体：3,495、女性：1,938、男性1,363



[全体]

「社会保障制度がしっかりしていること」50.1%、「財産や預金が十分にあること」42.8%、「安心して住める家があること」が38.2%と上位3位となっている。

「家族との人間関係が円滑であること」31.0%、「楽しめる趣味があること」30.4%が続いている。

[性別]

男女ともに、「社会保障制度がしっかりしていること」(女性51.9%、男性48.4%)、「財産や預金が十分にあること」(女性43.9%、男性43.7%)「安心して住める家があること」(女性40.6%、男性35.0%)が上位3位となっている。

女性では、「家族との人間関係が円滑であること」34.1%、「楽しめる趣味があること」28.1%が続き、男性では、「楽しめる趣味があること」33.5%、「働く場所があること」28.8%と続いている。

また、男性より女性の方が高い数値を示しているのは次のとおりとなっている。

「社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること」…3.5ポイント(女性>男性)

「安心して住める家があること」…5.6ポイント(女性>男性)

女性より男性の方が高い傾向を示しているものは、次のとおりとなっている。

「楽しめる趣味があること」…5.4ポイント(男性>女性)

「働く場所があること」…5.9ポイント(男性>女性)

**[性別・年代別]**

女性(20歳代、30歳代、40歳代)、男性(30歳代、40歳代)では「財産や預金が多にあること」が最も高く、男女とも50歳代、60歳代、70歳以上では、「社会保障制度がしっかりしていること」が、最も高くなっている。なお、男性20歳代は、「楽しめる趣味があること」とする割合が最も高くなっている。

次は、性×年代別の上位5位

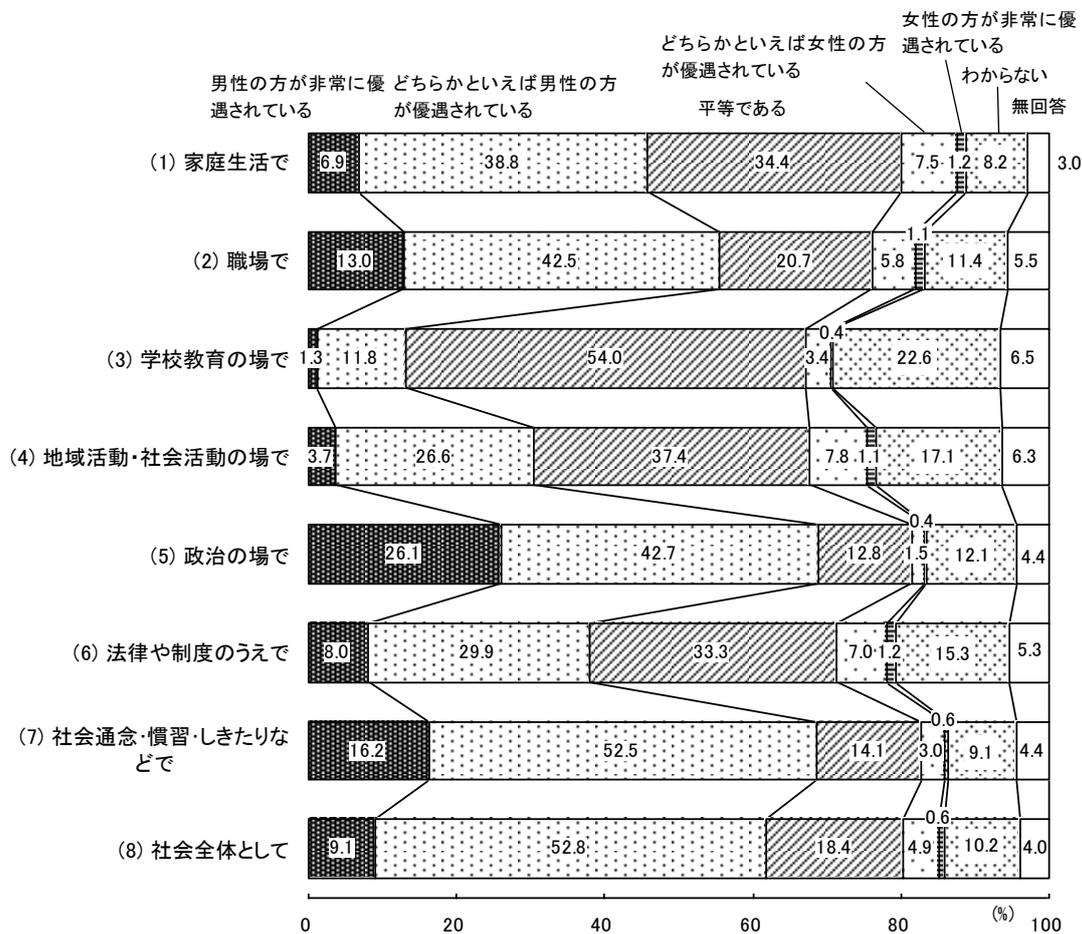
性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (50.1)	財産や預金が多にあること (42.8)	安心して住める家があること (38.2)	家族との人間関係が円滑であること (31.0)	楽しめる趣味があること (30.4)	
女性	20歳代	財産や預金が多にあること (55.4)	安心して住める家があること (50.0)	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (48.8)	家族との人間関係が円滑であること (39.9)	楽しめる趣味があること (36.9)
	30歳代	財産や預金が多にあること (62.0)	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (46.1)	安心して住める家があること (45.8)	家族との人間関係が円滑であること (36.4)	楽しめる趣味があること (24.9)
	40歳代	財産や預金が多にあること (54.9)	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (49.0)	安心して住める家があること (39.8)	仲の良い友人・知人がいること (30.7)	働く場所があること (30.4)
	50歳代	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (61.1)	財産や預金が多にあること (40.8)	安心して住める家があること (37.9)	家族との人間関係が円滑であること (34.7)	介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること (31.5)
	60歳代	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (55.2)	財産や預金が多にあること (36.4)	家族との人間関係が円滑であること (35.9)	安心して住める家があること (34.9)	介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること (27.5)
	70歳代以上	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (49.8)	安心して住める家があること (41.0)	介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること (34.0)	家族との人間関係が円滑であること (32.0)	楽しめる趣味があること (29.5)
	女性計	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (51.9)	財産や預金が多にあること (43.9)	安心して住める家があること (40.6)	家族との人間関係が円滑であること (34.1)	楽しめる趣味があること (28.1)
男性	20歳代	楽しめる趣味があること (51.8)	財産や預金が多にあること (45.5)	仲の良い友人・知人がいること (37.5)	安心して住める家があること (34.8)	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (33.9)
	30歳代	財産や預金が多にあること (57.1)	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (46.0)	安心して住める家があること (35.4)	楽しめる趣味があること (32.8)	家族との人間関係が円滑であること (32.3)
	40歳代	財産や預金が多にあること (61.8)	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (46.5)	安心して住める家があること (36.8)	働く場所があること (36.0)	楽しめる趣味があること (29.8)
	50歳代	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (50.5)	財産や預金が多にあること (42.7)	働く場所があること (40.9)	安心して住める家があること (31.8)	2. 楽しめる趣味があること (30.9)
	60歳代	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (52.3)	財産や預金が多にあること (38.0)	安心して住める家があること (35.8)	楽しめる趣味があること (34.3)	働く場所があること (31.2)
	70歳代以上	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (51.4)	安心して住める家があること (34.9)	楽しめる趣味があること (31.2)	介護や福祉関係の施設やサービスが充実していること (27.7)	財産や預金が多にあること (27.4)
	男性計	社会保障制度(年金や医療等)がしっかりしていること (48.4)	財産や預金が多にあること (43.7)	安心して住める家があること (35.0)	楽しめる趣味があること (33.5)	働く場所があること (28.8)

( )内は%

## 2. 男女の平等、家庭や結婚生活などについて

問3 あなたは、次にあげる分野で男女平等が進んでいると思われますか。(1)から(8)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA/全体:3,495



「平等である」とする割合は、「学校教育の場で」(54.0%)のみが5割を超えている。

一方、“男性優遇”とする割合が、「職場で」(55.5%)、「社会全体として」(61.9%)、「社会通念・慣習・しきたりなどで」(68.7%)、「政治の場で」(68.8%)において高くなっており、その中でも、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「政治の場で」では、特に高くなっている。

「平等である」とする割合が高い項目は、「学校教育の場で」及び「地域社会・社会活動の場で」の2項目となり、これ以外の項目では、“男性優遇”とする割合が、高くなっている。

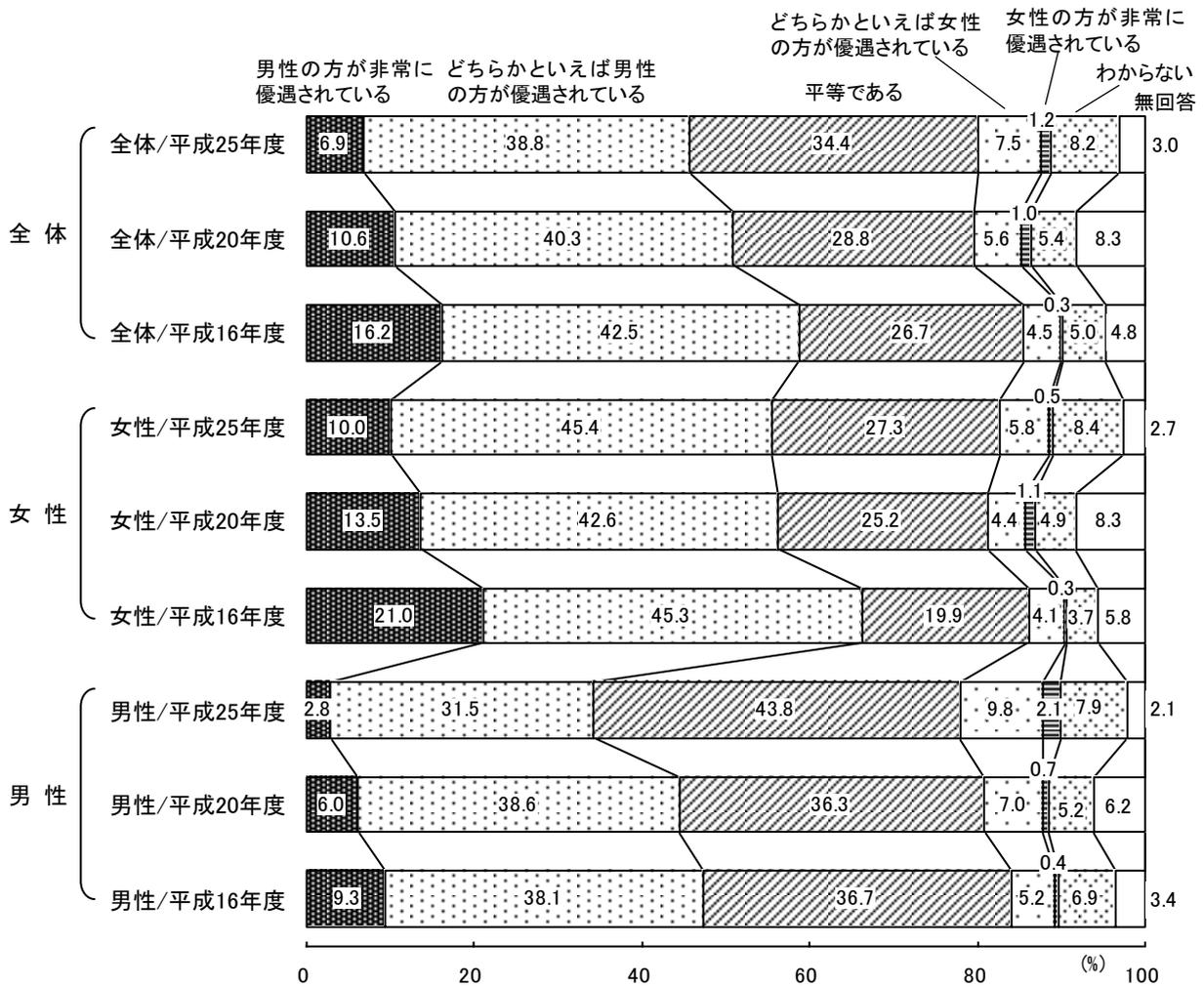
なお、“女性優遇”とする割合は、すべての項目において、1割を下回る数値となっている。

項目	「平等である」とする割合	「女性優遇」とする割合	「男性優遇」とする割合
(3) 学校教育の場で	54.0%	>	13.1%
(4) 地域社会・社会活動の場で	37.4%	>	30.3%
(1) 家庭生活で	34.4%	>	45.7%
(6) 法律や制度のうえで	33.3%	>	37.9%
(2) 職場で	20.7%	<	55.5%
(8) 社会全体として	18.4%	<	61.9%
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	14.1%	<	68.7%
(5) 政治の場で	12.8%	<	68.8%

※“男性優遇”=「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」  
 ※“女性優遇”=「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

(1) 家庭生活で

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“男性優遇”とする割合が 45.7%、「平等である」とする割合が 34.4%、“女性優遇”とする割合 8.7%となっている。

なお、「わからない」とする割合が 8.2%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“男性優遇”とする割合 (58.7%→50.9%→45.7%) が減少傾向、「平等である」とする割合 (26.7%→28.8%→34.4%) が増加傾向となっている。

女性では、“男性優遇”とする割合 (66.3%→56.1%→55.4%) が減少傾向、「平等である」とする割合 (19.9%→25.2%→27.3%) は、増加傾向となっている。

男性では、“男性優遇”する割合 (47.4%→44.6%→34.3%) が減少傾向、「平等である」とする割合 (36.7%→36.3%→43.8%) が増加傾向となっている。

[性別]

女性では、“男性優遇”とする割合が 55.4%、「平等である」27.3%、“女性優遇”6.3%となっている。

男性では、「平等である」とする割合が 43.8%、“男性優遇”34.3%、“女性優遇”11.9%となっている。

[性別・年代別]

女性ではすべての年代で、“男性優遇”とする割合が「平等である」とする割合を上回り、なかでも女性 30 歳代から 60 歳代までは、“男性優遇”とする割合が、高くなっている。

一方、男性ではすべての年代で、「平等である」とする割合(40.5%~47.3%)が高くなっている。  
 なお、女性では、20歳代のみ「平等である」とする割合が37.5%と高くなっている。  
 また、「女性優遇」とする割合が、男性20歳代(17.0%)、30歳代(21.1%)で他の年代より高くなっている。

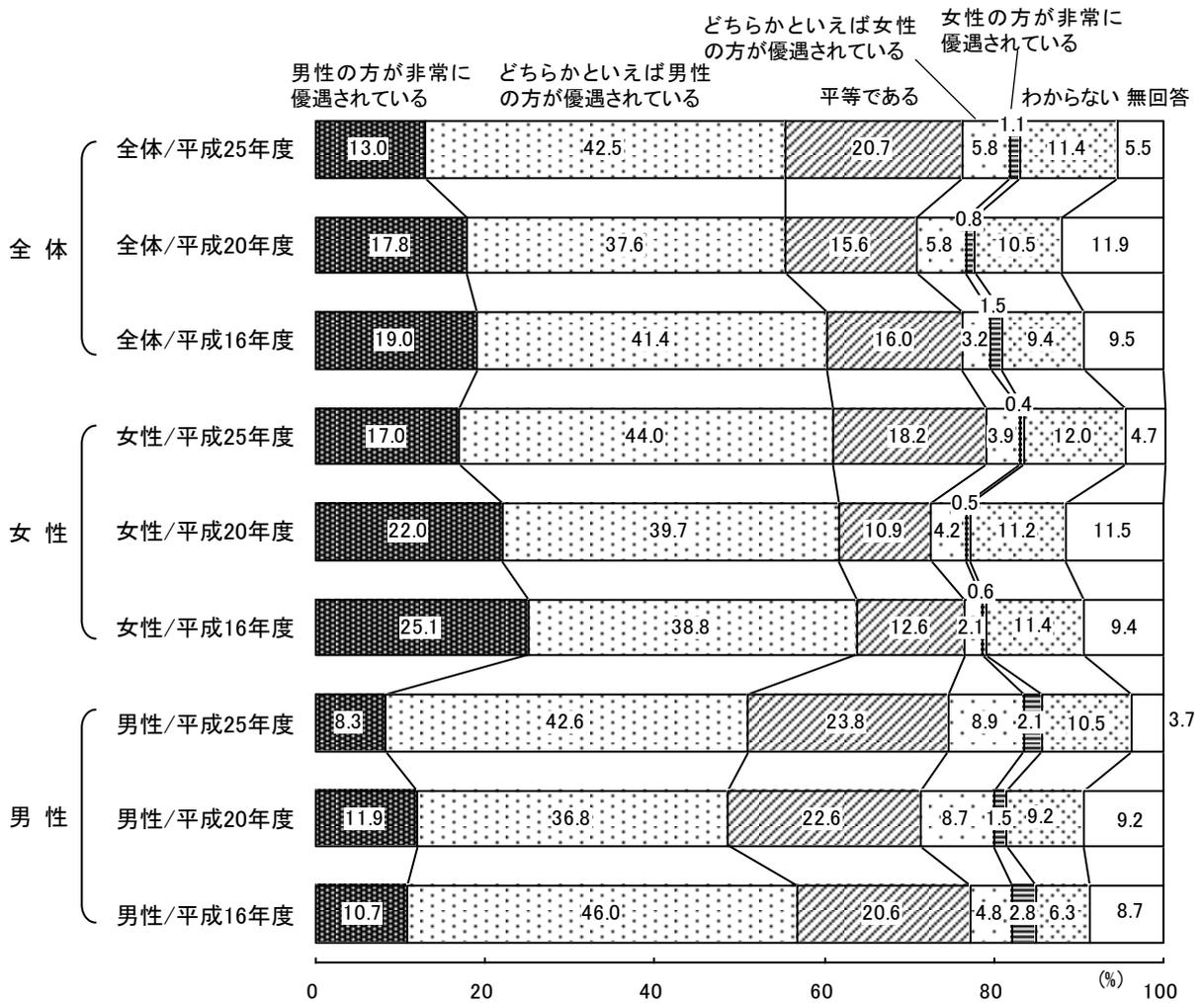
問3 男女平等の進捗度(1)家庭生活で

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	241 6.9	1356 38.8	1597 45.7	1203 34.4	305 8.7	263 7.5	42 1.2	285 8.2	105 3.0
女性・20歳代	168 100.0	14 8.3	61 36.3	75 44.6	63 37.5	18 10.7	16 9.5	2 1.2	11 6.5	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	35 10.9	133 41.4	168 52.3	101 31.5	21 6.5	20 6.2	1 0.3	28 8.7	3 0.9
女性・40歳代	339 100.0	46 13.6	172 50.7	218 64.3	75 22.1	16 4.7	15 4.4	1 0.3	28 8.3	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	29 9.2	165 52.5	194 61.7	79 25.2	17 5.4	16 5.1	1 0.3	22 7.0	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	37 9.4	183 46.6	220 56.0	105 26.7	22 5.6	20 5.1	2 0.5	35 8.9	11 2.8
女性・70歳以上	400 100.0	31 7.8	165 41.3	196 49.1	106 26.5	27 6.8	24 6.0	3 0.8	38 9.5	33 8.3
女性	1938 100.0	193 10.0	880 45.4	1073 55.4	529 27.3	122 6.3	112 5.8	10 0.5	162 8.4	52 2.7
男性・20歳代	112 100.0	3 2.7	25 22.3	28 25.0	53 47.3	19 17.0	15 13.4	4 3.6	11 9.8	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	6 3.2	51 27.0	57 30.2	78 41.3	40 21.1	32 16.9	8 4.2	13 6.9	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	5 2.2	68 29.8	73 32.0	102 44.7	26 11.4	24 10.5	2 0.9	24 10.5	3 1.3
男性・50歳代	220 100.0	10 4.5	73 33.2	83 37.7	39 40.5	31 14.1	24 10.9	7 3.2	15 6.8	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	6 1.9	120 37.4	126 39.3	140 43.6	18 5.6	14 4.4	4 1.2	26 8.1	11 3.4
男性・70歳以上	292 100.0	8 2.7	92 31.5	100 34.2	135 46.2	29 10.0	25 8.6	4 1.4	18 6.2	10 3.4
男性	1363 100.0	38 2.8	429 31.5	467 34.3	597 43.8	163 11.9	134 9.8	29 2.1	108 7.9	28 2.1

男女差(女性-男性)                    7.2      13.9      21.1      -16.5      -5.6      -4.0      -1.6      0.5      0.6

(2)職場で

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「男性優遇」とする割合が 55.5%、「平等である」とする割合 20.7%、「女性優遇」とする割合が 6.9%となっている。

なお、「わからない」とする割合が 11.4%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「男性優遇」とする割合 (60.4%→55.4%→55.5%) が減少傾向、「平等である」とする割合 (16.0%→15.6%→20.7%) が増加傾向となっている。

女性では、「平等である」とする割合 (12.6%→10.9%→18.2%) が、前回調査から増加傾向となっている。

男性では、「男性優遇」とする割合 (56.7%→48.7%→50.9%) が、平成 16 年度から 20 年度で減少している。

なお、「男性の方が非常に優遇されている」とする割合が、女性 (25.1%→22.0%→17.0%) では、減少傾向となっている。

[性別]

男女とも、「男性優遇」とする割合は女性 61.0%、男性 50.9%となり、「平等である」とする割合 (女性 18.2%、男性 23.8%)、「女性優遇」とする割合 (女性 4.3%、男性 11.0%) を上回っている。

また、「男性の方が非常に優遇されている」とする割合 (女性 17.0%、男性 8.3%) は男性より女性の方が 8.7 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女とも、各年代において“男性優遇”とする割合が「平等である」とする割合を上回り、なかでも女性 20 歳代から 60 歳代まで、男性 30 歳代、50 歳代、60 歳代では 5 割を超えている。

なお、男女 70 歳以上、女性 60 歳代で「わからない」とする割合が 13.7～23.0%と高くなっている。

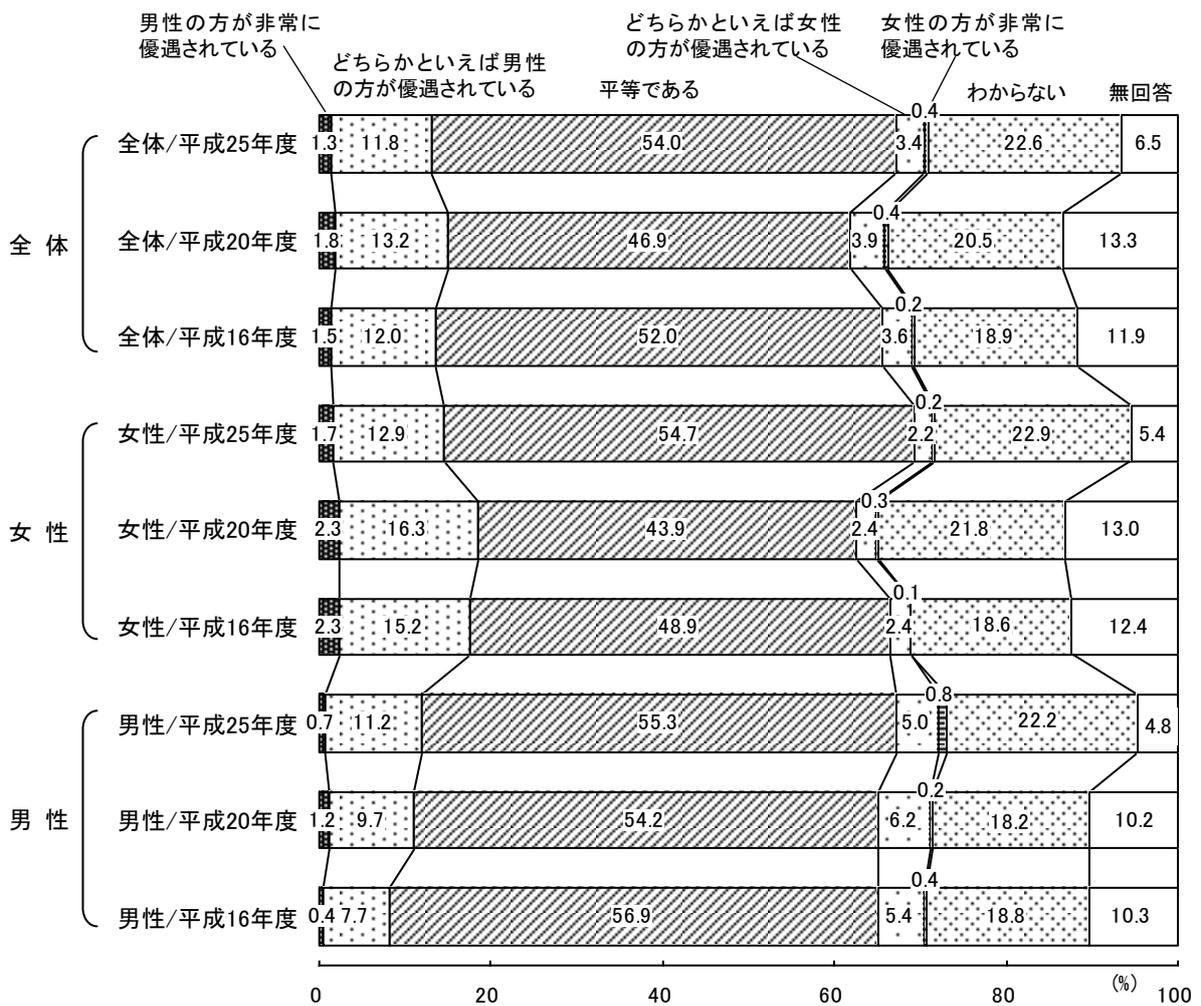
“男性優遇”は女性の割合が高く、“女性優遇”は男性の割合が高く、男女間で差がみられる。

問3 男女平等の進捗度(2)職場で

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	454 13.0	1486 42.5	1940 55.5	725 20.7	239 6.9	201 5.8	38 1.1	400 11.4	191 5.5
女性・20歳代	168 100.0	26 15.5	63 37.5	89 53.0	50 29.8	15 8.9	14 8.3	1 0.6	13 7.7	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	67 20.9	142 44.2	209 65.1	73 22.7	19 5.9	17 5.3	2 0.6	19 5.9	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	74 21.8	157 46.3	231 68.1	72 21.2	11 3.2	11 3.2	—	23 6.8	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	59 18.8	143 45.5	202 64.3	61 19.4	17 5.4	15 4.8	2 0.6	31 9.9	3 1.0
女性・60歳代	393 100.0	57 14.5	197 50.1	254 64.6	60 15.3	9 2.3	8 2.0	1 0.3	54 13.7	16 4.1
女性・70歳以上	400 100.0	44 11.0	150 37.5	194 48.5	36 9.0	11 2.8	10 2.5	1 0.3	92 23.0	67 16.8
女性	1938 100.0	329 17.0	852 44.0	1181 61.0	352 18.2	82 4.3	75 3.9	7 0.4	232 12.0	91 4.7
男性・20歳代	112 100.0	10 8.9	38 33.9	48 42.8	32 28.6	21 18.8	16 14.3	5 4.5	10 8.9	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	22 11.6	79 41.8	101 53.4	46 24.3	31 16.4	26 13.8	5 2.6	11 5.8	—
男性・40歳代	228 100.0	22 9.6	89 39.0	111 48.6	63 27.6	30 13.2	20 8.8	10 4.4	20 8.8	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	19 8.6	102 46.4	121 55.0	45 20.5	33 15.0	27 12.3	6 2.7	19 8.6	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	21 6.5	162 50.5	183 57.0	81 25.2	23 7.1	20 6.2	3 0.9	28 8.7	6 1.9
男性・70歳以上	292 100.0	19 6.5	111 38.0	130 44.5	58 19.9	12 4.1	12 4.1	—	54 18.5	38 13.0
男性	1363 100.0	113 8.3	581 42.6	694 50.9	325 23.8	150 11.0	121 8.9	29 2.1	143 10.5	51 3.7
男女差(女性-男性)		8.7	1.4	10.1	-5.6	-6.7	-5.0	-1.7	1.5	1.0

(3) 学校教育の場で

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「平等である」とする割合が 54.0%となり、「男性優遇」とする割合は 13.1%、「女性優遇」とする割合は 3.8%となっている。

なお、「わからない」とする割合が 22.6%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「男性優遇」とする割合(13.5%→15.0%→13.1%)は大きく変わらず、「平等である」とする割合(52.0%→46.9%→54.0%)が平成16年度から平成20年度で減少、平成20年度から平成25年度で増加している。

女性では、「男性優遇」の割合(17.5%→18.6%→14.6%)は前回調査から減少し、「平等である」の割合(48.9%→43.9%→54.7%)が平成16年度から平成20年度で減少、平成20年度から平成25年度で増加している。

男性では、「男性優遇」の割合(8.1%→10.9%→11.9%)、「平等である」の割合(56.9%→54.2%→55.3%)ともに大きな変化はない。

[性別]

男女とも、「平等である」(女性 54.7%、男性 55.3%)とする割合が高くなっており、「男性優遇」とする割合(女性 14.6%、男性 11.9%)、「女性優遇」(女性 2.4%、男性 5.8%)より上回っている。

なお、「わからない」とする割合が、女性 22.9%、男性 22.2%となっている。

[性別・年代別]

男女すべての年代で「平等である」とする割合が“男性優遇”とする割合を上回り、女性 60 歳代、70 歳以上、男性 70 歳以上では、47.1%、43.5%、45.9%と、それ以外の年代に比べて低くなっている。

なお、男性より女性が、また、男女とも年齢が若くなるほど、「平等である」とする割合が高い傾向を示している。

また、男性 20 歳代のみ、「どちらかといえば女性優遇」(12.5%)とする割合が 1 割強となり、“女性優遇”とする割合も 16.1%と女性や男性の他の年代に比べて高くなっている。

なお、男女ともすべての世代において、「わからない」とする割合が「平等である」とする割合に次いで多くなっている。

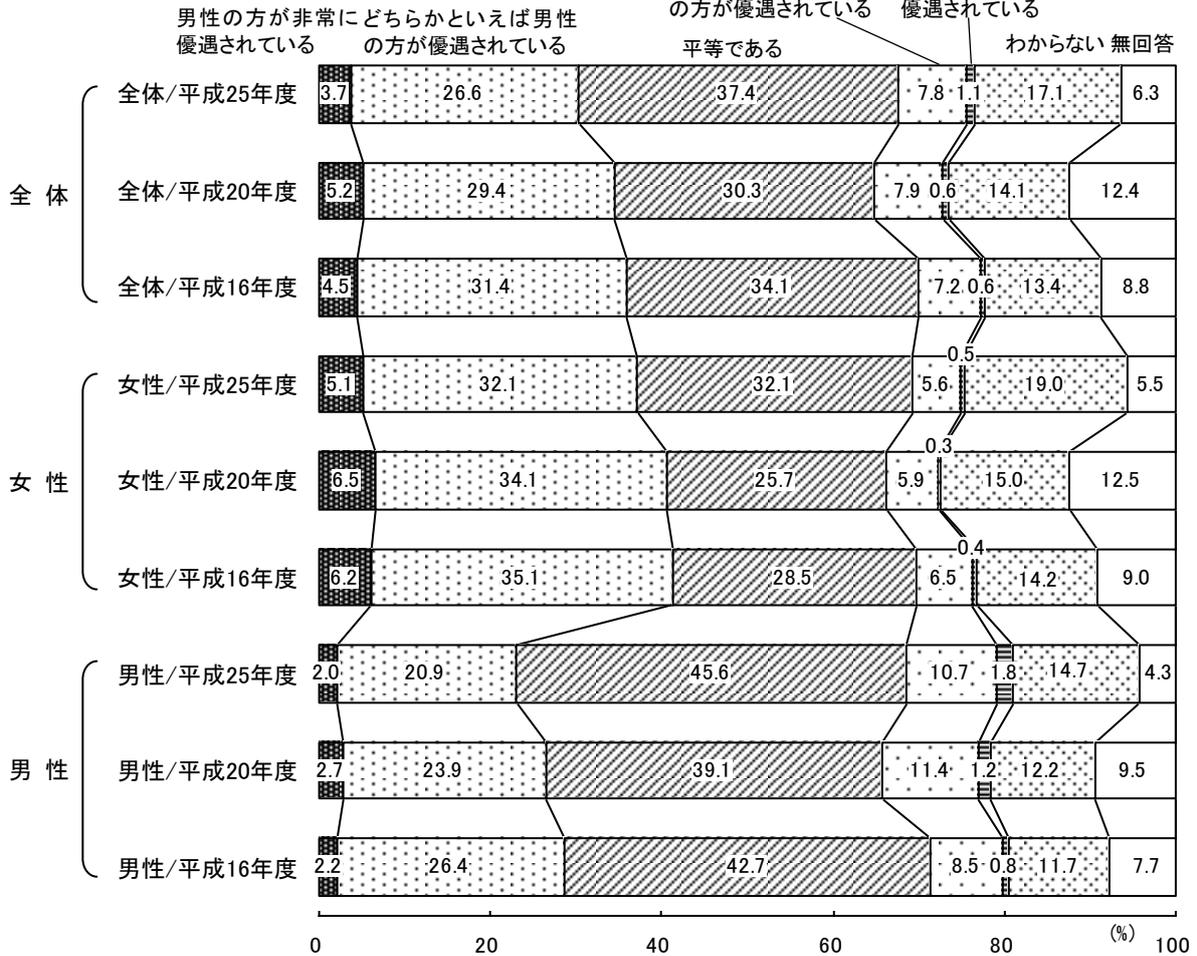
問3 男女平等の進捗度(3)学校教育の場で

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	46 1.3	412 11.8	458 13.1	1886 54.0	133 3.8	118 3.4	15 0.4	790 22.6	228 6.5
女性・20歳代	168 100.0	3 1.8	14 8.3	17 10.1	115 68.5	6 3.6	6 3.6	—	28 16.7	2 1.2
女性・30歳代	321 100.0	5 1.6	28 8.7	33 10.3	199 62.0	7 2.2	7 2.2	—	81 25.2	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	7 2.1	51 15.0	58 17.1	210 61.9	7 2.1	7 2.1	—	62 18.3	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	6 1.9	61 19.4	67 21.3	176 56.1	5 1.6	5 1.6	—	62 19.7	4 1.3
女性・60歳代	393 100.0	3 0.8	57 14.5	60 15.3	185 47.1	10 2.5	10 2.5	—	113 28.8	25 6.4
女性・70歳以上	400 100.0	9 2.3	39 9.8	48 12.1	174 43.5	10 2.6	7 1.8	3 0.8	97 24.3	71 17.8
女性	1938 100.0	33 1.7	250 12.9	283 14.6	1061 54.7	46 2.4	43 2.2	3 0.2	443 22.9	105 5.4
男性・20歳代	112 100.0	1 0.9	11 9.8	12 10.7	67 59.8	18 16.1	14 12.5	4 3.6	15 13.4	—
男性・30歳代	189 100.0	1 0.5	22 11.6	23 12.1	108 57.1	12 6.4	10 5.3	2 1.1	45 23.8	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	1 0.4	22 9.6	23 10.0	131 57.5	14 6.2	12 5.3	2 0.9	55 24.1	5 2.2
男性・50歳代	220 100.0	3 1.4	30 13.6	33 15.0	123 55.9	18 8.2	15 6.8	3 1.4	41 18.6	5 2.3
男性・60歳代	321 100.0	3 0.9	32 10.0	35 10.9	191 59.5	10 3.1	10 3.1	—	74 23.1	11 3.4
男性・70歳以上	292 100.0	—	36 12.3	36 12.3	134 45.9	7 2.4	7 2.4	—	71 24.3	44 15.1
男性	1363 100.0	9 0.7	153 11.2	162 11.9	754 55.3	79 5.8	68 5.0	11 0.8	302 22.2	66 4.8

男女差(女性-男性)                    1.0      1.7      2.7      -0.6      -3.4      -2.8      -0.6      0.7      0.6

(4) 地域社会・社会活動の場で

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「平等である」とする割合 37.4%、「男性優遇」とする割合 30.3%、「女性優遇」とする割合 8.9%となっている。

なお、「わからない」とする割合が 17.1%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「男性優遇」とする割合 (35.9%→34.6%→30.3%) は前回調査から減少し、「平等である」とする割合 (34.1%→30.3%→37.4%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少、平成 20 年度から平成 25 年度で増加している。

女性では、「男性優遇」とする割合 (41.3%→40.6%→37.2%) は減少傾向、「平等である」の割合 (28.5%→25.7%→32.1%) が平成 16 年度から平成 20 年度で減少、平成 20 年度から平成 25 年度で増加している。

男性では、「男性優遇」とする割合 (28.6%→26.6%→22.9%) は減少傾向、「平等である」の割合 (42.7%→39.1%→45.6%) が平成 16 年度から平成 20 年度で減少、平成 20 年度から平成 25 年度で増加している。

[性別]

女性では、「男性優遇」とする割合 (37.2%) が、「平等である」とする割合 (32.1%) を上回っている。

男性では、「平等である」とする割合 (45.6%) が、「男性優遇」とする割合 (22.9%) を上回っている。

なお、「男性優遇」とする割合は、男性より女性の方が 14.3 ポイント高くなっている。

一方、「平等である」とする割合では、女性より男性のほうが 13.5 ポイント高くなっている。

「わからない」とする割合が女性 19.0%、男性 14.7%となっている。

[性別・年代別]

男性は、すべての年代で「平等である」とする割合が、“男性優遇”とする割合を上回っている。

女性 20 歳代、30 歳代では、「平等である」(41.1%、35.2%)とする割合が高く、“男性優遇”とする割合(25.0%、29.9%)を上回っている。

一方、女性 40 歳代から 70 歳以上まででは、“男性優遇”とする割合が、「平等である」とする割合を上回り、年代により、異なっている。

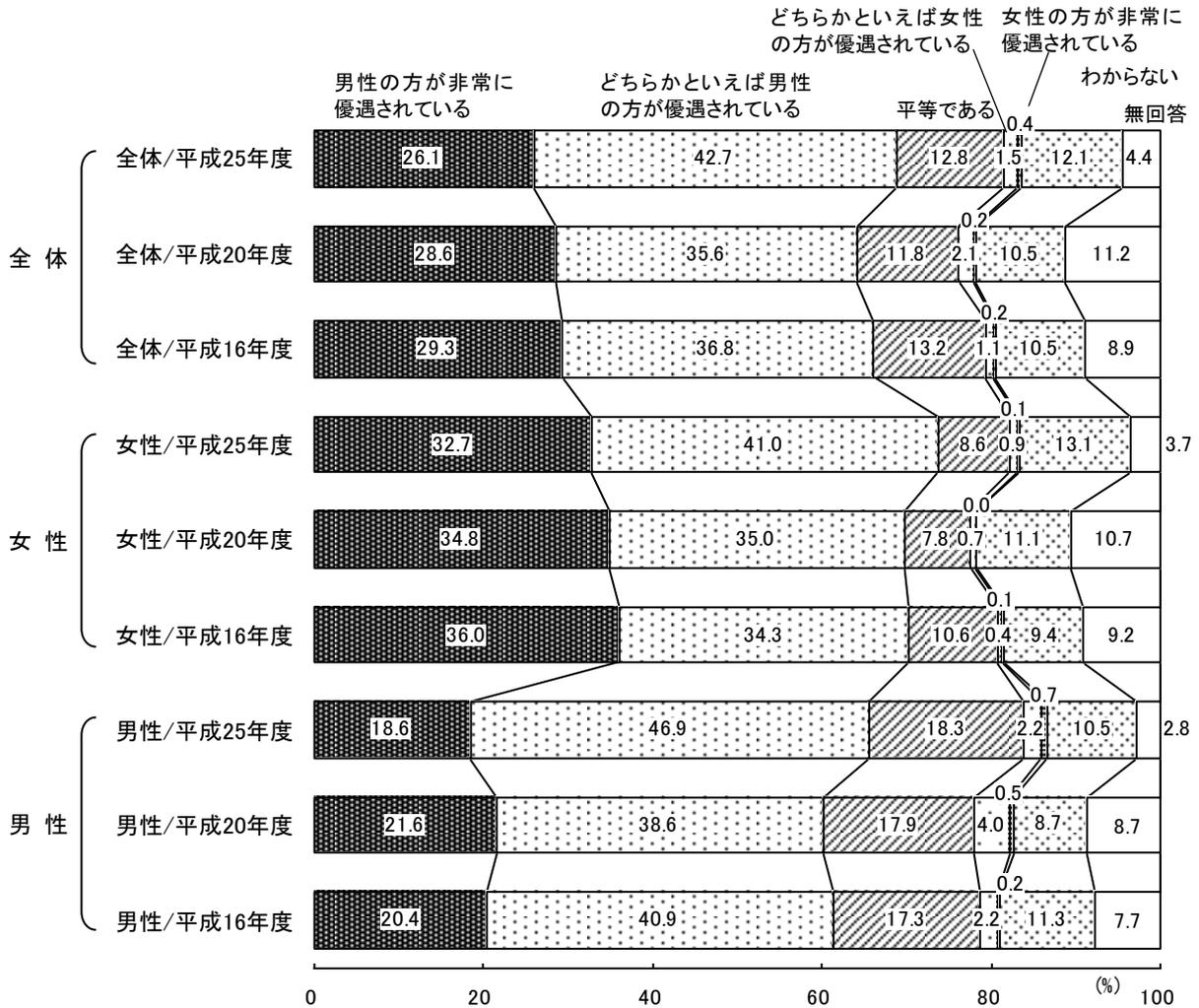
また、女性では、20 歳代(25.0%)30 歳代(26.2%)、男性では、20 歳代(16.1%)30 歳代(16.4%)40 歳代(18.9%)において「わからない」とする回答が高くなっている。

問3 男女平等の進捗度(4)地域社会・社会活動の場で

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	131 3.7	931 26.6	1062 30.3	1307 37.4	309 8.9	272 7.8	37 1.1	596 17.1	221 6.3
女性・20歳代	168 100.0	9 5.4	33 19.6	42 25.0	69 41.1	12 7.1	11 6.5	1 0.6	42 25.0	3 1.8
女性・30歳代	321 100.0	17 5.3	79 24.6	96 29.9	113 35.2	24 7.5	22 6.9	2 0.6	84 26.2	4 1.2
女性・40歳代	339 100.0	19 5.6	139 41.0	158 46.6	108 31.9	13 3.8	11 3.2	2 0.6	57 16.8	3 0.9
女性・50歳代	314 100.0	15 4.8	128 40.8	143 45.6	111 35.4	16 5.1	14 4.5	2 0.6	41 13.1	3 1.0
女性・60歳代	393 100.0	15 3.8	143 36.4	158 40.2	112 28.5	25 6.4	24 6.1	1 0.3	78 19.8	20 5.1
女性・70歳以上	400 100.0	24 6.0	99 24.8	123 30.8	107 26.8	29 7.3	27 6.8	2 0.5	67 16.8	74 18.5
女性	1938 100.0	99 5.1	622 32.1	721 37.2	622 32.1	119 6.1	109 5.6	10 0.5	369 19.0	107 5.5
男性・20歳代	112 100.0	2 1.8	19 17.0	21 18.8	57 50.9	15 13.4	13 11.6	2 1.8	18 16.1	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	3 1.6	30 15.9	33 17.5	94 49.7	31 16.4	25 13.2	6 3.2	31 16.4	—
男性・40歳代	228 100.0	6 2.6	34 14.9	40 17.5	106 46.5	31 13.6	27 11.8	4 1.8	43 18.9	8 3.5
男性・50歳代	220 100.0	4 1.8	59 26.8	63 28.6	88 40.0	37 16.8	30 13.6	7 3.2	30 13.6	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	6 1.9	73 22.7	79 24.6	159 49.5	35 10.9	32 10.0	3 0.9	35 10.9	13 4.0
男性・70歳以上	292 100.0	6 2.1	70 24.0	76 26.1	118 40.4	21 7.2	19 6.5	2 0.7	42 14.4	35 12.0
男性	1363 100.0	27 2.0	285 20.9	312 22.9	622 45.6	170 12.5	146 10.7	24 1.8	200 14.7	59 4.3
男女差(女性-男性)		3.1	11.2	14.3	-13.5	-6.4	-5.1	-1.3	4.3	1.2

(5)政治の場で

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“男性優遇”とする割合が68.8%となり、「平等である」とする割合12.8%、“女性優遇”とする割合1.9%となっている。なお、「わからない」とする割合が12.1%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“男性優遇”とする割合(66.1%→64.2%→68.8%)が前回調査から増加、「平等である」とする割合(13.2%→11.8%→12.8%)ともに、大きな変化がない。

女性では、“男性優遇”とする割合(70.3%→69.8%→73.7%)が前回調査から増加、「平等である」とする割合(10.6%→7.8%→8.6%)ともに、大きな変化はない。

男性では、“男性優遇”とする割合(61.3%→60.2%→65.5%)が前回調査から増加、「平等である」とする割合(17.3%→17.9%→18.3%)は大きな変化はない。

[性別]

男女とも、“男性優遇”とする割合(女性73.7%、男性65.5%)となり、「平等である」(女性8.6%、男性18.3%)とする割合、“女性優遇”とする割合(女性1.0%、男性2.9%)となっている。

「わからない」とする割合は、女性13.1%、男性10.5%となっている。

なお、「平等である」とする割合は、女性より男性の方が9.7ポイント高くなっている。

一方、「男性の方が非常に優遇されている」(女性32.7%、男性18.6%)とする割合が、男性より女性の方が14.1ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女ともすべての年代で“男性優遇”とする割合が高く、特に女性の30歳代(80.4%)、40歳代(84.4%)、50歳代(81.8%)と高くなっている。

「平等である」とする割合は、すべての年代で、女性より男性の方が高い割合を示している。

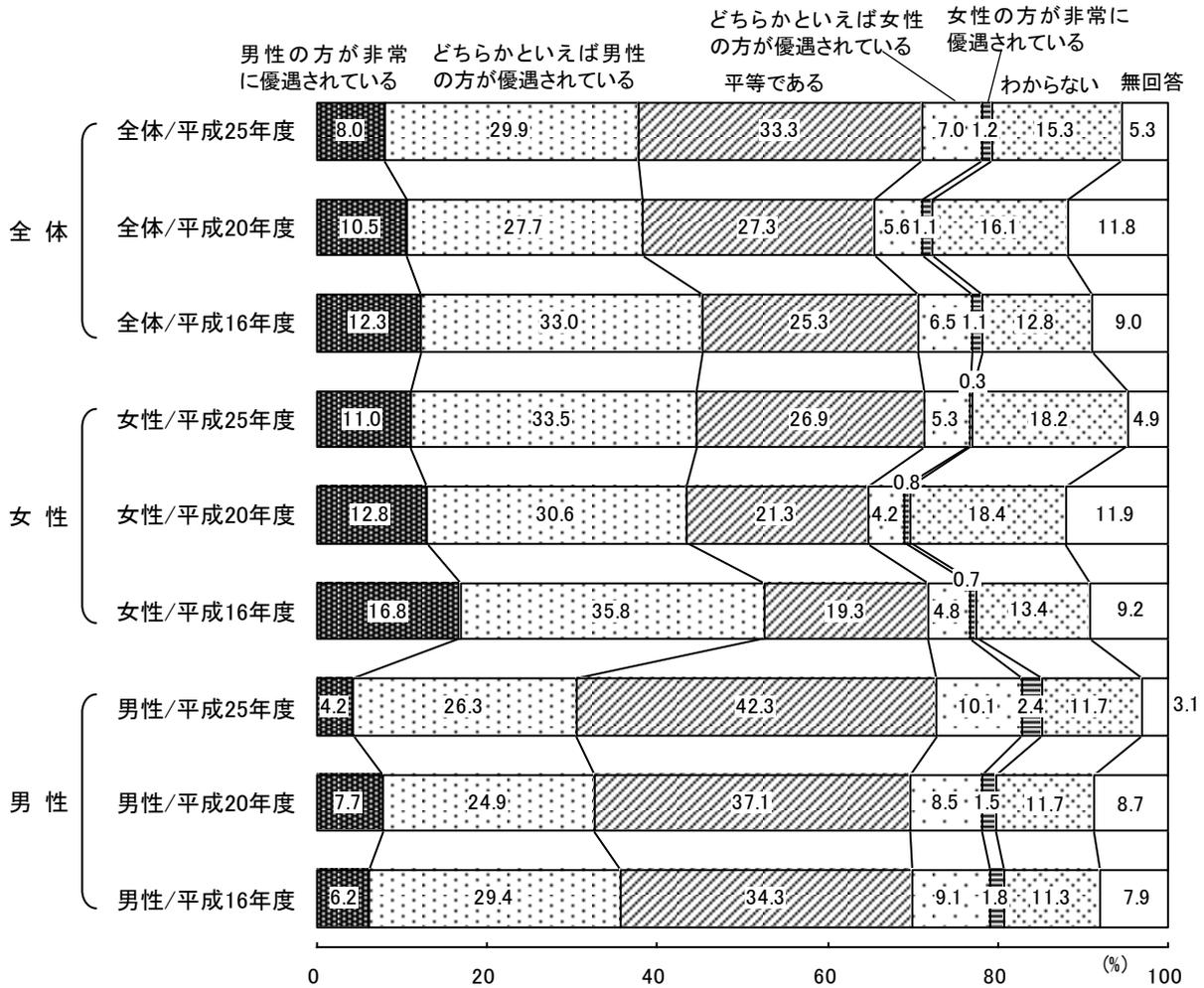
問3 男女平等の進捗度(5)政治の場で

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	912 26.1	1491 42.7	2403 68.8	449 12.8	67 1.9	54 1.5	13 0.4	422 12.1	154 4.4
女性・20歳代	168 100.0	62 36.9	66 39.3	128 76.2	16 9.5	1 0.6	1 0.6	—	22 13.1	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	140 43.6	118 36.8	258 80.4	24 7.5	3 0.9	3 0.9	—	34 10.6	2 0.6
女性・40歳代	339 100.0	139 41.0	147 43.4	286 84.4	20 5.9	1 0.3	1 0.3	—	29 8.6	3 0.9
女性・50歳代	314 100.0	116 36.9	141 44.9	257 81.8	16 5.1	4 1.3	4 1.3	—	36 11.5	1 0.3
女性・60歳代	393 100.0	98 24.9	178 45.3	276 70.2	45 11.5	5 1.3	5 1.3	—	58 14.8	9 2.3
女性・70歳以上	400 100.0	78 19.5	142 35.5	220 55.0	46 11.5	4 1.1	3 0.8	1 0.3	74 18.5	56 14.0
女性	1938 100.0	634 32.7	794 41.0	1428 73.7	167 8.6	18 1.0	17 0.9	1 0.1	253 13.1	72 3.7
男性・20歳代	112 100.0	27 24.1	45 40.2	72 64.3	23 20.5	2 1.8	1 0.9	1 0.9	15 13.4	—
男性・30歳代	189 100.0	35 18.5	94 49.7	129 68.2	40 21.2	9 4.8	7 3.7	2 1.1	11 5.8	—
男性・40歳代	228 100.0	54 23.7	88 38.6	142 62.3	40 17.5	9 4.0	7 3.1	2 0.9	33 14.5	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	36 16.4	116 52.7	152 69.1	39 17.7	8 3.6	6 2.7	2 0.9	19 8.6	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	58 18.1	172 53.6	230 71.7	57 17.8	4 1.2	4 1.2	—	25 7.8	5 1.6
男性・70歳以上	292 100.0	43 14.7	124 42.5	167 57.2	51 17.5	8 2.7	5 1.7	3 1.0	39 13.4	27 9.2
男性	1363 100.0	253 18.6	639 46.9	892 65.5	250 18.3	40 2.9	30 2.2	10 0.7	143 10.5	38 2.8

男女差(女性-男性)                    14.1       -5.9       8.2       -9.7       -1.9       -1.3       -0.6       2.6       0.9

(6) 法律や制度のうえで

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“男性優遇”とする割合 37.9%、「平等である」とする割合 33.3%、“女性優遇”とする割合 8.2%となっている。なお、「わからない」とする割合が 15.3%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“男性優遇”とする割合 (45.3%→38.2%→37.9%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「平等である」とする割合 (25.3%→27.3%→33.3%) は増加傾向となっている。

女性では、“男性優遇”とする割合 (52.6%→43.4%→44.5%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「平等である」の割合 (19.3%→21.3%→26.9%) は増加傾向となっている。

男性では、“男性優遇”の割合 (35.6%→32.6%→30.5%) は減少傾向、「平等である」の割合 (34.3%→37.1%→42.3%) は増加傾向となっている。

[性別]

女性では“男性優遇”とする割合 (44.5%) が、「平等である」とする割合 (26.9%)、“女性優遇”とする割合 (5.6%) を上回っている。

男性では「平等である」とする割合 (42.3%) が、“男性優遇” (30.5%)、“女性優遇” (12.5%) とする割合を上回っている。

「わからない」とする割合は、女性 18.2%、男性 11.7%となっている。

なお、“男性優遇”とする割合は、男性より女性の方が 14.0 ポイント高くなっている。

一方、「平等である」とする割合で15.4ポイント、「女性優遇」とする割合では6.9ポイント、女性より男性の方が高くなっている。

「男性の方が非常に優遇されている」とする割合(女性 11.0%、男性 4.2%)では、男性より女性の方が6.8ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

女性の全年代で“男性優遇”とする割合が「平等である」とする割合より高く、なかでも、女性50歳代では“男性優遇”とする割合が58.3%となっている。

男性の全年代で「平等である」とする割合が最も高くなっている。男性20歳代、30歳代では、“女性優遇”とする割合(23.3%、21.7%)が高くなっている。

なお、男性20歳代では、“男性優遇”24.1%、“女性優遇”23.3%と大きな差がない。

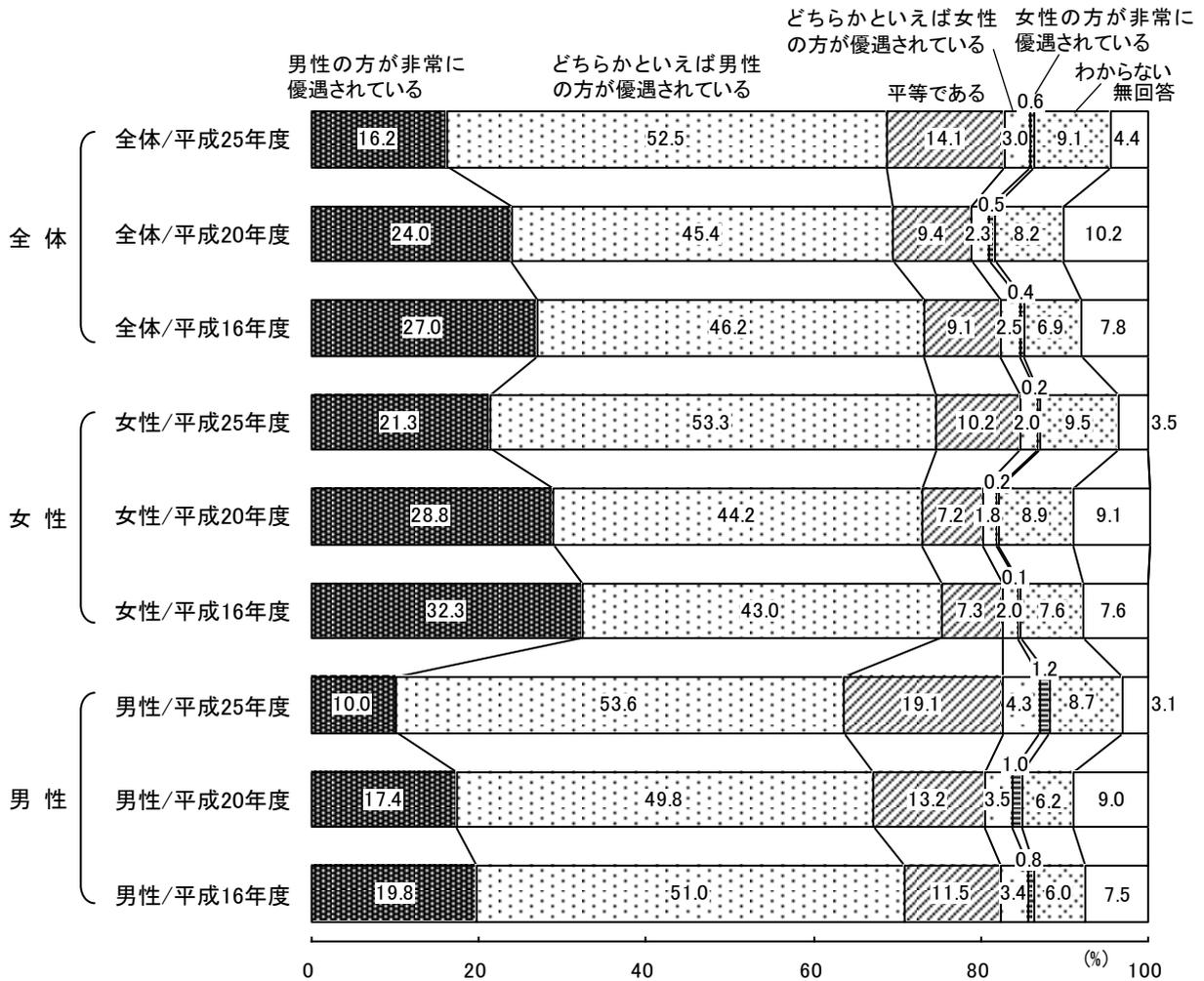
問3 男女平等の進捗度(6) 法律や制度のうえで

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	278 8.0	1046 29.9	1324 37.9	1165 33.3	286 8.2	245 7.0	41 1.2	534 15.3	186 5.3
女性・20歳代	168 100.0	18 10.7	50 29.8	68 40.5	46 27.4	18 10.7	17 10.1	1 0.6	34 20.2	2 1.2
女性・30歳代	321 100.0	43 13.4	102 31.8	145 45.2	79 24.6	27 8.4	27 8.4	—	68 21.2	2 0.6
女性・40歳代	339 100.0	44 13.0	124 36.6	168 49.6	93 27.4	22 6.5	21 6.2	1 0.3	53 15.6	3 0.9
女性・50歳代	314 100.0	44 14.0	139 44.3	183 58.3	75 23.9	13 4.1	13 4.1	—	38 12.1	5 1.6
女性・60歳代	393 100.0	36 9.2	126 32.1	162 41.3	121 30.8	19 4.9	18 4.6	1 0.3	74 18.8	17 4.3
女性・70歳以上	400 100.0	28 7.0	109 27.3	137 34.3	106 26.5	8 2.0	6 1.5	2 0.5	85 21.3	64 16.0
女性	1938 100.0	213 11.0	650 33.5	863 44.5	522 26.9	107 5.6	102 5.3	5 0.3	352 18.2	94 4.9
男性・20歳代	112 100.0	5 4.5	22 19.6	27 24.1	41 36.6	26 23.3	20 17.9	6 5.4	17 15.2	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	10 5.3	48 25.4	58 30.7	73 38.6	41 21.7	32 16.9	9 4.8	16 8.5	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	15 6.6	60 26.3	75 32.9	86 37.7	34 14.9	29 12.7	5 2.2	29 12.7	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	9 4.1	58 26.4	67 30.5	96 43.6	30 13.6	22 10.0	8 3.6	25 11.4	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	8 2.5	99 30.8	107 33.3	156 48.6	26 8.1	23 7.2	3 0.9	26 8.1	6 1.9
男性・70歳以上	292 100.0	10 3.4	71 24.3	81 27.7	124 42.5	14 4.8	12 4.1	2 0.7	45 15.4	28 9.6
男性	1363 100.0	57 4.2	358 26.3	415 30.5	576 42.3	171 12.5	138 10.1	33 2.4	159 11.7	42 3.1

男女差(女性-男性)      6.8      7.2      14.0      -15.4      -6.9      -4.8      -2.1      6.5      1.8

(7) 社会通念・慣習・しきたりなど

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“男性優遇”とする割合 68.7%が高くなっており、「平等である」とする割合 14.1%、“女性優遇”とする割合 3.6%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“男性優遇”とする割合 (73.2%→69.4%→68.7%)は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「平等である」とする割合 (9.1%→9.4%→14.1%)は前回調査から増加している。

女性では、“男性優遇”とする割合 (75.3%→73.0%→74.6%)は大きな変化はなく、「平等である」とする割合 (7.3%→7.2%→10.2%)は、前回調査から若干、増加している。

男性では、“男性優遇”とする割合 (70.8%→67.2%→63.6%)は減少傾向、「平等である」とする割合 (11.5%→13.2%→19.1%)は増加傾向となっている。

なお、「男性の方が非常に優遇されている」とする割合が、全体、男女とも、減少傾向となっている。

[性別]

男女とも、“男性優遇”の割合 (女性 74.6%、男性 63.6%)が高く、次に「平等である」とする割合 (女性 10.2%、男性 19.1%)、“女性優遇”とする割合 (女性 2.2%、男性 5.5%)となっている。

なお、“男性優遇”とする割合で 11.0 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

一方、「平等である」とする割合で 8.9 ポイント、女性より男性の方が高くなっている。

また、「男性の方が非常に優遇されている」とする割合 (女性 21.3%、男性 10.0%)が、男性より女性の方が

11.3 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女ともすべての年代で“男性優遇”とする割合が「平等である」とする割合を上回っている。

女性 40 歳代(86.4%)、女性 50 歳代(84.4%)で“男性優遇”とする割合が 8 割を超え、特に高くなっている。

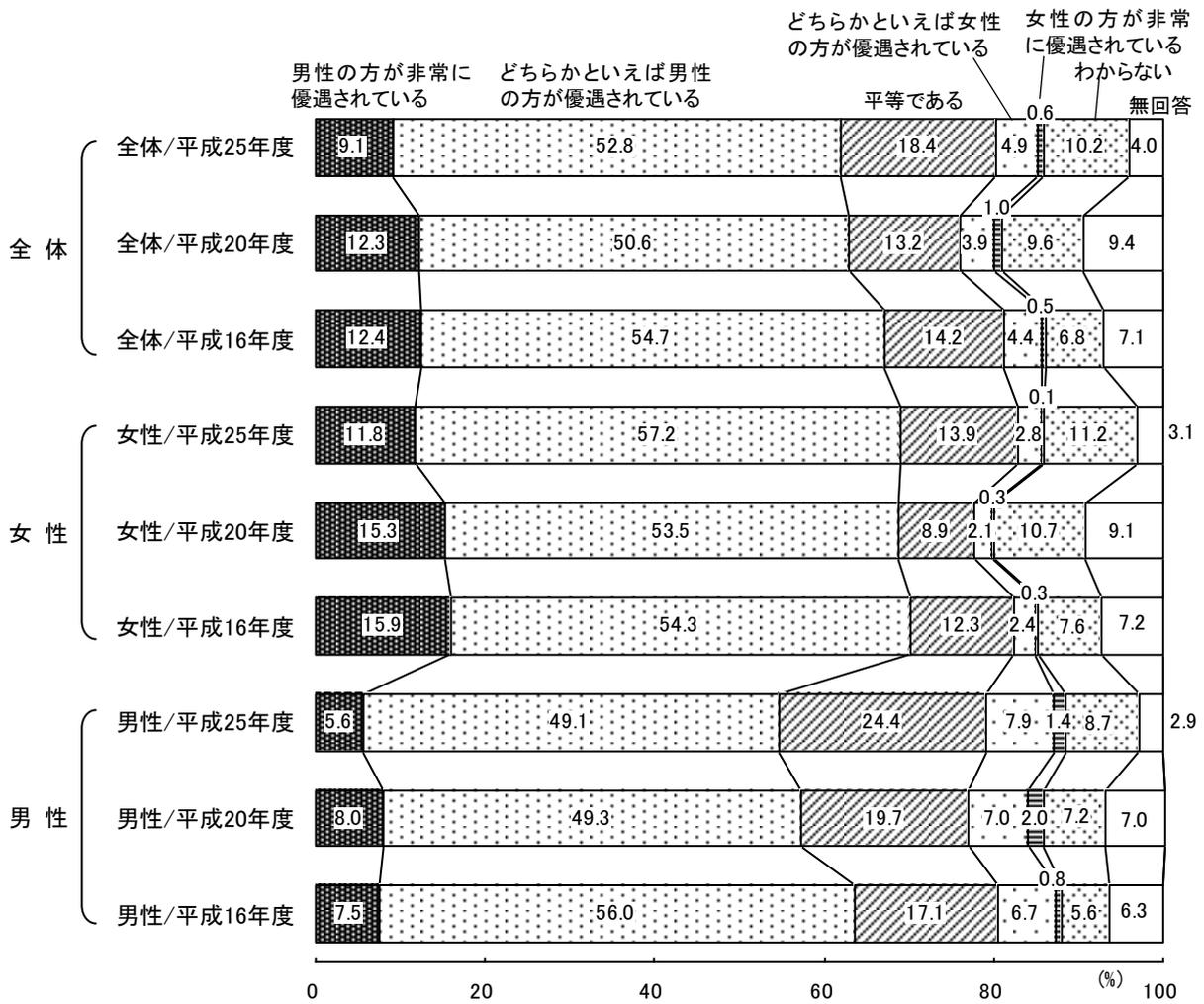
男性の全年代で、「平等である」とする割合が、女性より高くなっている。

問3 男女平等の進捗度(7)社会通念・慣習・しきたりなどで

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	567 16.2	1836 52.5	2403 68.7	492 14.1	127 3.6	106 3.0	21 0.6	319 9.1	154 4.4
女性・20歳代	168 100.0	43 25.6	77 45.8	120 71.4	19 11.3	4 2.4	4 2.4	—	22 13.1	3 1.8
女性・30歳代	321 100.0	80 24.9	169 52.6	249 77.5	30 9.3	7 2.2	5 1.6	2 0.6	32 10.0	3 0.9
女性・40歳代	339 100.0	100 29.5	193 56.9	293 86.4	19 5.6	7 2.1	7 2.1	—	18 5.3	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	85 27.1	180 57.3	265 84.4	28 8.9	6 1.9	6 1.9	—	14 4.5	1 0.3
女性・60歳代	393 100.0	62 15.8	221 56.2	283 72.0	51 13.0	8 2.0	6 1.5	2 0.5	40 10.2	11 2.8
女性・70歳以上	400 100.0	43 10.8	193 48.3	236 59.1	47 11.8	11 2.8	11 2.8	—	59 14.8	47 11.8
女性	1938 100.0	413 21.3	1033 53.3	1446 74.6	197 10.2	43 2.2	39 2.0	4 0.2	185 9.5	67 3.5
男性・20歳代	112 100.0	6 5.4	56 50.0	62 55.4	27 24.1	6 5.4	4 3.6	2 1.8	17 15.2	—
男性・30歳代	189 100.0	31 16.4	88 46.6	119 63.0	37 19.6	18 9.5	13 6.9	5 2.6	14 7.4	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	34 14.9	112 49.1	146 64.0	45 19.7	15 6.6	12 5.3	3 1.3	17 7.5	5 2.2
男性・50歳代	220 100.0	26 11.8	128 58.2	154 70.0	27 12.3	18 8.2	14 6.4	4 1.8	19 8.6	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	28 8.7	196 61.1	224 69.8	64 19.9	12 3.7	10 3.1	2 0.6	14 4.4	7 2.2
男性・70歳以上	292 100.0	11 3.8	150 51.4	161 55.2	61 20.9	6 2.1	6 2.1	—	37 12.7	27 9.2
男性	1363 100.0	136 10.0	730 53.6	866 63.6	261 19.1	75 5.5	59 4.3	16 1.2	119 8.7	42 3.1
男女差(女性-男性)		11.3	-0.3	11.0	-8.9	-3.3	-2.3	-1.0	0.8	0.4

(8) 社会全体として

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“男性優遇”とする割合が 61.9%となり、「平等である」とする割合 18.4%、“女性優遇”とする割合 5.5%となっている。

なお、「わからない」とする割合が 10.2%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“男性優遇”とする割合(67.1%→62.9%→61.9%)は平成16年度から平成20年度で減少、「平等である」とする割合(14.2%→13.2%→18.4%)は前回調査から増加している。

女性では、“男性優遇”とする割合(70.2%→68.8%→69.0%)は大きな変化はなく、「平等である」とする割合(12.3%→8.9%→13.9%)は平成16年から平成20年度で減少、平成20年度から平成25年度で増加している。

男性では、“男性優遇”とする割合(63.5%→57.3%→54.7%)は減少傾向、「平等である」とする割合(17.1%→19.7%→24.4%)は増加傾向となっている。

[性別]

男女とも、“男性優遇”とする割合(女性 69.0%、男性 54.7%)が高く、「平等である」とする割合(女性 13.9%、男性 24.4%)、“女性優遇”とする割合、(女性 2.9%、男性 9.3%)となっている。

“男性優遇”とする割合で、男性より女性の方が 14.3ポイント高くなっている。

一方、「平等である」とする割合で10.5ポイント、“女性優遇”とする割合では6.4ポイント、女性より男性の方

が高くなっている。

また、「わからない」とする割合が、女性 11.2%、男性 8.7%となっている。

**[性別・年代別]**

男女とも全年代において、“男性優遇”とする割合が「平等である」とする割合を上回っている。

なお、女性ではすべての年代で、“男性優遇”とする割合が高く、そのなかでも女性 40 歳代(80.8%)、50 歳代(76.7%)は、特に高くなっている。

男性では、“男性優遇”とする割合が、女性より低くなっているが、そのなかで男性 50 歳代(62.3%)、60 歳代(58.5%)は、他の年代より高くなっている。

また、女性(20 歳代 14.3%、30 歳代 12.5%、60 歳代 10.2%、70 歳以上 16.0%)、男性 70 歳以上(13.4%)では、「わからない」とする割合が 1 割以上となっている。

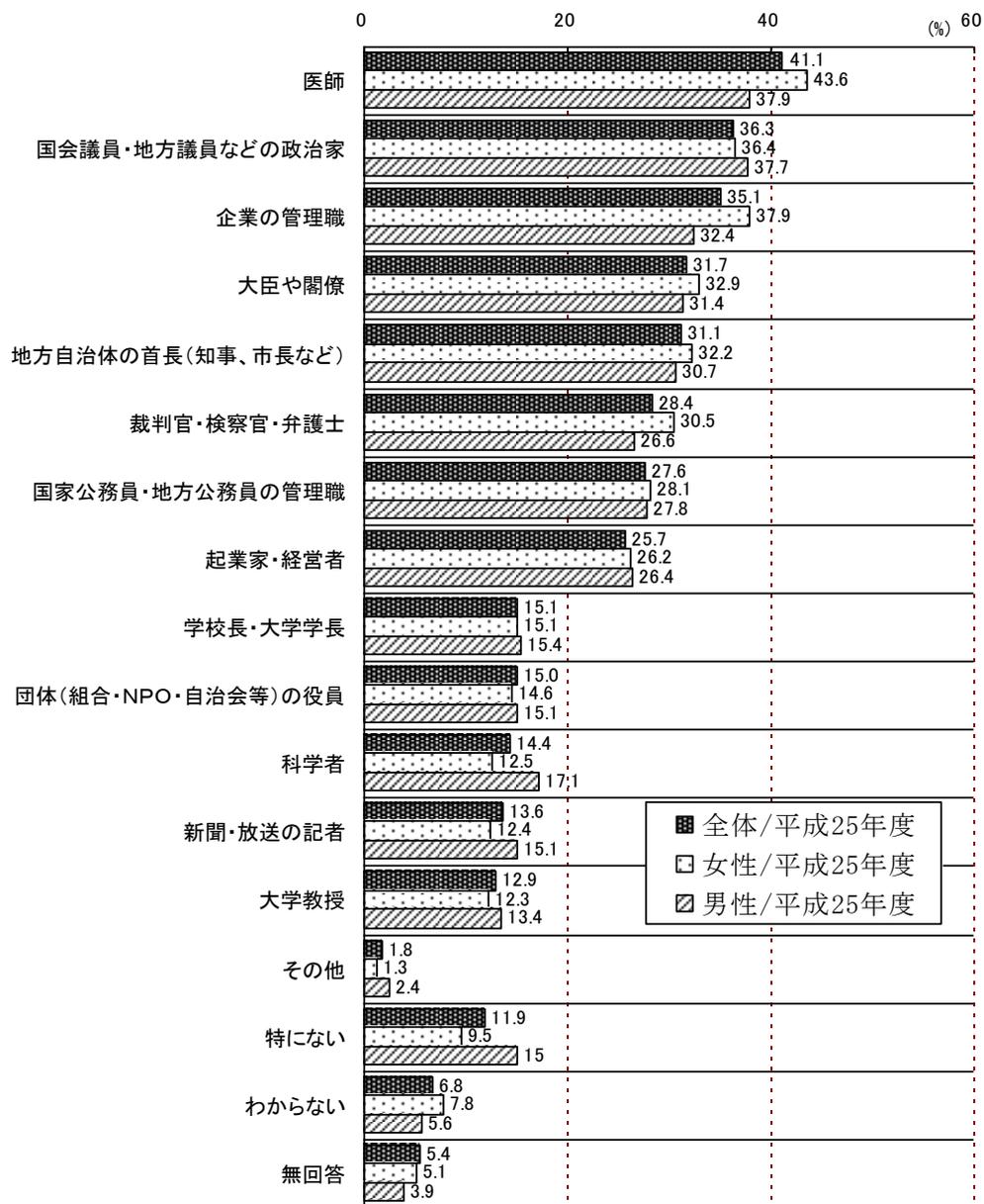
問3 男女平等の進捗度(8)社会全体として

上段:実数 下段:横%	合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらか男性の方が優遇されている	“男性優遇”	平等である	“女性優遇”	どちらか女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	3495 100.0	318 9.1	1845 52.8	2163 61.9	644 18.4	193 5.5	172 4.9	21 0.6	355 10.2	140 4.0
女性・20歳代	168 100.0	19 11.3	92 54.8	111 66.1	26 15.5	6 3.6	6 3.6	—	24 14.3	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	47 14.6	183 57.0	230 71.6	33 10.3	15 4.7	14 4.4	1 0.3	40 12.5	3 0.9
女性・40歳代	339 100.0	51 15.0	223 65.8	274 80.8	34 10.0	8 2.4	8 2.4	—	22 6.5	1 0.3
女性・50歳代	314 100.0	44 14.0	197 62.7	241 76.7	34 10.8	8 2.5	8 2.5	—	27 8.6	4 1.3
女性・60歳代	393 100.0	35 8.9	238 60.6	273 69.5	63 16.0	8 2.0	8 2.0	—	40 10.2	9 2.3
女性・70歳以上	400 100.0	32 8.0	174 43.5	206 51.5	78 19.5	11 2.8	11 2.8	—	64 16.0	41 10.3
女性	1938 100.0	228 11.8	1108 57.2	1336 69.0	269 13.9	56 2.9	55 2.8	1 0.1	217 11.2	60 3.1
男性・20歳代	112 100.0	4 3.6	50 44.6	54 48.2	31 27.7	15 13.4	12 10.7	3 2.7	11 9.8	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	13 6.9	86 45.5	99 52.4	44 23.3	31 16.4	26 13.8	5 2.6	15 7.9	—
男性・40歳代	228 100.0	14 6.1	110 48.2	124 54.3	58 25.4	21 9.2	16 7.0	5 2.2	21 9.2	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	15 6.8	122 55.5	137 62.3	39 17.7	28 12.8	23 10.5	5 2.3	12 5.5	4 1.8
男性・60歳代	321 100.0	21 6.5	167 52.0	188 58.5	87 27.1	20 6.2	19 5.9	1 0.3	20 6.2	6 1.9
男性・70歳以上	292 100.0	9 3.1	134 45.9	143 49.0	73 25.0	12 4.1	12 4.1	—	39 13.4	25 8.6
男性	1363 100.0	76 5.6	669 49.1	745 54.7	332 24.4	127 9.3	108 7.9	19 1.4	119 8.7	40 2.9

男女差(女性-男性)      6.2      8.1      14.3      -10.5      -6.4      -5.1      -1.3      2.5      0.2

問4 今後、女性がもっと増える方がよいとあなたが思うものはどれですか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

全体として、「医師」41.1%、「国会議員・地方議員などの政治家」36.3%、「企業の管理職」35.1%、「大臣や閣僚」31.7%、「地方自治体の首長」31.1%が上位 5 位を占めている。

[性別]

男女とも「医師」(女性 43.6%、男性 37.9%)が最も高くなっている。

次いで、女性では「企業の管理職」37.9%、「国会議員・地方議員などの政治家」36.4%が、男性では、「国会議員・地方議員などの政治家」37.7%、「企業の管理職」32.4%が続き、上位 3 位となっている。

また、「大臣や閣僚」(女性 32.9%、男性 31.4%)、「地方自治体の首長(知事、市長等)」(女性 32.2%、男性 30.7%)、「裁判官・検察官・弁護士」(女性 30.5%、男性 26.6%)、「国家公務員・地方公務員の管理職」(女性 28.1%、男性 27.8%)、「起業家、経営者」(女性 26.2%、男性 26.4%)が、男女とも高くなっている。

なお、「企業の管理職」(女性 37.9%、男性 32.4%)で 5.5 ポイント、「医師」(女性 43.6%、男性 37.9%)で 5.7 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

逆に、「特にない」(女性 9.5%、男性 15.0%)では、5.5 ポイント男性が高くなっている。

[性別・年代別]

女性は 40 歳代を除き、「医師」が最も高い割合を示している。

女性 40 歳代が最も高い割合は、「企業の管理職」46.0%となっている。

2 番目に高い割合を示しているのは、女性 20 歳代(40.5%)、40 歳代(41.6%)、70 歳以上(28.5%)は、「国会議員・地方議員などの政治家」、女性 30 歳代(44.2%)、50 歳代(43.9%)、60 歳代(36.6%)は「企業の管理職」となっている。

男性 20 歳代(33.0%)、30 歳代(34.9%)、40 歳代(38.2%)は「大臣や閣僚」が、50 歳代(40.9%)、70 歳以上(39.7%)は「医師」が、60 歳代(47.0%)は「国会議員・地方議員などの政治家」が最も高い割合を示している。

2 番目に高い割合を示しているのは、男性の 20 歳代(31.3%)、50 歳代(39.1%)、70 歳以上(38.2%)は「国会議員・地方議員などの政治家」、40 歳代(34.6%)、60 歳代以上(43.0%)は「医師」、30 歳代(33.9%)は「企業の管理職」となっている。

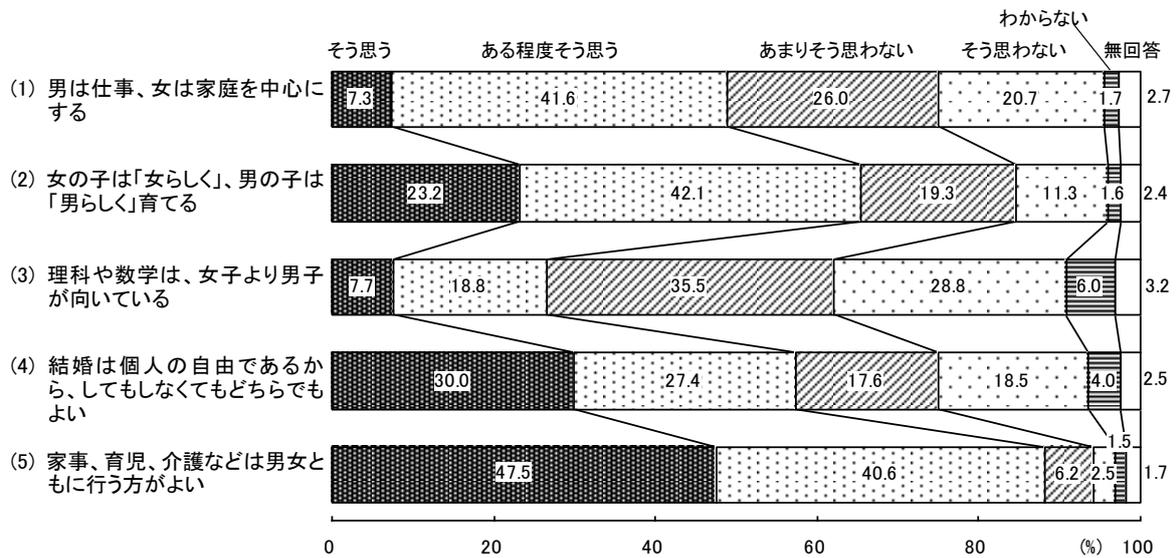
問4 今後、女性ももっと増える方がよいと思うもの

上段:実数 下段:横%	合計	大臣や閣僚	地方自治体の首長(知事、市長など)	国会議員・地方議員などの政治家	国家公務員・地方公務員の管理職	裁判官・検察官・弁護士	大学教授	企業の管理職	起業家・経営者	団体(組合・NPO・自治会等)の役員	学校長・大学学長	新聞・放送の記者	医師	科学者	その他	特にない	わからない	無回答
全体	3495 100.0	1109 31.7	1086 31.1	1269 36.3	963 27.6	992 28.4	450 12.9	1226 35.1	897 25.7	525 15.0	528 15.1	476 13.6	1438 41.1	503 14.4	64 1.8	417 11.9	239 6.8	187 5.4
女性・20歳代	168 100.0	60 35.7	50 29.8	68 40.5	38 22.6	51 30.4	15 8.9	61 36.3	45 26.8	17 10.1	27 16.1	12 7.1	75 44.6	15 8.9	3 1.8	12 7.1	9 5.4	2 1.2
女性・30歳代	321 100.0	128 39.9	111 34.6	125 38.9	97 30.2	101 31.5	38 11.8	142 44.2	94 29.3	45 14.0	52 16.2	33 10.3	153 47.7	43 13.4	4 1.2	20 6.2	23 7.2	5 1.6
女性・40歳代	339 100.0	136 40.1	130 38.3	141 41.6	107 31.6	114 33.6	45 13.3	156 46.0	102 30.1	53 15.6	62 18.3	47 13.9	140 41.3	49 14.5	6 1.8	33 9.7	26 7.7	7 2.1
女性・50歳代	314 100.0	130 41.4	106 33.8	123 39.2	102 32.5	113 36.0	45 14.3	138 43.9	74 23.6	50 15.9	55 17.5	39 12.4	146 46.5	40 12.7	2 0.6	32 10.2	23 7.3	6 1.9
女性・60歳代	393 100.0	102 26.0	122 31.0	134 34.1	102 26.0	120 30.5	50 12.7	144 36.6	100 25.4	64 16.3	56 14.2	46 11.7	171 43.5	47 12.0	4 1.0	42 10.7	23 5.9	25 6.4
女性・70歳以上	400 100.0	79 19.8	103 25.8	114 28.5	98 24.5	91 22.8	45 11.3	92 23.0	91 22.8	54 13.5	40 10.0	63 15.8	159 39.8	46 11.5	7 1.8	46 11.5	47 11.8	53 13.3
女性	1938 100.0	637 32.9	624 32.2	705 36.4	544 28.1	591 30.5	238 12.3	734 37.9	508 26.2	283 14.6	292 15.1	241 12.4	845 43.6	242 12.5	26 1.3	185 9.5	151 7.8	98 5.1
男性・20歳代	112 100.0	37 33.0	28 25.0	35 31.3	16 14.3	18 16.1	11 9.8	29 25.9	30 26.8	10 8.9	14 12.5	6 5.4	32 28.6	20 17.9	5 4.5	23 20.5	10 8.9	—
男性・30歳代	189 100.0	66 34.9	51 27.0	56 29.6	45 23.8	52 27.5	23 12.2	64 33.9	46 24.3	20 10.6	29 15.3	22 11.6	62 32.8	32 16.9	3 1.6	29 15.3	10 5.3	8 4.2
男性・40歳代	228 100.0	87 38.2	74 32.5	77 33.8	53 23.2	56 24.6	28 12.3	68 29.8	60 26.3	30 13.2	45 19.7	24 10.5	79 34.6	39 17.1	5 2.2	40 17.5	15 6.6	6 2.6
男性・50歳代	220 100.0	57 25.9	61 27.7	86 39.1	62 28.2	57 25.9	30 13.6	75 34.1	56 25.5	31 14.1	31 14.1	38 17.3	90 40.9	34 15.5	7 3.2	38 17.3	7 3.2	8 3.6
男性・60歳代	321 100.0	109 34.0	117 36.4	151 47.0	114 35.5	117 36.4	52 16.2	118 36.8	94 29.3	64 19.9	61 19.0	59 18.4	138 43.0	61 19.0	8 2.5	35 10.9	14 4.4	10 3.1
男性・70歳以上	292 100.0	72 24.7	87 29.8	109 37.3	89 30.5	63 21.6	39 13.4	88 30.1	74 25.3	51 17.5	30 10.3	57 19.5	116 39.7	47 16.1	5 1.7	40 13.7	20 6.8	21 7.2
男性	1363 100.0	428 31.4	418 30.7	514 37.7	379 27.8	363 26.6	183 13.4	442 32.4	360 26.4	206 15.1	210 15.4	206 15.1	517 37.9	233 17.1	33 2.4	205 15.0	77 5.6	53 3.9
男女差(女性-男性)		1.5	1.5	-1.3	0.3	3.9	-1.1	5.5	-0.2	-0.5	-0.3	-2.7	5.7	-4.6	-1.1	-5.5	2.2	1.2

問5 次にあげる考え方について、あなたはどのように思われますか。

(1)から(5)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA/全体:3,495



「男は仕事、女は家庭を中心にする」という考え方について、“同感する”割合が48.9%、“同感しない”割合が46.7%とおおむね二分している。

“同感する”割合が5割を超えている考え方が、「結婚は個人の自由であるからどちらでもよい」(57.4%)、「女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる」(65.3%)、「家事・育児・介護等は男女がともに行う方がよい」(88.1%)となっている。

また、「理科や数学は女子より男子が向いている」という考え方は、“同感しない”割合が64.3%となっている。

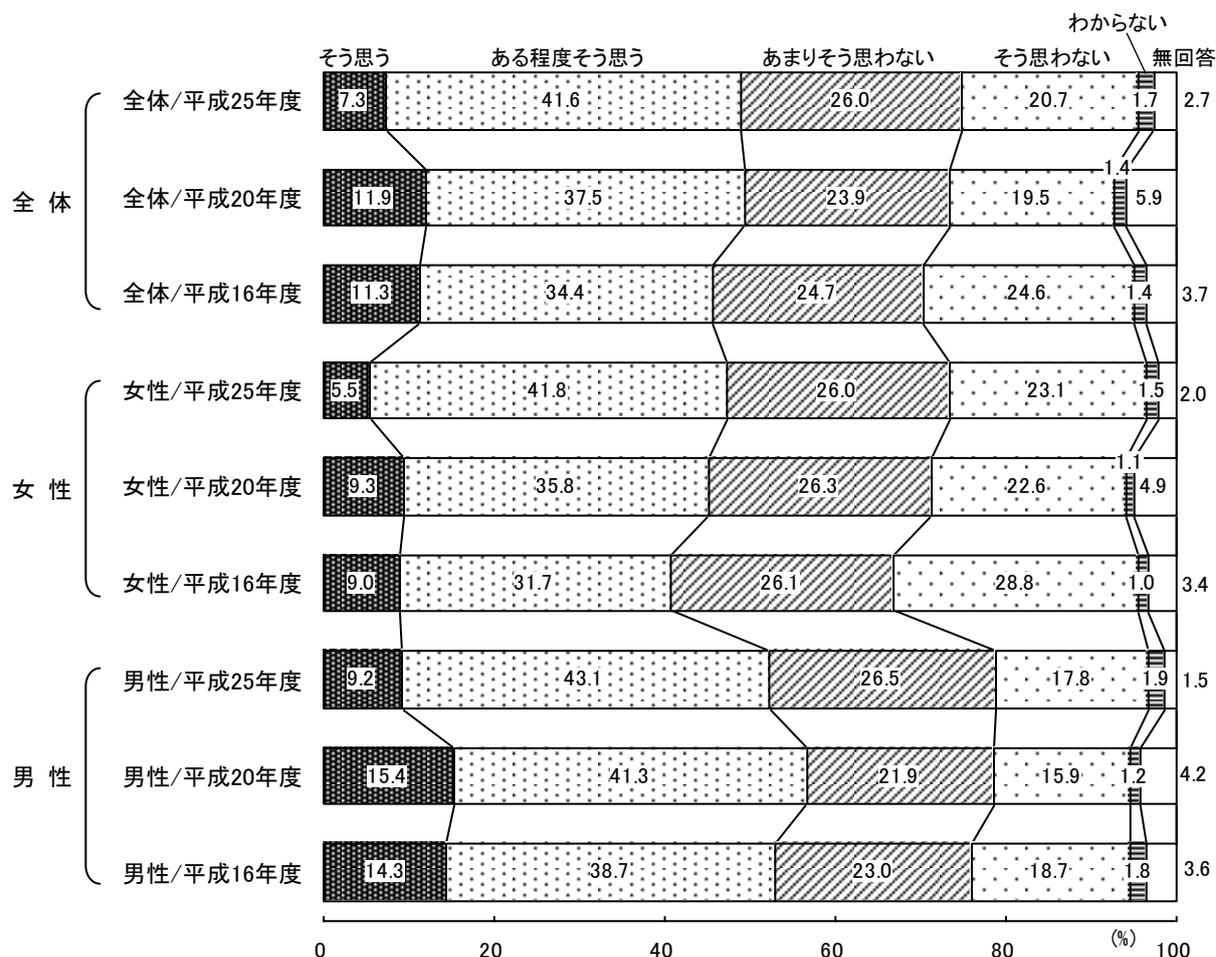
項目	“同感する”		“同感しない”
(1) 男は仕事、女は家庭を中心にする	48.9%	≒	46.7%
(4) 結婚は個人の自由であるからどちらでもよい	57.4%	>	36.1%
(2) 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる	65.3%	>	30.6%
(5) 家事、育児、介護等は男女がともに行う方がよい	88.1%	>	8.7%
(3) 理科や数学は女子より男子が向いている	26.5%	<	64.3%

※“同感する”＝「そう思う」＋「ある程度そう思う」

※“同感しない”＝「そう思わない」＋「あまりそう思わない」

(1) 男は仕事、女は家庭を中心にする

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“同感する”する割合が48.9%、“同感しない”割合が46.7%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“同感する”割合(45.7%→49.4%→48.9%)、“同感しない”割合(49.3%→43.4%→46.7%)となり、前回調査で“同感する”割合が“同感しない”割合を上回り、その状態に大きな変化はない。

女性では、“同感する”割合(40.7%→45.1%→47.3%)が増加傾向、“同感しない”割合(54.9%→48.9%→49.1%)は前回調査から大きな変化はない。

男性では、“同感する”割合(53.0%→56.7%→52.3%)が平成16年度から平成20年度で増加、平成20年度から平成25年度で減少し、“同感しない”割合(41.7%→37.8%→44.3%)は前回調査から増加している。

[性別]

女性は、“同感する”割合は47.3%、“同感しない”割合は49.1%となっている。

男性は、“同感する”割合が52.3%、“同感しない”割合44.3%を上回っている。

[性別・年代別]

女性では、70歳以上を除き、“同感しない”割合が高くなっており、そのなかでも女性40歳代(59.0%)では、他の年代より高くなっている。

男性では、60歳代、70歳以上を除き、“同感しない”割合が高く、男性20歳代(59.8%)では約6割となり、他の年代より高くなっている。

なお、女性70歳以上(56.3%)、男性60歳代(56.7%)、男性70歳(65.8%)は、“同感する”割合が過半数となっている。

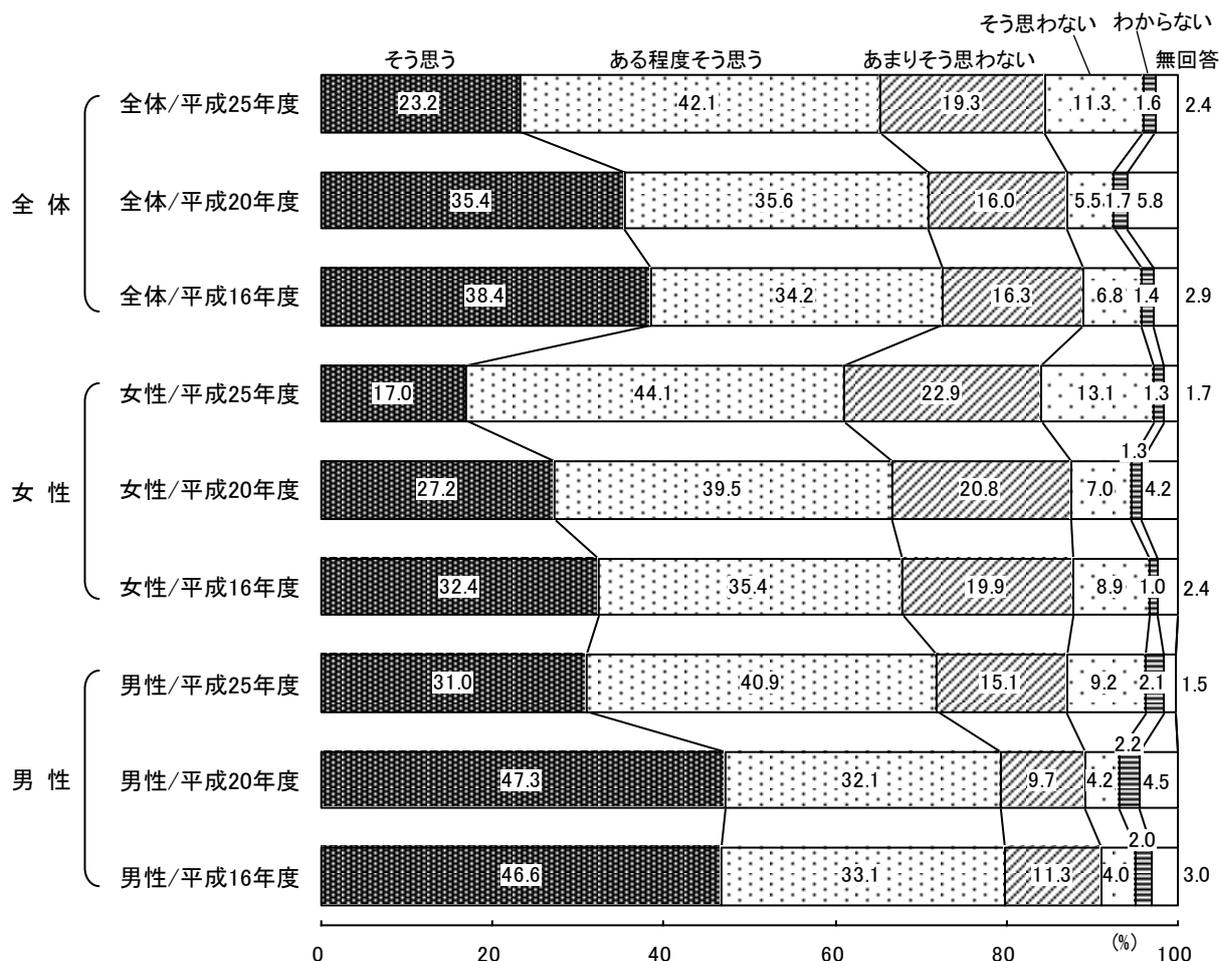
“同感しない”割合は、女性40歳代及び男性20歳代が高くなっている。

問5(1)男は仕事、女は家庭を中心にする

上段:実数 下段:横%	合計	そう思う	ある程度 そう思う	“同感 する”	“同感 しない”	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	わからな い	無回答
全体	3495 100.0	256 7.3	1454 41.6	1710 48.9	1632 46.7	910 26.0	722 20.7	59 1.7	94 2.7
女性・20歳代	168 100.0	3 1.8	77 45.8	80 47.6	86 51.2	42 25.0	44 26.2	2 1.2	—
女性・30歳代	321 100.0	15 4.7	136 42.4	151 47.1	163 50.8	80 24.9	83 25.9	6 1.9	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	6 1.8	127 37.5	133 39.3	200 59.0	109 32.2	91 26.8	4 1.2	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	14 4.5	126 40.1	140 44.6	169 53.8	81 25.8	88 28.0	5 1.6	—
女性・60歳代	393 100.0	29 7.4	157 39.9	186 47.3	198 50.4	114 29.0	84 21.4	5 1.3	4 1.0
女性・70歳以上	400 100.0	39 9.8	186 46.5	225 56.3	135 33.8	77 19.3	58 14.5	8 2.0	32 8.0
女性	1938 100.0	107 5.5	810 41.8	917 47.3	952 49.1	504 26.0	448 23.1	30 1.5	39 2.0
男性・20歳代	112 100.0	14 12.5	30 26.8	44 39.3	67 59.8	40 35.7	27 24.1	1 0.9	—
男性・30歳代	189 100.0	14 7.4	77 40.7	91 48.1	95 50.3	61 32.3	34 18.0	3 1.6	—
男性・40歳代	228 100.0	8 3.5	95 41.7	103 45.2	115 50.4	68 29.8	47 20.6	7 3.1	3 1.3
男性・50歳代	220 100.0	15 6.8	86 39.1	101 45.9	112 50.9	60 27.3	52 23.6	5 2.3	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	30 9.3	152 47.4	182 56.7	133 41.4	78 24.3	55 17.1	4 1.2	2 0.6
男性・70歳以上	292 100.0	44 15.1	148 50.7	192 65.8	81 27.7	54 18.5	27 9.2	5 1.7	14 4.8
男性	1363 100.0	125 9.2	588 43.1	713 52.3	603 44.3	361 26.5	242 17.8	26 1.9	21 1.5
男女差(女性-男性)		-3.7	-1.3	-5.0	4.8	-0.5	5.3	-0.4	0.5

(2)女の子は女らしく、男の子は男らしく育てる

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“同感する”割合が65.3%となり、“同感しない”割合30.6%を上回っている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“同感する”割合(72.6%→71.0%→65.3%)が前回調査から減少、“同感しない”割合(23.1%→21.5%→30.6%)が前回調査から増加傾向となっている。

女性では、“同感する”割合(67.8%→66.7%→61.1%)が前回調査から減少、“同感しない”割合(28.8%→27.8%→36.0%)が前回調査から増加している。

男性では、“同感する”割合(79.7%→79.4%→71.9%)が前回調査から減少、“同感しない”割合(15.3%→13.9%→24.3%)が前回調査から増加している。

なお、「そう思う」とする割合(46.6%→47.3%→31.0%)が、前回調査より減少している。

[性別]

男女とも、“同感する”割合(女性61.1%、男性71.9%)が6割を超えている。

なお、“同感しない”割合が11.7ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

一方、「そう思う」とする割合が14.0ポイント、女性より男性の方が高くなっている。

[性別・年代別]

女性では、20歳代を除き、“同感する”割合が過半数となり、その中でも60歳代で64.4%、70歳以上で70.8%と他の年代に比べて高くなっている。

なお、女性20歳代は、“同感しない”割合が55.3%となっている。

男性では、全世代において、“同感する”割合が過半数となり、男性60歳代で76.7%、70歳以上で79.1%となっている。

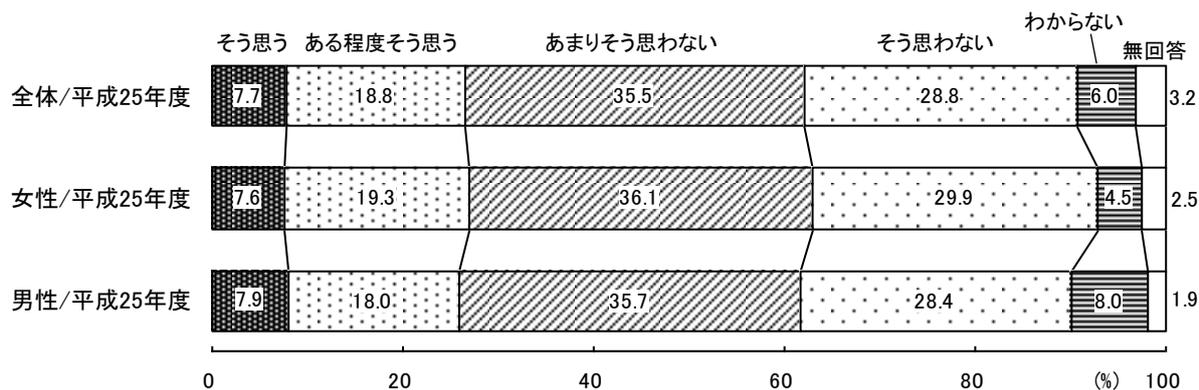
なお、20歳代では、59.8%と低くなっている。

問5(2)女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる

上段:実数 下段:横%	合計	そう思う	ある程度 そう思う	“同感 する”	“同感 しない”	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	わからな い	無回答
全体	3495 100.0	812 23.2	1471 42.1	2283 65.3	1071 30.6	676 19.3	395 11.3	56 1.6	85 2.4
女性・20歳代	168 100.0	14 8.3	59 35.1	73 43.4	93 55.3	55 32.7	38 22.6	2 1.2	—
女性・30歳代	321 100.0	42 13.1	149 46.4	191 59.5	126 39.3	77 24.0	49 15.3	3 0.9	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	37 10.9	163 48.1	200 59.0	132 38.9	80 23.6	52 15.3	6 1.8	1 0.3
女性・50歳代	314 100.0	40 12.7	143 45.5	183 58.2	125 39.8	77 24.5	48 15.3	4 1.3	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	70 17.8	183 46.6	253 64.4	130 33.0	89 22.6	41 10.4	5 1.3	5 1.3
女性・70歳以上	400 100.0	125 31.3	157 39.3	282 70.6	89 22.3	64 16.0	25 6.3	5 1.3	24 6.0
女性	1938 100.0	329 17.0	855 44.1	1184 61.1	696 36.0	443 22.9	253 13.1	25 1.3	33 1.7
男性・20歳代	112 100.0	24 21.4	43 38.4	67 59.8	42 37.5	28 25.0	14 12.5	3 2.7	—
男性・30歳代	189 100.0	48 25.4	77 40.7	125 66.1	60 31.7	38 20.1	22 11.6	4 2.1	—
男性・40歳代	228 100.0	59 25.9	106 46.5	165 72.4	55 24.1	37 16.2	18 7.9	6 2.6	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	64 29.1	83 37.7	147 66.8	63 28.7	34 15.5	29 13.2	7 3.2	3 1.4
男性・60歳代	321 100.0	101 31.5	145 45.2	246 76.7	71 22.1	43 13.4	28 8.7	3 0.9	1 0.3
男性・70歳以上	292 100.0	127 43.5	104 35.6	231 79.1	41 14.0	26 8.9	15 5.1	5 1.7	15 5.1
男性	1363 100.0	423 31.0	558 40.9	981 71.9	332 24.3	206 15.1	126 9.2	29 2.1	21 1.5
男女差(女性-男性)		-14.0	3.2	-10.8	11.7	7.8	3.9	-0.8	0.2

(3) 理科や数学は女子より男子が向いている

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“同感しない”割合が 64.3%となり、“同感する”割合 26.5%を上回っている。

[性別]

男女ともに、“同感しない”割合(女性 66.0%、男性と 64.1%)が 6 割を超え、“同感する”割合(女性 26.9%、男性 25.9%)を上回っている。

男女により、大きな差は見られない。

[性別・年代別]

男女とも、“同感しない”割合が、5 割を超えているが、70 歳以上では、女性 51.0%、男性 51.7%で低い数値となっている。

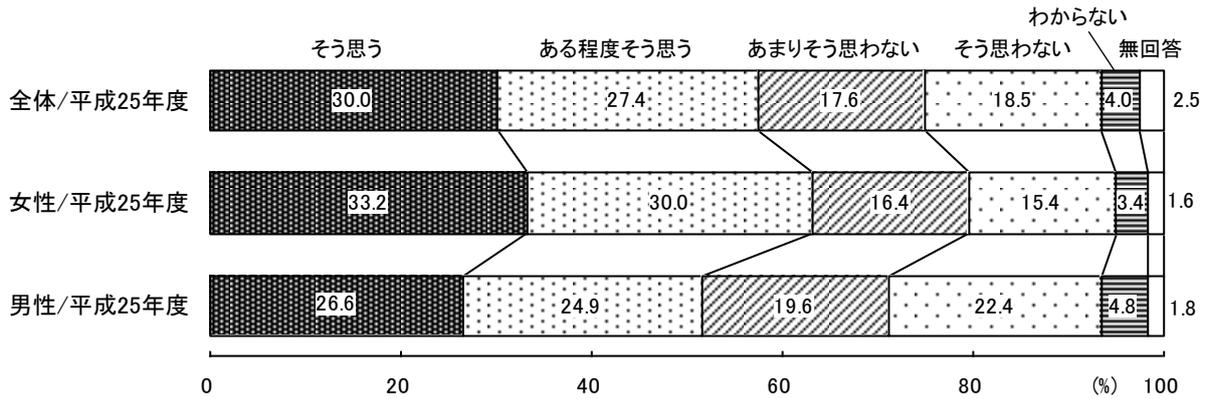
また、女性 20 歳代では、“同感しない”割合(77.3%)、「そう思わない」とする割合(45.8%)がともに高くなっている。

問5(3)理科や数学は、女子より男子が向いている

上段:実数 下段:横%	合計	そう思う	ある程度 そう思う	“同感 する”	“同感 しない”	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	わからな い	無回答
全体	3495 100.0	268 7.7	657 18.8	925 26.5	2247 64.3	1242 35.5	1005 28.8	210 6.0	113 3.2
女性・20歳代	168 100.0	5 3.0	26 15.5	31 18.5	130 77.3	53 31.5	77 45.8	7 4.2	—
女性・30歳代	321 100.0	23 7.2	62 19.3	85 26.5	226 70.4	118 36.8	108 33.6	9 2.8	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	13 3.8	79 23.3	92 27.1	226 69.6	124 36.6	112 33.0	10 2.9	1 0.3
女性・50歳代	314 100.0	22 7.0	59 18.8	81 25.8	222 70.7	122 38.9	100 31.8	9 2.9	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	28 7.1	80 20.4	108 27.5	259 65.9	153 38.9	106 27.0	20 5.1	6 1.5
女性・70歳以上	400 100.0	56 14.0	68 17.0	124 31.0	204 51.0	130 32.5	74 18.5	33 8.3	39 9.8
女性	1938 100.0	148 7.6	374 19.3	522 26.9	1279 66.0	700 36.1	579 29.9	88 4.5	49 2.5
男性・20歳代	112 100.0	10 8.9	20 17.9	30 26.8	70 62.5	37 33.0	33 29.5	11 9.8	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	12 6.3	31 16.4	43 22.7	137 72.5	78 41.3	59 31.2	9 4.8	—
男性・40歳代	228 100.0	10 4.4	40 17.5	50 21.9	159 69.7	84 36.8	75 32.9	17 7.5	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	18 8.2	36 16.4	54 24.6	151 68.7	80 36.4	71 32.3	12 5.5	3 1.4
男性・60歳代	321 100.0	34 10.6	55 17.1	89 27.7	206 64.2	121 37.7	85 26.5	25 7.8	1 0.3
男性・70歳以上	292 100.0	24 8.2	64 21.9	88 30.1	151 51.7	87 29.8	64 21.9	34 11.6	19 6.5
男性	1363 100.0	108 7.9	246 18.0	354 25.9	874 64.1	487 35.7	387 28.4	109 8.0	26 1.9
男女差(女性-男性)		-0.3	1.3	1.0	1.9	0.4	1.5	-3.5	0.6

(4)結婚は個人の自由であるから、どちらでもよい

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“同感する”割合 57.4%となり、“同感しない”割合 36.1%となっている。

[性別]

男女とも、“同感する”割合が女性 63.2%、男性 51.5%となり、男性より女性の方が、11.7ポイント高くなっている。

また、「そう思う」とする割合(女性 33.2%、男性 26.6%)では、男性より女性の方が 6.6ポイント高くなっている。

一方、「そう思わない」とする割合(女性 15.4%、男性 22.4%)は、女性より男性の方が 7.0ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

女性では、70歳以上を除く世代で、“同感する”割合が5割を超え、20歳代(79.8%)、30歳代(73.5%)、40歳代(74.3%)では7割を超え他の年代より高く、その中でも、20歳代は特に高くなっている。

また、女性20歳代でのみ、「そう思う」とする割合が51.2%となっている。

女性70歳以上では、“同感する”割合45.8%と“同感しない”割合43.0%が二分している。

男性では、60歳代と70歳以上を除く世代で、“同感する”割合が5割を超え、なかでも、20歳代では73.2%と高くなっている。

なお、男性60歳代(51.1%)と70歳以上(54.5%)は、“同感しない”割合が高くなっている。

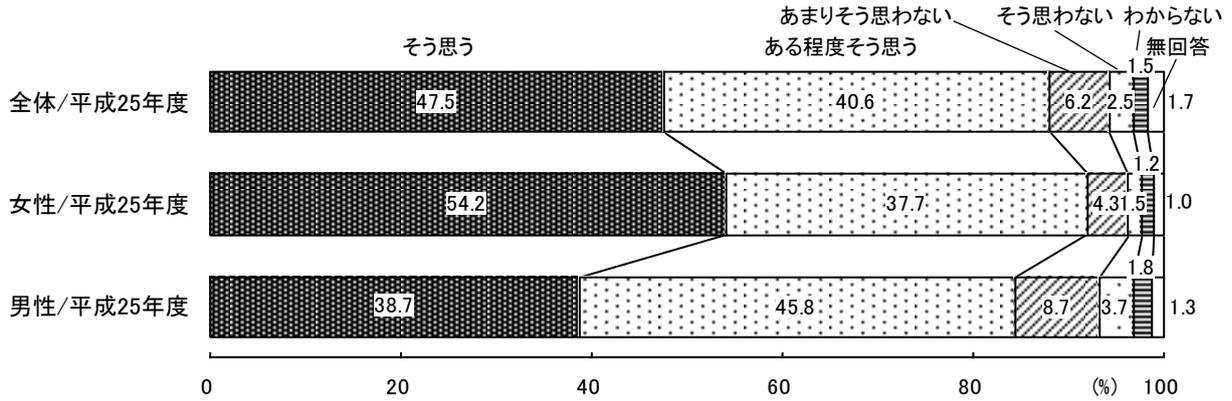
問5(4)結婚は個人の自由であるからどちらでもよい

上段:実数 下段:横%	合計	そう思う	ある程度 そう思う	“同感 する”	“同感 しない”	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	わからな い	無回答
全体	3495 100.0	1049 30.0	959 27.4	2008 57.4	1260 36.1	615 17.6	645 18.5	141 4.0	86 2.5
女性・20歳代	168 100.0	86 51.2	48 28.6	134 79.8	26 15.4	14 8.3	12 7.1	8 4.8	— —
女性・30歳代	321 100.0	120 37.4	116 36.1	236 73.5	79 24.6	47 14.6	32 10.0	5 1.6	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	132 38.9	120 35.4	252 74.3	79 23.3	47 13.9	32 9.4	6 1.8	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	104 33.1	99 31.5	203 64.6	101 32.2	57 18.2	44 14.0	9 2.9	1 0.3
女性・60歳代	393 100.0	100 25.4	115 29.3	215 54.7	160 40.7	77 19.6	83 21.1	14 3.6	4 1.0
女性・70歳以上	400 100.0	101 25.3	82 20.5	183 45.8	172 43.0	76 19.0	96 24.0	23 5.8	22 5.5
女性	1938 100.0	644 33.2	581 30.0	1225 63.2	617 31.8	318 16.4	299 15.4	65 3.4	31 1.6
男性・20歳代	112 100.0	52 46.4	30 26.8	82 73.2	28 25.0	11 9.8	17 15.2	2 1.8	— —
男性・30歳代	189 100.0	77 40.7	49 25.9	126 66.6	53 28.0	31 16.4	22 11.6	10 5.3	— —
男性・40歳代	228 100.0	76 33.3	63 27.6	139 60.9	73 32.1	38 16.7	35 15.4	13 5.7	3 1.3
男性・50歳代	220 100.0	58 26.4	54 24.5	112 50.9	95 43.2	48 21.8	47 21.4	11 5.0	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	66 20.6	81 25.2	147 45.8	164 51.1	78 24.3	86 26.8	8 2.5	2 0.6
男性・70歳以上	292 100.0	33 11.3	62 21.2	95 32.5	159 54.5	61 20.9	98 33.6	21 7.2	17 5.8
男性	1363 100.0	362 26.6	339 24.9	701 51.5	572 42.0	267 19.6	305 22.4	66 4.8	24 1.8

男女差(女性-男性)      6.6      5.1      11.7      -10.2      -3.2      -7.0      -1.4      -0.2

(5) 家事、育児、介護等は男女がともに行う方がよい

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“同感する”割合が 88.1%と約 9 割となり、“同感しない”割合 8.7%を上回っている。

[性別]

男女とも、“同感する”割合(女性 91.9%、男性 84.5%)が 8 割を超え、“同感しない”割合(女性 5.8%、男性 12.4%)を上回っている。

“同感する”割合では、男性より女性の方が 7.4 ポイント高く、“同感しない”割合では、女性より男性の方が 6.6 ポイント高くなっている。

また、女性では、「そう思う」とする割合が、54.2%となり、男性より 15.5 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女とも、全世代において、“同感する”割合が 8 割を超えている。

また、女性では、60 歳代、70 歳以上を除く年代で、「そう思う」とする割合が 5 割を超え、なかでも、20 歳代、30 歳代では 67.9%、68.2%となり、他の年代より高くなり、若い年代ほど高い傾向となっている。

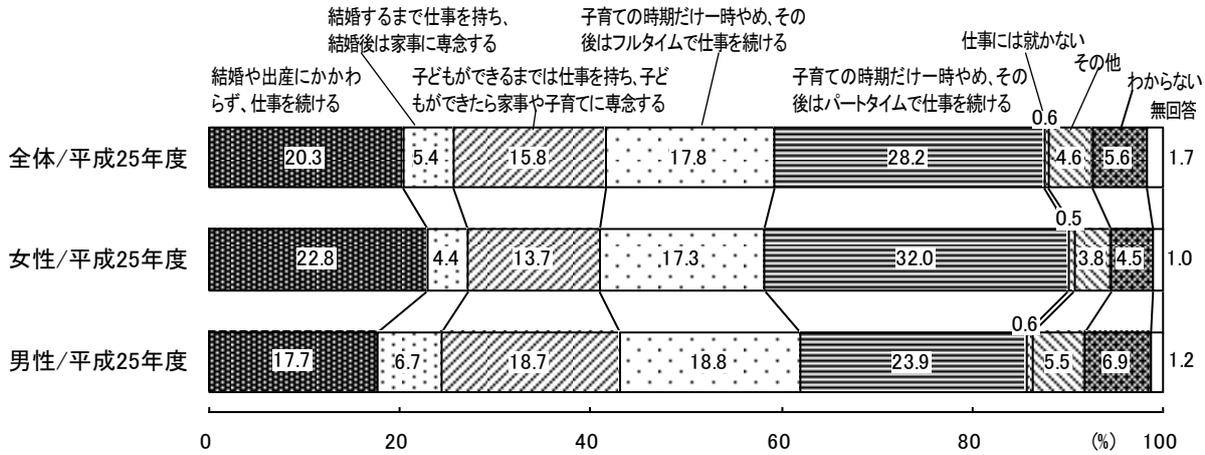
男性では 20 歳代のみ、「そう思う」とする割合が 53.6%となり、若い年代ほど高い傾向となっている。

問5(5) 家事、育児、介護などは男女がともに行う方がよい

上段:実数 下段:横%	合計	そう思う	ある程度 そう思う	“同感 する”	“同感 しない”	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	わからな い	無回答
全体	3495	1659	1420	3079	304	215	89	53	59
	100.0	47.5	40.6	88.1	8.7	6.2	2.5	1.5	1.7
女性・20歳代	168	114	41	155	11	5	6	2	—
	100.0	67.9	24.4	92.3	6.6	3.0	3.6	1.2	—
女性・30歳代	321	219	89	308	10	8	2	2	1
	100.0	68.2	27.7	95.9	3.1	2.5	0.6	0.6	0.3
女性・40歳代	339	182	135	317	19	17	2	2	1
	100.0	53.7	39.8	93.5	5.6	5.0	0.6	0.6	0.3
女性・50歳代	314	183	114	297	12	10	2	4	1
	100.0	58.3	36.3	94.6	3.8	3.2	0.6	1.3	0.3
女性・60歳代	393	182	173	355	31	22	9	5	2
	100.0	46.3	44.0	90.3	7.9	5.6	2.3	1.3	0.5
女性・70歳以上	400	170	177	347	30	21	9	9	14
	100.0	42.5	44.3	86.8	7.6	5.3	2.3	2.3	3.5
女性	1938	1051	731	1782	113	83	30	24	19
	100.0	54.2	37.7	91.9	5.8	4.3	1.5	1.2	1.0
男性・20歳代	112	60	41	101	9	5	4	2	—
	100.0	53.6	36.6	90.2	8.1	4.5	3.6	1.8	—
男性・30歳代	189	84	85	169	17	11	6	3	—
	100.0	44.4	45.0	89.4	9.0	5.8	3.2	1.6	—
男性・40歳代	228	110	89	199	24	17	7	3	2
	100.0	48.2	39.0	87.2	10.6	7.5	3.1	1.3	0.9
男性・50歳代	220	81	104	185	28	20	8	5	2
	100.0	36.8	47.3	84.1	12.7	9.1	3.6	2.3	0.9
男性・60歳代	321	113	150	263	54	41	13	3	1
	100.0	35.2	46.7	81.9	16.8	12.8	4.0	0.9	0.3
男性・70歳以上	292	79	155	234	38	25	13	7	13
	100.0	27.1	53.1	80.2	13.1	8.6	4.5	2.4	4.5
男性	1363	527	624	1151	170	119	51	24	18
	100.0	38.7	45.8	84.5	12.4	8.7	3.7	1.8	1.3
男女差(女性-男性)		15.5	-8.1	7.4	-6.6	-4.4	-2.2	-0.6	-0.3

問6 「女性の働き方」について、あなたの考え方を伺います。(〇はひとつ)

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とする割合(28.2%)が最も高く、次いで、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」20.3%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」17.8%となっている。

[性別]

男女とも、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とする割合(女性 32.0%、男性 23.9%)が最も高くなっている。

次いで、女性では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」22.8%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」17.3%と続いている。

男性では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」23.9%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」18.8%、「子どもができるまでは仕事を持ち、子どもができたらか家事や子育てに専念する」18.7%と続いている。

なお、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とする割合で 8.1 ポイント、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」とする割合では、5.1 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

一方、「子どもができるまでは仕事を持ち、子どもができたらか家事や子育てに専念する」とする割合では、5.0 ポイント、女性より男性の方が高くなっている。

なお、男女とも「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する」および「仕事には就かない」とする割合は、男女とも 1 割を下回っている。

[性別・年代別]

女性では、40 歳代を除く世代で、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とする割合(26.5~37.5%)が最も高くなっている。

女性 40 歳代は、「結婚や仕事にかかわらず仕事を続ける」が最も高く 32.2%となっている。

また、女性では 20 歳代、30 歳代、50 歳代では、「結婚や仕事にかかわらず仕事を続ける」とする割合(22.0%、29.3%、23.9%)が 2 番目に高く、女性 20 歳代から 50 歳代において、高くなっている。

男性では、50 歳代、70 歳以上を除く世代で、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とする割合が最も高くなっている。

男性 50 歳代は、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」とする割合(24.1%)

が最も高く、男性 70 歳以上では、「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」(27.7%)が最も高くなっている。

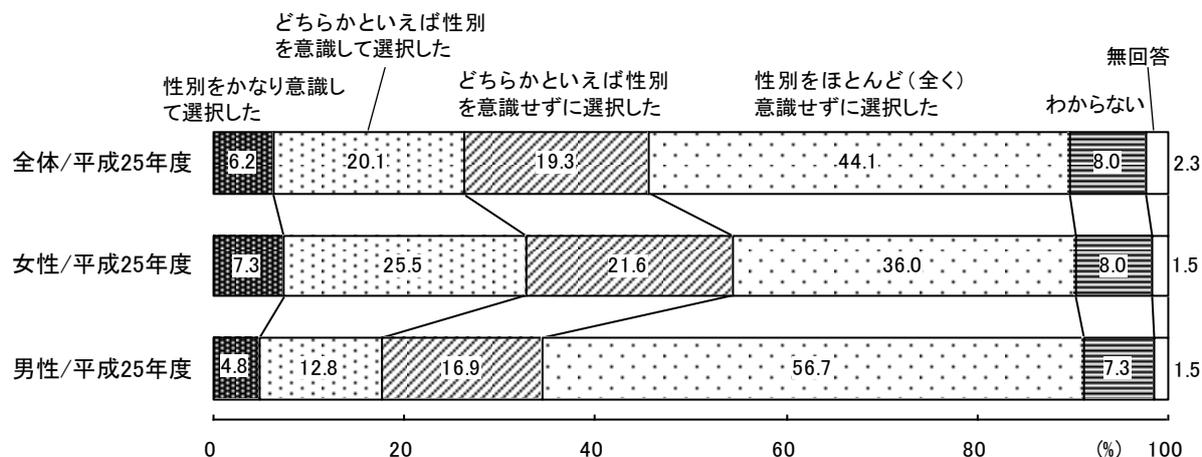
「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」とする割合が、女性30歳代、40歳代で、「子育て時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とする割合が、女性 20 歳代、30 歳代で高くなっている。

問6 「女性の働き方」についての考え方

上段:実数 下段:横%	合計	結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する	子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	仕事には就かない	その他	わからない	無回答
全体	3495 100.0	711 20.3	188 5.4	551 15.8	621 17.8	987 28.2	21 0.6	160 4.6	196 5.6	60 1.7
女性・20歳代	168 100.0	37 22.0	12 7.1	19 11.3	19 11.3	63 37.5	1 0.6	6 3.6	10 6.0	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	94 29.3	8 2.5	33 10.3	42 13.1	118 36.8	3 0.9	15 4.7	7 2.2	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	109 32.2	8 2.4	23 6.8	62 18.3	98 28.9	1 0.3	18 5.3	18 5.3	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	75 23.9	14 4.5	32 10.2	64 20.4	99 31.5	1 0.3	13 4.1	14 4.5	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	66 16.8	21 5.3	67 17.0	71 18.1	135 34.4	2 0.5	12 3.1	17 4.3	2 0.5
女性・70歳以上	400 100.0	60 15.0	21 5.3	91 22.8	78 19.5	106 26.5	1 0.3	9 2.3	22 5.5	12 3.0
女性	1938 100.0	442 22.8	85 4.4	265 13.7	336 17.3	620 32.0	9 0.5	73 3.8	88 4.5	20 1.0
男性・20歳代	112 100.0	19 17.0	9 8.0	15 13.4	21 18.8	28 25.0	2 1.8	10 8.9	7 6.3	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	36 19.0	8 4.2	17 9.0	44 23.3	51 27.0	2 1.1	18 9.5	13 6.9	—
男性・40歳代	228 100.0	50 21.9	8 3.5	45 19.7	33 14.5	53 23.2	—	14 6.1	23 10.1	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	52 23.6	9 4.1	31 14.1	53 24.1	47 21.4	1 0.5	11 5.0	13 5.9	3 1.4
男性・60歳代	321 100.0	55 17.1	22 6.9	66 20.6	58 18.1	82 25.5	3 0.9	16 5.0	16 5.0	3 0.9
男性・70歳以上	292 100.0	29 9.9	35 12.0	81 27.7	47 16.1	65 22.3	—	6 2.1	21 7.2	8 2.7
男性	1363 100.0	241 17.7	91 6.7	255 18.7	256 18.8	326 23.9	8 0.6	75 5.5	94 6.9	17 1.2
男女差(女性-男性)		5.1	-2.3	-5.0	-1.5	8.1	-0.1	-1.7	-2.4	-0.2

問7 あなたは進路や職業を選択する際に性別を意識しましたか。(〇はひとつ)

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性1,363



[全体]

“意識した”割合が63.4%となり、“意識しなかった”割合26.3%を上回っている。

[性別]

男女とも、“意識した”割合(女性32.8%、男性17.6%)が、“意識しなかった”割合(女性57.6%、男性73.6%)を上回っている。

なお、男性では、「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」とする割合が56.7%となり、女性より20.7ポイント高くなっている。

一方、「どちらかといえば性別を意識して選択した」とする割合(女性25.5%、男性12.8%)では、男性より女性の方が12.7ポイント高くなっている。

※“意識した”＝「性別をかなり意識して選択した」＋「どちらかといえば性別を意識して選択した」

※“意識しなかった”＝「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」＋「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」

[性別・年代別]

女性では、70歳以上を除く世代において、“意識しなかった”割合が5割を超え、20歳代(67.2%)、30歳代(71.0%)では7割前後を示し、若い年代ほど高くなっている。

なお、女性では20歳代のみ、「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」とする割合(56.5%)が5割を超えている。

女性40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では、“意識した”割合が3割を超え、なかでも、女性50歳代は39.5%と高くなっている。

男性では、すべての年代で“意識しなかった”割合が5割を超え、20歳代(83.9%)、30歳代(84.1%)では若い年代ほど高くなっている。

また、「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」とする割合が、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代で、それぞれ70.5%、68.8%、66.7%、62.7%となっている。

”意識した”割合が、男性60歳代(22.4%)、70歳以上(26.7%)では2割強を示し、他の年代に比べて高くなっている。

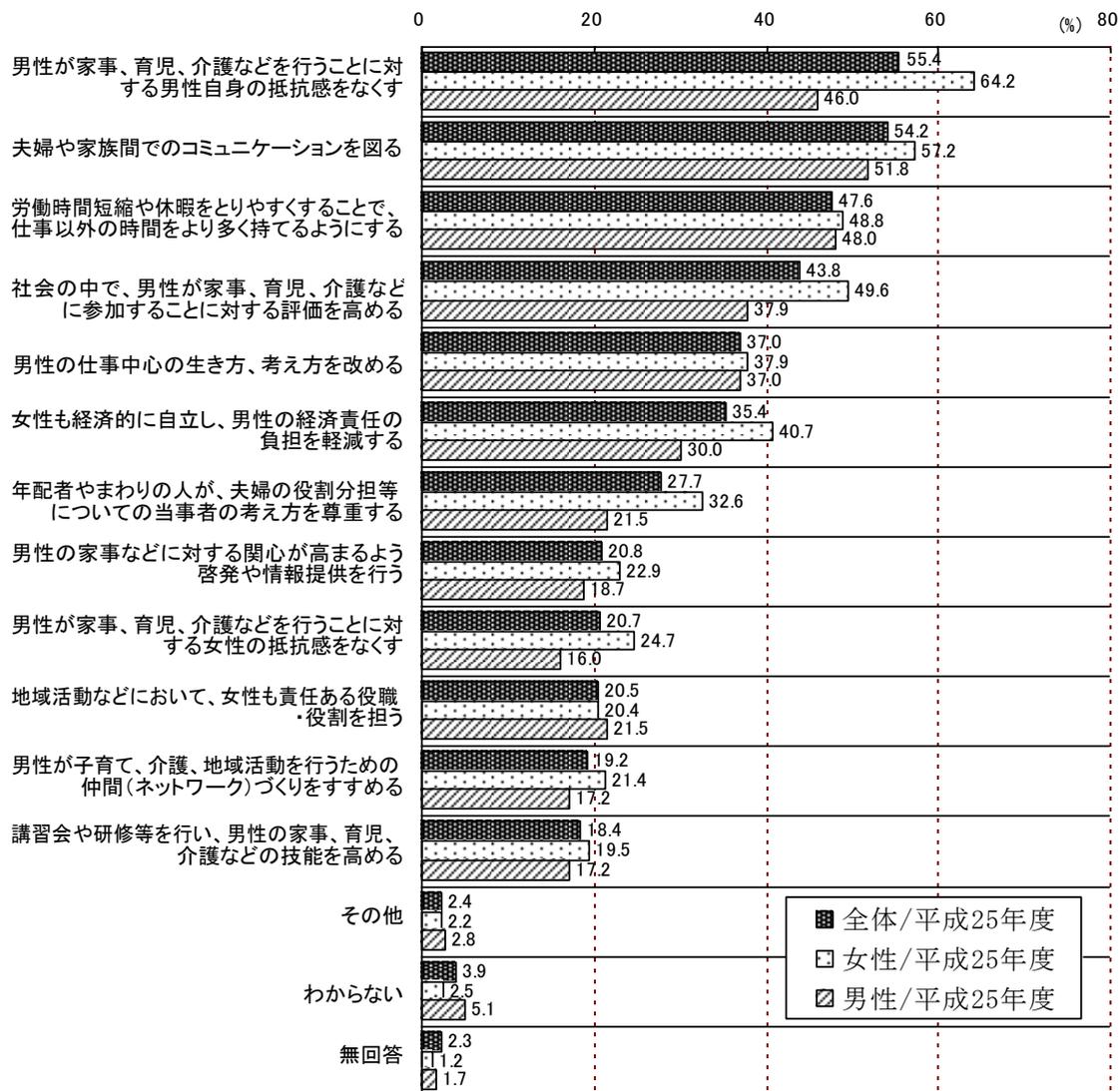
問7 進路や職業を選択する際に性別を意識したか

	合計	性別をかなり意識して選択した	どちらかといえば性別を意 識して選 択した	“意識 した”	“意識し な かった”	どちらか といえ ば性別を 意識し ずに選 択した	性別をほ んど全 く意識 せず に選 択した	5. わから ない	無回答
全体	3495 100.0	215 6.2	701 20.1	916 26.3	2217 63.4	676 19.3	1541 44.1	281 8.0	81 2.3
女性・20歳代	168 100.0	6 3.6	38 22.6	44 26.2	113 67.2	18 10.7	95 56.5	10 6.0	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	17 5.3	67 20.9	84 26.2	228 71.0	80 24.9	148 46.1	8 2.5	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	29 8.6	77 22.7	106 31.3	223 65.7	93 27.4	130 38.3	9 2.7	1 0.3
女性・50歳代	314 100.0	23 7.3	101 32.2	124 39.5	168 53.5	64 20.4	104 33.1	21 6.7	1 0.3
女性・60歳代	393 100.0	30 7.6	109 27.7	139 35.3	204 51.9	86 21.9	118 30.0	45 11.5	5 1.3
女性・70歳以上	400 100.0	37 9.3	101 25.3	138 34.6	178 44.5	76 19.0	102 25.5	63 15.8	21 5.3
女性	1938 100.0	142 7.3	494 25.5	636 32.8	1116 57.6	418 21.6	698 36.0	156 8.0	30 1.5
男性・20歳代	112 100.0	6 5.4	8 7.1	14 12.5	94 83.9	15 13.4	79 70.5	3 2.7	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	5 2.6	20 10.6	25 13.2	159 84.1	29 15.3	130 68.8	5 2.6	—
男性・40歳代	228 100.0	3 1.3	19 8.3	22 9.6	184 80.7	32 14.0	152 66.7	20 8.8	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	7 3.2	22 10.0	29 13.2	176 80.0	38 17.3	138 62.7	13 5.9	2 0.9
男性・60歳代	321 100.0	21 6.5	51 15.9	72 22.4	223 69.5	70 21.8	153 47.7	24 7.5	2 0.6
男性・70歳以上	292 100.0	23 7.9	55 18.8	78 26.7	167 57.2	46 15.8	121 41.4	33 11.3	14 4.8
男性	1363 100.0	65 4.8	175 12.8	240 17.6	1003 73.6	230 16.9	773 56.7	99 7.3	21 1.5

男女差(女性-男性)            2.5      12.7      15.2      -16.0      4.7      -20.7      0.7      0.0

**問8 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○を)**

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性1,363



**[全体]**

「男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」とする割合(55.4%)が最も高く、次いで、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」(54.2%)、「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(47.6%)と続き、上位3位となっている。

以下、「社会の中で、男性が家事、育児、介護などに参加することに対する評価を高める」とする割合(43.8%)、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」とする割合(37.0%)が続いている。(複数回答、上位5位)

**[性別]**

女性では、「男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」とする割合(64.2%)が最も高く、次いで、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」とする割合(57.2%)、「社会の中で、男性が家事、育児、介護などに参加することに対する評価を高める」とする割合(49.6%)となっている。

それに続く項目が、「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」48.8%、「女性も経済的に自立し、男性の経済責任の負担を軽減する」40.7%となっている。(複数回答、

上位 5 位)

男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」とする割合 (51.8%) が最も高く、「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」48.0%、「男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」46.0%が上位 3 位となっている。

それに続く項目が、「社会の中で、男性が家事、育児、介護などに参加することに対する評価を高める」37.9%、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」37.0%となっている。(複数回答、上位 5 位)

なお、次の回答では、男性より女性の方が、割合が高くなっている。

「男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」(女性 64.2% > 男性 46.0%)…18.2 ポイント

「社会の中で、男性が家事、育児、介護などに参加することに対する評価を高める」(女性 49.6% > 男性 37.9%)…11.7 ポイント

「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考えを尊重する」(女性 32.6% > 男性 21.5%)…11.1 ポイント

「女性も経済的に自立し、男性の経済責任の負担を軽減する」(女性 40.7% > 男性 30.0%)…10.7 ポイント

【性別・年代別】

女性では、20 歳代は「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(72.0%)が、30 歳代・40 歳代・50 歳代までは「男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」(68.5%、72.0%、72.3%)、60 歳代、70 歳以上では、「夫婦や家族の間でのコミュニケーションを図る」(58.3%、58.5%)が最も高くなっている。

男性では、20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上は「夫婦や家族の間でのコミュニケーションを図る」(61.6%、50.5%、50.2%、55.1%)が、30 歳代・40 歳代・50 歳代は「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(61.4%、59.6%、50.5%)が最も高くなっている。

なお、男性 50 歳代は、「夫婦や家族の間でのコミュニケーションを図る」と「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が同じ割合となっている。

また、女性では、「労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」とする割合が 20 歳代で、「男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」とする割合が 30 歳代から 50 歳代で、「夫婦や家族の間でのコミュニケーションを図る」とする割合が高くなっている。

男性では、「夫婦や家族の間でのコミュニケーションを図る」とする割合が 20 歳代で、「労働時間短縮や休

暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」とする割合が 30 歳代・40 歳代で、また、「社会の中で、男性が家事、育児、介護などに参加することに対する評価を高める」とする割合が 30 歳代で高くなっている。

問8 今後、男性がともに家事などに参加するために必要なこと

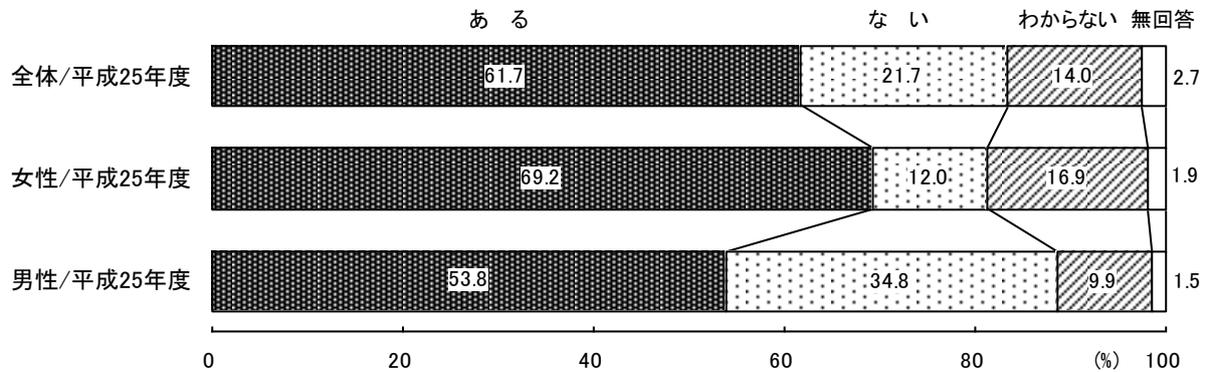
	合計	男性が家事、育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事、育児、介護などを行うことに対する女性の抵抗感をなくす	男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	労働時間短縮や休暇をとりやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考えを尊重する	社会の中で、男性が家事、育児、介護などに参加することに対する評価を高める	講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護などのスキルを高める	男性の家事などに関する啓発や情報提供を行う	男性が子育て、介護、地域活動などに参加するための仲間(ネットワーク)づくりをする	女性も経済的に自立し、男性の経済責任の負担を軽減する	地域活動などにおいて、女性も役割・役割を担う	その他	わからない	無回答
全体	3495	1935	722	1293	1665	1894	968	1531	642	726	671	1237	715	83	137	82
	100.0	55.4	20.7	37.0	47.6	54.2	27.7	43.8	18.4	20.8	19.2	35.4	20.5	2.4	3.9	2.3
女性・20歳代	168	112	30	54	121	108	57	90	22	37	38	70	27	7	2	—
	100.0	66.7	17.9	32.1	72.0	64.3	33.9	53.6	13.1	22.0	22.6	41.7	16.1	4.2	1.2	—
女性・30歳代	321	220	65	138	205	188	99	184	38	75	68	133	43	10	2	2
	100.0	68.5	20.2	43.0	63.9	58.6	30.8	57.3	11.8	23.4	21.2	41.4	13.4	3.1	0.6	0.6
女性・40歳代	339	244	90	137	180	178	107	183	55	77	71	145	61	6	4	1
	100.0	72.0	26.5	40.4	53.1	52.5	31.6	54.0	16.2	22.7	20.9	42.8	18.0	1.8	1.2	0.3
女性・50歳代	314	227	88	127	156	170	102	160	62	77	69	119	62	11	9	—
	100.0	72.3	28.0	40.4	49.7	54.1	32.5	51.0	19.7	24.5	22.0	37.9	19.7	3.5	2.9	—
女性・60歳代	393	228	94	151	154	229	114	181	98	88	81	151	80	3	11	4
	100.0	58.0	23.9	38.4	39.2	58.3	29.0	46.1	24.9	22.4	20.6	38.4	20.4	0.8	2.8	1.0
女性・70歳以上	400	211	110	128	130	234	153	162	102	88	87	169	121	5	21	16
	100.0	52.6	27.5	32.0	32.5	58.5	38.3	40.5	25.5	22.0	21.8	42.3	30.3	1.3	5.3	4.0
女性	1938	1244	479	735	946	1108	632	961	377	443	414	788	395	42	49	23
	100.0	64.2	24.7	37.9	48.8	57.2	32.6	49.6	19.5	22.9	21.4	40.7	20.4	2.2	2.5	1.2
男性・20歳代	112	54	25	36	58	69	26	41	19	24	30	36	17	6	3	—
	100.0	48.2	22.3	32.1	51.8	61.6	23.2	36.6	17.0	21.4	26.8	32.1	15.2	5.4	2.7	—
男性・30歳代	189	83	38	59	116	87	37	97	26	33	56	26	9	4	—	—
	100.0	43.9	20.1	31.2	61.4	46.0	19.6	51.3	13.8	17.5	29.6	13.8	4.8	2.1	—	—
男性・40歳代	228	106	33	93	136	117	35	84	34	43	43	64	34	6	9	3
	100.0	46.5	14.5	40.8	59.6	51.3	15.4	36.8	14.9	18.9	18.9	28.1	14.9	2.6	3.9	1.3
男性・50歳代	220	108	36	86	111	113	47	88	37	42	34	62	43	8	19	2
	100.0	49.1	16.4	39.1	50.5	50.5	21.4	40.0	16.8	19.1	15.5	28.2	19.5	3.6	8.6	0.9
男性・60歳代	321	156	48	136	141	161	80	125	68	69	53	101	99	4	13	7
	100.0	48.6	15.0	42.4	43.9	50.2	24.9	38.9	21.2	21.5	16.5	31.5	30.8	1.2	4.0	2.2
男性・70歳以上	292	120	38	94	92	161	68	82	50	51	41	90	74	5	20	11
	100.0	41.1	13.0	32.2	31.5	55.1	23.3	28.1	17.1	17.5	14.0	30.8	25.3	1.7	6.8	3.8
男性	1363	627	218	504	654	706	293	517	234	255	234	409	293	38	69	23
	100.0	46.0	16.0	37.0	48.0	51.8	21.5	37.9	17.2	18.7	17.2	30.0	21.5	2.8	5.1	1.7
男女差(女性-男性)		18.2	8.7	0.9	0.8	5.4	11.1	11.7	2.3	4.2	4.2	10.7	-1.1	-0.6	-2.6	-0.5

**問9 あなたは、「男もつらい」と感じることはありますか。(〇はひとつ)**

※男性の方は、ご自身について、お答えください。

※女性の方は、身近にいる男性に対して「男はつらいな」と感じたことがあるかどうかをお答えください。

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



**【性別】**

「男もつらい」と感じる割合が「ある」割合は、男性自身は 53.8%、一方、身近にいる男性に対して「男はつらいな」と感じたことがある女性の割合は 69.2%となり、その差は 15.4 ポイント男性より女性の方が高くなっている。

一方、「ない」とする回答が女性 12.0%、男性 34.8%と男性の方が 22.8 ポイント高くなっている。

「わからない」とする割合は、女性 16.9%、男性 9.9%と女性の方が 7.0 ポイント高くなっている。

**【性別・年代別】**

女性は、全年代で「ある」とする割合が 5 割を超え、20 歳代から 50 歳代までは、他の年代より高くなっている。

なお、女性 60 歳代、70 歳以上では、「わからない」とする回答が 20.4%、23.5%と高くなっている。

男性では、20 歳代から 50 歳代で「ある」とする割合が 5 割を超えている。

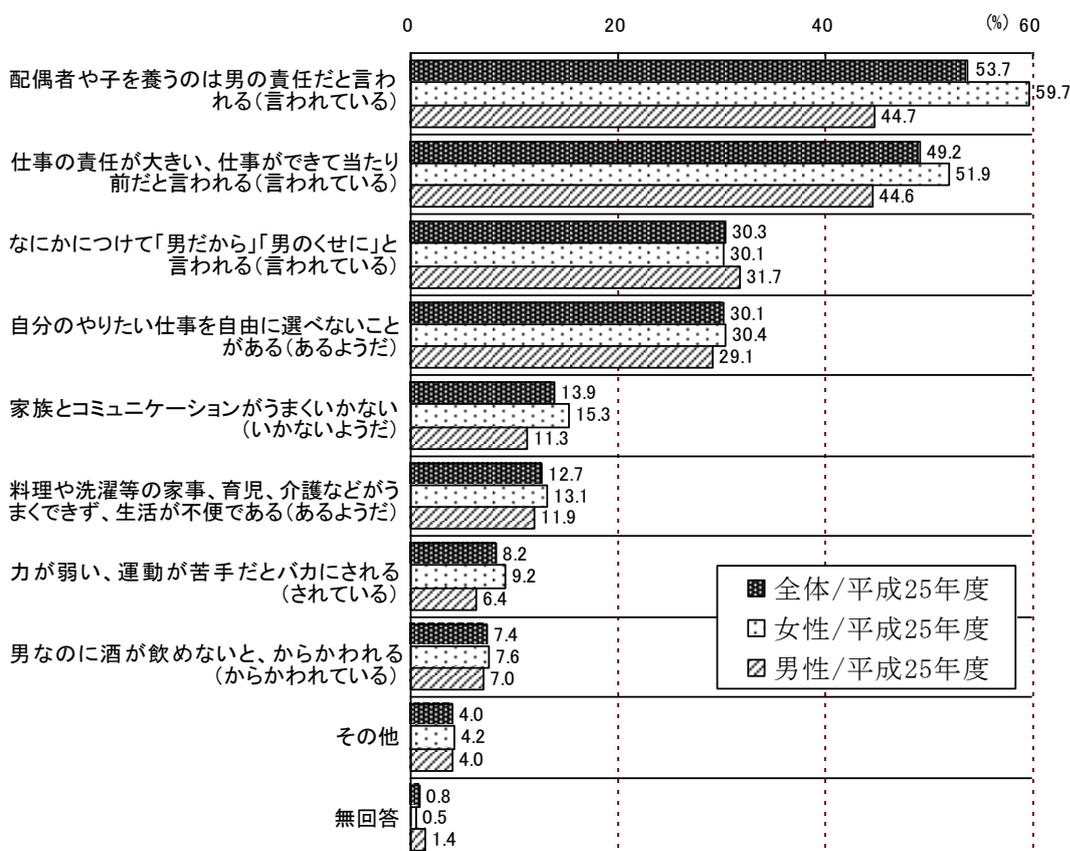
また、男性 60 歳代、70 歳以上では、「ある」とする回答が 46.4%、43.2%、「ない」とする回答が 43.9%、42.1%と拮抗している。

問9 「男もつらい」と感じることもあるか

上段:実数 下段:横%	合計	ある	ない	わからない	無回答
全体	3495 100.0	2155 61.7	758 21.7	489 14.0	93 2.7
女性・20歳代	168 100.0	125 74.4	18 10.7	25 14.9	—
女性・30歳代	321 100.0	251 78.2	31 9.7	37 11.5	2 0.6
女性・40歳代	339 100.0	248 73.2	34 10.0	56 16.5	1 0.3
女性・50歳代	314 100.0	237 75.5	39 12.4	35 11.1	3 1.0
女性・60歳代	393 100.0	254 64.6	53 13.5	80 20.4	6 1.5
女性・70歳以上	400 100.0	224 56.0	58 14.5	94 23.5	24 6.0
女性	1938 100.0	1341 69.2	233 12.0	327 16.9	37 1.9
男性・20歳代	112 100.0	61 54.5	39 34.8	12 10.7	—
男性・30歳代	189 100.0	125 66.1	49 25.9	15 7.9	—
男性・40歳代	228 100.0	147 64.5	54 23.7	26 11.4	1 0.4
男性・50歳代	220 100.0	125 56.8	68 30.9	23 10.5	4 1.8
男性・60歳代	321 100.0	149 46.4	141 43.9	29 9.0	2 0.6
男性・70歳以上	292 100.0	126 43.2	123 42.1	30 10.3	13 4.5
男性	1363 100.0	733 53.8	475 34.8	135 9.9	20 1.5
男女差(女性-男性)		15.4	-22.8	7.0	0.4

問 10 問9で、「1. ある」と答えた方のみ それはどんなことですか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：2,155、女性：1,341、男性 733



【性別】

男女とも「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われる(言われている)」とする割合(女性 59.7%、男性 44.7%)が最も高く、次いで、「仕事の責任が大きい、仕事ができ当たり前だとと言われる(言われている)」(女性 51.9%、男性 44.6%)となり、上位 2 位は同じ項目となっている。

3 位では、女性は、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある(あるようだ)」とする割合(30.4%)が、男性では「なにかにつけて「男だから」「男のくせに」と言われる(言われている)」とする割合(31.7%)となっている。

なお、女性では、「なにかにつけて「男だから」「男のくせに」と言われる(言われている)」とする割合(30.1%)、「家族とコミュニケーションがうまくいかない(いかないようだ)」とする割合(15.1%)が上位 3 位に続き、男性では、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある(あるようだ)」とする割合(29.1%)、「料理や洗濯等の家事、育児、介護などがうまくできず、生活が不便である(あるようだ)」とする割合(11.9%)が上位 3 位に続いている。

「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われる(言われている)」とする割合で 15.0 ポイント、「仕事の責任が大きい、仕事ができ当たり前だとと言われる(言われている)」とする割合で 7.3 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

【性別・年代別】

女性では、全世代において、1 位と 2 位の順位が同じである。「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われ

る(言われている)」とする割合が最も高く、次いで「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる(言われている)」とする割合も、おおむね5割を超えている。

男性では、年代により順位の傾向が異なる。男性20歳代は、「なにかにつけて「男だから」「男のくせに」と言われる(言われている)」(49.2%)、男性30歳代、60歳代、70歳以上は、「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われる(言われている)」(40.8%、49.0%、48.4%)、50歳代では「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる(言われている)」50.4%が最も高い割合となっている。

男性40歳代では、「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われる(言われている)」、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる(言われている)」がともに49.7%となり、最も高い割合を示している。

第2位は、男性20歳代、30歳代、60歳代、70歳以上が「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる(言われている)」(38.4~44.3%)、50歳代で「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われる(言われている)」39.2%となっている。

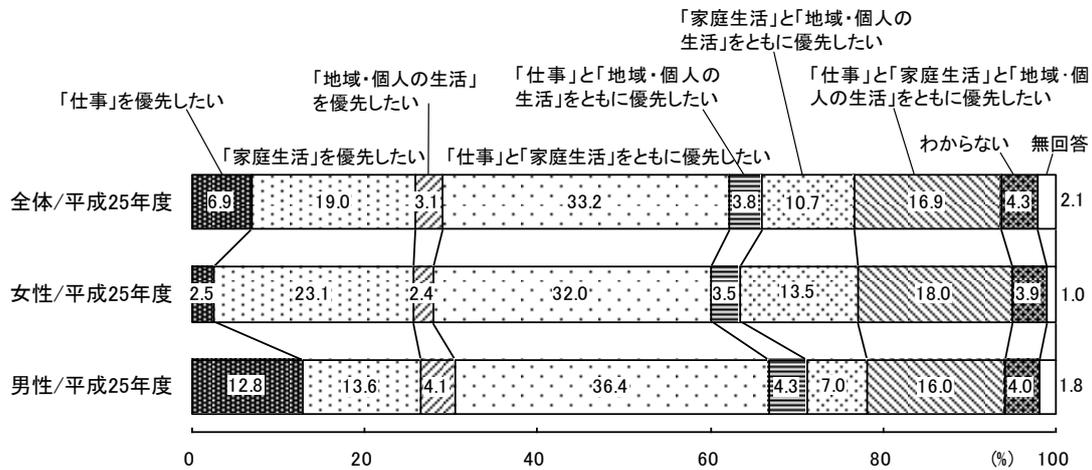
性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	配偶者・子を養うのは男の責任だ (53.7)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (49.2)	「男だから」「男のくせに」と言われる (30.3)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (30.1)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (13.9)	
女性	20歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (60.0)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (48.8)	「男だから」「男のくせに」と言われる (39.2)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (21.6)	力が弱い、運動ができないとバカにされる (17.6)
	30歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (59.0)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (49.8)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (31.9)	「男だから」「男のくせに」と言われる (27.1)	力が弱い、運動ができないとバカにされる (12.7)
	40歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (59.3)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (48.4)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (30.2)	「男だから」「男のくせに」と言われる (26.6)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (14.1)
	50歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (62.9)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (58.6)	「男だから」「男のくせに」と言われる (33.8)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (25.3)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (14.8)
	60歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (63.4)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (53.9)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (35.0)	「男だから」「男のくせに」と言われる (28.0)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (19.7)
	70歳代以上	配偶者・子を養うのは男の責任だ (53.1)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (50.9)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (34.4)	「男だから」「男のくせに」と言われる (30.8)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (22.3)
	女性計	配偶者・子を養うのは男の責任だ (59.7)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (51.9)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (30.4)	「男だから」「男のくせに」と言われる (30.1)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (15.3)
男性	20歳代	「男だから」「男のくせに」と言われる (49.2)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (41.0)	配偶者・子を養うのは男の責任だ (34.4)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (21.3)	男なのに酒が飲めないとからかわれる (13.1)
	30歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (40.8)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (38.4)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (32.8)	「男だから」「男のくせに」と言われる (28.8)	料理等の家事・育児・介護などがうまくできず、生活不便 (13.6)
	40歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (49.7)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (49.7)	「男だから」「男のくせに」と言われる (38.8)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (27.2)	男なのに酒が飲めないとからかわれる (8.8)
		料理等の家事・育児・介護などがうまくできず、生活不便 (8.8)				
	50歳代	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (50.4)	配偶者・子を養うのは男の責任だ (39.2)	「男だから」「男のくせに」と言われる (32.0)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (28.0)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (15.2)
	60歳代	配偶者・子を養うのは男の責任だ (49.0)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (44.3)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (34.9)	「男だから」「男のくせに」と言われる (27.5)	家族とコミュニケーションがうまくいかない (12.1)
	70歳代以上	配偶者・子を養うのは男の責任だ (48.4)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (41.3)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (25.4)	「男だから」「男のくせに」と言われる (22.2)	料理等の家事・育児・介護などがうまくできず、生活不便 (17.5)
男性計	配偶者・子を養うのは男の責任だ (44.7)	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる (44.6)	「男だから」「男のくせに」と言われる (31.7)	自分にやりたい仕事があるが自由に選べない (29.1)	料理等の家事・育児・介護などがうまくできず、生活不便 (11.9)	

( )内は%

### 3. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問 11 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度についてお伺いします。  
 まず、あなたの希望に最も近いものを1つだけお答えください。(〇はひとつ)

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



#### [全体]

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいとする割合が 33.2%と最も高く、「家庭生活」を優先したいが 19.0%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいが 16.9%となっている。

#### [性別]

男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいとする割合(女性 32.0%、男性 36.4%)が最も高くなっている。

次いで、女性では、「家庭生活」を優先したいとする割合(23.1%)、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいとする割合(18.0%)が続いている。

男性では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいとする割合(16.0%)、「家庭生活」を優先したいとする割合(13.6%)が続いている。

なお、「仕事」を優先したいとする割合では、女性より男性の方が 10.3 ポイント高くなっている。

一方、「家庭生活」を優先したいとする割合では、9.5 ポイント、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいとする割合で 6.5 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

#### [性別・年代別]

女性のすべての年代で、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいとする割合が、最も高くなっている。

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいとする割合が、女性 20 歳代(25.6%)、40 歳代(23.9%)で、「家庭生活」を優先したいとする割合が女性 30 歳代(29.6%)となり、他の年代と比べて高くなっている。

男性でもすべての年代で、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいとする割合が、最も高く、男性 50 歳代(40.0%)、60 歳代(40.5%)で他の年代と比べて高くなっている。

また、「地域・個人の生活」を優先したいとする割合が男性 20 歳代(11.6%)で 1 割を示し、「家庭生活」を優先したいとする割合が、男性 30 歳代(20.1)、40 歳代(18.4%)で 2 割前後と、「仕事」を優先したいとする割合が、60 歳代(15.9%)、70 歳以上(15.4%)で高くなっている。

なお、「仕事」を優先したいとする割合では、全世代において、女性より男性の方が、高くなっている。

一方、「家庭生活」を優先したいとする割合では全世代において、男性より女性の方が、高くなっている。

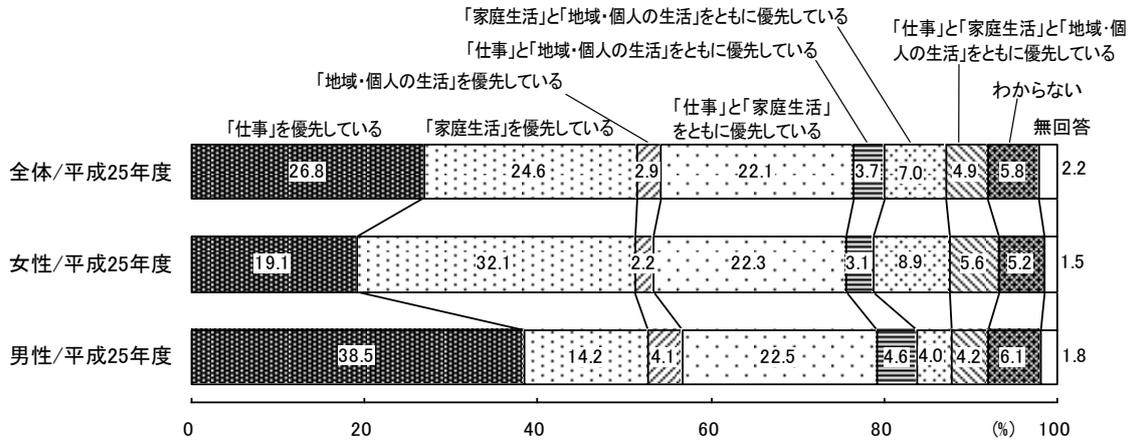
問11 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の優先度【希望】

上段:実数 下段:横%	合計	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
全体	3495 100.0	241 6.9	663 19.0	110 3.1	1162 33.2	133 3.8	373 10.7	590 16.9	151 4.3	72 2.1
女性・20歳代	168 100.0	1 0.6	35 20.8	6 3.6	47 28.0	4 2.4	28 16.7	43 25.6	4 2.4	—
女性・30歳代	321 100.0	4 1.2	95 29.6	5 1.6	107 33.3	7 2.2	47 14.6	52 16.2	2 0.6	2
女性・40歳代	339 100.0	7 2.1	74 21.8	7 2.1	119 35.1	20 5.9	22 6.5	81 23.9	6 1.8	3 0.9
女性・50歳代	314 100.0	6 1.9	67 21.3	6 1.9	118 37.6	11 3.5	34 10.8	59 18.8	11 3.5	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	14 3.6	85 21.6	11 2.8	131 33.3	10 2.5	63 16.0	56 14.2	19 4.8	4 1.0
女性・70歳以上	400 100.0	16 4.0	91 22.8	11 2.8	99 24.8	16 4.0	68 17.0	56 14.0	34 8.5	9 2.3
女性	1938 100.0	48 2.5	448 23.1	47 2.4	621 32.0	68 3.5	262 13.5	348 18.0	76 3.9	20 1.0
男性・20歳代	112 100.0	15 13.4	16 14.3	13 11.6	31 27.7	9 8.0	5 4.5	20 17.9	1 0.9	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	15 7.9	38 20.1	4 2.1	68 36.0	4 2.1	17 9.0	38 20.1	5 2.6	—
男性・40歳代	228 100.0	25 11.0	42 18.4	13 5.7	83 36.4	6 2.6	9 3.9	40 17.5	7 3.1	3 1.3
男性・50歳代	220 100.0	23 10.5	22 10.0	6 2.7	88 40.0	19 8.6	12 5.5	39 17.7	8 3.6	3 1.4
男性・60歳代	321 100.0	51 15.9	25 7.8	9 2.8	130 40.5	13 4.0	25 7.8	49 15.3	15 4.7	4 1.2
男性・70歳以上	292 100.0	45 15.4	43 14.7	11 3.8	96 32.9	7 2.4	28 9.6	32 11.0	18 6.2	12 4.1
男性	1363 100.0	174 12.8	186 13.6	56 4.1	496 36.4	58 4.3	96 7.0	218 16.0	55 4.0	24 1.8

男女差(女性-男性)                    -10.3            9.5            -1.7            -4.4            -0.8            6.5            2.0            -0.1            -0.8

問 12 それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものを1つだけお答えください。(○はひとつ)

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

「仕事」を優先しているとする割合(26.8%)が最も高く、次いで、「家庭生活」を優先している24.6%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している22.1%となっている。

[性別]

女性では、「家庭生活」を優先しているとする割合(32.1%)が最も高く、次いで、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているが22.3%、「仕事」を優先している19.1%と続いている。

男性では、「仕事」を優先しているとする割合(38.5%)が最も高く、次いで、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているが(22.5%)、「家庭生活」を優先している(14.2%)となっている。

なお、「仕事」を優先している」では、女性より男性の方が19.4ポイント高く、「家庭生活」を優先している」では17.9ポイント男性より女性の方が高くなっている。

[性別・年代別]

女性は、20歳代を除く世代で、「家庭生活」を優先している割合が最も高くなっている。なかでも、女性30歳代(39.6%)は高くなっている。

女性20歳代は、「仕事」を優先しているとする割合(33.9%)が最も高くなっている。

なお、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先しているとする割合では、女性20歳代(10.1%)が1割、「仕事」を優先しているとする割合では女性30歳代(25.5%)、40歳代(26.3%)が2.5割、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているとする割合では、女性50歳代(30.9%)が3割、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先しているとする割合では、女性60歳代(12.0%)、女性70歳以上(17.8%)と他の年代に比べて高くなっている。

男性20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では、「仕事」を優先しているとする割合が最も高くなり、30歳代、40歳代では5割を超えており、なかでも、30歳代は58.2%と高くなっている。

男性60歳代では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているとする割合が29.0%、男性70歳以上では「家庭生活」を優先しているとする割合が27.1%と最も高くなっている。

なお、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先しているとする割合では、男性20歳代(10.7%)、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているとする割合では、男性40歳代(23.2%)男性50歳代(26.4%)、「家庭生活」を優先しているとする割合では男性60歳代(15.6%)、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先しているとする割合では、男性70歳以上(9.2%)と他の年代に比べて高くなっている。

問12 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の優先度【現実(現状)】

上段:実数 下段:横%	合計	「仕事」を 優先して いる	「家庭生 活」を優 先してい る	「地域・個 人の生 活」を優 先してい る	「仕事」と 「家庭生 活」をとも に優先し ている	「仕事」と 「地域・個 人の生 活」をとも に優先し ている	「家庭生 活」と「地 域・個人 の生活」 をともに 優先して いる	「仕事」と 「家庭生 活」と「地 域・個人 の生活」 をともに 優先して いる	わからな い	無回答
全体	3495 100.0	936 26.8	859 24.6	103 2.9	771 22.1	128 3.7	246 7.0	173 4.9	201 5.8	78 2.2
女性・20歳代	168 100.0	57 33.9	29 17.3	8 4.8	22 13.1	17 10.1	11 6.5	11 6.5	13 7.7	— —
女性・30歳代	321 100.0	82 25.5	127 39.6	4 1.2	68 21.2	9 2.8	11 3.4	11 3.4	2.5	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	89 26.3	99 29.2	1 0.3	84 24.8	19 5.6	17 5.0	20 5.9	7 2.1	3 0.9
女性・50歳代	314 100.0	59 18.8	101 32.2	5 1.6	97 30.9	6 1.9	16 5.1	18 5.7	11 3.5	1 0.3
女性・60歳代	393 100.0	48 12.2	127 32.3	10 2.5	97 24.7	6 1.5	47 12.0	27 6.9	24 6.1	7 1.8
女性・70歳以上	400 100.0	35 8.8	139 34.8	14 3.5	64 16.0	3 0.8	71 17.8	22 5.5	36 9.0	16 4.0
女性	1938 100.0	370 19.1	623 32.1	42 2.2	432 22.3	60 3.1	173 8.9	109 5.6	100 5.2	29 1.5
男性・20歳代	112 100.0	50 44.6	12 10.7	9 8.0	17 15.2	12 10.7	1 0.9	4 3.6	5 4.5	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	110 58.2	14 7.4	5 2.6	33 17.5	10 5.3	2 1.1	6 3.2	9 4.8	— —
男性・40歳代	228 100.0	116 50.9	19 8.3	7 3.1	53 23.2	9 3.9	3 1.3	8 3.5	10 4.4	3 1.3
男性・50歳代	220 100.0	104 47.3	20 9.1	7 3.2	58 26.4	4 1.8	4 1.8	8 3.6	12 5.5	3 1.4
男性・60歳代	321 100.0	87 27.1	50 15.6	11 3.4	93 29.0	18 5.6	18 5.6	15 4.7	25 7.8	4 1.2
男性・70歳以上	292 100.0	58 19.9	79 27.1	17 5.8	52 17.8	10 3.4	27 9.2	16 5.5	21 7.2	12 4.1
男性	1363 100.0	525 38.5	194 14.2	56 4.1	306 22.5	63 4.6	55 4.0	57 4.2	83 6.1	24 1.8
男女差(女性-男性)		-19.4	17.9	-1.9	-0.2	-1.5	4.9	1.4	-0.9	-0.3

## 問 11-12 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)―「希望」と「現実(現状)」

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について、「希望[問11]」と「現実(現状)[問12]」のクロス集計を行うことで、希望が実現できているのかどうかをみていく。

「「仕事」を優先したい」、または、「「家庭生活」を優先したい」と「希望」する場合、男女とも、「現実(現状)」においても「「仕事」を優先している」(女性60.4%、男性71.3%)、「「家庭生活」を優先している」(女性69.0%、男性51.1%)となり、5割以上が実現できている結果となった。

男女とも最も高い割合を示した「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と「希望」する場合は、「現実(現状)」として、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」を実現できているのは、女性44.0%、男性39.5%となっている。

一方、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と「希望」しても、「現実(実状)」としては、「「仕事」を優先している」(男性42.3%、女性24.3%)、「「家庭生活」を優先している」(女性21.6%)となり、男性は仕事、女性は仕事または家庭生活を優先している結果となっている。

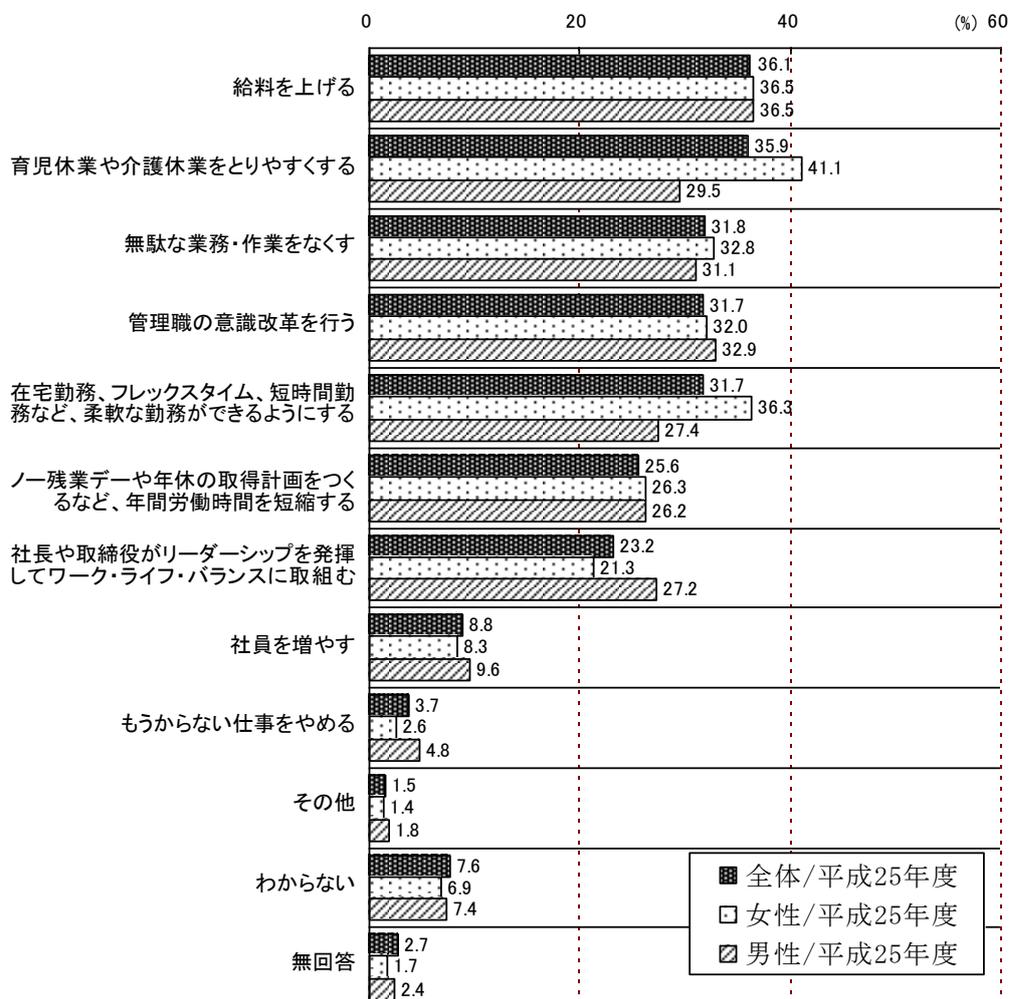
また、男性では、『仕事との両立』を希望する場合の「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」、「「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」、「「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」において、現実には、「「仕事」を優先している」とする割合がそれぞれ、42.3%、32.6%、36.2%となり、現実には、希望をかなえられず、「「仕事」を優先している」割合が高くなっている。

		問12 現実									
性別	問11 理想	合計	仕事優先	「家庭生活」優先	「地域・個人生活」優先	「仕事」と「家庭生活」	「仕事」と「地域・個人生活」	「家庭生活」と「地域・個人生活」	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」	わからない	無回答
女性	「仕事」優先	49	29	6	0.0%	5	1	2	2	1	2
		100.0%	60.4%	12.5%		10.4%	2.1%	4.2%	4.2%	2.1%	4.2%
	「家庭生活」優先	448	53	309	2	53	2	9	5	13	2
		100.0%	11.8%	69.0%	0.4%	11.8%	0.4%	2.0%	1.1%	2.9%	0.4%
	「地域・個人生活」優先	47	11	5	12	3	4	6	2	2	2
		100.0%	23.4%	10.6%	25.5%	6.4%	8.5%	12.8%	4.3%	4.3%	4.3%
	「仕事」と「家庭生活」	621	151	134	5	273	8	19	13	15	3
		100.0%	24.3%	21.6%	0.8%	44.0%	1.3%	3.1%	2.1%	2.4%	0.5%
	「仕事」と「地域・個人生活」	68	27	11	4	6	13	5	2	2	2
	100.0%	39.7%	16.2%	5.9%	8.8%	19.1%	7.4%	0.0%	2.9%	0.0%	
「家庭生活」と「地域・個人生活」	262	22	83	9	16	11	104	8	9	0.0%	
	100.0%	8.4%	31.7%	3.4%	6.1%	4.2%	39.7%	3.1%	3.4%	0.0%	
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」	348	68	57	9	70	20	28	78	15	3	
	100.0%	19.5%	16.4%	2.6%	20.1%	5.7%	8.0%	22.4%	4.3%	0.9%	
わからない	76	9	16	1	5	1			43	1	
	100.0%	11.8%	21.1%	1.3%	6.6%	1.3%	0.0%	0.0%	56.6%	1.3%	
無回答	20	2			1				1	16	
	100.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	80.0%	
女性計		1938	370	623	42	432	60	173	109	100	29
	100.0%	19.1%	32.1%	2.2%	22.3%	3.1%	8.9%	5.6%	5.2%	1.5%	
男性	「仕事」優先	174	124	8	4	19	5	1	3	8	2
		100.0%	71.3%	4.6%	2.3%	10.9%	2.9%	0.6%	1.7%	4.6%	1.1%
	「家庭生活」優先	186	54	95	5	23		3	2	4	
		100.0%	29.0%	51.1%	2.7%	12.4%	0.0%	1.6%	1.1%	2.2%	0.0%
	「地域・個人生活」優先	56	16	8	15	1	5	6	3	2	
		100.0%	28.6%	14.3%	26.8%	1.8%	8.9%	10.7%	5.4%	3.6%	0.0%
	「仕事」と「家庭生活」	496	210	43	8	196	10	3	4	19	3
		100.0%	42.3%	8.7%	1.6%	39.5%	2.0%	0.6%	0.8%	3.8%	0.6%
	「仕事」と「地域・個人生活」	58	21	2	6	8	17		1	2	1
	100.0%	36.2%	3.4%	10.3%	13.8%	29.3%	0.0%	1.7%	3.4%	1.7%	
「家庭生活」と「地域・個人生活」	96	21	23	11	7	4	22	2	6		
	100.0%	21.9%	24.0%	11.5%	7.3%	4.2%	22.9%	2.1%	6.3%	0.0%	
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」	218	71	11	6	47	21	18	35	8	1	
	100.0%	32.6%	5.0%	2.8%	21.6%	9.6%	8.3%	16.1%	3.7%	0.5%	
わからない	55	8	3	1	2	1	2	4	33	1	
	100.0%	14.5%	5.5%	1.8%	3.6%	1.8%	3.6%	7.3%	60.0%	1.8%	
無回答	24	1			3			3	1	16	
	100.0%	0.0%	4.2%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	4.2%	66.7%	
男性計		1363	525	194	56	306	63	55	57	83	24
	100.0%	38.5%	14.2%	4.1%	22.5%	4.6%	4.0%	4.2%	6.1%	1.8%	

**問 13 男女がともに「仕事と生活の調和」を図るためには、どのような取組みが必要だと思いますか。**

まずは、企業が取組む必要があるとあなたが思うものをお答えください。(〇は3つまで)

ML3/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



**[全体]**

「給料を上げる」とする割合(36.1%)が最も高く、次いで、「育児休業や介護休業をとりやすくする」35.9%、「無駄な業務・作業をなくす」31.8%となっている。

上位3位に続き、「管理職の意識改革を行う」、「柔軟な働き方ができるようにする」がともに31.7%となっている。

**[性別]**

女性では、「育児休業や介護休業をとりやすくする」とする割合(41.1%)が最も高く、次いで「給料を上げる」36.5%、「在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な働き方ができるようにする」36.3%となっている。

男性では、「給料を上げる」とする割合(36.5%)が最も高く、次いで「管理職の意識改革を行う」32.9%、「無駄な業務・作業をなくす」31.1%となっている。

男女とも、「給料を上げる」とする割合が上位3位に入っている。

「育児休業や介護休業をとりやすくする」とする割合(女性41.1%、男性29.5%)で12.0ポイント、「在宅勤

務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な働き方ができるようにする」とする割合(女性 36.3%、男性 27.4%)で 8.9 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

一方、「社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」とする割合(女性 21.3%、男性 27.2%)は、女性より男性の方が 5.9 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

女性 20 歳代、30 歳代、50 歳代は、上位 3 位は「給料を上げる」、「育児休業等を取りやすくする」、「在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な働き方ができるようにする」が占めている。

女性 40 歳代は、「給料を上げる」、「育児休業等を取りやすくする」、「無駄なお業務・作業をなくす」が占めている。

女性 60 歳代、70 歳以上では、上位 3 位は「育児休業等を取りやすくする」、「無駄なお業務・作業をなくす」、「管理職の意識改革を行う」が占めている。

また、女性 20 歳代、30 歳代では、「年間労働時間を短縮する」割合が(41.1%、36.4%)高くなっている。

男性 20 歳代から 50 歳代までは、「給料を上げる」が最も高い割合を示し、中でも 30 歳代(54.0%)、40 歳代(50.4%)の割合が高くなっている。なお、男性 20 歳代では、「ノー残業デーや年休の取得計画をつくるなど、年間労働時間を短縮する」も「給料を上げる」と同じ割合を示している。

男性 60 歳代、70 歳以上では、「管理職の意識改革を行う」(38.9%、34.2%)が最も高い割合となっている。

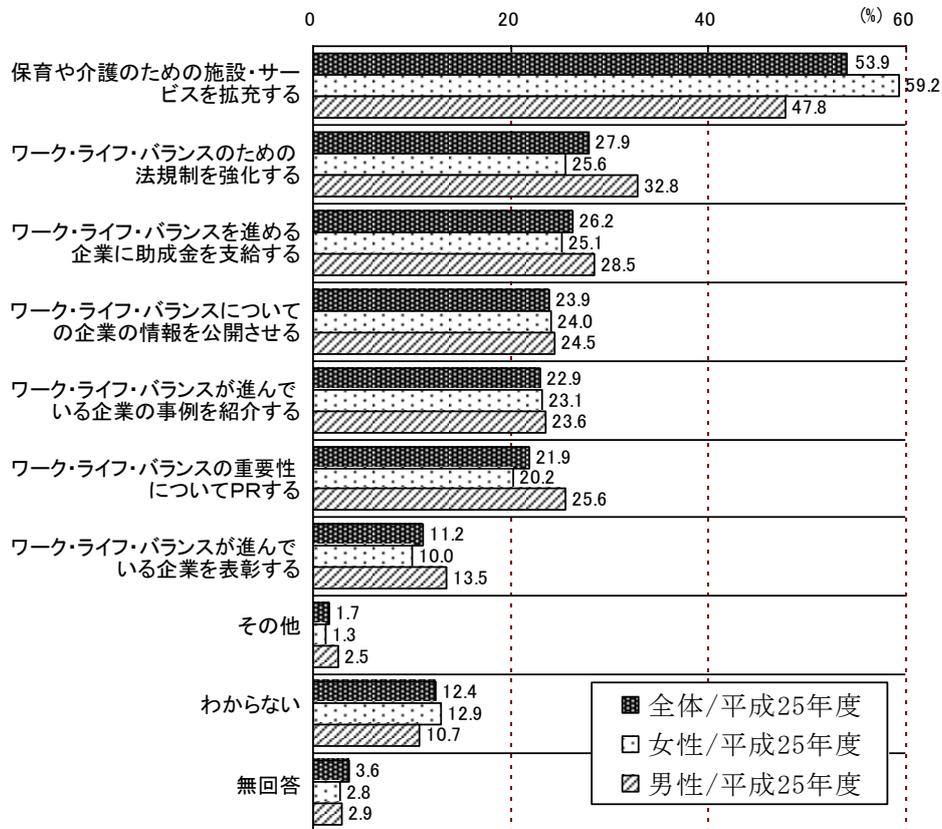
なお、男女ともに 20 歳代では、「ノー残業デーや年休の取得計画をつくるなど、年間労働時間を短縮する」とする割合が 41.1%を示し、他の年代と比較して高くなっている。

性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	
女性	20歳代	給料を上げる (50.6)	育児休業等が取りやすくする (48.8)	柔軟な働き方ができるようにする (45.8)	年間労働時間を短縮する (41.1)	無駄なお業務・作業をなくす (29.8)
	30歳代	給料を上げる (47.7)	柔軟な働き方ができるようにする (44.5)	育児休業等が取りやすくする (43.3)	年間労働時間を短縮する (36.4)	無駄なお業務・作業をなくす (30.2)
	40歳代	柔軟な働き方ができるようにする (45.4)	給料を上げる (44.8)	無駄なお業務・作業をなくす (37.5)	管理職の意識改革 (33.0)	育児休業等が取りやすくする (32.4)
	50歳代	給料を上げる (40.4)	育児休業等が取りやすくする (39.5)		管理職の意識改革 (37.3)	無駄なお業務・作業をなくす (31.2)
			柔軟な働き方ができるようにする (39.5)			
	60歳代	育児休業等が取りやすくする (46.3)	管理職の意識改革 (38.2)	無駄なお業務・作業をなくす (32.6)	柔軟な働き方ができるようにする (27.7)	給料を上げる (27.2)
	70歳代以上	育児休業等が取りやすくする (39.8)	無駄なお業務・作業をなくす (33.5)	管理職の意識改革 (26.8)	柔軟な働き方ができるようにする (24.0)	給料を上げる (20.8)
女性計	育児休業等が取りやすくする (41.1)	給料を上げる (36.5)	柔軟な働き方ができるようにする (36.3)	無駄なお業務・作業をなくす (32.8)	管理職の意識改革 (32.0)	
男性	20歳代	給料を上げる (41.1)		育児休業等が取りやすくする (37.5)	柔軟な働き方ができるようにする (29.5)	
		年間労働時間を短縮する (41.1)			無駄なお業務・作業をなくす (29.5)	
	30歳代	給料を上げる (54.0)	育児休業等が取りやすくする (30.7)	管理職の意識改革 (29.6)	柔軟な働き方ができるようにする (29.1)	無駄なお業務・作業をなくす (28.6)
	40歳代	給料を上げる (50.4)	無駄なお業務・作業をなくす (36.8)	ワーク・ライフ・バランスに取り組む (36.8)	管理職の意識改革 (30.7)	柔軟な働き方ができるようにする (28.5)
	50歳代	給料を上げる (41.8)	管理職の意識改革 (33.2)	無駄なお業務・作業をなくす (31.8)	柔軟な働き方ができるようにする (31.4)	年間労働時間を短縮する (28.2)
	60歳代	管理職の意識改革 (38.9)	育児休業等が取りやすくする (34.3)	柔軟な働き方ができるようにする (29.9)	ワーク・ライフ・バランスに取り組む (29.3)	無駄なお業務・作業をなくす (29.0)
	70歳代以上	管理職の意識改革 (34.2)	育児休業等が取りやすくする (31.2)	無駄なお業務・作業をなくす (30.8)	ワーク・ライフ・バランスに取り組む (26.4)	給料を上げる (20.5)
男性計	給料を上げる (36.5)	管理職の意識改革 (32.9)	無駄なお業務・作業をなくす (31.1)	育児休業等が取りやすくする (29.5)	柔軟な働き方ができるようにする (27.4)	

( )内は%

問 14 それでは、行政が取組むと効果的であるとあなたが思うものをお答えください。(〇は3つまで)

ML3/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

「保育や介護のための施設・サービスを拡充する」とする割合(53.9%)が最も高く、次いで、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」27.9%、「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」26.2%となっている。

[性別]

男女とも、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」(女性 59.2%、男性 47.8%)が最も高く、次いで、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」(女性 25.6%、男性 32.8%)、「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」(女性 25.1%、男性 28.5%)となっている。

なお、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」とする割合は、男性より女性の方が11.4ポイント高くなっている。

また、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」とする割合で7.2ポイント、「ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする」とする割合(女性20.2%、男性25.6%)で5.4ポイント女性より男性の方が高くなっている。

[性別・年代別]

女性は全年代で「保育や介護のための施設・サービスを充実する」割合が最も高くなっている。

女性20歳代、30歳代、40歳代では、「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」または「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」が上位2位・3位を占めている。

女性50歳代、60歳代、70歳以上では、「ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする」、「ワーク・ライフ

フ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する」、「ワーク・ライフ・バランスについての企業の情報を公開させる」が上位2位・3位となっている。

男性20歳代、30歳代は、「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」(40.2%、43.9%)が最も高く、次いで、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」(35.7%、41.3%)、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」(34.8%、39.7%)が上位3位を占めている。

男性40歳代では、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」(43.0%)、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」(42.1%)、「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」(37.3%)が上位3位を占め、20歳代、30歳代上位3位の項目は同じとなっている。

男性50歳代から70歳以上までは、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」とする割合(49.5%、59.8%、46.6%)が最も高く、50歳代、60歳代では5割をこえている。

次いで、男性50歳代・60歳代では、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」(36.8%、32.4%)、男性70歳以上では、「ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする」(29.8%)となっている。

3位は、男性50代では「ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する」(30.9%)、60歳代では「ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する」(31.2%)、男性70歳以上では、「ワーク・ライフ・バランスについての企業の情報を公開させる」(25.3%)となっている。

なお、女性70歳以上では、「わからない」とする割合が24.3%と、他の年代に比べて高い割合を示している。

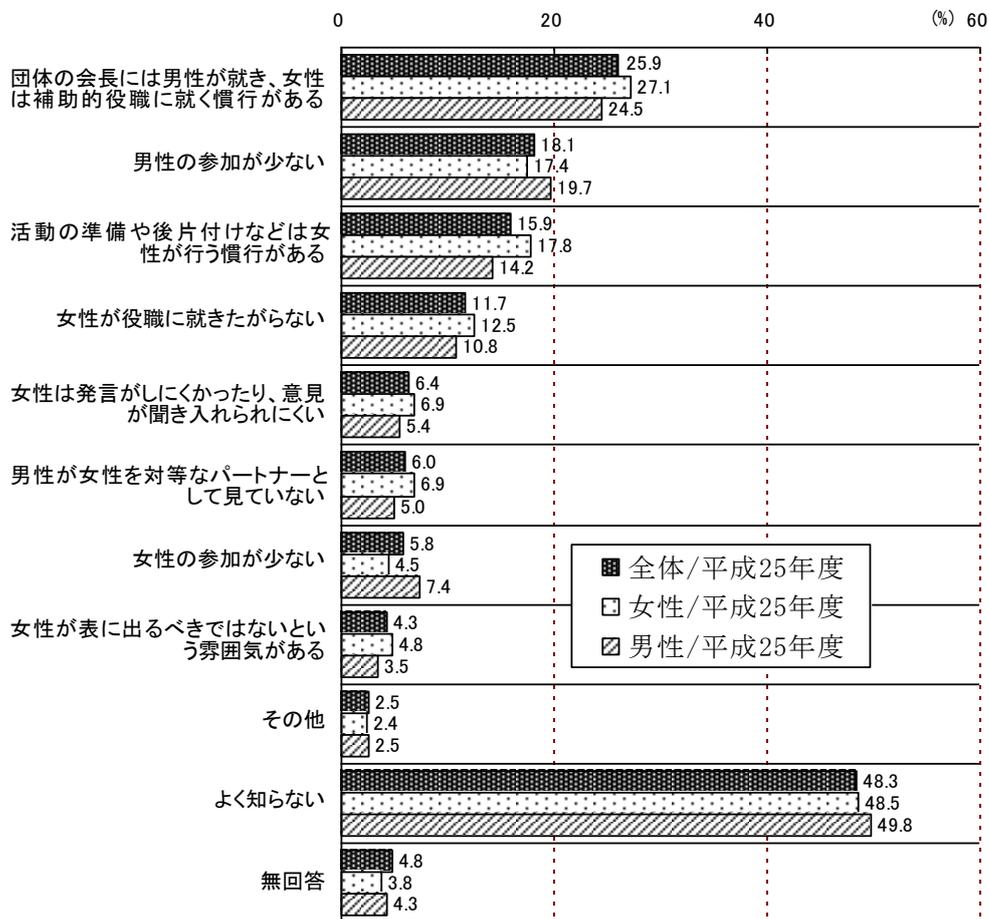
性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	
女性	20歳代	保育等の施設・サービスを充実 (58.3)	法規制を強化する (36.3)	進める企業に助成金を支給する (29.2)	企業の情報を公開させる (22.6)	進んでいる企業の事例を紹介する (17.3)
	30歳代	保育等の施設・サービスを充実 (61.4)	進める企業に助成金を支給する (40.2)	法規制を強化する (37.1)	企業の情報を公開させる (26.5)	進んでいる企業の事例を紹介する (22.1)
	40歳代	保育等の施設・サービスを充実 (55.8)	法規制を強化する (36.0)	進める企業に助成金を支給する (28.6)	企業の情報を公開させる (26.3)	進んでいる企業の事例を紹介する (23.9)
	50歳代	保育等の施設・サービスを充実 (65.9)	重要性についてPRする (26.1)	進んでいる企業の事例を紹介する (25.2)	企業の情報を公開させる (24.5)	進める企業に助成金を支給する (23.9)
	60歳代	保育等の施設・サービスを充実 (63.4)	進んでいる企業の事例を紹介する (26.2)	企業の情報を公開させる (25.4)	重要性についてPRする (23.2)	進める企業に助成金を支給する (18.1)
	70歳代以上	保育等の施設・サービスを充実 (51.8)	進んでいる企業の事例を紹介する (21.0)	重要性についてPRする (20.3)	企業の情報を公開させる (19.0)	進める企業に助成金を支給する (16.3)
	女性計	保育等の施設・サービスを充実 (59.2)	法規制を強化する (25.6)	進める企業に助成金を支給する (25.1)	企業の情報を公開させる (24.0)	進んでいる企業の事例を紹介する (23.1)
男性	20歳代	進める企業に助成金を支給する (40.2)	保育等の施設・サービスを充実 (35.7)	法規制を強化する (34.8)	進んでいる企業の事例を紹介する (26.8)	企業の情報を公開させる (25.9)
	30歳代	進める企業に助成金を支給する (43.9)	保育等の施設・サービスを充実 (41.3)	法規制を強化する (39.7)	進んでいる企業の事例を紹介する (22.8)	企業の情報を公開させる (22.2)
	40歳代	法規制を強化する (43.0)	保育等の施設・サービスを充実 (42.1)	進める企業に助成金を支給する (37.3)	企業の情報を公開させる (26.8)	重要性についてPRする (21.1)
	50歳代	保育等の施設・サービスを充実 (49.5)	法規制を強化する (36.8)	進める企業に助成金を支給する (30.9)	重要性についてPRする (25.5)	企業の情報を公開させる (20.9)
	60歳代	保育等の施設・サービスを充実 (59.8)	法規制を強化する (32.4)	進んでいる企業の事例を紹介する (31.2)	重要性についてPRする (29.9)	企業の情報を公開させる (25.5)
	70歳代以上	保育等の施設・サービスを充実 (46.6)	重要性についてPRする (29.8)	企業の情報を公開させる (25.3)	進んでいる企業の事例を紹介する (21.6)	法規制を強化する (17.1)
	男性計	保育等の施設・サービスを充実 (47.8)	法規制を強化する (32.8)	進める企業に助成金を支給する (28.5)	重要性についてPRする (25.6)	企業の情報を公開させる (24.5)

( )内は%

#### 4. 地域活動や社会活動に参加することについて

問 15 あなたがお住まいの地域の活動では、次のことがありますか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



#### [全体]

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」とする割合(25.9%)が最も高く、次いで、「男性の参加が少ない」とする割合 18.1%、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」とする割合 15.9%となっている。

なお、「よく知らない」とする割合が 48.3%となっている。

#### [性別]

男女とも、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」とする割合(女性 27.1%、男性 24.5%)が最も高く、次いで、女性は「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(17.8%)、「男性の参加が少ない」(17.4%)、男性では、「男性の参加が少ない」(19.7%)、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(14.2%)となっている。

また、「女性が役職に就きたがらない」割合(女性 12.5%、男性 10.8%)が続き、以上の 4 項目が男女とも、高くなっている。

なお、男女とも「よく知らない」とする割合(女性 48.5%、男性 49.8%)が高く、地域活動に関する認知が低いことが分かる。

[性別・年代別]

女性20歳代を除くすべての年代、男性50歳代、60歳代、70歳以上では、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」とする割合が高く、なかでも、女性60歳代36.4%、70歳以上37.3%、男性60歳代36.8%、70歳以上35.6%となり、男女とも60歳代、70歳以上で特に高くなっている。

女性20歳代、男性20歳代、30歳代、40歳代では、「男性の参加が少ない」とする割合が最も高くなっている。

また、男女すべての年代で、上位3位の項目は、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」、「男性の参加が少ない」、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」となっている。

なお、「よく知らない」とする割合が、20歳代(女性77.4%、男性66.1%)、30歳代(女性66.4%、男性66.1%)、40歳代(女性55.5%、男性66.7%)、50歳代(女性43.6%、男性50.0%)、60歳代(女性37.7%、男性37.4%)となり、年代が若い程、数値が高い傾向を示している。

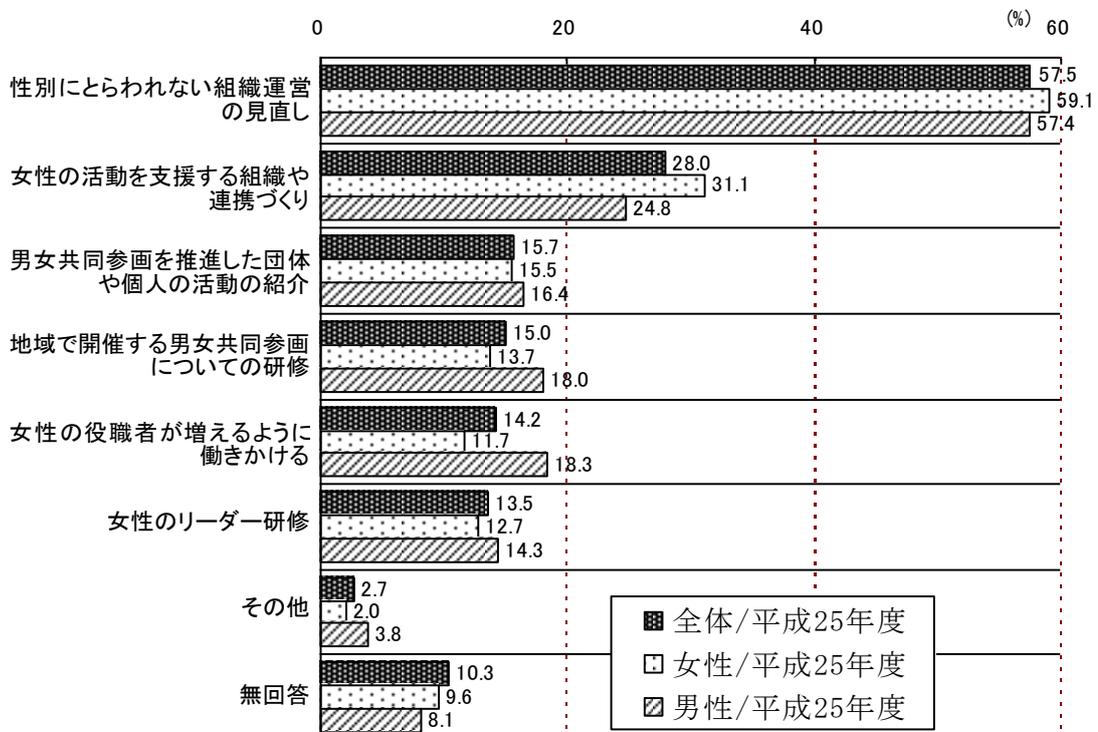
問15 地域活動の現状

上段:実数 下段:横%	合計	男性の参加が少ない	女性の参加が少ない	男性が女性を対等なパートナーとして見ていない	女性が表に出るべきではないという雰囲気がある	女性は発言がしにくかったり、意見が聞き入れられにくい	女性が役職に就きたがらない	団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある	活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある	その他	よく知らない	無回答
全体	3495 100.0	634 18.1	203 5.8	210 6.0	152 4.3	222 6.4	408 11.7	904 25.9	557 15.9	89 2.5	1688 48.3	169 4.8
女性・20歳代	168 100.0	15 8.9	6 3.6	8 4.8	6 3.6	7 4.2	9 5.4	10 6.0	18 10.7	5 3.0	130 77.4	4 2.4
女性・30歳代	321 100.0	39 12.1	3 0.9	14 4.4	13 4.0	16 5.0	22 6.9	51 15.9	39 12.1	8 2.5	213 66.4	7 2.2
女性・40歳代	339 100.0	46 13.6	6 1.8	18 5.3	11 3.2	16 4.7	40 11.8	80 23.6	54 15.9	9 2.7	188 55.5	10 2.9
女性・50歳代	314 100.0	52 16.6	14 4.5	27 8.6	21 6.7	30 9.6	49 15.6	92 29.3	56 17.8	7 2.2	137 43.6	11 3.5
女性・60歳代	393 100.0	74 18.8	20 5.1	31 7.9	19 4.8	27 6.9	53 13.5	143 36.4	89 22.6	8 2.0	148 37.7	21 5.3
女性・70歳以上	400 100.0	112 28.0	38 9.5	34 8.5	23 5.8	37 9.3	69 17.3	149 37.3	87 21.8	10 2.5	123 30.8	21 5.3
女性	1938 152.6	338 17.4	87 4.5	133 6.9	93 4.8	134 6.9	242 12.5	526 27.1	344 17.8	47 2.4	939 48.5	74 3.8
男性・20歳代	112 100.0	12 10.7	5 4.5	1 0.9	2 1.8	3 2.7	5 4.5	10 8.9	11 9.8	1 0.9	74 66.1	7 6.3
男性・30歳代	189 100.0	27 14.3	7 3.7	7 3.7	3 1.6	8 4.2	13 6.9	23 12.2	18 9.5	4 2.1	125 66.1	5 2.6
男性・40歳代	228 100.0	31 13.6	9 3.9	10 4.4	2 0.9	7 3.1	13 5.7	27 11.8	14 6.1	6 2.6	152 66.7	9 3.9
男性・50歳代	220 100.0	48 21.8	15 6.8	12 5.5	10 4.5	9 4.1	26 11.8	52 23.6	22 10.0	7 3.2	110 50.0	10 4.5
男性・60歳代	321 100.0	65 20.2	33 10.3	21 6.5	22 6.9	23 7.2	46 14.3	118 36.8	73 22.7	11 3.4	120 37.4	12 3.7
男性・70歳以上	292 100.0	85 29.1	32 11.0	17 5.8	9 3.1	23 7.9	44 15.1	104 35.6	56 19.2	5 1.7	97 33.2	16 5.5
男性	1363 147.1	268 19.7	101 7.4	68 5.0	48 3.5	73 5.4	147 10.8	334 24.5	194 14.2	34 2.5	679 49.8	59 4.3

男女差(女性-男性)                    -2.3      -2.9      1.9      1.3      1.5      1.7      2.6      3.6      -0.1      -1.3      -0.5

問 16 地域活動における方針決定の場で、女性が増えるための具体的施策として、効果的だと思うことはどれですか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

「性別にとらわれない組織運営の見直し」とする割合が 57.5%、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」28.0%、「男女共同参画を推進した団体や個人の活動紹介」15.7%が上位 3 位となっている。

[性別]

男女ともに「性別にとらわれない組織運営の見直し」とする割合(女性 59.1%男性 57.4%)が最も高く、次いで、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」(女性 31.1%、男性 24.8%)となっている。

上位 2 位に続くものは、女性では「男女共同参画を推進した団体や個人の活動紹介」15.5%が、男性では、「女性の役職者が増えるように働きかける」18.3%となっている。

[性別・年代別]

男女ともに、全年代で「性別にとらわれない組織運営の見直し」とする割合が最も高く、次いで、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」となっている。

また、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」とする割合では女性 20 歳代(38.1%)、30 歳代(35.5%)、及び男性 40 歳代(25.4%)、50 歳代(26.4%)、60 歳代(28.7%)で、「団体や個人の活動の紹介」とする割合では男女 60 歳代(女性 19.1%、男性 21.2%)、男女 70 歳以上(女性 19.8%、男性 19.2%)が約 2 割、「地域で男女共同参画についての研修」とする割合で男性 60 歳代(23.1%)、男女 70 歳以上(女性 20.5%、男性 22.6%)で約 2 割となっている。

問16 女性が増えるための具体的施策として効果的だと思うもの

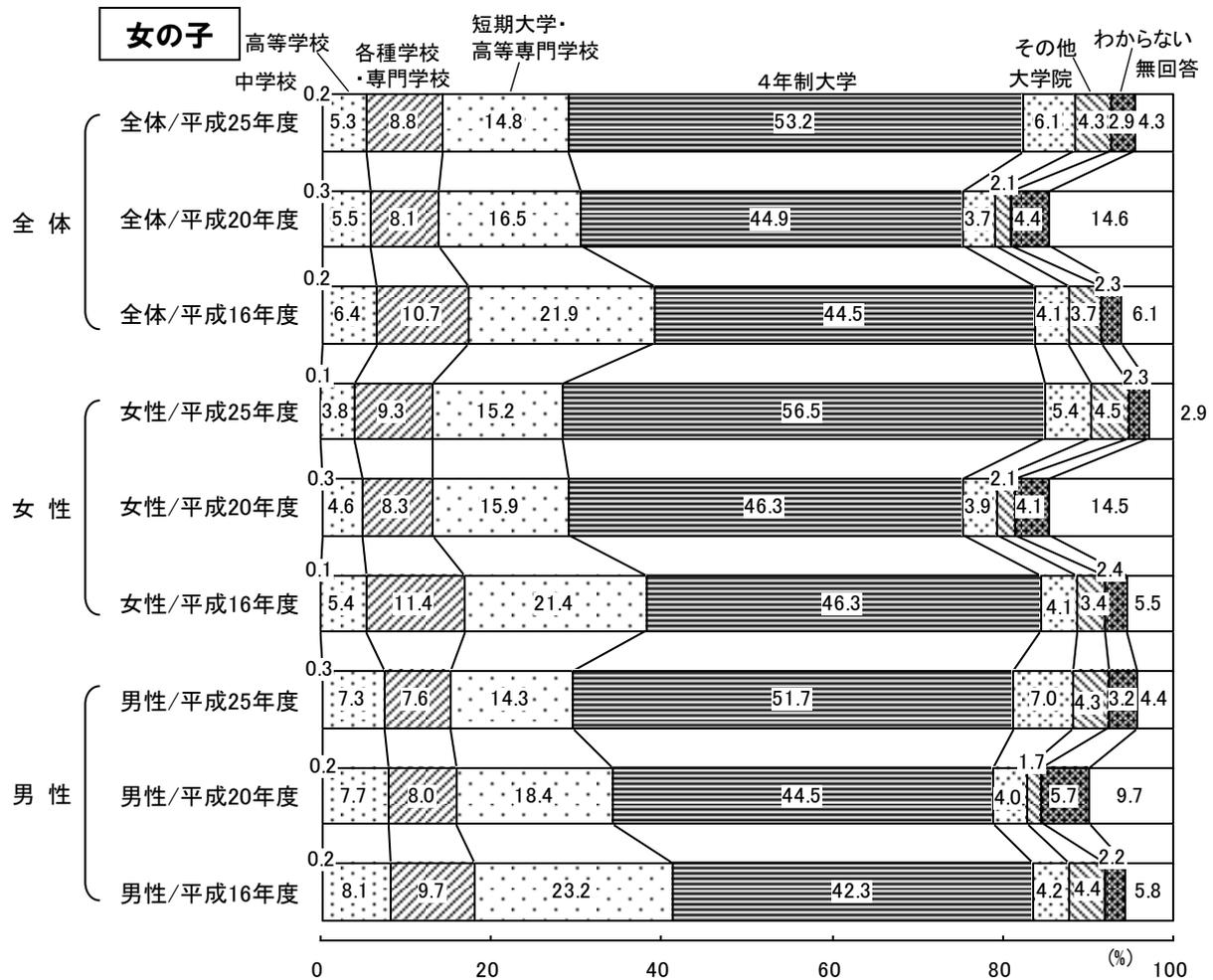
上段:実数 下段:横%	合計	女性の リーダー 研修	地域で男 女共同参 画につい ての研修	女性の役 職者が増 えるよう 働きかけ る	活動を支 援する組 織や連携 づくり	団体や個 人の活動 の紹介	組織運営 の見直し	その他	無回答
全体	3495 100.0	471 13.5	525 15.0	497 14.2	979 28.0	550 15.7	2008 57.5	93 2.7	359 10.3
女性・20歳代	168 100.0	21 12.5	15 8.9	22 13.1	64 38.1	18 10.7	101 60.1	5 3.0	9 5.4
女性・30歳代	321 100.0	33 10.3	23 7.2	32 10.0	114 35.5	32 10.0	203 63.2	6 1.9	23 7.2
女性・40歳代	339 100.0	28 8.3	37 10.9	39 11.5	103 30.4	47 13.9	203 59.9	6 1.8	26 7.7
女性・50歳代	314 100.0	44 14.0	41 13.1	34 10.8	104 33.1	47 15.0	198 63.1	6 1.9	22 7.0
女性・60歳代	393 100.0	55 14.0	68 17.3	39 9.9	110 28.0	75 19.1	230 58.5	6 1.5	37 9.4
女性・70歳以上	400 100.0	66 16.5	82 20.5	61 15.3	106 26.5	79 19.8	210 52.5	9 2.3	70 17.5
女性	1938 155.4	247 12.7	266 13.7	227 11.7	603 31.1	300 15.5	1146 59.1	38 2.0	187 9.6
男性・20歳代	112 100.0	10 8.9	11 9.8	14 12.5	23 20.5	16 14.3	69 61.6	3 2.7	11 9.8
男性・30歳代	189 100.0	26 13.8	25 13.2	25 13.2	36 19.0	23 12.2	105 55.6	16 8.5	12 6.3
男性・40歳代	228 100.0	29 12.7	36 15.8	31 13.6	58 25.4	24 10.5	141 61.8	10 4.4	14 6.1
男性・50歳代	220 100.0	28 12.7	34 15.5	37 16.8	58 26.4	36 16.4	134 60.9	10 4.5	8 3.6
男性・60歳代	321 100.0	52 16.2	74 23.1	79 24.6	92 28.7	68 21.2	191 59.5	4 1.2	24 7.5
男性・70歳以上	292 100.0	50 17.1	66 22.6	64 21.9	71 24.3	56 19.2	143 49.0	9 3.1	41 14.0
男性	1363 161.1	195 14.3	246 18.0	250 18.3	338 24.8	223 16.4	783 57.4	52 3.8	111 8.1

男女差(女性-男性)                    -1.6       -4.3       -6.6       6.3       -0.9       1.7       -1.8       1.5

## 5. 子どもの教育について

問 17 あなたは、経済的なことは別にすれば、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。  
 女の子、男の子、それぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。  
 ※お子さんがいない方も、仮にいと想定してお答えください。

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



### [全体]

「4年制大学」とする割合 53.2%が最も高く、次いで、「短期大学・高等専門学校」14.8%、「各種学校・専門学校」8.8%となっている。

### [経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「4年制大学」とする割合(44.5%→44.9%→53.2%)が前回調査から増加、「短期大学・高等専門学校」とする割合(21.9%→16.5%→14.8%)が減少傾向となっている。

女性では、「4年制大学」とする割合(46.3%→46.3%→56.5%)が前回調査から大きく増加している。

男性でも、「4年制大学」とする割合(42.3%→44.5%→51.7%)が前回調査から増加、「短期大学・高等専門学校」とする割合(23.2%→18.4%→14.3%)が減少傾向となっている。

### [性別]

男女ともに「4年制大学」とする割合(女性56.5%、男性51.7%)が5割を超え、次いで、「短期大学・高等専門学校」(女性15.2%、男性14.3%)、「各種学校・専門学校」(女性9.3%、男性7.6%)となっている。

[性別・年代別]

女性では、全年代において、「4年制大学」が最も高い割合を示し、次いで、「短期大学・高等専門学校」となっている。

なお、「4年制大学」とする割合は、70歳以上を除き、5割を超え、その中でも、20歳代、30歳代、40歳代は、6割前後と高くなっている。

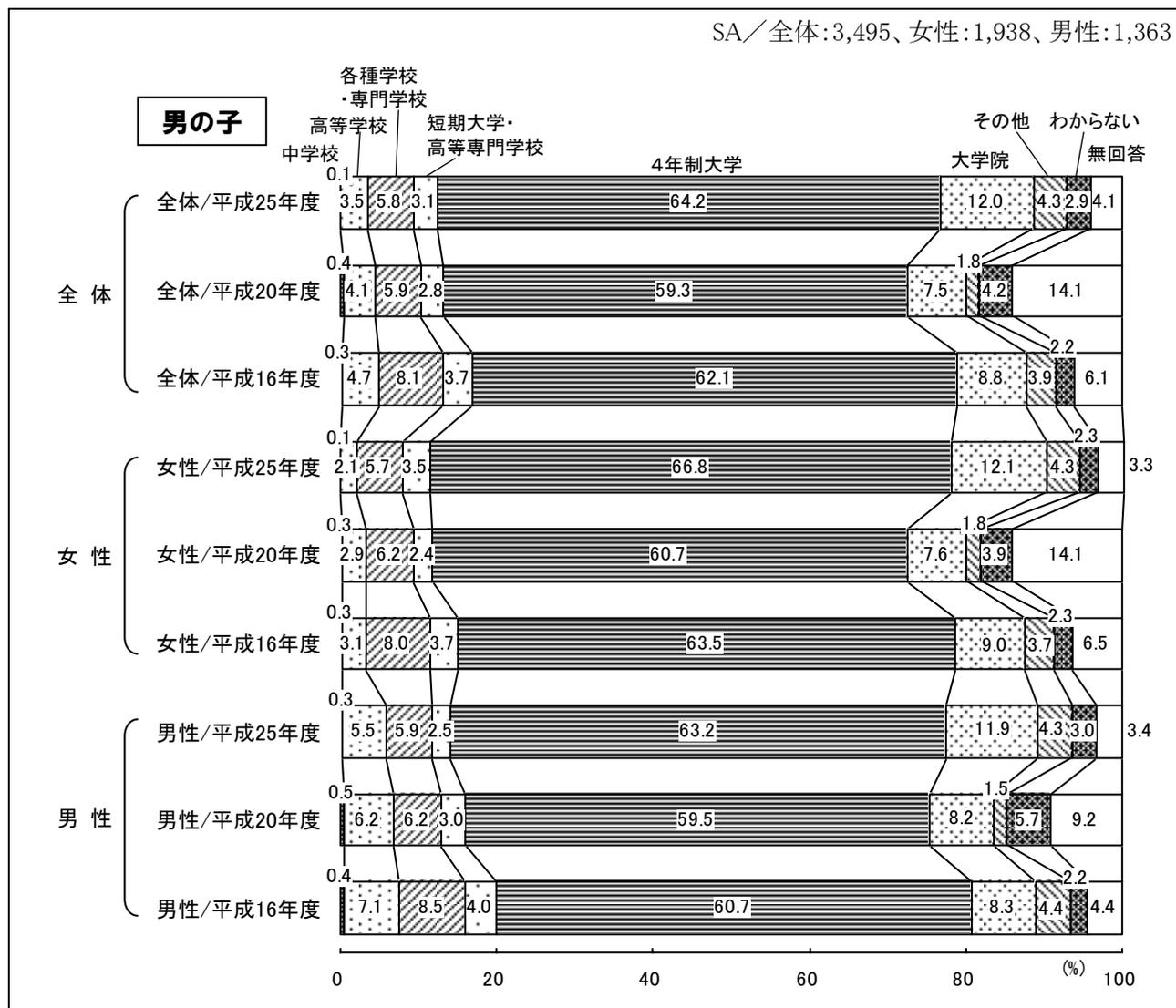
また、「各種学校・専門学校」とする割合では、女性60歳代(10.4%)、70歳以上(13.3%)で高くなっている  
男性でも、全年代において、「4年制大学」が最も高く、次いで、男性20歳代を除く世代では、「短期大学・高等専門学校」となり、男性20歳代では、「高等学校」9.8%とする割合が第2位となっている。

なお、「4年制大学」とする割合は、70歳以上を除き、おおむね5割を超えており、なかでも、20歳代、30歳代は、約6割となり、他の年代に比べて高くなっている。

また、「短期大学・高等専門学校」とする割合では、男性70歳以上(24.3%)が高くなっている。

問17 子どもに受けさせたい教育(女の子)

上段:実数 下段:横%	合計	中学校	高等学校	各種学 校・専門 学校	短期大 学・高等 専門学校	4年制大 学	大学院	その他	わから ない	無回答
全体	3495 100.0	8 0.2	184 5.3	307 8.8	517 14.8	1860 53.2	214 6.1	151 4.3	103 2.9	151 4.3
女性・20歳代	168 100.0	1 0.6	10 6.0	10 6.0	15 8.9	104 61.9	12 7.1	11 6.5	3 1.8	2 1.2
女性・30歳代	321 100.0	—	11 3.4	24 7.5	48 15.0	200 62.3	15 4.7	12 3.7	2 0.6	9 2.8
女性・40歳代	339 100.0	—	6 1.8	25 7.4	44 13.0	203 59.9	20 5.9	15 4.4	15 4.4	11 3.2
女性・50歳代	314 100.0	—	7 2.2	28 8.9	41 13.1	178 56.7	22 7.0	27 8.6	6 1.9	5 1.6
女性・60歳代	393 100.0	—	19 4.8	41 10.4	69 17.6	218 55.5	15 3.8	11 2.8	8 2.0	12 3.1
女性・70歳以上	400 100.0	—	20 5.0	53 13.3	77 19.3	191 47.8	21 5.3	11 2.8	10 2.5	17 4.3
女性	1938 100.0	1 0.1	74 3.8	181 9.3	294 15.2	1095 56.5	105 5.4	87 4.5	45 2.3	56 2.9
男性・20歳代	112 100.0	—	11 9.8	7 6.3	7 6.3	68 60.7	8 7.1	7 6.3	1 0.9	3 2.7
男性・30歳代	189 100.0	1 0.5	11 5.8	15 7.9	17 9.0	111 58.7	15 7.9	10 5.3	4 2.1	5 2.6
男性・40歳代	228 100.0	—	25 11.0	14 6.1	26 11.4	112 49.1	21 9.2	13 5.7	8 3.5	9 3.9
男性・50歳代	220 100.0	1 0.5	16 7.3	14 6.4	23 10.5	120 54.5	19 8.6	11 5.0	8 3.6	8 3.6
男性・60歳代	321 100.0	—	14 4.4	32 10.0	51 15.9	170 53.0	18 5.6	13 4.0	8 2.5	15 4.7
男性・70歳以上	292 100.0	2 0.7	22 7.5	22 7.5	71 24.3	123 42.1	14 4.8	4 1.4	14 4.8	20 6.8
男性	1363 100.0	4 0.3	99 7.3	104 7.6	195 14.3	704 51.7	95 7.0	58 4.3	44 3.2	60 4.4
男女差(女性-男性)		-0.2	-3.5	1.7	0.9	4.8	-1.6	0.2	-0.9	-1.5



### [全体]

「4年制大学」とする割合(64.2%)が最も高く、次いで、「大学院」(12.0%)、「各種学校・専門学校」(5.8%)となっている。

### [経年比較](H16→H20→H25)

全体では、「4年制大学」とする割合(62.1%→59.3%→64.2%)が、前回調査から増加している。

女性では、「4年制大学」とする割合(63.5%→60.7%→66.8%)が、前回調査から増加している。

男性では、「4年制大学」とする割合(60.7%→59.5%→63.2%)は、大きな変化は見られない。

### [性別]

男女ともに「4年制大学」とする割合(女性 66.8%、男性 63.2%)が最も高く、次いで、「大学院」(女性 12.1%、男性 11.9%)、「各種学校・専門学校」(女性 5.7%、男性 5.9%)となっている。

### [性別・年代別]

男女とも、全年代において「4年制大学」とする割合が最も高く、次いで「大学院」となっている。

なお、「4年制大学」とする割合では、女性 30歳代(73.5%)、40歳代(70.5%)と7割となっている。

また、「4年制大学」とする割合では、20歳代、30歳代、40歳代では、男性より女性の方が高くなっている。

問17 子どもに受けさせたい教育(男の子)

上段:実数 下段:横%	合計	中学校	高等学校	各種学 校・専門 学校	短期大 学・高等 専門学校	4年制大 学	大学院	その他	わからな い	無回答
全体	3495 100.0	5 0.1	123 3.5	202 5.8	109 3.1	2243 64.2	418 12.0	150 4.3	100 2.9	145 4.1
女性・20歳代	168 100.0	1 0.6	8 4.8	6 3.6	4 2.4	112 66.7	22 13.1	10 6.0	3 1.8	2 1.2
女性・30歳代	321 100.0	—	10 3.1	15 4.7	7 2.2	236 73.5	30 9.3	12 3.7	3 0.9	8 2.5
女性・40歳代	339 100.0	—	5 1.5	16 4.7	8 2.4	239 70.5	35 10.3	14 4.1	12 3.5	10 2.9
女性・50歳代	314 100.0	—	3 1.0	15 4.8	6 1.9	212 67.5	38 12.1	26 8.3	6 1.9	8 2.5
女性・60歳代	393 100.0	—	7 1.8	29 7.4	23 5.9	260 66.2	39 9.9	12 3.1	11 2.8	12 3.1
女性・70歳以上	400 100.0	—	7 1.8	29 7.3	19 4.8	235 58.8	69 17.3	10 2.5	8 2.0	23 5.8
女性	1938 100.0	1 0.1	41 2.1	110 5.7	67 3.5	1294 66.8	234 12.1	84 4.3	44 2.3	63 3.3
男性・20歳代	112 100.0	—	10 8.9	5 4.5	5 4.5	68 60.7	12 10.7	6 5.4	3 2.7	3 2.7
男性・30歳代	189 100.0	1 0.5	9 4.8	14 7.4	4 2.1	121 64.0	20 10.6	11 5.8	5 2.6	4 2.1
男性・40歳代	228 100.0	—	21 9.2	11 4.8	—	136 59.6	31 13.6	12 5.3	7 3.1	10 4.4
男性・50歳代	220 100.0	1 0.5	16 7.3	9 4.1	5 2.3	141 64.1	27 12.3	11 5.0	7 3.2	3 1.4
男性・60歳代	321 100.0	—	11 3.4	20 6.2	11 3.4	212 66.0	38 11.8	14 4.4	9 2.8	6 1.9
男性・70歳以上	292 100.0	2 0.7	8 2.7	22 7.5	9 3.1	183 62.7	34 11.6	5 1.7	10 3.4	19 6.5
男性	1363 100.0	4 0.3	75 5.5	81 5.9	34 2.5	861 63.2	162 11.9	59 4.3	41 3.0	46 3.4

男女差(女性-男性)

-0.2   -3.4   -0.2   1.0   3.6   0.2   0.0   -0.7   -0.1

### 女の子と男の子の比較

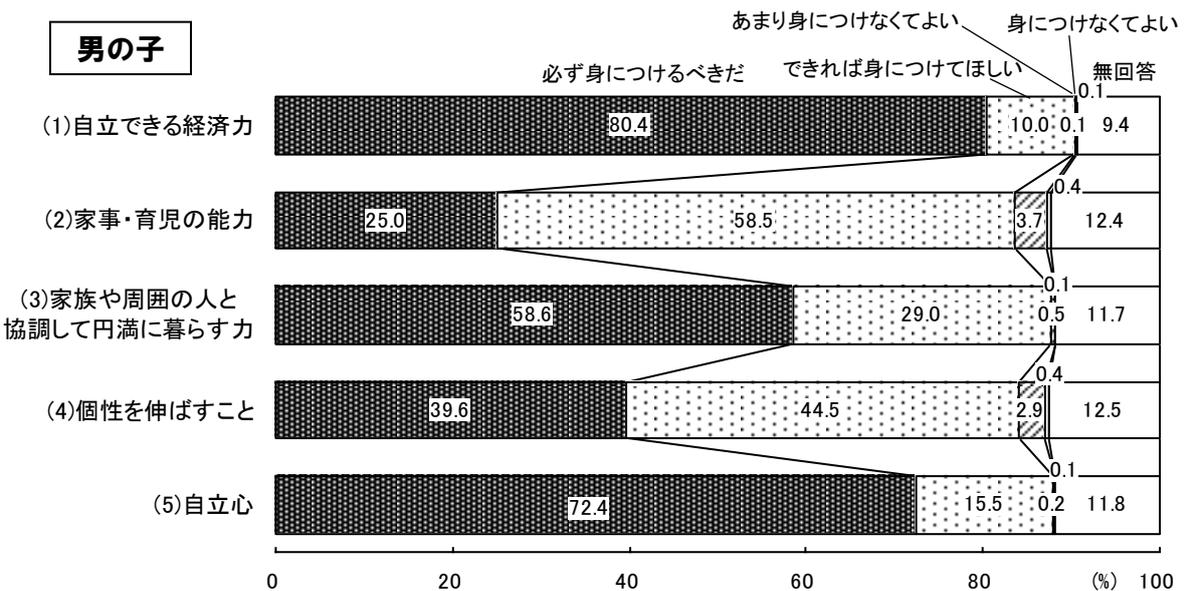
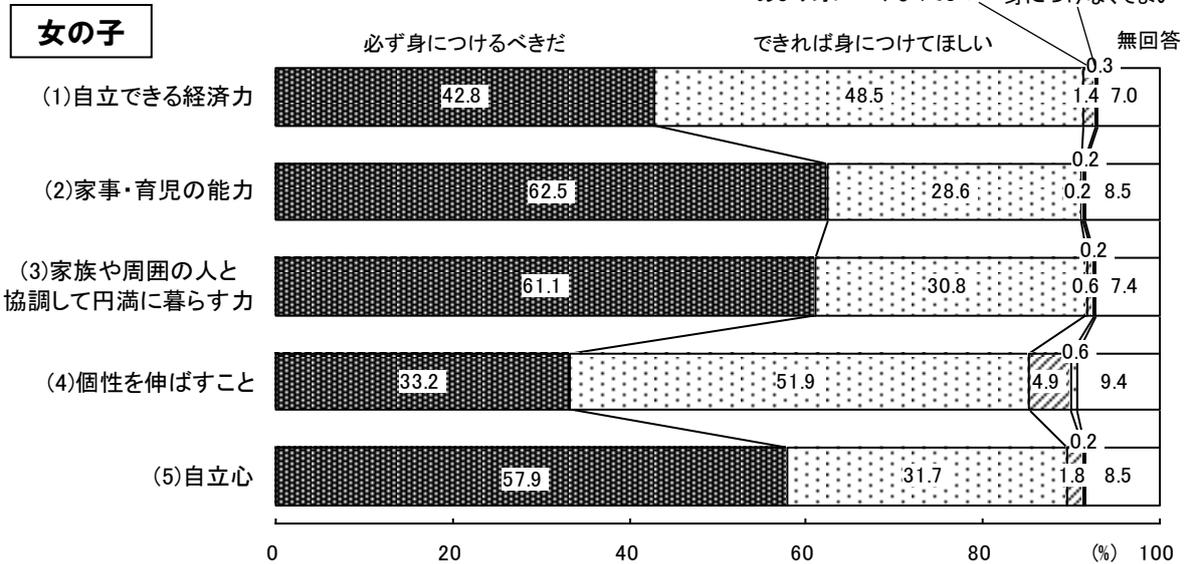
女の子より男の子の方に、より高い学歴を受けさせたい傾向を示している。

なお、性別による違いは見受けられない。

「4年制大学」とする割合で、女性では(女の子 56.5%、男の子 66.8%)10.3ポイント、男性では(女の子 51.7%、男の子 63.2%)11.5ポイント、「大学院」とする割合で、女性では(女の子 56.5%、男の子 12.1%)6.7ポイント、男性では(女の子 7.0%、男の子 11.9%)4.9ポイント、女の子より、男の子の方が高くなっている。

問 18 あなたは、次の(1)～(5)について、お子さんに、どのくらい身につけてほしいと思いますか。  
 女の子、男の子、それぞれについてお答えください。(それぞれ〇はひとつずつ)  
 ※お子さんがいない方も、仮にいと想定してお答えください。

SA/全体:3,495



[全体]

女の子、男の子とも、すべての項目で“身につける”とする割合が8割から9割を占めている。  
 なお、女の子、男の子ともに、“身につけない”とする割合は、すべての項目で1割を下回っている。

※“身につける”＝「必ず身につけるべきだ」＋「できれば身につけてほしい」

※“身につけない”＝「身につけなくてよい」＋「あまり身につけなくてよい」

また、女の子では、「必ず身につけるべきだ」とする割合は、「家事・育児の能力」(62.5%)、「家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力」(61.1%)、「自立心」(57.9%)が5割を超えている。

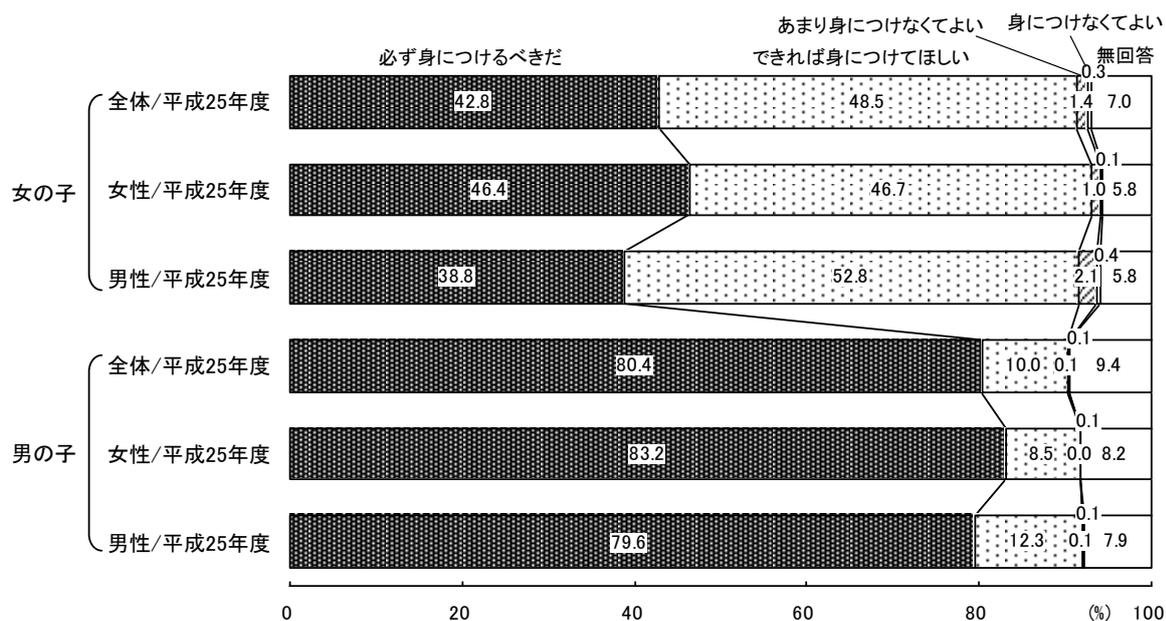
男の子では、「必ず身につけるべきだ」とする割合は、「自立できる経済力」(80.4%)、「自立心」(72.4%)、「家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力」(58.6%)が5割を超えている。

なお、「必ず身につけるべきだ」とする割合で、「家事・育児の能力」では、男の子より女の子の方 37.5 ポイント高く、一方、「自立できる経済力」では女の子より男の子の方が 37.6 ポイント高くなっている。

「必ず身につけるべきだ」とする割合	女の子		男の子
(2)家事・育児の能力	62.5%	>	25.0%
(3)家族や周囲の人と協調して円満に暮らす力	61.1%	≒	58.6%
(4)個性を伸ばすこと	33.2%	<	39.6%
(5)自立心	57.9%		72.4%
(1)自立できる経済力	42.8%		80.4%

(1) 自立できる経済力

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



**女の子**

[性別]

男女ともに、「できれば身につけてほしい」とする割合(女性 46.7%、男性 52.8%)が最も高く、次いで、「必ず身につけるべきだ」(女性 46.4%、男性 38.8%)となっている。

女の子に対して「必ず身につけるべきだ」とする割合は、男性より女性の方が 7.6 ポイント高くなっている。

また、男女とも“身につける”とする割合が、女性 93.1%、男性 91.6%となっている。

[性別・年代別]

女性では、30 歳代、40 歳代で、「必ず身につけるべきだ」とする割合(52.3%、58.1%)が最も高く、他の年代と比較して高くなっている。

女性 20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では、「できれば身につけてほしい」とする割合(48.8%、49.0%、52.4%、47.8%)が最も高くなっている。

男性では、30 歳代のみ、「必ず身につけるべきだ」とする割合(51.9%)が最も高くなっている。

また、男性 40 歳代では、「必ず身につけるべきだ」及び「できれば身につけてほしい」がともに同じ割合 47.8%となり、「必ず身につけるべきだ」とする割合が、男性 30 歳代、40 歳代において、高くなっている。

なお、男性 20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では、「できれば身につけてほしい」とする割合(56.3%、49.1%、63.6%、53.4%)が最も高くなっている。

男女とも、70 歳以上では、「無回答」の割合(女性 17.0%、男性 14.0%)が高くなっている。

**男の子**

[性別]

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」とする割合(女性 83.2%、男性 79.6%)が最も高くなっている。

また、男女とも“身につける”とする割合が、女性 91.7%、男性 91.9%となっている。

[性別・年代別]

男女とも全世代において、「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高く、7割を超え、女性では70歳以上を除いた世代で8割を超え、男性では60歳代、70歳以上を除いた世代で8割を超えている。

その中でも、女性30歳代(89.1%)、女性40歳代(88.8%)は高くなっている。

男女とも、70歳以上では、「無回答」の割合(女性19.3%、男性16.1%)が高くなっている。

「女の子」と「男の子」の比較

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」とする割合が、女の子より男の子に対して高くなっている。

また、女の子に対しては、男性より女性の方が「必ず身につけるべきだ」とする割合が高くなっている。

「自立できる経済力」	女の子	男の子	「女の子」と「男の子」の差
女性	46.4%	83.2%	36.8p(男の子>女の子)
男性	38.8%	79.6%	40.8p(男の子>女の子)
男女の差	7.6p(女性>男性)	3.6p(女性>男性)	

問18 身につけてほしいこと(1)自立できる経済力(女の子)

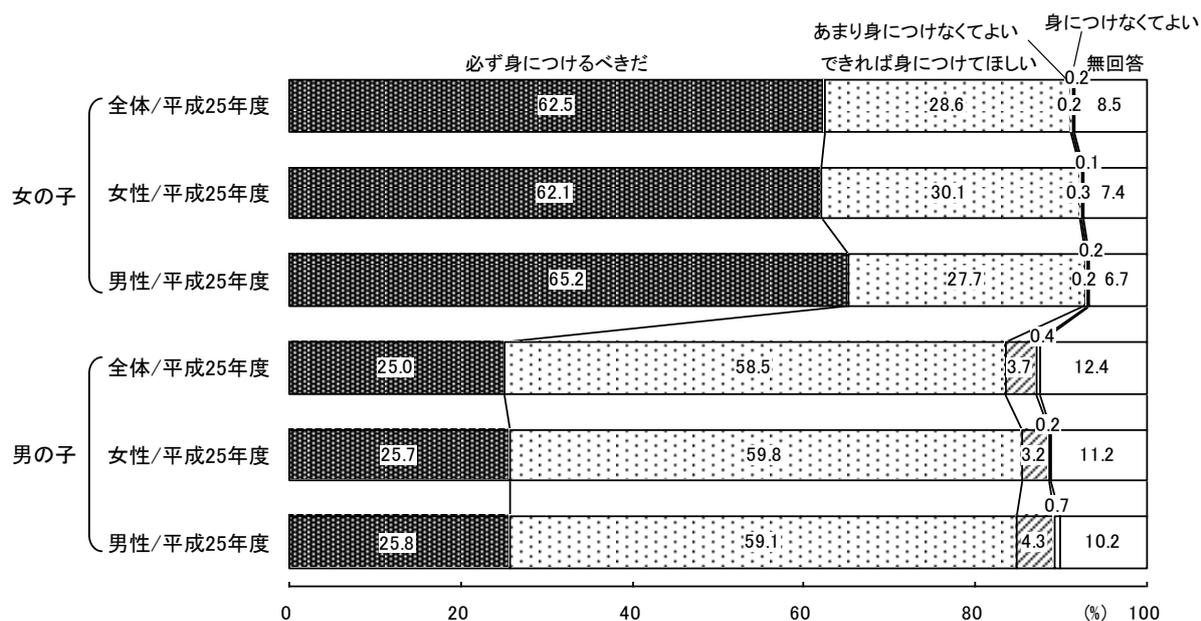
上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけなくてよい	身につけてよい	無回答
全体	3495	1497	1695	3192	57	48	9	246
	100.0	42.8	48.5	91.3	1.7	1.4	0.3	7.0
女性・20歳代	168	79	82	161	5	4	1	2
	100.0	47.0	48.8	95.8	3.0	2.4	0.6	1.2
女性・30歳代	321	168	141	309	5	5	—	7
	100.0	52.3	43.9	96.2	1.6	1.6	—	2.2
女性・40歳代	339	197	130	327	2	2	—	10
	100.0	58.1	38.3	96.4	0.6	0.6	—	2.9
女性・50歳代	314	152	154	306	2	1	1	6
	100.0	48.4	49.0	97.4	0.6	0.3	0.3	1.9
女性・60歳代	393	165	206	371	3	3	—	19
	100.0	42.0	52.4	94.4	0.8	0.8	—	4.8
女性・70歳以上	400	137	191	328	4	4	—	68
	100.0	34.3	47.8	82.1	1.0	1.0	—	17.0
女性	1938	899	906	1805	21	19	2	112
	100.0	46.4	46.7	93.1	1.1	1.0	0.1	5.8
男性・20歳代	112	45	63	108	3	2	1	1
	100.0	40.2	56.3	96.5	2.7	1.8	0.9	0.9
男性・30歳代	189	98	79	177	7	6	1	5
	100.0	51.9	41.8	93.7	3.7	3.2	0.5	2.6
男性・40歳代	228	109	109	218	4	4	—	6
	100.0	47.8	47.8	95.6	1.8	1.8	—	2.6
男性・50歳代	220	100	108	208	1	—	1	11
	100.0	45.5	49.1	94.6	0.5	—	0.5	5.0
男性・60歳代	321	90	204	294	12	10	2	15
	100.0	28.0	63.6	91.6	3.7	3.1	0.6	4.7
男性・70歳以上	292	87	156	243	8	7	1	41
	100.0	29.8	53.4	83.2	2.7	2.4	0.3	14.0
男性	1363	529	720	1249	35	29	6	79
	100.0	38.8	52.8	91.6	2.5	2.1	0.4	5.8
男女差(女性-男性)		7.6	-6.1	1.5	-1.4	-1.1	-0.3	0.0

問18 身につけてほしいこと(1)自立できる経済力(男の子)

上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけなくてよい	身につけてよい	無回答
全体	3495	2809	350	3159	6	2	4	330
	100.0	80.4	10.0	90.4	0.2	0.1	0.1	9.4
女性・20歳代	168	140	21	161	0	—	—	7
	100.0	83.3	12.5	95.8	0.0	—	—	4.2
女性・30歳代	321	286	24	310	0	—	—	11
	100.0	89.1	7.5	96.6	0.0	—	—	3.4
女性・40歳代	339	301	25	326	0	—	—	13
	100.0	88.8	7.4	96.2	0.0	—	—	3.8
女性・50歳代	314	269	26	295	1	—	1	18
	100.0	85.7	8.3	94.0	0.3	—	0.3	5.7
女性・60歳代	393	320	40	360	0	—	—	33
	100.0	81.4	10.2	91.6	0.0	—	—	8.4
女性・70歳以上	400	294	26	322	1	—	1	77
	100.0	73.5	7.0	80.5	0.3	—	0.3	19.3
女性	1938	1613	164	1777	2	0	2	159
	100.0	83.2	8.5	91.7	0.1	0.0	0.1	8.2
男性・20歳代	112	92	17	109	1	—	—	2
	100.0	82.1	15.2	97.3	0.9	0.9	—	1.8
男性・30歳代	189	154	25	179	0	—	—	10
	100.0	81.5	13.2	94.7	0.0	—	—	5.3
男性・40歳代	228	188	26	214	0	—	—	14
	100.0	82.5	11.4	93.9	0.0	—	—	6.1
男性・50歳代	220	184	21	205	0	—	—	15
	100.0	83.6	9.5	93.1	0.0	—	—	6.8
男性・60歳代	321	250	51	301	0	—	—	20
	100.0	77.9	15.9	93.8	0.0	—	—	6.2
男性・70歳以上	292	217	27	244	1	—	1	47
	100.0	74.3	9.2	83.5	0.3	—	0.3	16.1
男性	1363	1085	168	1253	2	1	1	108
	100.0	79.6	12.3	91.9	0.2	0.1	0.1	7.9
男女差(女性-男性)		3.6	-3.8	-0.2	-0.1	-0.1	0.0	0.3

(2)家事・育児の能力

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



**女の子**

**[性別]**

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」とする割合(女性 62.1%、男性 65.2%)が最も高く、次いで、「できれば身につけてほしい」(女性 30.1%、男性 27.7%)となっている。

また、男女とも“身につける”とする割合が、女性 92.2%、男性 92.9%となっている。

**[性別・年代別]**

男女とも全世代で「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高く、男女 70 歳以上を除いた世代で 6 割を超え、次いで、「できれば身につけてほしい」とする割合となっている。

「必ず身につけるべきだ」とする割合が、女性 50 歳代(71.3%)、男性 40 歳代(70.6%)、50 歳代(73.2%)では 7 割となり、高くなっている。

なお、男女とも、70 歳以上では、「無回答」の割合(女性 22.8%、男性 16.8%)が高くなっている。

**男の子**

**[性別]**

男女ともに、「できれば身につけてほしい」とする割合(女性 59.8%、男性 59.1%)が最も高く、次いで、「必ず身につけるべきだ」(女性 25.7%、男性 25.8%)となっている。

また、男女とも“身につける”とする割合が、女性 85.5%、男性 84.9%となっている。

**[性別・年代別]**

男女とも全世代において、「できれば身につけてほしい」とする割合が最も高く、「必ず身につけるべきだ」とする割合より高くなっている。

男女とも、70 歳以上では、「無回答」の割合(女性 29.0%、男性 24.3%)が高くなっている。

なお、女性 70 歳以上、男性 60 歳代、男性 70 歳以上において、“身につけなくてよい”とする割合が、6.5%、7.5%、6.8%と高い割合となっている。

## 「女の子」と「男の子」の比較

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」する割合が、男の子より女の子に対して高くなっている。

また、“身につける”とする割合では、女の子が約 9 割、男の子が約 8.5 割と女の子の方が高い傾向となっている。

「家事・育児の能力」	女の子	男の子	「女の子」と「男の子」の差
女性	62.1%	25.7%	36.4p(女の子>男の子)
男性	65.2%	25.8%	39.4p(女の子>男の子)
男女の差	3.1p(男性>女性)	0.1p(男性>女性)	

問18 身につけてほしいこと(2)家事・育児の能力(女の子)

上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答
全体	3495	2183	1001	3184	14	8	6	297
	100.0	62.5	28.6	91.1	0.4	0.2	0.2	8.5
女性・20歳代	168	110	55	165	0	—	—	3
	100.0	65.5	32.7	98.2	0.0	—	—	1.8
女性・30歳代	321	210	102	312	2	2	—	7
	100.0	65.4	31.8	97.2	0.6	0.6	—	2.2
女性・40歳代	339	213	116	329	0	—	—	10
	100.0	62.8	34.2	97.0	0.0	—	—	2.9
女性・50歳代	314	224	84	308	1	—	1	5
	100.0	71.3	26.8	98.1	0.3	—	0.3	1.6
女性・60歳代	393	240	124	364	1	1	—	28
	100.0	61.1	31.6	92.7	0.3	0.3	—	7.1
女性・70歳以上	400	205	101	306	3	2	1	91
	100.0	51.3	25.3	76.6	0.8	0.5	0.3	22.8
女性	1938	1204	583	1787	7	5	2	144
	100.0	62.1	30.1	92.2	0.4	0.3	0.1	7.4
男性・20歳代	112	71	39	110	1	—	1	1
	100.0	63.4	34.8	98.2	0.9	—	0.9	0.9
男性・30歳代	189	123	61	184	0	—	—	5
	100.0	65.1	32.3	97.4	0.0	—	—	2.6
男性・40歳代	228	161	61	222	0	—	—	6
	100.0	70.6	26.8	97.4	0.0	—	—	2.6
男性・50歳代	220	161	47	208	1	1	—	11
	100.0	73.2	21.4	94.6	0.5	0.5	—	5.0
男性・60歳代	321	215	85	300	1	1	—	20
	100.0	67.0	26.5	93.5	0.3	0.3	—	6.2
男性・70歳以上	292	157	83	240	3	1	2	49
	100.0	53.8	28.4	82.2	1.0	0.3	0.7	16.8
男性	1363	888	377	1265	6	3	3	92
	100.0	65.2	27.7	92.9	0.4	0.2	0.2	6.7

男女差(女性-男性)      -3.1    2.4    -0.7    0.0    0.1    -0.1    0.7

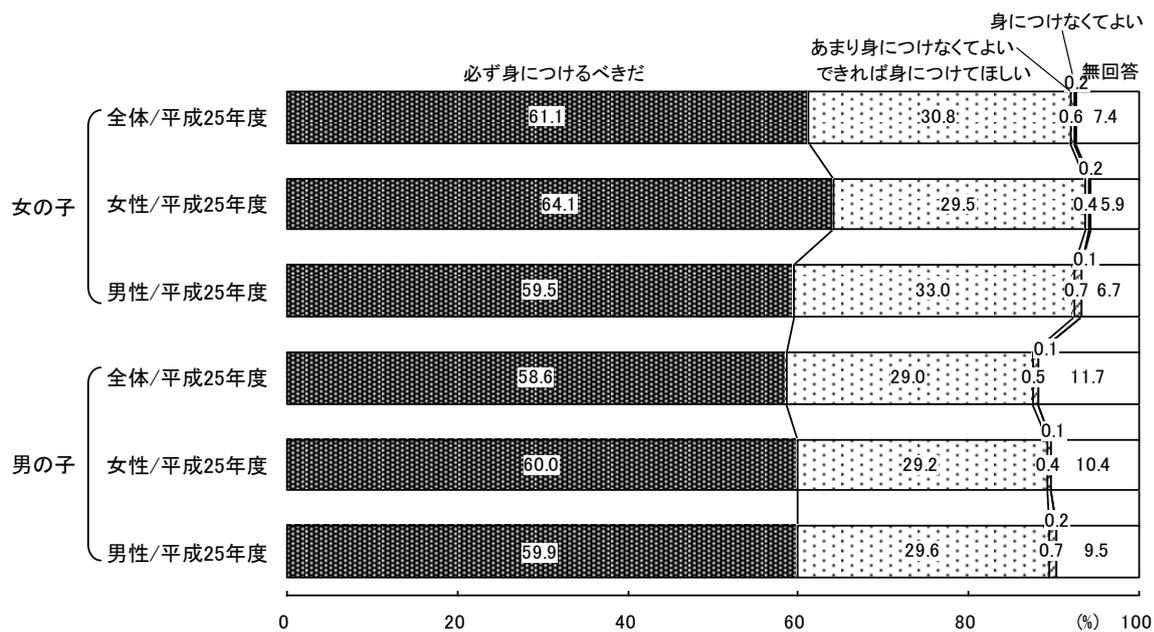
問18 身につけてほしいこと(2)家事・育児の能力(男の子)

上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答
全体	3495	873	2046	2919	143	130	13	433
	100.0	25.0	58.5	83.5	4.1	3.7	0.4	12.4
女性・20歳代	168	53	101	154	6	6	—	8
	100.0	31.5	60.1	91.6	3.6	3.6	—	4.8
女性・30歳代	321	109	192	301	8	8	—	12
	100.0	34.0	59.8	93.8	2.5	2.5	—	3.7
女性・40歳代	339	119	197	316	7	7	—	16
	100.0	35.1	58.1	93.2	2.1	2.1	—	4.7
女性・50歳代	314	87	203	290	4	3	1	20
	100.0	27.7	64.6	92.3	1.3	1.0	0.3	6.4
女性・60歳代	393	74	261	335	13	12	1	45
	100.0	18.8	66.4	85.2	3.4	3.1	0.3	11.5
女性・70歳以上	400	56	201	257	27	26	1	116
	100.0	14.0	50.3	64.3	6.8	6.5	0.3	29.0
女性	1938	498	1158	1656	65	62	3	217
	100.0	25.7	59.8	85.5	3.4	3.2	0.2	11.2
男性・20歳代	112	32	68	100	10	6	4	2
	100.0	28.6	60.7	89.3	9.0	5.4	3.6	1.8
男性・30歳代	189	76	100	176	3	2	1	10
	100.0	40.2	52.9	93.1	1.6	1.1	0.5	5.3
男性・40歳代	228	79	132	211	3	2	1	14
	100.0	34.6	57.9	92.5	1.3	0.9	0.4	6.1
男性・50歳代	220	70	127	197	5	4	1	18
	100.0	31.8	57.7	89.5	2.3	1.8	0.5	8.2
男性・60歳代	321	60	213	273	24	24	—	24
	100.0	18.7	66.4	85.1	7.5	7.5	—	7.5
男性・70歳以上	292	34	165	199	22	20	2	71
	100.0	11.6	56.5	68.1	7.5	6.8	0.7	24.3
男性	1363	351	806	1157	67	58	9	139
	100.0	25.8	59.1	84.9	5.0	4.3	0.7	10.2

男女差(女性-男性)      -0.1    0.7    0.6    -1.6    -1.1    -0.5    1.0

### (3) 家族や周囲と協調して円満に暮らす力

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



#### 女子

##### [性別]

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」とする割合(女性 64.1%、男性 59.5%)が最も高く、次いで、「できれば身につけてほしい」(女性 29.5%、男性 33.0%)となっている。

また、男女とも、「身につける」とする割合が女性 93.6%、男性 92.5%となっている。

##### [性別・年代別]

男女とも全世代において、「必ず身につけるべきだ」とする割合最も高く、70 歳以上を除く世代において 5 割を超えている。

なお、70 歳以上の数値は、女性 49.0%、男性 46.6%となっている。

また、女性では 20 歳代、30 歳代、40 歳代で、「必ず身につけるべきだ」とする割合が 77.4%、75.1%、70.5%となり、女性 20 歳代では、約 8 割と、年代が若くなるほど、高い数値を示している。

なお、20 歳代(女性 77.4%、男性 60.7%)、30 歳代(女性 75.1%、男性 69.8%)、40 歳代(女性 70.5%、男性 65.4%)では、「必ず身につけるべきだ」とする割合が、男性より女性の方が特に高くなっている。

「無回答」の割合が、男女とも、70 歳以上(女性 16.0%、男性 15.4%)で高くなっている。

#### 男子

##### [性別]

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」とする割合(女性 60.0%、男性 59.9%)が最も高く、次いで、「できれば身につけてほしい」(女性 29.2%、男性 29.6%)となっている。

なお、「身につける」とする割合が女性 89.2%、男性 89.5%となっている。

##### [性別・年代別]

男女とも全世代において、「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高く、70 歳以上を除く世代において 5 割を超えている。

なお、70 歳以上の数値は、女性 41.8%、男性 46.6%となっている。

また、女性 20 歳代、30 歳代では、73.8%、71.0%、40 歳代、50 歳代で 67.8%、64.6%、60 歳代で 52.9%

となり、年代が若くなるほど、高い数値を示している。

男性では、「必ず身につけるべきだ」とする割合が、30歳代(70.9%)が他の年代に比べて高くなっている。  
 なお、男女とも「無回答」の割合が、70歳以上(女性 25.5%、男性 20.9%)で高くなっている。

**「女の子」と「男の子」の比較**

女の子、男の子により、また、男女による割合とも、大きな差は見られない。

問18 身につけてほしいこと(3)円満に暮らすか(女の子)

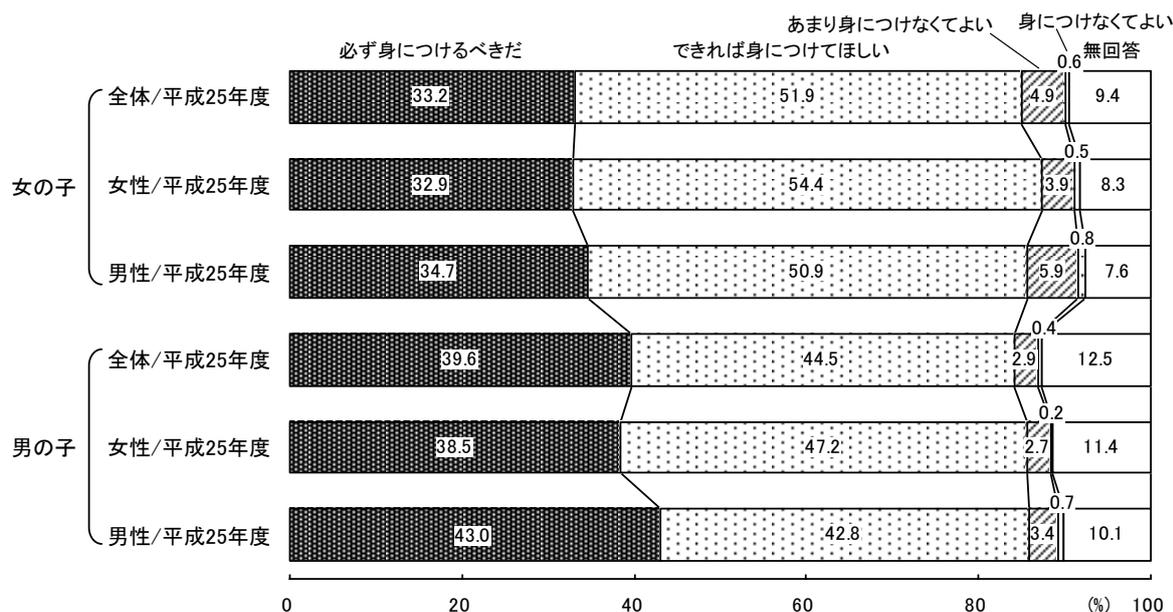
上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけなくてよい	身につけなくてよい	無回答
全体	3495 100.0	2135 61.1	1075 30.8	3210 91.9	26 0.8	20 0.6	6 0.2	259 7.4
女性・20歳代	168 100.0	130 77.4	35 20.8	165 98.2	0 0.0	—	—	3 1.8
女性・30歳代	321 100.0	241 75.1	72 22.4	313 97.5	0 0.0	—	—	8 2.5
女性・40歳代	339 100.0	239 70.5	89 26.3	328 96.8	1 0.3	1 0.3	—	10 2.9
女性・50歳代	314 100.0	210 66.9	97 30.9	307 97.8	1 0.3	—	1 0.3	6 1.9
女性・60歳代	393 100.0	224 57.0	144 36.6	368 93.6	2 0.6	1 0.3	1 0.3	23 5.9
女性・70歳以上	400 100.0	196 49.0	133 33.3	329 82.3	7 1.8	5 1.3	2 0.5	64 16.0
女性	1938 100.0	1242 64.1	571 29.5	1813 93.6	11 0.6	7 0.4	4 0.2	114 5.9
男性・20歳代	112 100.0	68 60.7	39 34.8	107 95.5	4 3.6	3 2.7	1 0.9	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	132 69.8	51 27.0	183 96.8	1 0.5	1 0.5	—	5 2.6
男性・40歳代	228 100.0	149 65.4	73 32.0	222 97.4	0 0.0	—	—	6 2.6
男性・50歳代	220 100.0	140 63.6	68 30.9	208 94.5	1 0.5	1 0.5	—	11 5.0
男性・60歳代	321 100.0	186 57.9	110 34.3	296 92.2	2 0.6	2 0.6	—	23 7.2
男性・70歳以上	292 100.0	136 46.6	108 37.0	244 83.6	3 1.0	2 0.7	1 0.3	45 15.4
男性	1363 100.0	811 59.5	450 33.0	1261 92.5	11 0.8	9 0.7	2 0.1	91 6.7
男女差(女性-男性)		4.6	-3.5	1.1	-0.2	-0.3	0.1	-0.8

問18 身につけてほしいこと(3)円満に暮らすか(男の子)

上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけなくてよい	身につけなくてよい	無回答
全体	3495 100.0	2049 58.6	1012 29.0	3061 87.6	24 0.6	19 0.5	5 0.1	410 11.7
女性・20歳代	168 100.0	124 73.8	36 21.4	160 95.2	0 0.0	—	—	8 4.8
女性・30歳代	321 100.0	228 71.0	81 25.2	309 96.2	0 0.0	—	—	12 3.7
女性・40歳代	339 100.0	230 67.8	92 27.1	322 94.9	1 0.3	1 0.3	—	16 4.7
女性・50歳代	314 100.0	203 64.6	88 28.0	291 92.6	1 0.3	—	1 0.3	22 7.0
女性・60歳代	393 100.0	208 52.9	142 36.1	350 89.0	2 0.5	2 0.5	—	41 10.4
女性・70歳以上	400 100.0	167 41.8	125 31.3	292 73.1	6 1.6	5 1.3	1 0.3	102 25.5
女性	1938 100.0	1162 60.0	565 29.2	1727 89.2	10 0.5	8 0.4	2 0.1	201 10.4
男性・20歳代	112 100.0	73 65.2	32 28.6	105 93.8	5 4.5	4 3.6	1 0.9	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	134 70.9	43 22.8	177 93.7	2 1.1	2 1.1	—	10 5.3
男性・40歳代	228 100.0	152 66.7	61 26.8	213 93.5	1 0.4	1 0.4	—	14 6.1
男性・50歳代	220 100.0	140 63.6	61 27.7	201 91.3	1 0.5	1 0.5	—	18 8.2
男性・60歳代	321 100.0	182 56.7	114 35.5	296 92.2	1 0.3	—	1 0.3	24 7.5
男性・70歳以上	292 100.0	136 46.6	92 31.5	228 78.1	3 1.0	2 0.7	1 0.3	61 20.9
男性	1363 100.0	817 59.9	404 29.6	1221 89.5	13 0.9	10 0.7	3 0.2	129 9.5
男女差(女性-男性)		0.1	-0.4	-0.3	-0.4	-0.3	-0.1	0.9

#### (4) 個性を伸ばすこと

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



#### 女の子

##### [性別]

男女ともに、「できれば身につけてほしい」とする割合(女性 54.4%、男性 50.9%)が最も高く、次いで、「必ず身につけるべきだ」(女性 32.9%、男性 34.7%)となっている。

なお、「身につける」とする割合は、女性 87.3%、男性 85.6%となっている。

##### [性別・年代別]

男女ともに全世代において、「できれば身につけてほしい」とする割合が最も高く、男性 40 歳代、男女 70 歳以上を除いた世代で 5 割を超えている。

なお、男性 40 歳代(47.4%)、70 歳以上(女性 42.8%、男性 49.7%)となっている。

また、「必ず身につけるべきだ」とする割合で、女性 20 歳代(45.2%)、男性 40 歳代(46.5%)で高くなっている。

なお、「無回答」の割合が、70 歳以上(女性 24.8%、男性 19.9%)で高くなっている。

#### 男の子

##### [性別]

女性では、「できれば身につけてほしい」とする割合(47.2%)が、男性では、「必ず身につけるべきだ」(43.0%)とする割合が最も高くなっている。

また、「身につける」とする割合は、女性 85.7%、男性 85.8%となっている。

##### [性別・年代別]

女性では、70 歳以上を除いた世代で「できれば身につけてほしい」とする割合が最も高くなっている。

男性では、20 歳代、30 歳代、40 歳代、60 歳代において、「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高く、なかでも、男性 40 歳代(51.3%)が高くなっている。

また、男性 50 歳代、70 歳以上では、「できれば身につけてほしい」とする割合(47.3%、41.1%)が最も高くなっている。

なお、「無回答」の割合が、女性 70 歳以上(女性 29.8%、男性 22.9%)で高くなっている。

「女の子」と「男の子」の比較

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」する割合が、女の子より男の子に対して高くなっている。

「必ず身につけるべきだ」とする割合	女の子	男の子	「女の子」と「男の子」の差
女性	32.9%	38.5%	5.6p(男の子>女の子)
男性	34.7%	43.0%	8.0p(男の子>女の子)
男女の差	2.0p(男性>女性)	4.5p(男性>女性)	

問18 身につけてほしいこと(4)個性を伸ばすこと(女の子)

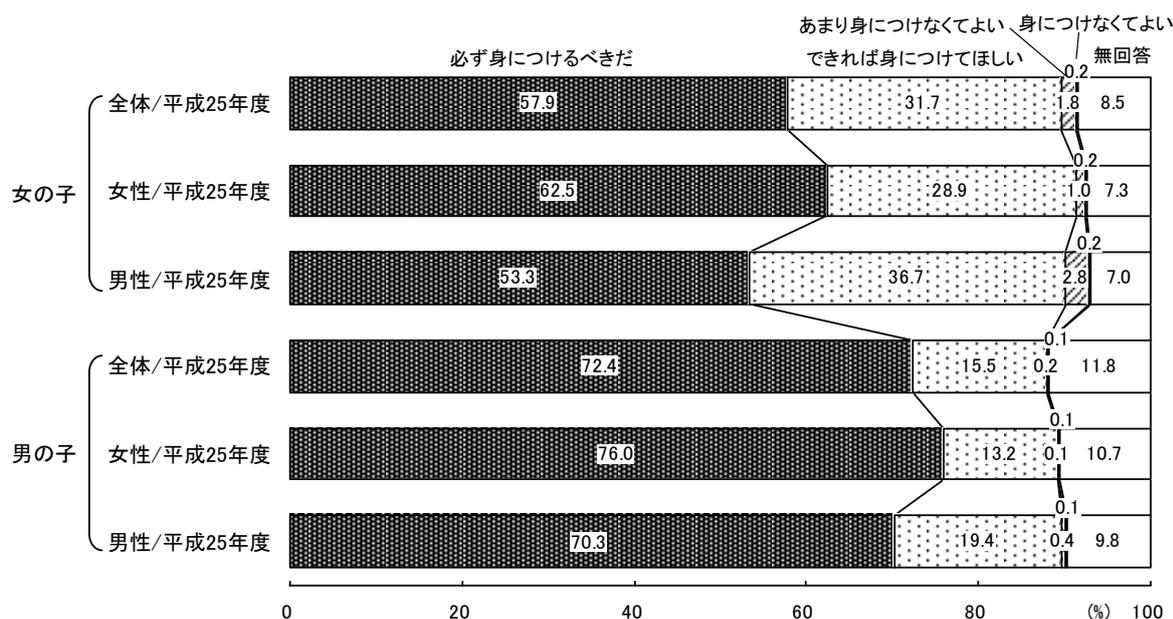
上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけてくれない	身につけてくれない	無回答
全体	3495 100.0	1159 33.2	1814 51.9	2973 85.1	193 5.5	171 4.9	22 0.6	329 9.4
女性・20歳代	168 100.0	76 45.2	86 51.2	162 96.4	2 1.2	2 1.2	—	4 2.4
女性・30歳代	321 100.0	116 36.1	185 57.6	301 93.7	12 3.7	11 3.4	1 0.3	8 2.5
女性・40歳代	339 100.0	126 37.2	188 55.5	314 92.7	14 4.1	14 4.1	—	11 3.2
女性・50歳代	314 100.0	107 34.1	188 59.9	295 94.0	13 4.1	11 3.5	2 0.6	6 1.9
女性・60歳代	393 100.0	114 29.0	233 59.3	347 88.3	13 3.3	11 2.8	2 0.5	33 8.4
女性・70歳以上	400 100.0	98 24.5	171 42.8	269 67.3	32 8.1	27 6.8	5 1.3	99 24.8
女性	1938 100.0	637 32.9	1054 54.4	1691 87.3	86 4.4	76 3.9	10 0.5	161 8.3
男性・20歳代	112 100.0	40 35.7	59 52.7	99 88.4	12 10.7	12 10.7	—	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	72 38.1	97 51.3	169 89.4	15 7.9	12 6.3	3 1.6	5 2.6
男性・40歳代	228 100.0	106 46.5	108 47.4	214 93.9	8 3.5	7 3.1	1 0.4	6 2.6
男性・50歳代	220 100.0	77 35.0	110 50.0	187 85.0	19 8.7	16 7.3	3 1.4	14 6.4
男性・60歳代	321 100.0	108 33.6	174 54.2	282 87.9	19 5.9	16 5.0	3 0.9	20 6.2
男性・70歳以上	292 100.0	70 24.0	145 49.7	215 73.7	19 6.5	18 6.2	1 0.3	58 19.9
男性	1363 100.0	473 34.7	694 50.9	1167 85.6	92 6.7	81 5.9	11 0.8	104 7.6
男女差(女性-男性)		-1.8	3.5	1.7	-2.3	-2.0	-0.3	0.7

問18 身につけてほしいこと(4)個性を伸ばすこと(男の子)

上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけてくれない	身につけてくれない	無回答
全体	3495 100.0	1384 39.6	1557 44.5	2941 84.1	116 3.3	103 2.9	13 0.4	438 12.5
女性・20歳代	168 100.0	73 43.5	84 50.0	157 93.5	2 1.2	2 1.2	—	9 5.4
女性・30歳代	321 100.0	126 39.3	174 54.2	300 93.5	9 2.8	9 2.8	—	12 3.7
女性・40歳代	339 100.0	143 42.2	170 50.1	313 92.3	11 3.2	11 3.2	—	15 4.4
女性・50歳代	314 100.0	128 40.8	161 51.3	289 92.1	5 1.6	4 1.3	1 0.3	20 6.4
女性・60歳代	393 100.0	143 36.4	195 49.6	338 86.0	9 2.3	9 2.3	—	46 11.7
女性・70歳以上	400 100.0	134 33.5	128 32.0	262 65.5	19 4.8	17 4.3	2 0.5	119 29.8
女性	1938 100.0	747 38.5	915 47.2	1662 85.7	55 2.9	52 2.7	3 0.2	221 11.4
男性・20歳代	112 100.0	52 46.4	49 43.8	101 90.2	9 8.0	8 7.1	1 0.9	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	87 46.0	80 42.3	167 88.3	12 6.4	9 4.8	3 1.6	10 5.3
男性・40歳代	228 100.0	117 51.3	92 40.4	209 91.7	4 1.8	4 1.8	—	15 6.6
男性・50歳代	220 100.0	84 38.2	104 47.3	188 85.5	12 5.4	10 4.5	2 0.9	20 9.1
男性・60歳代	321 100.0	146 45.5	138 43.0	284 88.5	14 4.3	12 3.7	2 0.6	23 7.2
男性・70歳以上	292 100.0	100 34.2	120 41.1	220 75.3	5 1.7	4 1.4	1 0.3	67 22.9
男性	1363 100.0	586 43.0	584 42.8	1170 85.8	56 4.1	47 3.4	9 0.7	137 10.1
男女差(女性-男性)		-4.5	4.4	-0.1	-1.2	-0.7	-0.5	1.3

## (5) 自立心

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



### 女の子

#### [性別]

男女ともに「必ず身につけるべきだ」とする割合(女性 62.5%、男性 53.3%)が最も高く、次いで「できれば身につけてほしい」(28.9%、36.7%)となっている。

また、「身につけてほしい」とする割合は、女性 91.4%、男性 90.0%となっている。

なお、「必ず身につけるべきだ」とする割合が、男性より女性の方が 9.2 ポイント高くなっている。

#### [性別・年代別]

男女ともに全世代において、「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高く、男性 70 歳以上を除き、5 割を超えている。

女の子に「自立心」を「必ず身につけるべきだ」とする割合が、男性より女性の方が、すべての世代で高くなっている。

「無回答」の割合が、男女とも、70 歳以上(女性 22.0%、男性 18.8%)で高くなっている。

### 男の子

#### [性別]

男女ともに「必ず身につけるべきだ」とする割合(女性 76.0%、男性 70.3%)が最も高く、次いで「できれば身につけてほしい」(13.2%、19.4%)となっている。

また、「身につけてほしい」とする割合は、女性 89.2%、男性 89.7%となっている。

なお、「必ず身につけるべきだ」とする割合が、男性より女性の方が、5.7 ポイント高くなっている。

#### [性別・年代別]

男女ともに全世代において、「必ず身につけるべきだ」とする割合が最も高く、

女性 30 歳代、40 歳代では「必ず身につけるべきだ」とする割合が 80.1%、81.7%と高くなっている。

男性では、20 歳代、60 歳代で 74.1%、74.5%と高くなっている。

なお、すべての世代で、男性より女性の方が高くなっている。

「無回答」の割合が、男女とも70歳以上(女性27.3%、男性22.3%)で高くなっている。

### 「女の子」と「男の子」の比較

男女ともに、「必ず身につけるべきだ」する割合が、女の子より男の子に対して高くなっている。

また、男性より女性の方が、女の子も、男の子も、数値が高く、女性の方が自立心をつけるべきだと考えている。

「自立心」	女の子	男の子	「女の子」と「男の子」の差
女性	62.5%	76.0%	13.5p(男の子>女の子)
男性	53.3%	70.3%	17.0p(男の子>女の子)
男女の差	9.2p(女性>男性)	5.7p(女性>男性)	

問18 身につけてほしいこと(5)自立心(女の子)

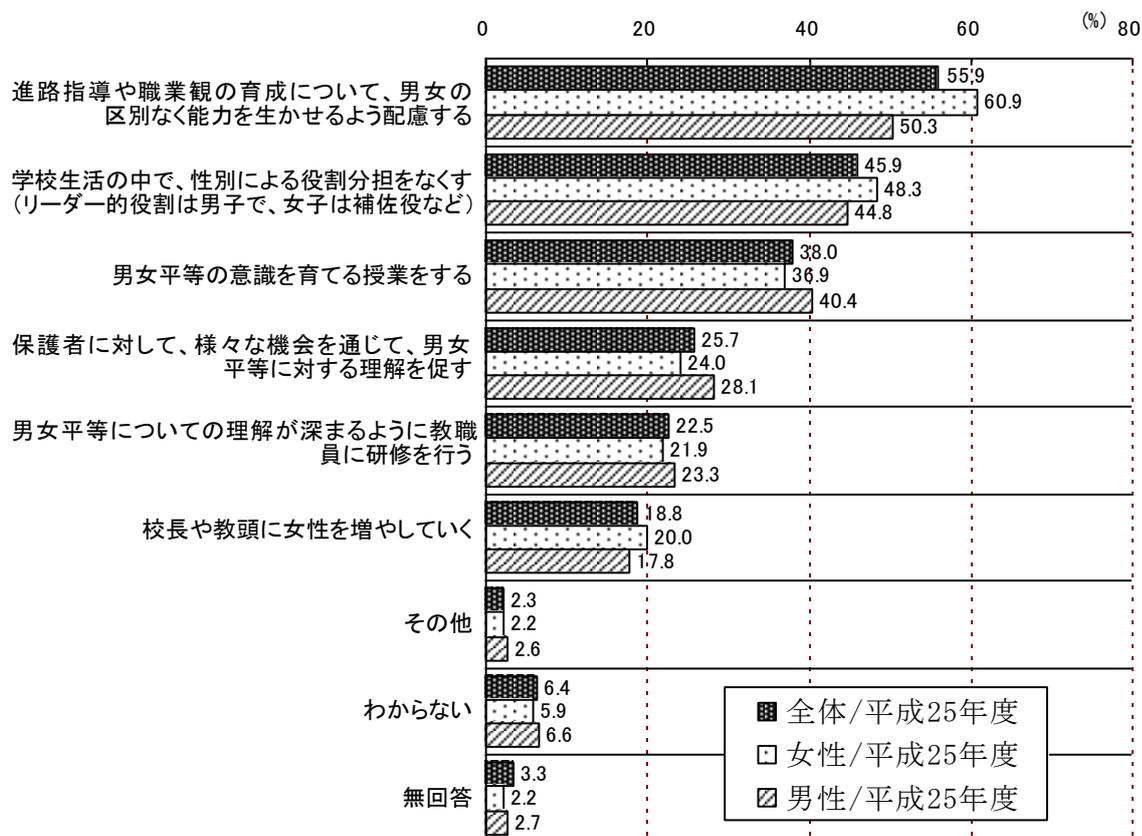
上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答
全体	3495	2022	1108	3130	68	62	6	297
	100.0	57.9	31.7	89.6	2.0	1.8	0.2	8.5
女性・20歳代	168	111	52	163	2	2	—	3
	100.0	66.1	31.0	97.1	1.2	1.2	—	1.8
女性・30歳代	321	205	103	308	5	5	—	8
	100.0	63.9	32.1	96.0	1.6	1.6	—	2.5
女性・40歳代	339	229	97	326	2	2	—	11
	100.0	67.6	28.6	96.2	0.6	0.6	—	3.2
女性・50歳代	314	210	94	304	4	3	1	6
	100.0	66.9	29.9	96.8	1.3	1.0	0.3	1.9
女性・60歳代	393	248	117	365	2	1	1	26
	100.0	63.1	29.8	92.9	0.6	0.3	0.3	6.6
女性・70歳以上	400	209	96	305	7	6	1	88
	100.0	52.3	24.0	76.3	1.8	1.5	0.3	22.0
女性	1938	1212	561	1773	23	20	3	142
	100.0	62.5	28.9	91.4	1.2	1.0	0.2	7.3
男性・20歳代	112	59	47	106	5	5	—	1
	100.0	52.7	42.0	94.7	4.5	4.5	—	0.9
男性・30歳代	189	107	73	180	4	3	1	5
	100.0	56.6	38.6	95.2	2.1	1.6	0.5	2.6
男性・40歳代	228	133	83	216	6	5	1	6
	100.0	58.3	36.4	94.7	2.6	2.2	0.4	2.6
男性・50歳代	220	129	75	204	4	4	—	12
	100.0	58.6	34.1	92.7	1.8	1.8	—	5.5
男性・60歳代	321	176	117	293	11	11	—	17
	100.0	54.8	36.4	91.2	3.4	3.4	—	5.3
男性・70歳以上	292	122	104	226	11	10	1	55
	100.0	41.8	35.6	77.4	3.7	3.4	0.3	18.8
男性	1363	726	500	1226	41	38	3	96
	100.0	53.3	36.7	90.0	3.0	2.8	0.2	7.0
男女差(女性-男性)		9.2	-7.8	1.4	-1.8	-1.8	0.0	0.3

問18 身につけてほしいこと(5)自立心(男の子)

上段:実数 下段:横%	合計	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	“身につける”	“身につけない”	あまり身につけてよい	身につけてよい	無回答
全体	3495	2529	543	3072	11	7	4	412
	100.0	72.4	15.5	87.9	0.3	0.2	0.1	11.8
女性・20歳代	168	130	30	160	0	—	—	8
	100.0	77.4	17.9	95.3	0.0	—	—	4.8
女性・30歳代	321	257	52	309	0	—	—	12
	100.0	80.1	16.2	96.3	0.0	—	—	3.7
女性・40歳代	339	277	47	324	0	—	—	15
	100.0	81.7	13.9	95.6	0.0	—	—	4.4
女性・50歳代	314	246	47	293	1	—	1	20
	100.0	78.3	15.0	93.3	0.3	—	0.3	6.4
女性・60歳代	393	298	51	349	1	1	—	43
	100.0	75.8	13.0	88.8	0.3	0.3	—	10.9
女性・70歳以上	400	263	27	290	1	—	1	109
	100.0	65.8	6.8	72.6	0.3	—	0.3	27.3
女性	1938	1473	255	1728	3	1	2	207
	100.0	76.0	13.2	89.2	0.2	0.1	0.1	10.7
男性・20歳代	112	83	25	108	2	2	—	2
	100.0	74.1	22.3	96.4	1.8	1.8	—	1.8
男性・30歳代	189	130	47	177	2	1	1	10
	100.0	68.8	24.9	93.7	1.0	0.5	0.5	5.3
男性・40歳代	228	164	49	213	0	—	—	15
	100.0	71.9	21.5	93.4	0.0	—	—	6.6
男性・50歳代	220	155	46	201	1	1	—	18
	100.0	70.5	20.9	91.4	0.5	0.5	—	8.2
男性・60歳代	321	239	59	298	0	—	—	23
	100.0	74.5	18.4	92.9	0.0	—	—	7.2
男性・70歳以上	292	187	38	225	2	1	1	65
	100.0	64.0	13.0	77.0	0.6	0.3	0.3	22.3
男性	1363	958	265	1223	7	5	2	133
	100.0	70.3	19.4	89.7	0.5	0.4	0.1	9.8
男女差(女性-男性)		5.7	-6.2	-0.5	-0.3	-0.3	0.0	0.9

問 19 男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと、あなたが思うものはどれですか。(〇は3つまで)

ML3/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」とする割合(55.9%)が最も高く、次いで、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす(リーダー的な役割は男子で、女子は補佐役など)」45.9%、「男女平等の意識を育てる授業をする」38.0%となっている。

[性別]

男女とも、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」とする割合(女性 60.9%、男性 50.3%)が最も高く、次いで、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」(女性 48.3%、男性 44.8%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(36.9%、男性 40.4%)が上位3位となっている。

また、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」とする割合では、男性より女性の方が、10.6ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

女性では70歳以上を除く世代では、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」とする割合が最も高く5割を超え、次いで、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」でもおおむね5割となり、「男女平等の意識を育てる授業をする」が続いている。

女性70歳以上では、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」とする割合(64.3%)が最も高く、次いで、「男女平等の意識を育てる授業をする」(41.0%)、「保護者に対して

男女共同参画の理解を促す」(33.5%)となっている。

なお、女性 20 歳代、30 歳代では、「校長や教頭に女性を増やしていく」とする割合が 27.4%、30.8%と高くなっている。

また、女性 60 歳代、70 歳上においては、「保護者に対して男女共同参画の理解を促す」が 30.8%、33.5%と高くなっている。

男性 20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」とする割合(41.1%、49.5%、60.1%、52.7%)が最も高くなっている。

男性 30 歳代、40 歳代では、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」とする割合(46.0%、53.5%)が最も高く、40 歳代で高くなっている。

また、「男女平等の意識を育てる授業をする」とする割合では、男性 40 歳代より上の年代で 4 割以上を占め、なかでも 70 歳以上(48.6%)で高くなっている。

また、「保護者に対して男女平等の理解を促す」とする割合が、男性においても、60 歳代(32.7%)、70 歳上(33.6%)で高くなっている。

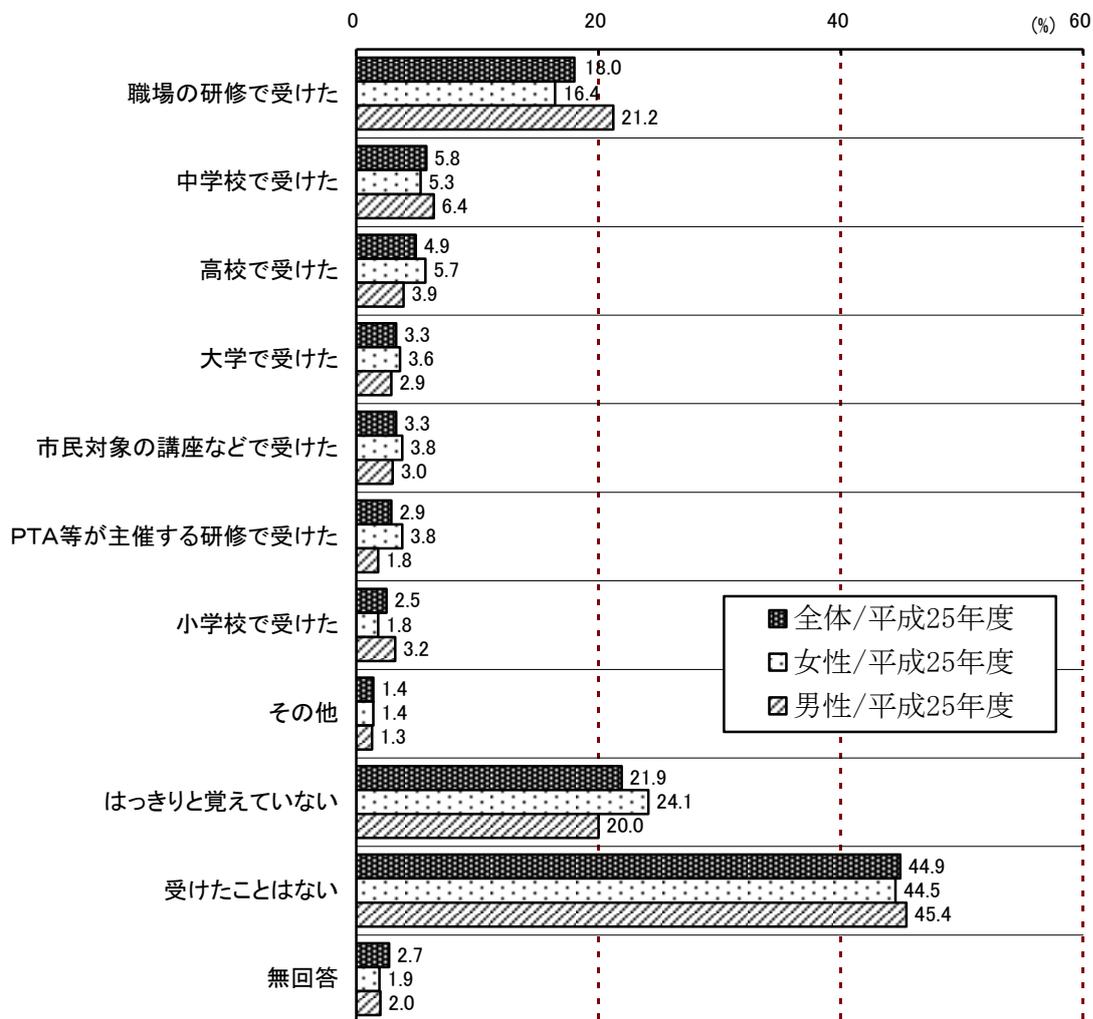
問19 男女平等の推進のために学校で行うとよいと思うもの

上段:実数	合計	に学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	別になくつよう配慮する	進路指導や職業観の育成	男女平等の意識を育てる授業をする	男女平等について教職員に研修を行う	校長や教頭に女性を増やしていく	保護者に対して、様々な機会を通じて、男女平等に対する理解を促す	その他	わからない	無回答
全体	3495	1603	1953	1329	785	658	897	81	222	114	
	100.0	45.9	55.9	38.0	22.5	18.8	25.7	2.3	6.4	3.3	
女性・20歳代	168	83	86	51	38	46	33	6	10	1	
	100.0	49.4	51.2	30.4	22.6	27.4	19.6	3.6	6.0	0.6	
女性・30歳代	321	169	177	104	66	99	43	7	13	1	
	100.0	52.6	55.1	32.4	20.6	30.8	13.4	2.2	4.0	0.3	
女性・40歳代	339	182	184	135	66	68	64	9	30	4	
	100.0	53.7	54.3	39.8	19.5	20.1	18.9	2.7	8.8	1.2	
女性・50歳代	314	166	205	107	70	63	71	7	16	1	
	100.0	52.9	65.3	34.1	22.3	20.1	22.6	2.2	5.1	0.3	
女性・60歳代	393	212	270	154	82	53	121	8	20	7	
	100.0	53.9	68.7	39.2	20.9	13.5	30.8	2.0	5.1	1.8	
女性・70歳以上	400	123	257	164	103	56	134	5	26	28	
	100.0	30.8	64.3	41.0	25.8	14.0	33.5	1.3	6.5	7.0	
女性	1938	936	1180	716	425	387	466	42	115	42	
	222.3	48.3	60.9	36.9	21.9	20.0	24.0	2.2	5.9	2.2	
男性・20歳代	112	45	46	31	21	25	29	5	8	1	
	100.0	40.2	41.1	27.7	18.8	22.3	25.9	4.5	7.1	0.9	
男性・30歳代	189	87	85	59	39	42	38	8	18	3	
	100.0	46.0	45.0	31.2	20.6	22.2	20.1	4.2	9.5	1.6	
男性・40歳代	228	122	99	97	43	47	54	4	20	4	
	100.0	53.5	43.4	42.5	18.9	20.6	23.7	1.8	8.8	1.8	
男性・50歳代	220	101	109	88	62	37	58	11	12	4	
	100.0	45.9	49.5	40.0	28.2	16.8	26.4	5.0	5.5	1.8	
男性・60歳代	321	156	193	134	72	56	105	2	14	9	
	100.0	48.6	60.1	41.7	22.4	17.4	32.7	0.6	4.4	2.8	
男性・70歳以上	292	99	154	142	81	36	98	6	18	16	
	100.0	33.9	52.7	48.6	27.7	12.3	33.6	2.1	6.2	5.5	
男性	1363	610	686	551	318	243	383	36	90	37	
	216.6	44.8	50.3	40.4	23.3	17.8	28.1	2.6	6.6	2.7	
男女差(女性-男性)		3.5	10.6	-3.5	-1.4	2.2	-4.1	-0.4	-0.7	-0.5	

## 6. 男女共同参画に関する学習経験などについて

問 20 あなたは、これまでに学校、職場及び地域で、男女平等や男女共同参画(セクシュアル・ハラスメント、DV、ワーク・ライフ・バランスなどの研修も含む)に関する学習を経験したことがありますか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



### [全体]

「これまでに学校、職場及び地域で、男女平等や男女共同参画(セクシュアル・ハラスメント、DV、ワーク・ライフ・バランスなどの研修も含む)に関する学習を経験した」ことがある内容として、「職場の研修で受けた」とする割合が、18.0%と最も高くなっている。

なお、「受けたことはない」とする割合が 44.9%、「はっきりと覚えていない」とする割合が 21.9%となっている。

### [性別]

男女ともに「これまでに学校、職場及び地域で、男女平等や男女共同参画(セクシュアル・ハラスメント、DV、ワーク・ライフ・バランスなどの研修も含む)に関する学習を経験した」ことがある内容として、「職場での研修で受けた」とする割合が(女性 16.4%、男性 21.2%)が最も高く、女性より男性の方が 4.8 ポイント高くなっている。

また、「受けたことはない」とする割合が、女性 44.5%、男性 45.4%となっている。

「はっきりとおぼえていない」とする割合では、女性 24.1%、男性 20.0%となっている。

[性別・年代別]

女性 20 歳代では、「高校で受けた」とする割合が 28.0%と最も高くなっている。

また、女性 30 歳代から 60 歳代では、「職場の研修で受けた」とする割合が最も高く、なかでも女性 30 歳代 (28.3%) では、他の年代に比べて高くなっている。

なお、女性 60 歳代 (59.3%)、70 歳以上 (57.5%) では、「受けたことはない」とする割合が約 6 割となっている。

男性は、20 歳代では、「中学校で受けた」とする割合が 26.8%と最も高くなっている。

また、男性 30 歳代から 60 歳代では、「職場の研修で受けた」とする割合が最も高く、なかでも男性 50 歳代 (30.9%) では、他の年代に比べて高くなっている。

なお、男性 60 歳代 (53.6%)、70 歳以上 (57.2%) では、「受けたことはない」とする割合が約 5.5 割となっている。

「小学校で受けた」、「中学校で受けた」、「高校で受けた」、「大学で受けた」とする割合が男女とも 20 歳代で、他の年代に比べて高くなっている。

「PTA等が主催する研修で受けた」とする割合では、女性 50 歳代で 6.4%となっている。

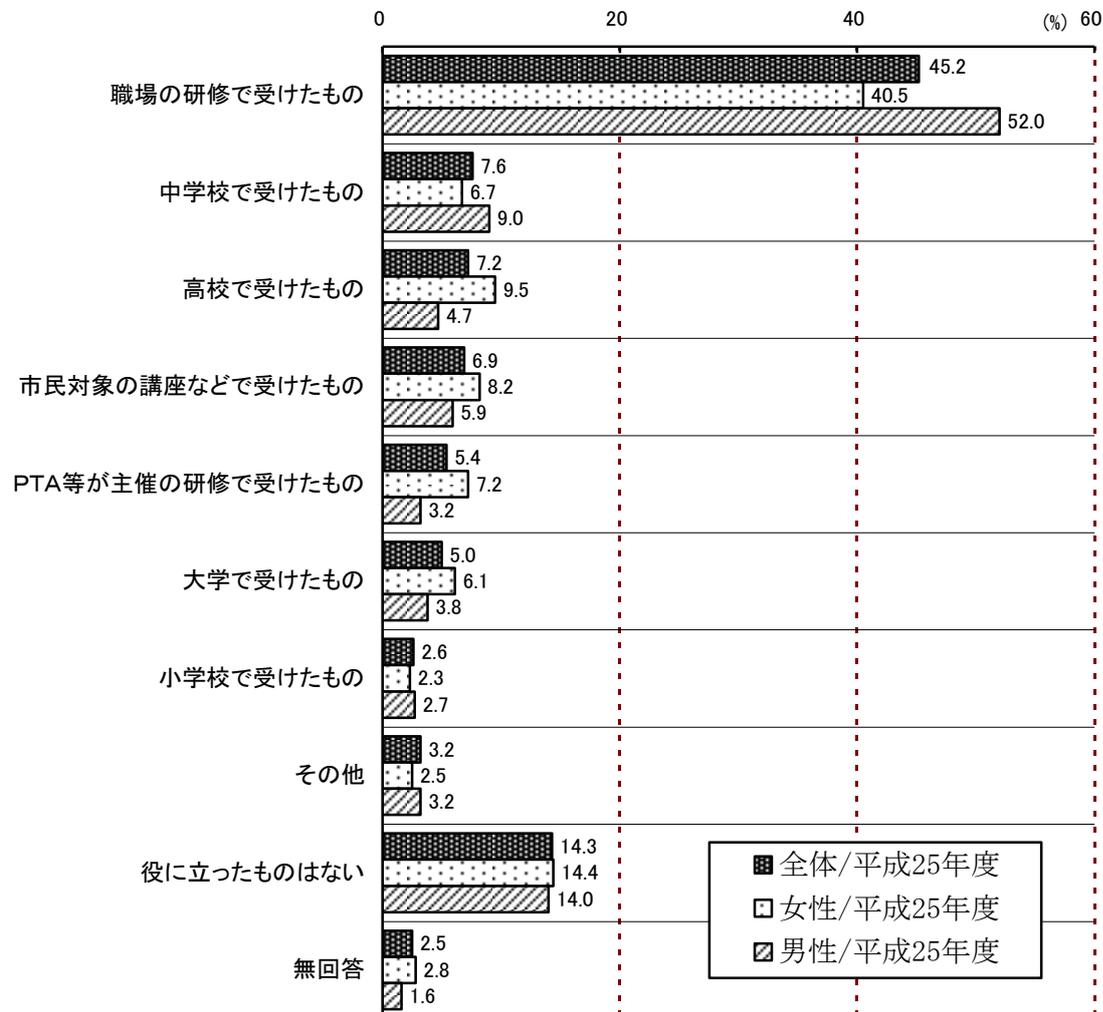
「市民対象の講座等で受けた」とする割合では、男女 60 歳代(女性 7.4%、男性 5.6%)、女性 70 歳以上 (5.3%)となっている。

問20 男女平等や男女共同参画に関する学習経験

上段:実数 下段:横%	合計	小学校で 受けた	中学校で 受けた	高校で受 けた	大学で受 けた	市民対象 の講座な どで受け た	職場の研 修で受け た	PTA等が 主催する 研修で受 けた	その他	はっきりと 覚えてい ない	受けたこ とはない	無回答
全体	3495 100.0	87 2.5	202 5.8	170 4.9	114 3.3	117 3.3	629 18.0	103 2.9	50 1.4	767 21.9	1568 44.9	95 2.7
女性・20歳代	168 100.0	13 7.7	40 23.8	47 28.0	31 18.5	1 0.6	34 20.2	2 1.2	3 1.8	48 28.6	28 16.7	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	7 2.2	22 6.9	23 7.2	21 6.5	4 1.2	91 28.3	4 1.2	5 1.6	120 37.4	74 23.1	—
女性・40歳代	339 100.0	4 1.2	7 2.1	10 2.9	9 2.7	8 2.4	69 20.4	14 4.1	4 1.2	91 26.8	146 43.1	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	1 0.3	3 1.0	8 2.5	4 1.3	10 3.2	58 18.5	20 6.4	6 1.9	73 23.2	149 47.5	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	7 1.8	9 2.3	8 2.0	3 0.8	29 7.4	44 11.2	17 4.3	4 1.0	66 16.8	233 59.3	8 2.0
女性・70歳以上	400 100.0	3 0.8	22 5.5	14 3.5	2 0.5	21 5.3	21 5.3	16 4.0	6 1.5	70 17.5	230 57.5	24 6.0
女性	1938 112.3	35 1.8	103 5.3	110 5.7	70 3.6	73 3.8	318 16.4	73 3.8	28 1.4	468 24.1	862 44.5	37 1.9
男性・20歳代	112 100.0	15 13.4	30 26.8	21 18.8	15 13.4	1 0.9	16 14.3	1 0.9	2 1.8	35 31.3	20 17.9	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	6 3.2	14 7.4	14 7.4	15 7.9	3 1.6	50 26.5	1 0.5	2 1.1	52 27.5	60 31.7	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	6 2.6	13 5.7	4 1.8	5 2.2	1 0.4	60 26.3	4 1.8	2 0.9	44 19.3	103 45.2	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	8 3.6	8 3.6	1 0.5	2 0.9	7 3.2	68 30.9	3 1.4	5 2.3	36 16.4	96 43.6	4 1.8
男性・60歳代	321 100.0	2 0.6	9 2.8	4 1.2	3 0.9	18 5.6	72 22.4	9 2.8	4 1.2	49 15.3	172 53.6	3 0.9
男性・70歳以上	292 100.0	6 2.1	13 4.5	9 3.1	— —	11 3.8	23 7.9	7 2.4	3 1.0	57 19.5	167 57.2	14 4.8
男性	1363 111.1	43 3.2	87 6.4	53 3.9	40 2.9	41 3.0	289 21.2	25 1.8	18 1.3	273 20.0	619 45.4	27 2.0
男女差(女性-男性)		-1.4	-1.1	1.8	0.7	0.8	-4.8	2.0	0.1	4.1	-0.9	-0.1

問21 問20で、「1～8」のいずれかに回答された方のみ その中で、男女共同参画の意識を高めるうえで、あなたにとって、とくに役に立った(最も印象に残っている)ものはどれですか。(〇はひとつ)

SA/全体：1,065、女性：571、男性444



**[全体]**

「男女共同参画の意識を高めるうえで、とくに役に立った(最も印象に残っている)もの」は、「職場の研修で受けたもの」とする割合(45.2%)が最も高くなっている。

なお、「役に立ったものはない」とする割合が、14.3%となっている。

**[性別]**

男女とも、「男女共同参画の意識を高めるうえで、とくに役に立った(最も印象に残っている)もの」は、「職場の研修で受けたもの」(女性40.5%、男性52.0%)とする最も高く、女性より男性の方が、11.5ポイント高くなっている。

**[性別・年代別]**

「男女共同参画の意識を高めるうえで、とくに役に立った(最も印象に残っている)もの」の内容は、女性の20歳代を除く世代で、「職場で受けたもの」とする割合が最も高くなっている。

女性では、30歳代、40歳、50歳代において高く、特に40歳代(58.0%)で高くなっている。

男性では、30歳代から60歳代において高く、特に、男性50歳代(65.5%)、60歳代(64.9%)で高くなって

いる。

女性 20 歳代では、「高校で受けたもの」とする方の割合 (22.0%) が最も高くなっている。

なお、女性 20 歳代、30 歳代では、「高校で受けたもの」及び「大学で受けたもの」とする割合が、40 歳代、50 歳代では、「PTA や民間団体が主催する研修で受けたもの」とする割合が、60 歳代、70 歳以上では「市民対象の講座などで受けたもの」とする割合が高くなっている。

男性では、男性 20 歳代、70 歳以上では、「中学校で受けたもの」とする割合が、高くなっている。

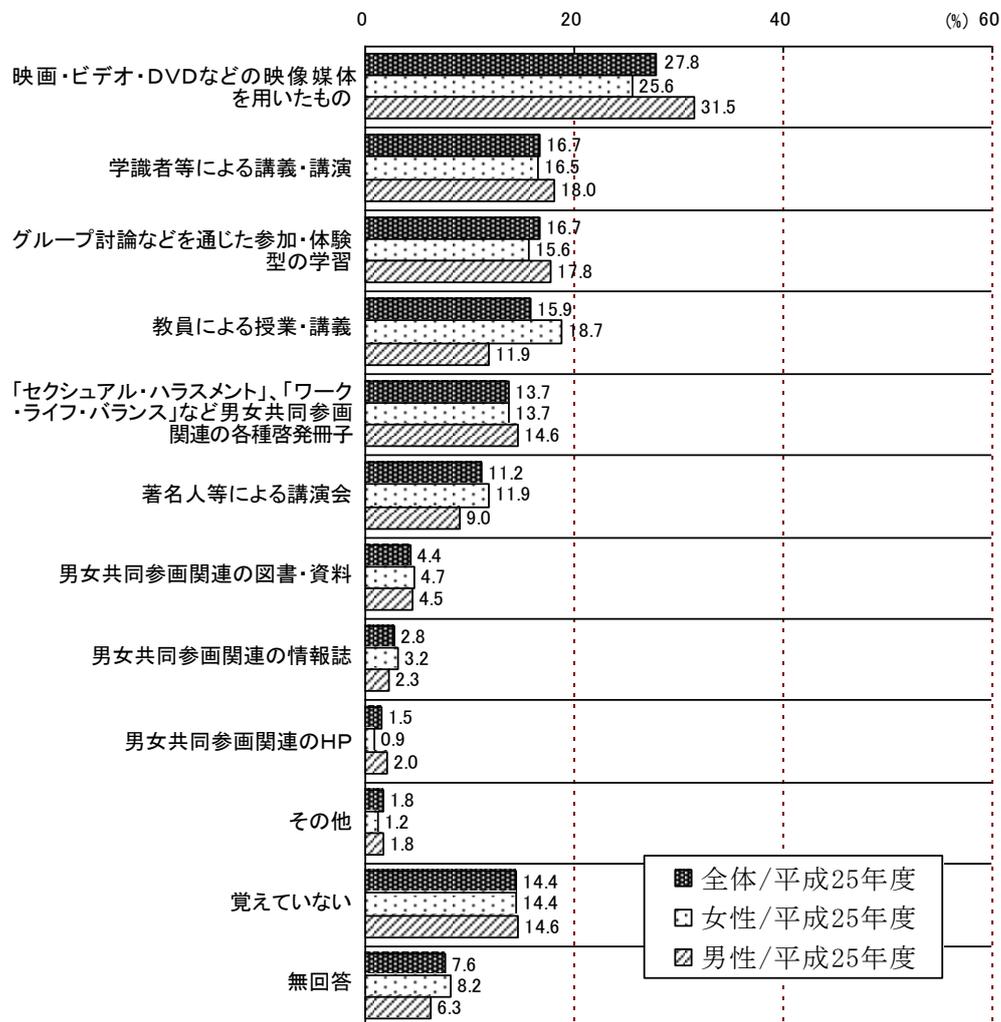
また、男性 20 歳代・30 歳代では、「高校で受けたもの」(16.1%、6.6%) 及び「大学で受けたもの」(10.7%、9.2%) とする割合が、男性 50 歳代から 70 歳以上まででは「市民対象の講座などで受けたもの」(8.3%、9.3%、11.1%) が、男性 70 歳以上では「PTA や民間団体が主催する研修で受けたもの」(11.1%) も高くなっている。

問21 男女共同参画の意識を高めるうえで役にたったもの

上段:実数 下段:横%	合計	小学校で 受けたもの	中学校で 受けたもの	高校で受 けたもの	大学で受 けたもの	市民対象 の講座な どで受け たもの	職場の研 修で受け たもの	PTA等が 主催する 研修で受 けたもの	その他	役に立っ たものは ない	無回答
全体	1065 100.0	28 2.6	81 7.6	77 7.2	53 5.0	74 6.9	481 45.2	58 5.4	34 3.2	152 14.3	27 2.5
女性・20歳代	91 100.0	2 2.2	12 13.2	20 22.0	18 19.8	—	16 17.6	—	—	23 25.3	—
女性・30歳代	127 100.0	3 2.4	7 5.5	12 9.4	12 9.4	1 0.8	63 49.6	3 2.4	2 1.6	21 16.5	3 2.3
女性・40歳代	100 100.0	2 2.0	1 1.0	8 8.0	4 4.0	6 6.0	58 58.0	9 9.0	2 2.0	10 10.0	—
女性・50歳代	90 100.0	—	2 2.2	5 5.6	—	6 6.7	43 47.8	16 17.8	5 5.6	10 11.1	3 3.3
女性・60歳代	86 100.0	3 3.5	5 5.8	4 4.7	—	18 20.9	33 38.4	7 8.1	3 3.5	11 12.8	2 2.3
女性・70歳以上	76 100.0	3 3.9	11 14.5	5 6.6	1 1.3	16 21.1	17 22.4	6 7.9	2 2.6	7 9.2	8 10.5
女性	571 100.0	13 2.3	38 6.7	54 9.5	35 6.1	47 8.2	231 40.5	41 7.2	14 2.5	82 14.4	16 2.8
男性・20歳代	56 100.0	6 10.7	11 19.6	9 16.1	6 10.7	—	13 23.2	—	1 1.8	9 16.1	1 1.8
男性・30歳代	76 100.0	1 1.3	3 3.9	5 6.6	7 9.2	3 3.9	37 48.7	1 1.3	2 2.6	16 21.1	1 1.3
男性・40歳代	77 100.0	1 1.3	4 5.2	2 2.6	1 1.3	1 1.3	41 53.2	2 2.6	2 2.6	22 28.6	1 1.3
男性・50歳代	84 100.0	2 2.4	6 7.1	—	—	7 8.3	55 65.5	1 1.2	5 6.0	7 8.3	1 1.2
男性・60歳代	97 100.0	—	6 6.2	2 2.1	3 3.1	9 9.3	63 64.9	4 4.1	3 3.1	6 6.2	1 1.0
男性・70歳以上	54 100.0	2 3.7	10 18.5	3 5.6	—	6 11.1	22 40.7	6 11.1	1 1.9	2 3.7	2 3.7
男性	444 100.0	12 2.7	40 9.0	21 4.7	17 3.8	26 5.9	231 52.0	14 3.2	14 3.2	62 14.0	7 1.6
男女差(女性-男性)		-0.4	-2.3	4.8	2.3	2.3	-11.5	4.0	-0.7	0.4	1.2

問 22 問 20 で「1～8」のいずれかに回答された方のみ あなたにとって、とくに役に立った(最も印象に残っている)ものは、どのような形式のものでしたか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：1,065、女性：571、男性 444



### [全体]

「男女共同参画(セクシュアル・ハラスメント、DV、ワーク・ライフ・バランスなどの研修も含む)に関する学習を経験した」なかで、「とくに役に立った(印象に残った)形式」は、「映画・ビデオ・DVD等の映像媒体を用いたもの」が最も高く 27.8%、次いで、「学識者等による講義・講演」及び「グループ討論などを通じた参加体験型の学習」がともに 16.7%となっている。

なお、「覚えていない」とする割合が、14.4%となっている。

### [性別]

「男女共同参画(セクシュアル・ハラスメント、DV、ワーク・ライフ・バランスなどの研修も含む)に関する学習を経験した」なかで、「とくに役に立った(印象に残った)形式」の内容は、男女とも、「映画・ビデオ・DVD等の映像媒体を用いたもの」とする割合(女性 25.6%、男性 31.5%)が最も高くなっている。

次いで、女性では、「教員による授業・講義」18.7%、「学識者等による講義・講演」16.5%となり、男性では、「学識者等による講義・講演」18.0%、「グループ討論などを通じた参加・体験型の学習」17.8%となっている。

なお、「映画・ビデオ・DVD等の映像媒体を用いたもの」とする割合で、女性より男性の方が 5.9ポイント高く

なっている。

「教員による授業・講義」とする割合(女性 18.7%、男性 11.9%)では、男性より女性の方が、6.8 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

女性 20 歳代から 50 歳代、男性はすべての年代で、「映画・ビデオ・DVD 等の映像媒体を用いたもの」とする割合が最も高くなっている。

なお、女性 30 歳代では、「映画・ビデオ・DVD 等の映像媒体を用いたもの」と「教員による授業・講義」がともに 24.4%となり、最も高くなっている。

男性 70 歳以上では、「映画・ビデオ・DVD 等の映像媒体を用いたもの」と「学識者等による講義・講演」がともに 17.1%となり、最くなっている。

また、女性 60 歳代では「「セクシュアル・ハラスメント」、「ワーク・ライフ・バランス」など男女共同参画関連の各種啓発冊子」25.6%、女性 70 歳以上では「著名人による講演会」21.1%が最も高い割合となっている。

なお、女性では、「教員による授業・講義」とする割合が、20 歳代、30 歳代、40 歳代で、「学識者等による講義・講演」とする割合が 60 歳代で、「ワーク・ライフ・バランス」など男女共同参画関連の各種啓発冊子」とする割合が 40 歳代、50 歳代、60 歳代で、「著名人等による講演会」とする割合が、60 歳代、70 歳以上で高くなっている。

男性では、「教員による授業・講義」とする割合が、20 歳代、30 歳代で、「ワーク・ライフ・バランス」など男女共同参画関連の各種啓発冊子」とする割合が、50 歳代、60 歳代で、「学識者等による講義・講演」とする割合が 50 歳代、60 歳代、70 歳以上で、「グループ討論などを通じた参加・体験型の学習」とする割合が 60 歳代、70 歳以上で高くなっている。

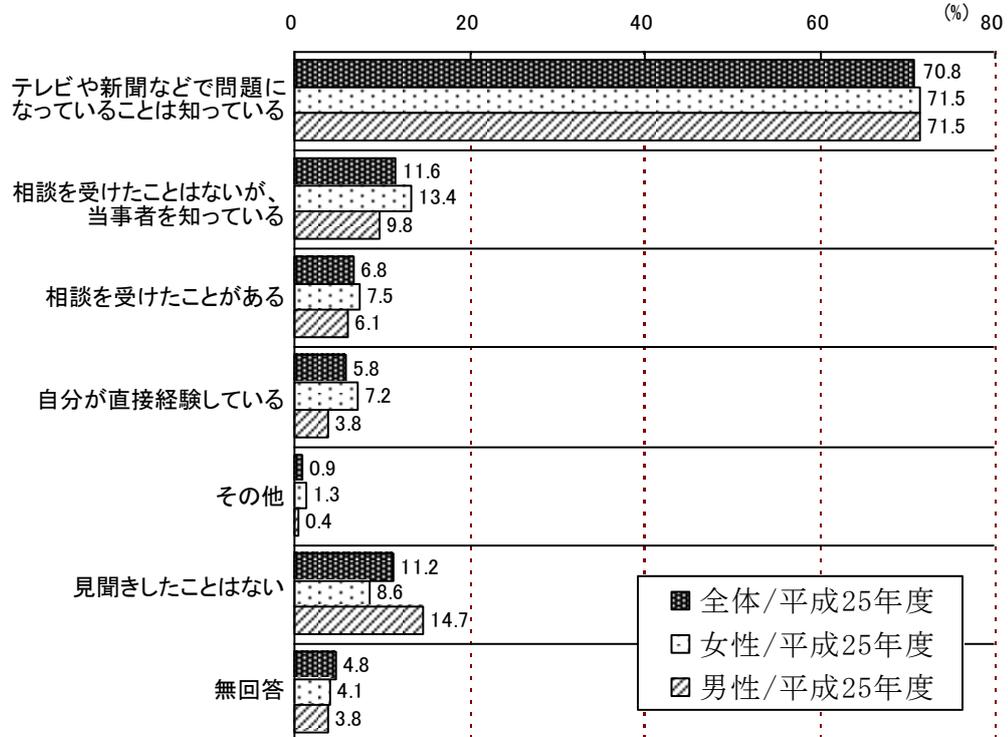
問22 男女共同参画の意識を高めるうえで特に役にたった形式

上段:実数 下段:横%	合計	教員による授業・講義	学識者等による講義・講演	著名人等による講演会	映画などの映像媒体を用いたもの	討論等を通じた参加・体験型の学習	男女共同参画関連のHP	男女共同参画関連の図書・資料	男女共同参画関連の情報誌	男女共同参画関連の各種啓発冊子	その他	覚えていない	無回答
全体	1065 100.0	169 15.9	178 16.7	119 11.2	296 27.8	178 16.7	16 1.5	47 4.4	30 2.8	146 13.7	19 1.8	153 14.4	81 7.6
女性・20歳代	91 100.0	26 28.6	12 13.2	7 7.7	31 34.1	10 11.0	—	5 5.5	—	4 4.4	1 1.1	18 19.8	10 11.0
女性・30歳代	127 100.0	31 24.4	20 15.7	4 3.1	31 24.4	18 14.2	—	7 5.5	3 2.4	12 9.4	2 1.6	23 18.1	8 6.3
女性・40歳代	100 100.0	22 22.0	18 18.0	10 10.0	27 27.0	15 15.0	2 2.0	3 3.0	3 3.0	18 18.0	3 3.0	13 13.0	7 7.0
女性・50歳代	90 100.0	7 7.8	10 11.1	13 14.4	29 32.2	14 15.6	—	7 7.8	—	16 17.8	—	12 13.3	5 5.6
女性・60歳代	86 100.0	7 8.1	20 23.3	18 20.9	20 23.3	17 19.8	—	3 3.5	6 7.0	22 25.6	—	10 10.5	4 4.7
女性・70歳以上	76 100.0	14 18.4	13 17.1	16 21.1	8 10.5	15 19.7	3 3.9	2 2.6	6 7.9	6 7.9	1 1.3	7 9.2	13 17.1
女性	571 134.6	107 18.7	94 16.5	68 11.9	146 25.6	89 15.6	5 0.9	27 4.7	18 3.2	78 13.7	7 1.2	82 14.4	47 8.2
男性・20歳代	56 100.0	12 21.4	7 12.5	2 3.6	19 33.9	8 14.3	—	1 1.8	—	4 7.1	—	8 14.3	6 10.7
男性・30歳代	76 100.0	10 13.2	7 9.2	4 5.3	24 31.6	10 13.2	2 2.6	4 5.3	—	6 7.9	3 3.9	17 22.4	7 9.2
男性・40歳代	77 100.0	9 11.7	10 13.0	6 7.8	18 23.4	9 11.7	—	2 2.6	1 1.3	13 16.9	1 1.3	17 22.1	5 6.5
男性・50歳代	84 100.0	4 4.8	20 23.8	4 4.8	32 38.1	10 11.9	3 3.6	4 4.8	2 2.4	17 20.2	1 1.2	11 13.1	3 3.6
男性・60歳代	97 100.0	7 7.2	23 23.7	15 15.5	34 35.1	30 30.9	2 2.1	4 4.1	3 3.1	20 20.6	1 1.0	10 10.3	3 3.1
男性・70歳以上	54 100.0	11 20.4	13 24.1	9 16.7	13 24.1	12 22.2	2 3.7	5 9.3	4 7.4	5 9.3	2 3.7	2 3.7	4 7.4
男性	444 134.3	53 11.9	80 18.0	40 9.0	140 31.5	79 17.8	9 2.0	20 4.5	10 2.3	65 14.6	8 1.8	65 14.6	28 6.3
男女差(女性-男性)		6.8	-1.5	2.9	-5.9	-2.2	-1.1	0.2	0.9	-0.9	-0.6	-0.2	1.9

## 7. 男女間における暴力について

問 23 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、経験したり、見聞きしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



### [全体]

「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」とする割合(70.8%)が最も高く、次いで、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」11.6%となっている。

なお、「見聞きしたことはない」とする割合が、11.2%となっている。

### [性別]

「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」とする割合(女性71.5%、男性71.5%)が最も高く、次いで、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」(女性13.4%、男性9.8%)となっている。

また、「自分が直接経験している」とする割合は、女性7.2%、男性3.8%となっている。

なお、「見聞きしたことはない」とする割合(女性8.6%、男性14.7%)は、女性より男性の方が6.1ポイント高くなっている。

### [性別・年代別]

「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、男女ともすべての年代で、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」とする割合が最も高くなっている。

また、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」とする割合が、女性20歳代(19.6%)、30歳代(19.6)、40歳代(15.0%)、男性30歳代(15.9%)で高くなっている。

また、「相談を受けたことがある」、「自分が直接経験している」とする割合が、女性30歳代で、それぞれ12.5%、10.3%となっている。

なお、男性では、70歳以上を除く全世代で、「見聞きしたことはない」とする割合(11.0～19.6%)が、女性と比べて高くなっている。

「無回答」とする割合が、男女とも70歳以上(女性11.0%、男性9.2%)で高くなっている。

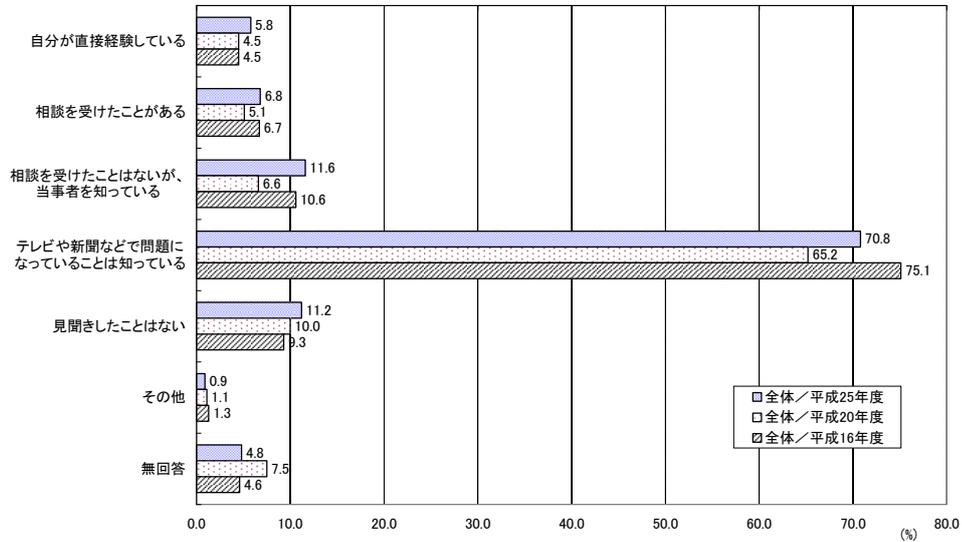
問23 DVについて経験したり、見聞きした経験

上段:実数 下段:横%	合計	自分が直接経験している	相談を受けたことがある	当事者を知っている	問題になっていることは知っている	見聞きしたことはない	その他	無回答
全体	3495 100.0	203 5.8	239 6.8	407 11.6	2476 70.8	392 11.2	31 0.9	167 4.8
女性・20歳代	168 100.0	13 7.7	16 9.5	33 19.6	121 72.0	10 6.0	2 1.2	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	33 10.3	40 12.5	63 19.6	218 67.9	19 5.9	3 0.9	8 2.5
女性・40歳代	339 100.0	30 8.8	33 9.7	51 15.0	236 69.6	28 8.3	6 1.8	7 2.1
女性・50歳代	314 100.0	22 7.0	23 7.3	43 13.7	238 75.8	18 5.7	4 1.3	5 1.6
女性・60歳代	393 100.0	24 6.1	19 4.8	48 12.2	297 75.6	37 9.4	4 1.0	14 3.6
女性・70歳以上	400 100.0	16 4.0	14 3.5	21 5.3	276 69.0	55 13.8	6 1.5	44 11.0
女性	1938 113.6	140 7.2	145 7.5	259 13.4	1386 71.5	167 8.6	25 1.3	80 4.1
男性・20歳代	112 100.0	2 1.8	5 4.5	14 12.5	76 67.9	22 19.6	—	1 0.9
男性・30歳代	189 100.0	9 4.8	15 7.9	30 15.9	130 68.8	28 14.8	—	4 2.1
男性・40歳代	228 100.0	5 2.2	13 5.7	24 10.5	162 71.1	39 17.1	—	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	7 3.2	14 6.4	25 11.4	157 71.4	27 12.3	2 0.9	9 4.1
男性・60歳代	321 100.0	12 3.7	20 6.2	22 6.9	240 74.8	52 16.2	1 0.3	9 2.8
男性・70歳以上	292 100.0	17 5.8	16 5.5	18 6.2	209 71.6	32 11.0	2 0.7	27 9.2
男性	1363 110.1	52 3.8	83 6.1	133 9.8	974 71.5	201 14.7	5 0.4	52 3.8
男女差(女性-男性)		3.4	1.4	3.6	0.0	-6.1	0.9	0.3

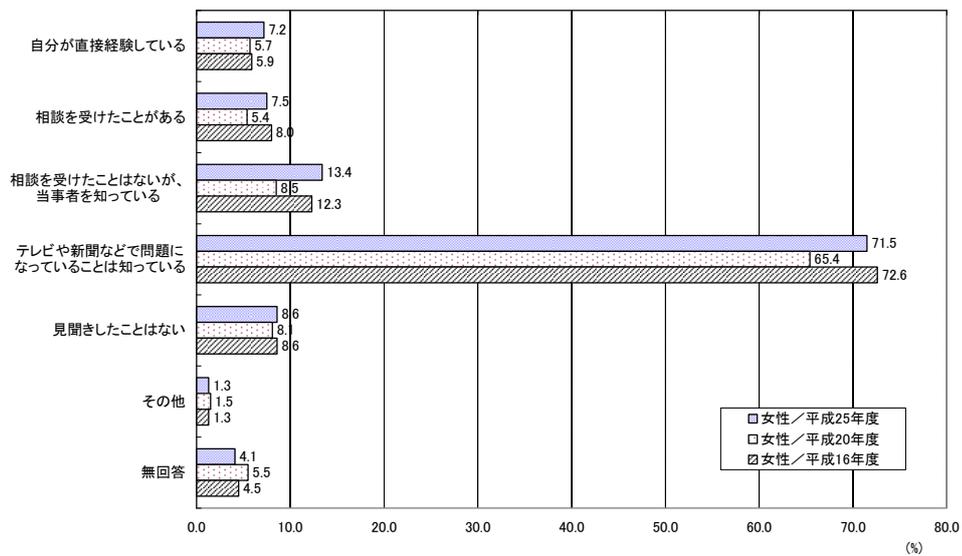
問 23 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について、経験したり、見聞きしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性1,363

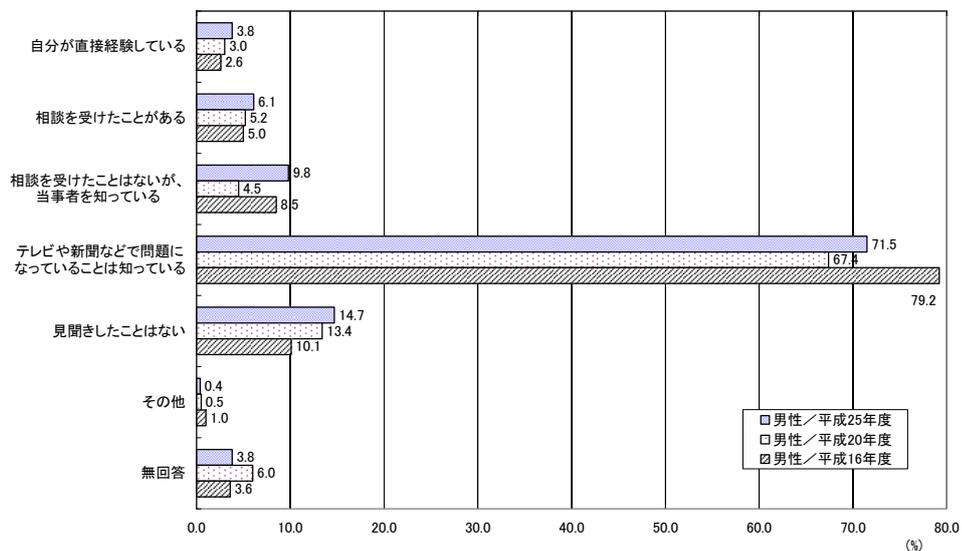
[全体]



[女性]



[男性]



### 〔経年比較〕(H16→H25)※

全体として、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」とする割合(75.1%→70.8%)が減少し、「見聞きしたことはない」(9.3%→11.2%)とする割合が増加している。

女性では、すべての項目で大きな変化は見られない。

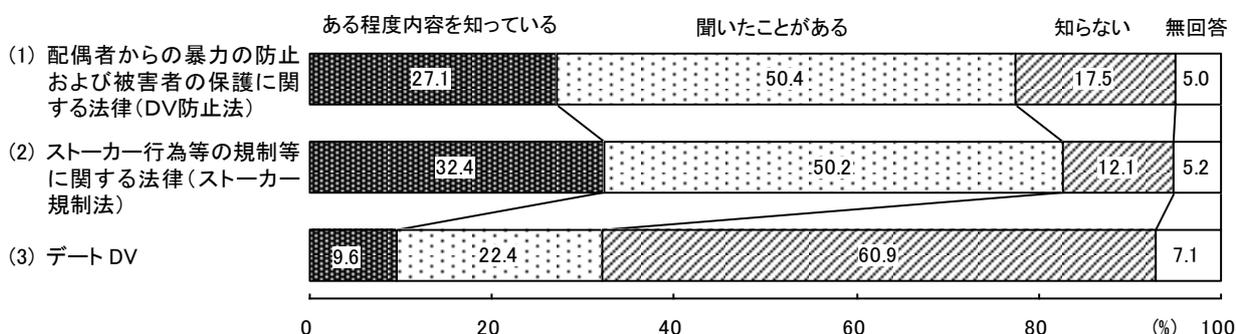
一方、男性では、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」とする割合(79.2%→71.5%)が減少し、「見聞きしたことはない」(10.1%→14.7%)とする割合が増加している。

※平成16年度は、平成20年度は、「近年、女性が配偶者や恋人から継続的に身体的・精神的な暴力行為を受けることについて問題となっていますが、あなたの身近で見聞きされたことはありますか」に対する結果で、平成16年度は複数回答、平成20年度は単数回答となっているため、平成20年度は参考数値とし、平成16年度と平成25年度での変化をみる。

問 24 次にあげる項目のうちで、あなたをご存じのものはありますか。

(1)から(3)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA／全体：3,495



“認知している”割合は、「配偶者からの暴力防止および被害者の保護に関する法律(DV防止法)」は77.5%、「ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)」82.6%となっている。

「デートDV」では、“認知している”割合が32.0%、「知らない」とする割合が60.9%となっている。

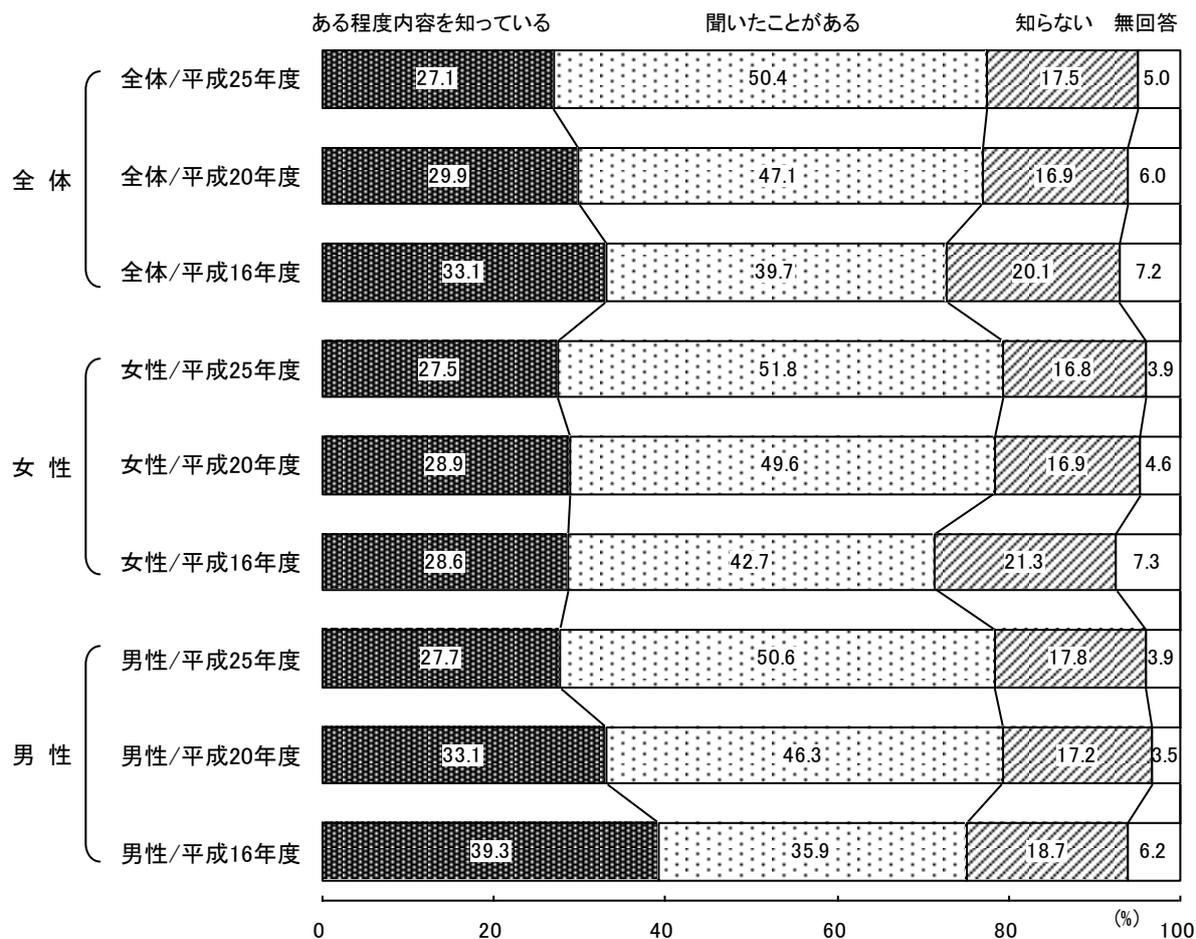
なお、「ある程度内容を知っている」とする割合は、「ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)」(32.4%)、「配偶者からの暴力防止および被害者の保護に関する法律(DV防止法)」(27.1%)、「デートDV」(9.6%)となり、「ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)」が、最も高くなっている。

項目	“認知している”割合
配偶者からの暴力防止および被害者の保護に関する法律(DV防止法)	82.6%
ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)	77.5%
デートDV	32.0%

※“認知している”＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

(1) 配偶者からの暴力防止および被害者の保護に関する法律(DV防止法)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“認知している”割合が 77.5%となり、「ある程度内容を知っている」とする割合が、27.1%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“認知している”割合(72.8%→77.0%→77.5%)は、平成 16 年度から平成 20 年度で増加し、「ある程度内容を知っている」とする割合(33.1%→29.9%→27.1%)が減少傾向となっている。

女性では、“認知している”割合(71.3%→78.5%→79.3%)は平成 16 年度から平成 20 年度で増加し、「ある程度内容を知っている」とする割合(28.6%→28.9%→27.5%)は、大きな変化はみられない。

男性では、“認知している”割合(75.2%→79.4%→78.3%)は平成 16 年度から平成 20 年度で増加し、「ある程度内容をしっている」とする割合(39.3%→33.1%→27.7%)が減少傾向となっている。

[性別]

男女とも、“認知している”割合(女性 79.3%、男性 78.3%)が 8 割弱となり、「ある程度内容を知っている」(女性 27.5%、男性 27.7%)が 3 割弱となっている。

[性別・年代別]

男女とも、すべての年代で、“認知している”割合が 5 割を超え、男女 70 歳以上を除き、7 割を超えている。なお、女性 30 歳代(88.2%)、40 歳代(90.5%)、50 歳代(88.2%)、男性 30 歳代(88.4%)では他の年代と比較して高くなっている。

また、「ある程度内容を知っている」とする割合が、女性 30 歳代(31.2%)、40 歳代(34.2%)、50 歳代(32.5%)、男性 30 歳代(33.9%)、40 歳代(31.1%)で高くなっている。

また、男女とも、70 歳以上では「知らない」とする割合(女性 30.5%、男性 25.7%)が高くなっている。

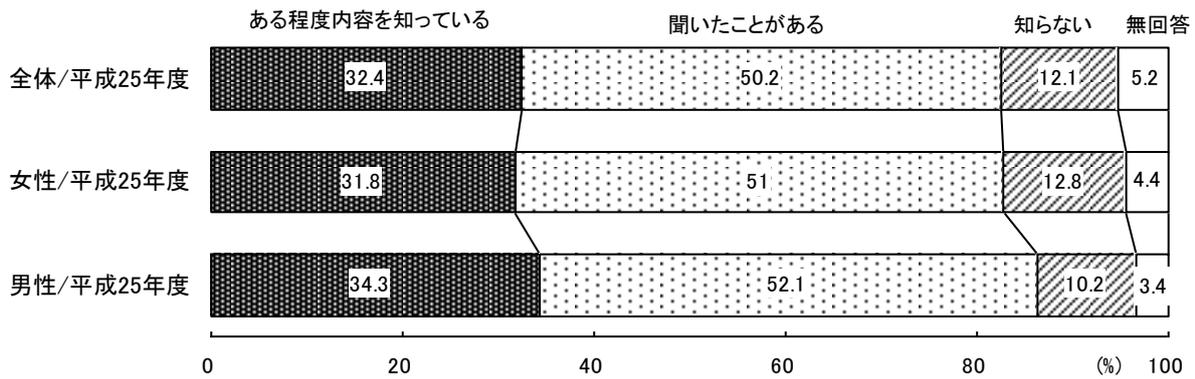
なお、「無回答」の割合が、男女とも70歳以上(女性12.8%、男性12.7%)で高くなっている。

問24(1)DV防止法の周知状況

上段:実数 下段:横%	合計	ある程度 内容を知 っている	聞いたこ とがある	“認知して いる”	知らない	無回答
全体	3495 100.0	947 27.1	1761 50.4	2708 77.5	613 17.5	174 5.0
女性・20歳代	168 100.0	43 25.6	101 60.1	144 85.7	23 13.7	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	100 31.2	183 57.0	283 88.2	36 11.2	2 0.6
女性・40歳代	339 100.0	116 34.2	191 56.3	307 90.5	29 8.6	3 0.9
女性・50歳代	314 100.0	102 32.5	175 55.7	277 88.2	34 10.8	3 1.0
女性・60歳代	393 100.0	98 24.9	198 50.4	296 75.3	82 20.9	15 3.8
女性・70歳以上	400 100.0	73 18.3	154 38.5	227 56.8	122 30.5	51 12.8
女性	1938 100.0	533 27.5	1003 51.8	1536 79.3	326 16.8	76 3.9
男性・20歳代	112 100.0	28 25.0	61 54.5	89 79.5	21 18.8	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	64 33.9	103 54.5	167 88.4	21 11.1	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	71 31.1	119 52.2	190 83.3	36 15.8	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	58 26.4	124 56.4	182 82.8	31 14.1	7 3.2
男性・60歳代	321 100.0	92 28.7	167 52.0	259 80.7	58 18.1	4 1.2
男性・70歳以上	292 100.0	64 21.9	116 39.7	180 61.6	75 25.7	37 12.7
男性	1363 100.0	377 27.7	690 50.6	1067 78.3	243 17.8	53 3.9
男女差(女性-男性)		-0.2	1.2	1.0	-1.0	0.0

(2) ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“認知している”割合が 82.6%となり、なかでも「ある程度内容を知っている」とする割合が、32.4%となっている。

[性別]

男女とも、「聞いたことがある」とする割合(女性 51.0%、男性 52.1%)が最も高く、次いで「ある程度内容を知っている」(女性 31.8%、男性 34.3%)となっている。

また、「知らない」とする割合も、女性 12.8%、男性 10.2%となっている。

[性別]

男女とも、“認知している”割合(女性 82.8%、男性 86.4%)が 8 割となり、「ある程度内容を知っている」(女性 31.8%、男性 34.3%)が 3 割強となっている。

[性別・年代別]

男女とも、“認知している”割合が 5 割を超え、女性 70 歳以上を除き、7 割を超えている。

なお、女性 30 歳代(92.5%)、40 歳代(92.6%)、50 歳代(90.5%)、男性 30 歳代(96.3%)、40 歳代(90.3%)、50 歳代(90.9%)で 9 割を超え、高くなっている。

また、「ある程度内容を知っている」とする割合が、女性 30 歳代(38.0%)、40 歳代(36.6%)、50 歳代(37.3%)、男性 30 歳代(40.2%)、40 歳代(36.8%)で他の年代に比べて高くなっている。

また、男女とも、「知らない」とする割合が、20 歳代(女性 11.3%、男性 16.1%)、60 歳代(女性 15.5%、男性 10.6%)、70 歳以上(女性 24.8%、男性 15.4%)で高くなっている。

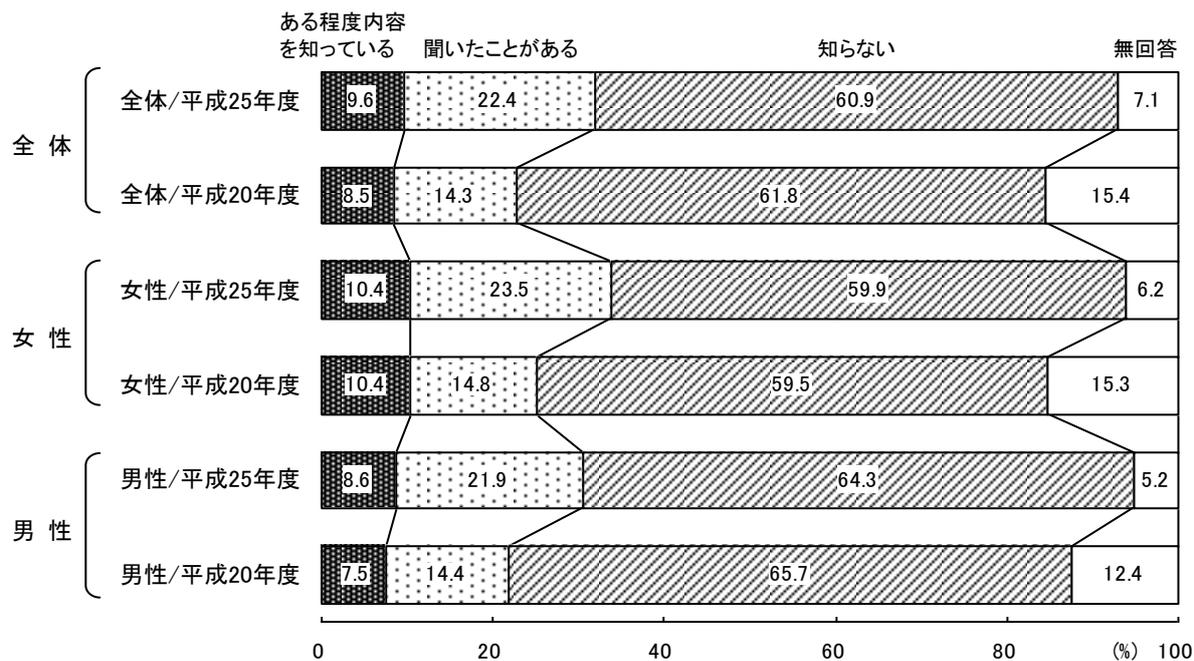
なお、「無回答」の割合が、男女とも 70 歳以上(女性 14.3%、男性 11.0%)で高くなっている。

問24(2)ストーカー規制法の周知状況

上段:実数 下段:横%	合計	ある程度 内容を知 っている	聞いたこ とがある	“認知して いる”	知らない	無回答
全体	3495 100.0	1133 32.4	1756 50.2	2889 82.6	423 12.1	183 5.2
女性・20歳代	168 100.0	58 34.5	90 53.6	148 88.1	19 11.3	1 0.6
女性・30歳代	321 100.0	122 38.0	175 54.5	297 92.5	22 6.9	2 0.6
女性・40歳代	339 100.0	124 36.6	190 56.0	314 92.6	19 5.6	6 1.8
女性・50歳代	314 100.0	117 37.3	167 53.2	284 90.5	28 8.9	2 0.6
女性・60歳代	393 100.0	112 28.5	204 51.9	316 80.4	61 15.5	16 4.1
女性・70歳以上	400 100.0	82 20.5	162 40.5	244 61.0	99 24.8	57 14.3
女性	1938 100.0	616 31.8	989 51.0	1605 82.8	248 12.8	85 4.4
男性・20歳代	112 100.0	32 28.6	60 53.6	92 82.2	18 16.1	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	76 40.2	106 56.1	182 96.3	6 3.2	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	84 36.8	122 53.5	206 90.3	20 8.8	2 0.9
男性・50歳代	220 100.0	74 33.6	126 57.3	200 90.9	15 6.8	5 2.3
男性・60歳代	321 100.0	118 36.8	164 51.1	282 87.9	34 10.6	5 1.6
男性・70歳以上	292 100.0	83 28.4	132 45.2	215 73.6	45 15.4	32 11.0
男性	1363 100.0	467 34.3	710 52.1	1177 86.4	139 10.2	47 3.4
男女差(女性-男性)		-2.5	-1.1	-3.6	2.6	1.0

### (3)デートDV

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



#### [全体]

“認知している”割合が 32.0%、「知らない」とする割合が 60.9%となっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合が、9.6%となっている。

#### [経年比較] (H20→H25)

全体では、“認知している”割合(22.8%→32.0%)が増加、「ある程度内容を知っている」とする割合(8.5%→9.6%)は大きな差はない。

なお、「無回答」の割合(15.4%→7.1%)が減少している。

女性では、“認知している”割合(25.2%→33.9%)が増加、「ある程度内容を知っている」の割合(10.4%→10.4%)に変化はみられない。

なお、「無回答」の割合(15.3%→6.2%)が減少している。

男性では、“認知している”割合(21.9%→30.5%)が増加、「ある程度内容を知っている」の割合(7.5%→8.6%)は大きな変化はみられない。

なお、「無回答」の割合(12.4%→5.2%)が減少している。

#### [性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性 59.9%、男性 64.3%となり、“認知している”割合(女性 33.9%、男性 30.5%)を上回っている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合は、女性 10.4%、男性 8.6%となっている。

また、「無回答」とする割合も、女性 6.2%、男性 5.2%となっている。

#### [性別・年代別]

男女とも、すべての年代において、「知らない」とする割合が最も高く、女性より男性の方が高くなっている。

“認知している”割合では、女性 20 歳代(45.8%)、30 歳代(42.6%)、40 歳代(41.9%)、男性 20 歳代(38.4%)で他の年代に比べて高くなっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする方の割合は、女性 20 歳代(20.2%)、女性 30 歳代(14.3%)、40 歳代(13.6%)となり、年代が若くなるほど高くなっている。

なお、「無回答」の割合が、男女とも 70 歳以上で(女性 20.0%、男性 16.1%)で高くなっている。

問24(3)デートDVの周知状況

上段:実数 下段:横%	合計	ある程度 内容を知 っている	聞いたこ とがある	“認知して いる”	知らない	無回答
全体	3495 100.0	334 9.6	783 22.4	1117 32.0	2129 60.9	249 7.1
女性・20歳代	168 100.0	34 20.2	43 25.6	77 45.8	89 53.0	2 1.2
女性・30歳代	321 100.0	46 14.3	91 28.3	137 42.6	181 56.4	3 0.9
女性・40歳代	339 100.0	46 13.6	96 28.3	142 41.9	190 56.0	7 2.1
女性・50歳代	314 100.0	29 9.2	75 23.9	104 33.1	205 65.3	5 1.6
女性・60歳代	393 100.0	26 6.6	84 21.4	110 28.0	260 66.2	23 5.9
女性・70歳以上	400 100.0	19 4.8	65 16.3	84 21.1	236 59.0	80 20.0
女性	1938 100.0	201 10.4	455 23.5	656 33.9	1161 59.9	121 6.2
男性・20歳代	112 100.0	11 9.8	32 28.6	43 38.4	67 59.8	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	15 7.9	49 25.9	64 33.8	123 65.1	2 1.1
男性・40歳代	228 100.0	24 10.5	38 16.7	62 27.2	162 71.1	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	19 8.6	54 24.5	73 33.1	140 63.6	7 3.2
男性・60歳代	321 100.0	23 7.2	73 22.7	96 29.9	216 67.3	9 2.8
男性・70歳以上	292 100.0	25 8.6	52 17.8	77 26.4	168 57.5	47 16.1
男性	1363 100.0	117 8.6	298 21.9	415 30.5	877 64.3	71 5.2

男女差(女性-男性)

1.8

1.6

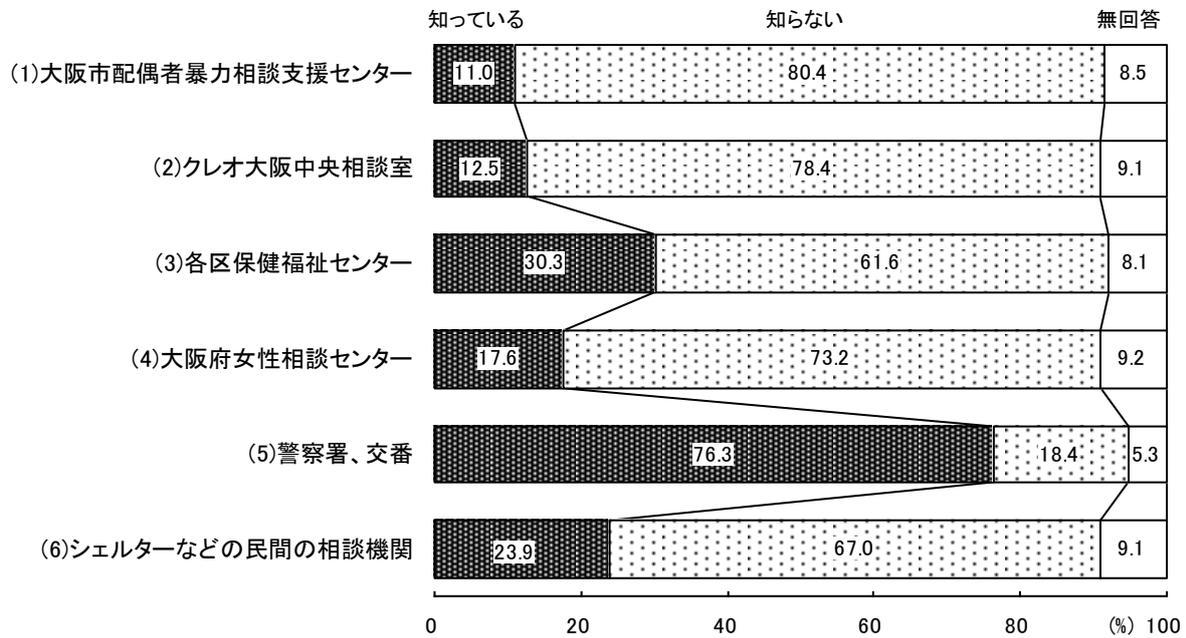
3.4

-4.4

1.0

問 25 女性に対する暴力について、次の相談機関・対応窓口がありますが、あなたはご存じですか。(1)から(6)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA/全体:3,495

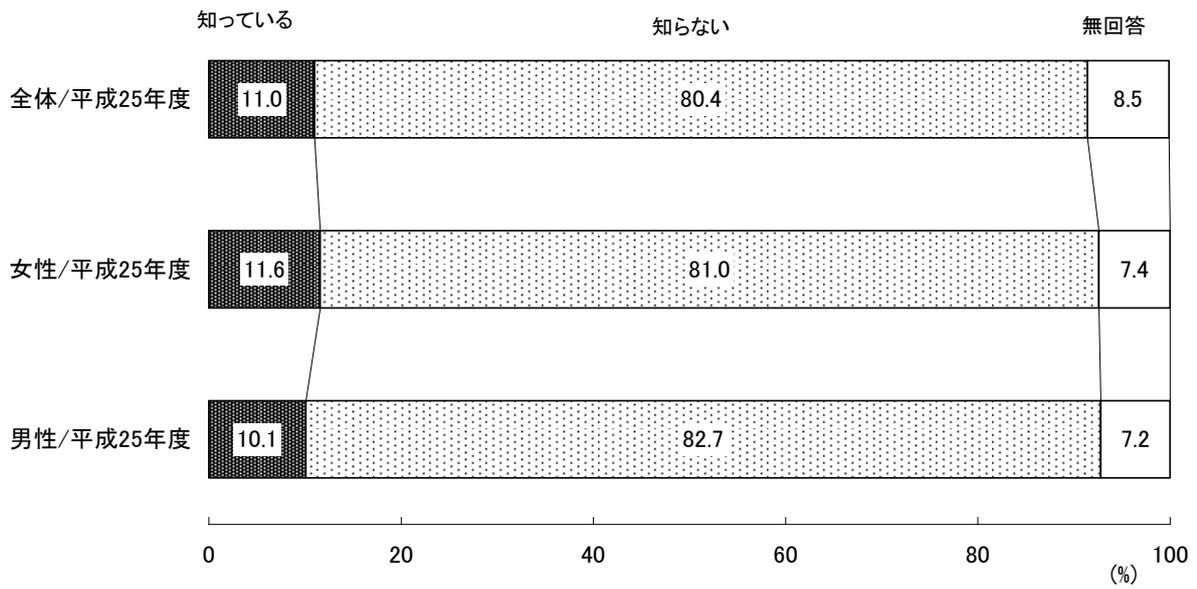


「女性に対する暴力の相談機関・対応窓口」として、「知っている」割合は、「警察署、交番」で 76.3%となり、次いで、「各区保健福祉センター」30.3%、「シェルターなどの民間の相談機関」23.9%となっている。

項目	「知っている」割合
(5) 警察署、交番	76.3%
(3) 各区保健福祉センター	30.3%
(6) シェルターなどの民間の相談機関	23.9%
(4) 大阪府女性相談センター	17.6%
(2) クレオ大阪中央相談室	12.5%
(1) 大阪市配偶者暴力相談支援センター	11.0%

(1)大阪市配偶者暴力相談支援センター

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

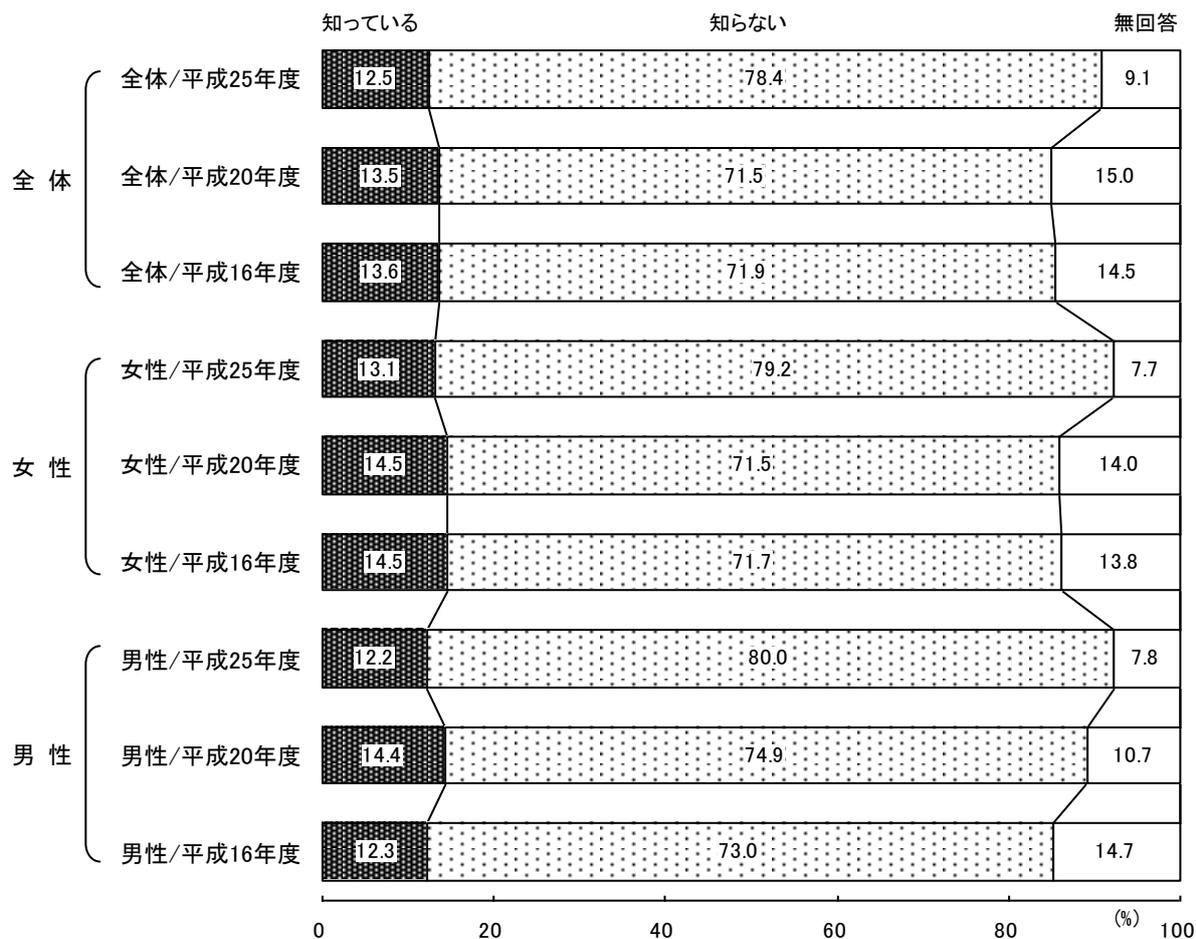
「知らない」とする割合が 80.4%、「知っている」割合が 11.0%となっている。

[性別]

男女とも、「知っている」とする割合は、女性 11.6%、男性 10.1%となり、「知らない」とする割合は、女性 81.0%、男性 82.7%となっている。

(2)クレオ大阪中央相談室

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が78.4%、「知っている」割合が12.5%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体として、「知っている」割合(13.6%→13.5%→12.5%)は前回調査から大きな変化はなく、「知らない」とする割合(71.9%→71.5%→78.4%)が前回調査から増加している。

女性では、「知っている」割合(14.5%→14.5%→13.1%)は前回調査から大きな変化はなく、「知らない」とする割合(71.7%→71.5%→79.2%)が前回調査から増加している。

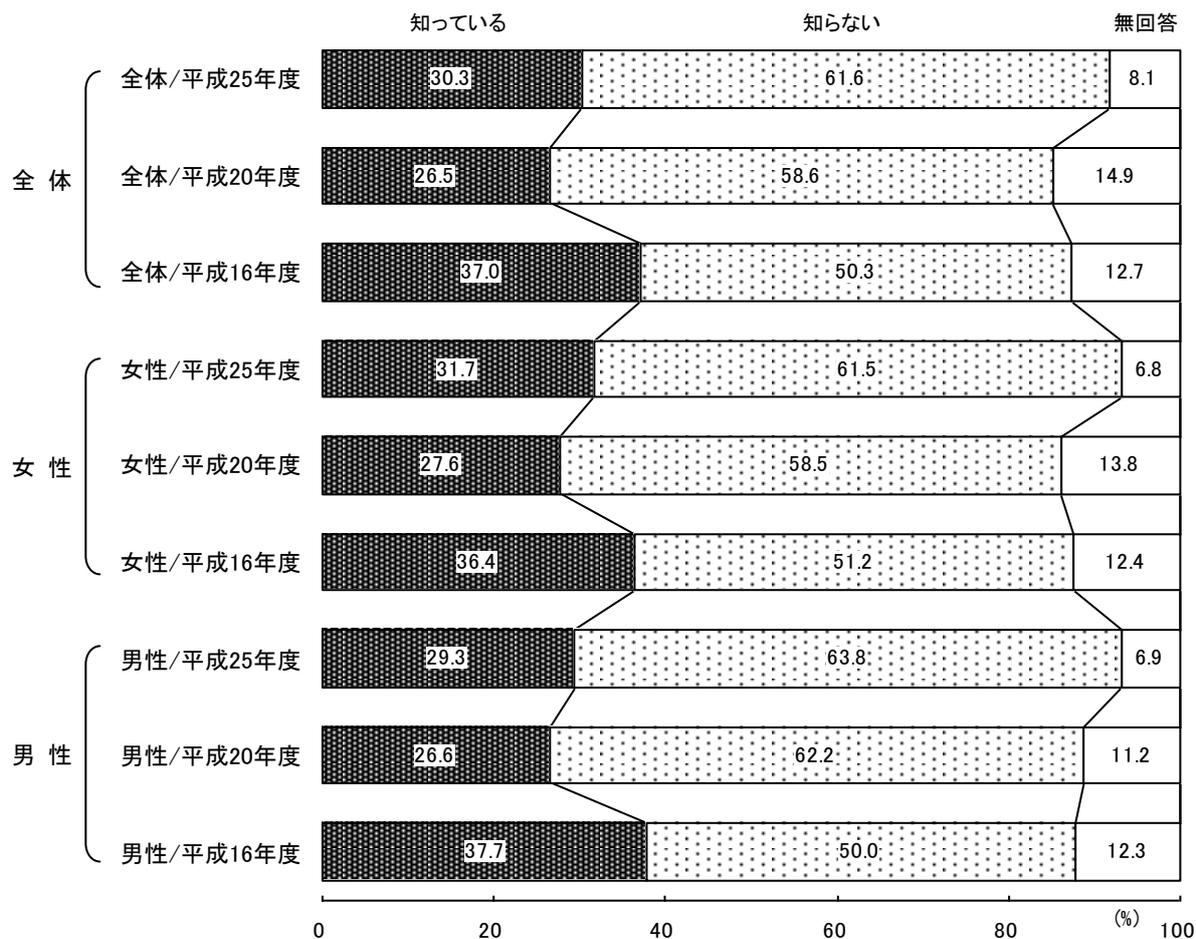
男性では、「知っている」割合(12.3%→14.4%→12.2%)は前回調査から大きな変化はなく、「知らない」とする割合(73.0%→74.9%→80.0%)が前回調査から増加している。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合は、女性 79.2%、男性 80.0%となり、「知っている」とする割合は、女性 13.1%、男性 12.2%となっている。

(3) 各区保健福祉センター

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合 61.6%、「知っている」割合が 30.3%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体として、「知っている」割合 (37.0%→26.5%→30.3%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「知らない」とする割合 (50.3%→58.6%→61.6%) が増加傾向となっている。

女性では、「知っている」割合 (36.4%→27.6%→31.7%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「知らない」とする割合 (51.2%→58.5%→61.5%) が増加傾向となっている。

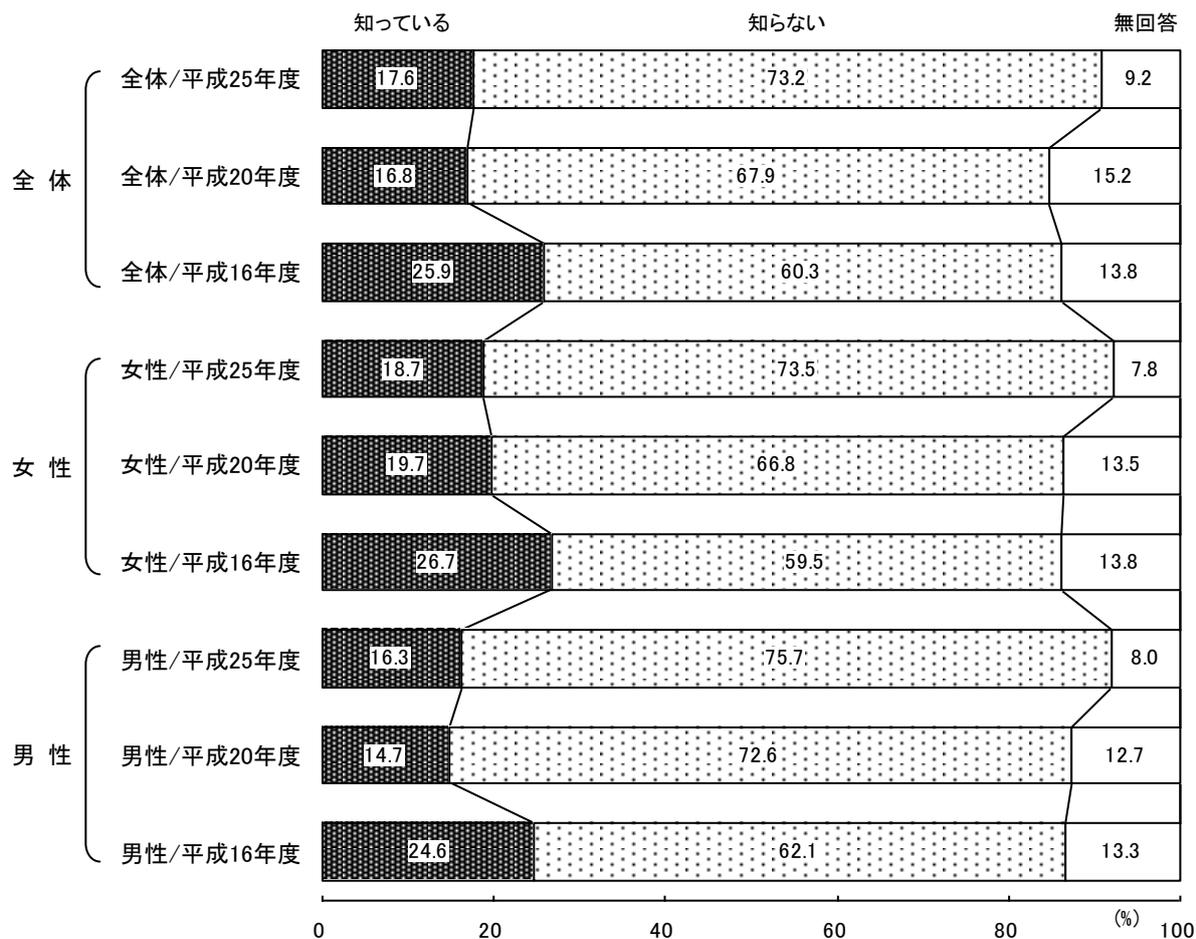
男性では、「知っている」割合 (37.7%→26.6%→29.3%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「知らない」とする割合 (50.0%→62.2%→63.8%) が平成 16 年度から平成 20 年度で増加している。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合は、女性 61.5%、男性 63.8%となり、「知っている」とする割合は、女性 31.7%、男性 29.3%となっている。

(4)大阪府女性相談センター

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合 73.2%、「知っている」割合が 17.6%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体として、「知っている」割合 (25.9%→16.8%→17.6%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「知らない」とする割合 (60.3%→67.9%→73.2%) が増加傾向となっている。

女性では、「知っている」割合 (26.7%→19.7%→18.7%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「知らない」とする割合 (59.5%→66.8%→73.5%) が増加傾向となっている。

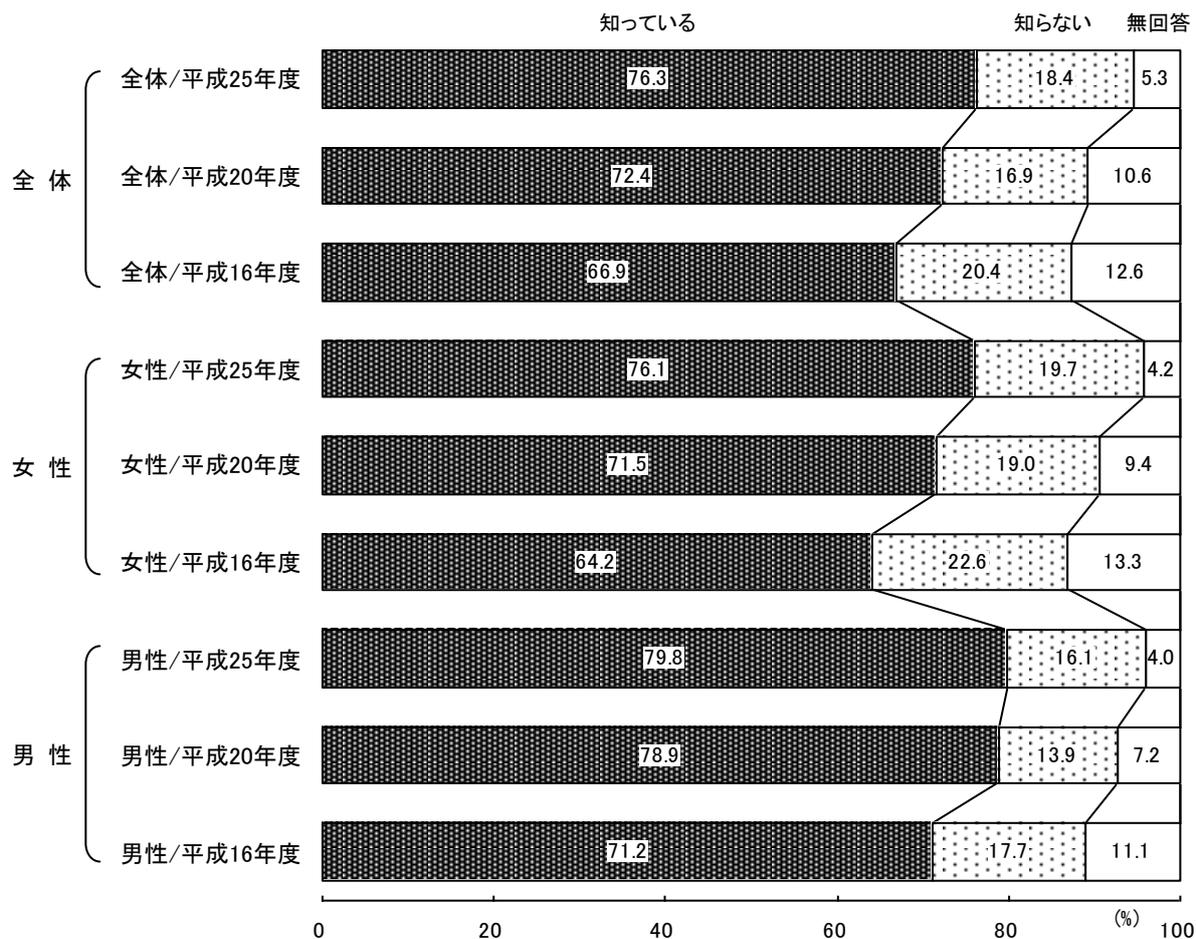
男性では、「知っている」割合 (24.6%→14.7%→16.3%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少し、「知らない」とする割合 (62.1%→72.6%→75.7%) が増加傾向となっている。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合は、女性 73.5%、男性 75.7%となり、「知っている」とする割合は、女性 18.7%、男性 16.3%となっている。

(5) 警察署、交番

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知っている」割合が18.4%、「知らない」とする割合76.3%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体として、「知っている」とする割合(66.9%→72.4%→76.3%)が、増加傾向となっている。

女性では、「知っている」とする割合(64.2%→71.5%→76.1%)が、増加傾向となっている。

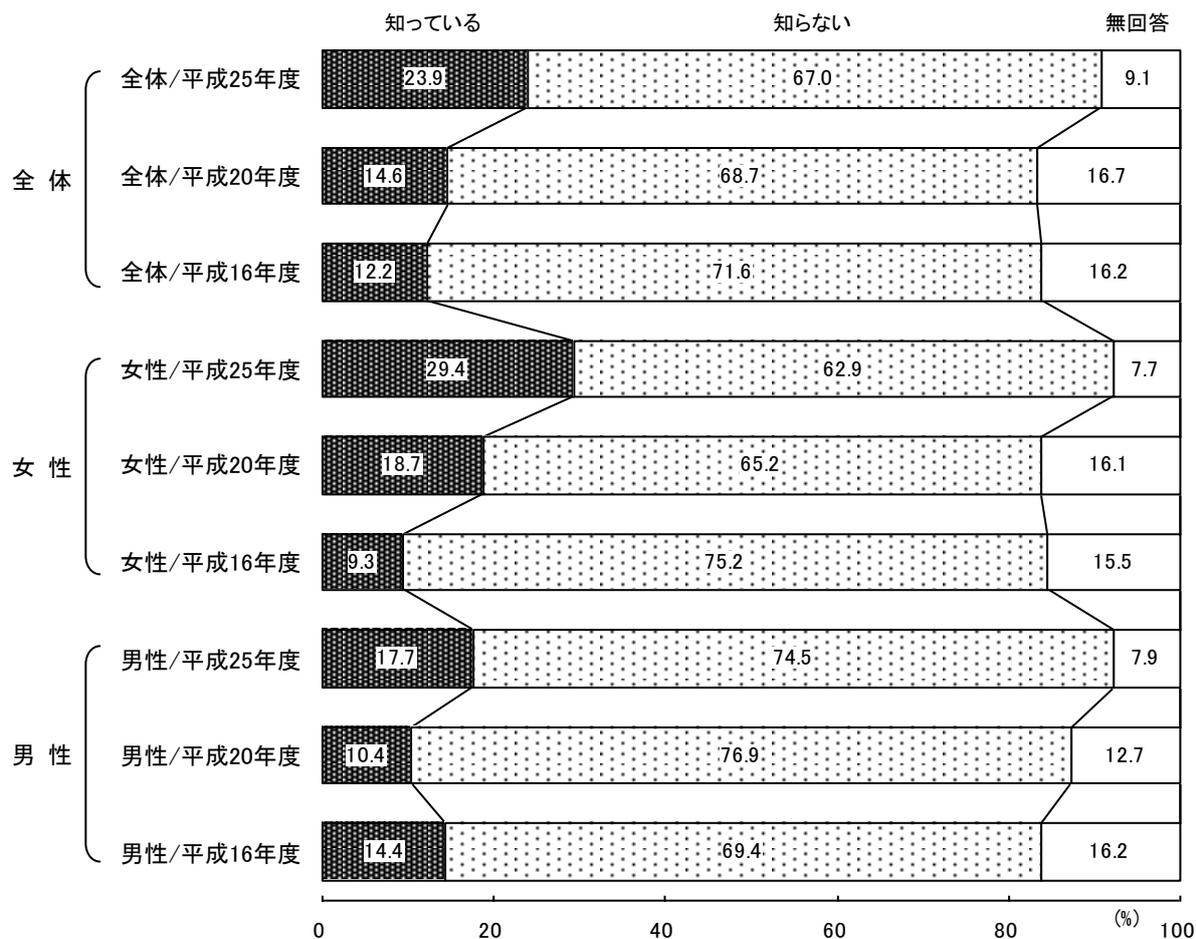
男性では、「知っている」とする割合(71.2%→78.9%→79.8%)で、平成16年度から平成20年度で増加している。

[性別]

男女とも、「知っている」とする割合が女性76.1%、男性79.8%となっている。

(6)シェルターなどの民間の相談機関

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が 67.0%となり、「知っている」割合 (23.9%) を上回っている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体として、「知っている」割合 (12.2%→14.6%→23.9%) は増加傾向、「知らない」とする割合 (71.6%→68.7%→67.0%) は減少傾向となっている。

女性では、「知っている」割合 (9.3%→18.7%→29.4%) は増加傾向、「知らない」とする割合 (75.2%→65.2%→62.9%) は減少傾向となっている。

男性では、「知っている」割合 (14.4%→10.4%→17.7%) は平成 16 年度から平成 20 年度で減少、平成 20 年度から平成 25 年度で増加し、「知らない」とする割合 (69.4%→76.9%→74.5%) は平成 16 年度から平成 20 年度で増加している。

[性別]

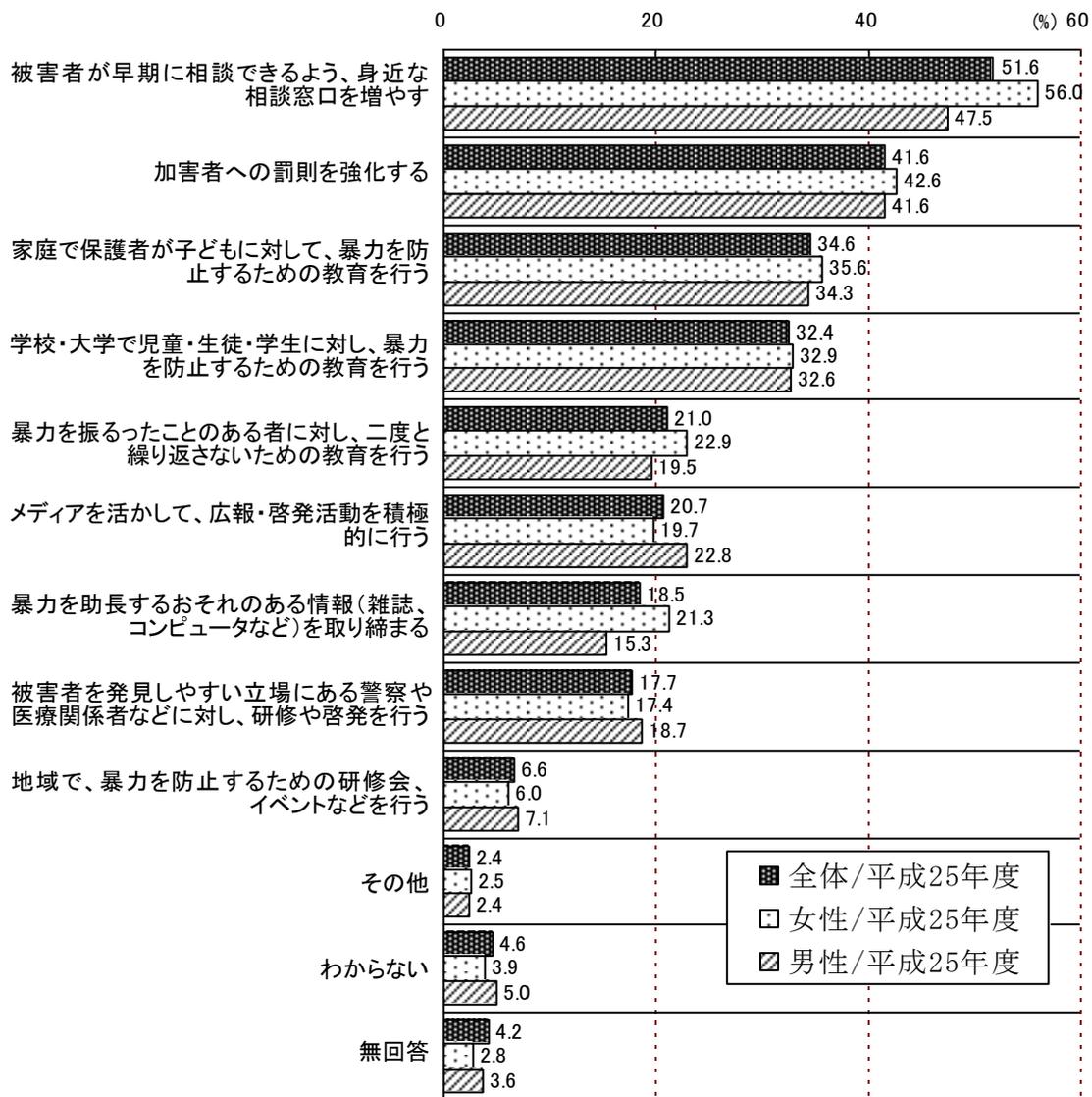
男女とも、「知らない」とする割合 (女性 62.9%、男性 74.5%) が高く、「知っている」とする割合 (女性 29.4%、男性 17.7 %) を上回っている。

なお、「知っている」とする割合が、男性よりも女性の方が、11.7 ポイント高くなっている。

問 26 あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)防止の取組みとして、どのようなことが必要だと思われますか。(〇は3つまで)

ML3/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363

【全体:3,495】



【全体】

「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」とする割合(51.6%)が最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」(41.6%)、「家庭で保護者が子どもに対して、暴力を防止するための教育を行う」(34.6%)となっている。

以下、「学校・大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」とする割合(32.4%)が続いている。

【性別】

男女とも、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」とする割合(女性 56.0%、男性 47.5%)が最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」(女性 42.6%、男性 41.6%)、「家庭で保護者が子どもに対して、暴力を防止する教育を行う」(女性 35.6%、男性 34.3%)となっている。

次いで、「学校・大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」とする割合(女性 32.9%、男性 32.6%)が続いている。

なお、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」では、男性より女性の方が、8.5ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女ともすべての年代で、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」とする割合が、最も高くなっている。

また、すべての年代において、男性より女性の方が高くなっている。

「加害者への罰則を強化する」とする割合が、女性 30 歳代 52.6%、40 歳代 47.5%、男性 30 歳代 47.1%、40 歳代 48.2%、50 歳代 48.6%となり、なかでも女性 30 歳代は他の年代より高くなっている。

問26 DV防止の取組みとして必要なこと

上段:実数 下段:横%	合計	家庭で暴力を防止するための教育	学校で暴力を防止するための教育	地域で暴力を防止するための研修会	広報・啓発活動を積極的にを行う	身近な相談窓口を増やす	警察等に対し研修や啓発を行う	暴力を繰り返さない教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長する情報を取り締まる	その他	わからない	無回答
全体	3495 100.0	1208 34.6	1132 32.4	229 6.6	722 20.7	1805 51.6	619 17.7	734 21.0	1455 41.6	647 18.5	84 2.4	162 4.6	148 4.2
女性・20歳代	168 100.0	68 40.5	53 31.5	12 7.1	29 17.3	101 60.1	45 26.8	36 21.4	78 46.4	23 13.7	2 1.2	5 3.0	6 3.6
女性・30歳代	321 100.0	121 37.7	111 34.6	6 1.9	66 20.6	181 56.4	67 20.9	83 25.9	169 52.6	45 14.0	15 4.7	5 1.6	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	127 37.5	109 32.2	19 5.6	70 20.6	197 58.1	65 19.2	90 26.5	161 47.5	48 14.2	12 3.5	7 2.1	2 0.6
女性・50歳代	314 100.0	117 37.3	106 33.8	22 7.0	73 23.2	170 54.1	47 15.0	74 23.6	117 37.3	91 29.0	13 4.1	11 3.5	4 1.3
女性・60歳代	393 100.0	126 32.1	132 33.6	16 4.1	71 18.1	240 61.1	55 14.0	75 19.1	177 45.0	100 25.4	2 0.5	14 3.6	14 3.6
女性・70歳以上	400 100.0	128 32.0	125 31.3	41 10.3	72 18.0	196 49.0	59 14.8	84 21.0	123 30.8	104 26.0	4 1.0	34 8.5	28 7.0
女性	1938 263.6	690 35.6	637 32.9	116 6.0	382 19.7	1085 56.0	338 17.4	443 22.9	826 42.6	413 21.3	48 2.5	76 3.9	55 2.8
男性・20歳代	112 100.0	36 32.1	31 27.7	8 7.1	23 20.5	52 46.4	24 21.4	21 18.8	50 44.6	6 5.4	7 6.3	4 3.6	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	70 37.0	69 36.5	12 6.3	37 19.6	95 50.3	42 22.2	36 19.0	89 47.1	17 9.0	7 3.7	6 3.2	4 2.1
男性・40歳代	228 100.0	80 35.1	71 31.1	8 3.5	46 20.2	115 50.4	51 22.4	56 24.6	110 48.2	20 8.8	5 2.2	12 5.3	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	61 27.7	66 30.0	10 4.5	55 25.0	109 49.5	39 17.7	46 20.9	107 48.6	32 14.5	6 2.7	13 5.9	8 3.6
男性・60歳代	321 100.0	116 36.1	117 36.4	34 10.6	80 24.9	158 49.2	55 17.1	64 19.9	110 34.3	66 20.6	4 1.2	11 3.4	12 3.7
男性・70歳以上	292 100.0	104 35.6	91 31.2	25 8.6	69 23.6	119 40.8	44 15.1	43 14.7	101 34.6	66 22.6	4 1.4	22 7.5	19 6.5
男性	1363 250.4	468 34.3	445 32.6	97 7.1	311 22.8	648 47.5	255 18.7	266 19.5	567 41.6	208 15.3	33 2.4	68 5.0	49 3.6

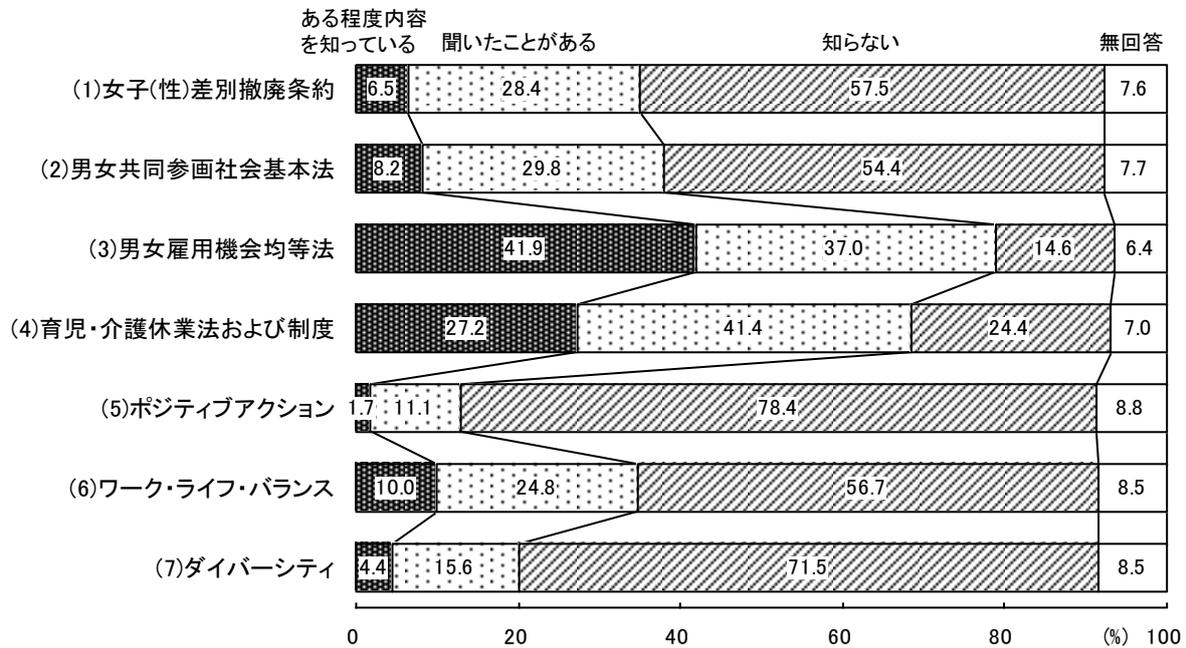
男女差(女性-男性) 1.3 0.3 -1.1 -3.1 8.5 -1.3 3.4 1.0 6.0 0.1 -1.1 -0.8

## 8. 男女共同参画に関連した制度や施策などについて

問 27 次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。

(1)から(7)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA/全体：3,495



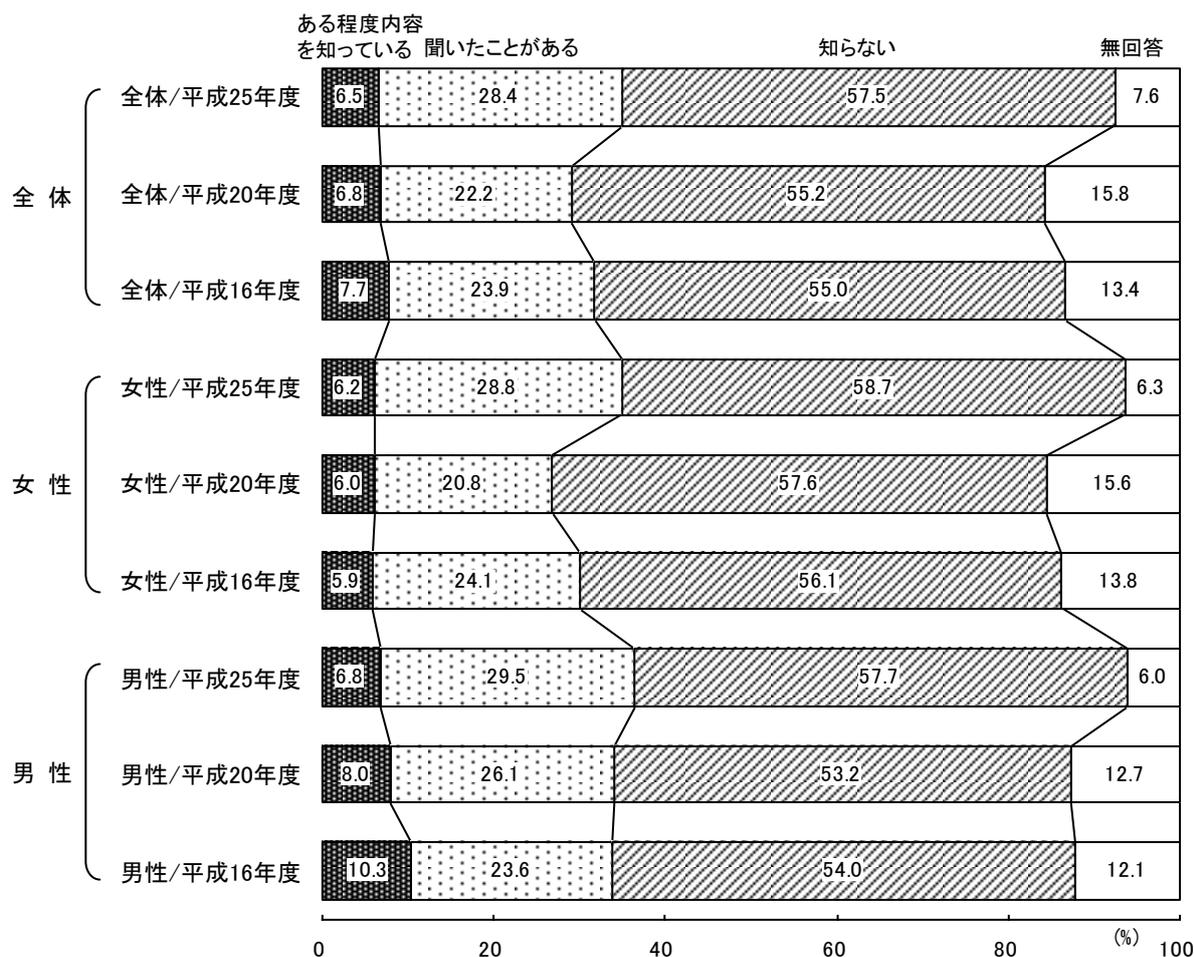
“認知している”割合が 5 割を超えているのは、「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法および制度」の 2 項目となっている。

項目	“認知している”割合	「知らない」割合
(3)男女雇用機会均等法	78.9%	14.6%
(4)育児・介護休業法および制度	68.6%	24.4%
(2)男女共同参画社会基本法	38.0%	54.4%
(1)女子(性)差別撤廃条約	34.9%	57.5%
(6)ワーク・ライフ・バランス	34.8%	56.7%
(7)ダイバーシティ	20.0%	71.5%
(5)ポジティブアクション	12.8%	78.4%

※“認知している”＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

(1) 女子(性)差別撤廃条約

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“認知している”割合が34.9%、「知らない」とする割合が57.5%となっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合は、6.5%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“認知している”割合(31.6%→29.0%→34.9%)が前回調査から増加、「ある程度内容を知っている」とする割合(7.7%→6.8%→6.5%)は大きな差はみられない。

なお、「無回答」の割合(13.4%→15.8%→7.6%)が前回調査から減少している。

女性では、“認知している”割合(30.0%→26.8%→35.0%)が前回調査から増加、「ある程度内容を知っている」とする割合(5.9%→6.0%→6.2%)は大きな差はみられない。

なお、「無回答」の割合(13.8%→15.6%→6.3%)が前回調査から減少している。

男性では、“認知している”割合(33.9%→34.1%→36.3%)、「ある程度内容を知っている」とする割合(10.3%→8.0%→6.8%)とも、大きな差はみられないが、「聞いたことがある」とする割合(23.6%→26.1%→29.5%)が、増加傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(12.1%→12.7%→6.0%)が前回調査から減少している。

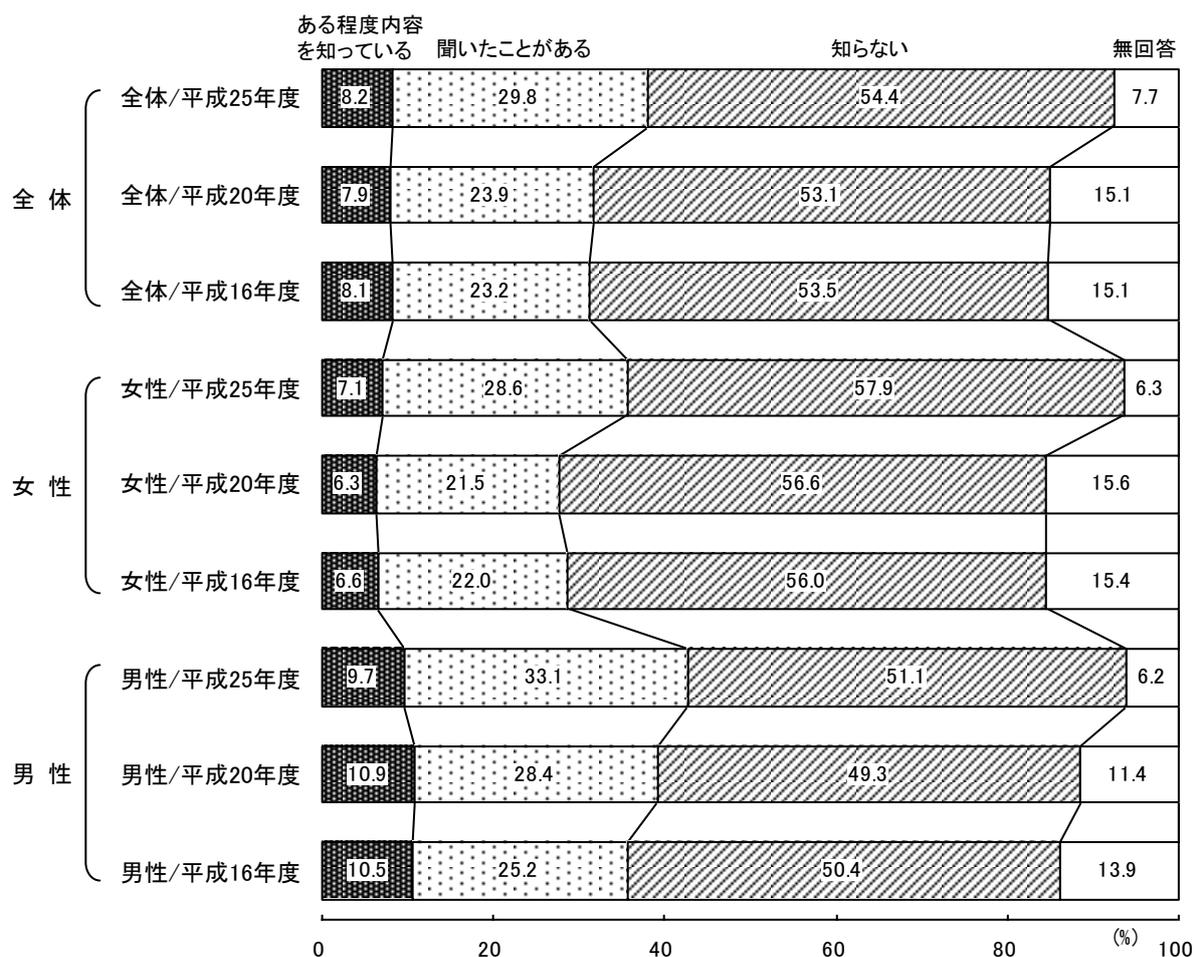
[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が、女性58.7%、男性57.7%と5割を超えている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合では、女性6.2%、男性6.8%となっている。

(2) 男女共同参画社会基本法

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“認知している”割合が38.0%、「知らない」とする割合が54.4%となっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合は、8.2%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“認知している”割合(31.3%→31.8%→38.0%)が平成20年度から平成25年度で増加し、「ある程度内容を知っている」とする割合(8.1%→7.9%→8.2%)は大きな差はみられない。

なお、「無回答」の割合(15.1%→15.1%→7.7%)が前回調査から減少している。

女性では、“認知している”割合(28.6%→27.8%→35.7%)が前回調査から増加、「ある程度内容を知っている」とする割合(6.6%→6.3%→7.1%)は大きな差はみられない。

なお、「無回答」の割合(15.4%→15.6%→6.3%)が前回調査から減少している。

男性では、“認知している”割合(35.7%→39.3%→42.8%)が増加傾向、「ある程度内容を知っている」とする割合(10.5%→10.9%→9.7%)は大きな差はみられない。

なお、「無回答」の割合(13.9%→11.4%→6.2%)が減少傾向となっている。

[性別]

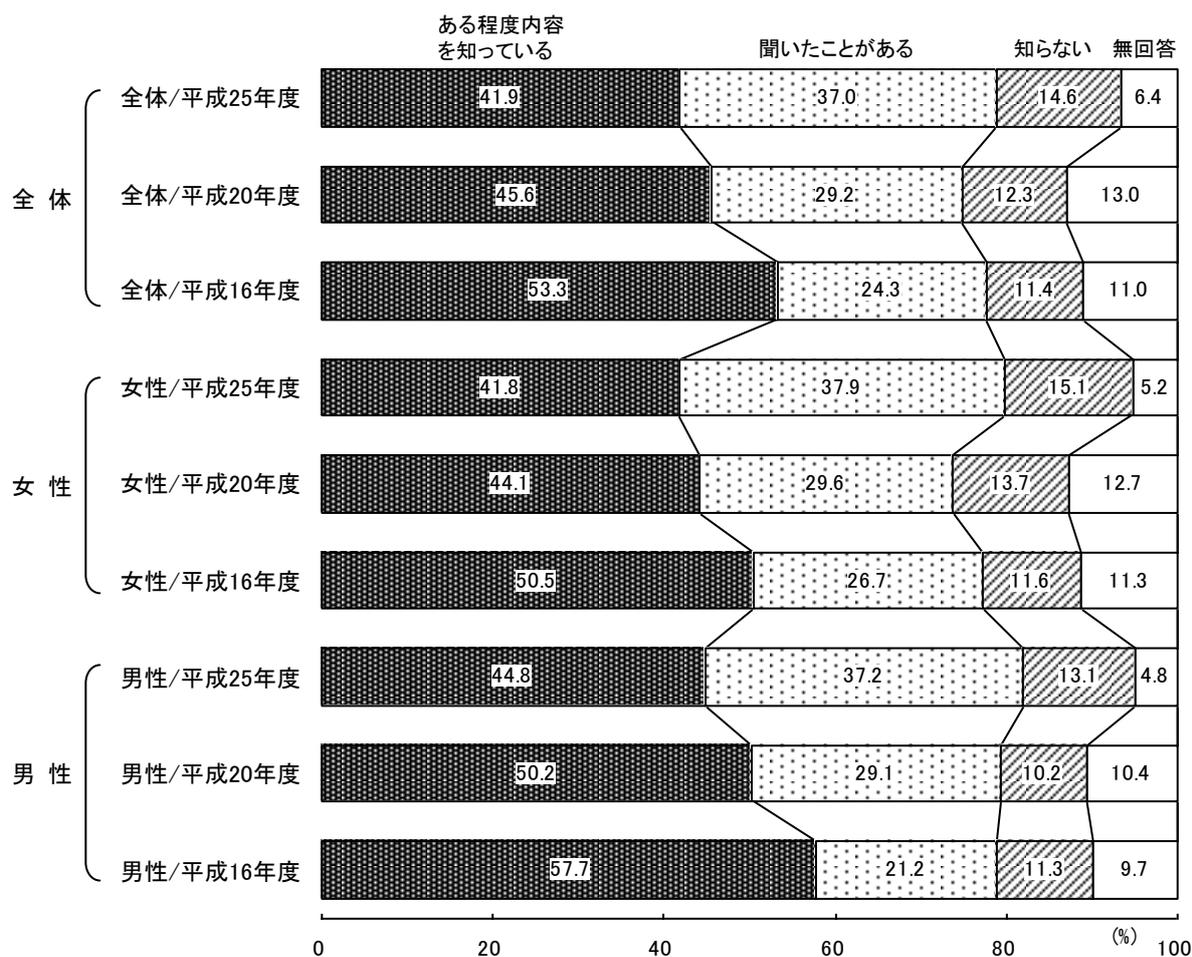
男女とも、「知らない」とする割合が女性57.9%、男性51.1%となり、5割を超えている。

また、“認知している”割合では、女性より男性の方が7.1ポイント高くなっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合が(女性7.1%、男性9.7%)となっている。

(3) 男女雇用機会均等法

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“認知している”割合(78.9%)が8割弱となっている。

また、「ある程度内容を知っている」とする割合(41.9%)が4割となっている。

[経年比較](H16→H20→H25)

全体では、“認知している”割合(77.6%→74.8%→78.9%)は大きな変化が見られず、「ある程度内容を知っている」とする割合(53.3%→45.6%→41.9%)が減少傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(11.0%→13.0%→6.4%)が前回調査から減少している。

女性では、“認知している”割合(77.2%→73.7%→79.7%)は前回調査から増加、「ある程度内容を知っている」とする割合(50.5%→44.1%→41.8%)が減少傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(11.3%→12.7%→5.2%)が前回調査から減少している。

男性では、“認知している”割合(78.9%→79.3%→82.0%)は大きな変化が見られず、「ある程度内容を知っている」とする割合(57.7%→50.2%→44.8%)が減少傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(9.7%→10.4%→4.8%)が前回調査から減少している。

[性別]

男女とも、“認知している”割合(女性 79.7%、男性 82.0%)が8割前後となっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合が女性 41.8%、男性 44.8%となっている。

[性別・年代別]

男女とも、すべての年代で“認知している”割合は5割を超えているが、女性30歳代、40歳代、50歳代、男性30歳代、40歳代、50歳代、60歳代で高くなっている。

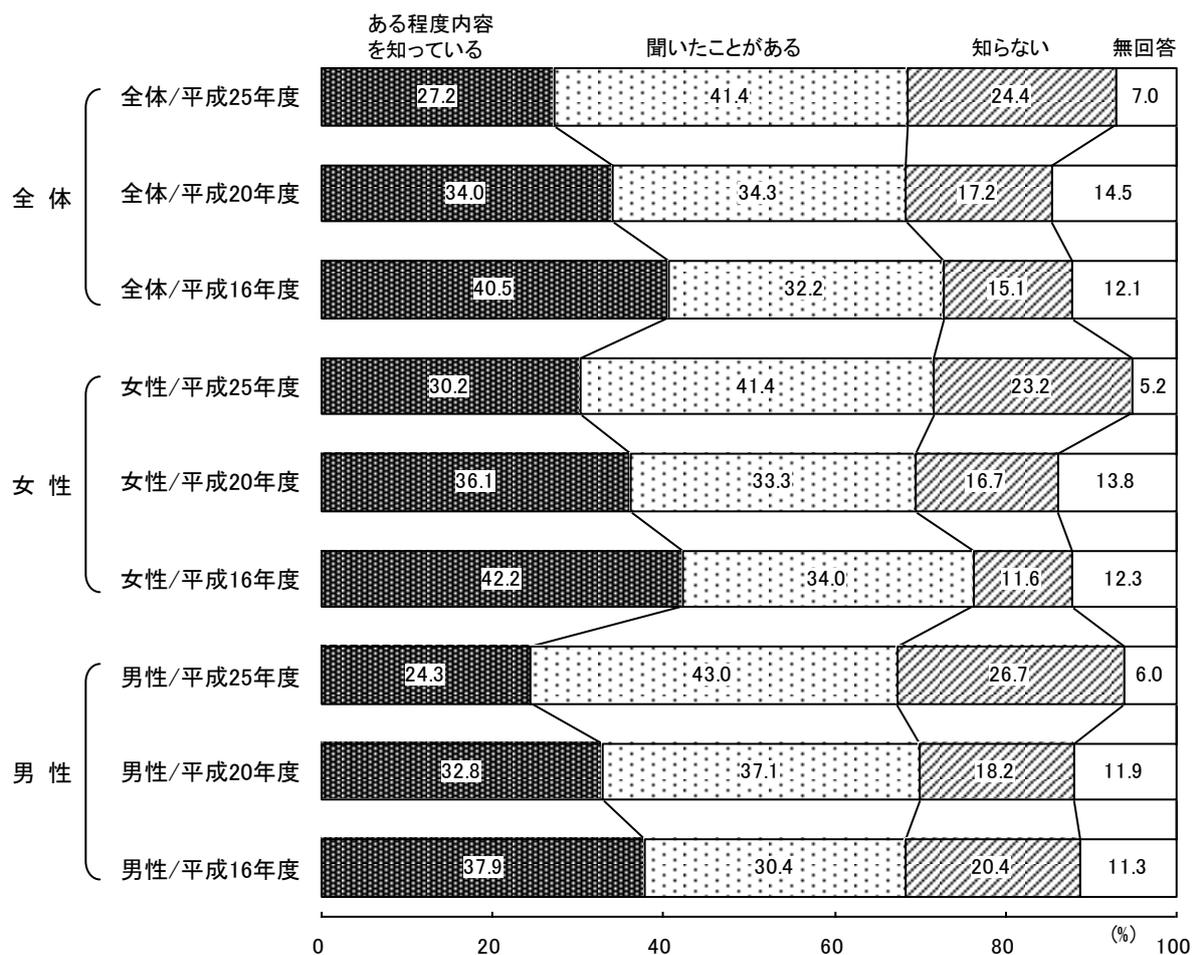
また、「ある程度内容を知っている」とする割合が、女性20歳代から50歳代、男性30歳代から60歳代で高く、なかでも、女性30歳代(51.4%)、40歳代(54.6%)、男性30歳代(53.4%)で5割を超えて高くなっている。

問27(3)「男女雇用機会均等法」の周知状況

上段:実数 下段:横%	合計	ある程度 内容を知 っている	聞いたこ とがある	“認知して いる”	知らない	無回答
全体	3495 100.0	1466 41.9	1293 37.0	2759 78.9	512 14.6	224 6.4
女性・20歳代	168 100.0	77 45.8	60 35.7	137 81.5	28 16.7	3 1.8
女性・30歳代	321 100.0	165 51.4	124 38.6	289 90.0	31 9.7	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	185 54.6	113 33.3	298 87.9	36 10.6	5 1.5
女性・50歳代	314 100.0	152 48.4	123 39.2	275 87.6	34 10.8	5 1.6
女性・60歳代	393 100.0	136 34.6	161 41.0	297 75.6	73 18.6	23 5.9
女性・70歳以上	400 100.0	94 23.5	151 37.8	245 61.3	91 22.8	64 16.0
女性	1938 100.0	810 41.8	734 37.9	1544 79.7	293 15.1	101 5.2
男性・20歳代	112 100.0	43 38.4	43 38.4	86 76.8	24 21.4	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	101 53.4	64 33.9	165 87.3	24 12.7	—
男性・40歳代	228 100.0	104 45.6	93 40.8	197 86.4	27 11.8	4 1.8
男性・50歳代	220 100.0	108 49.1	80 36.4	188 85.5	23 10.5	9 4.1
男性・60歳代	321 100.0	153 47.7	118 36.8	271 84.5	36 11.2	14 4.4
男性・70歳以上	292 100.0	102 34.9	109 37.3	211 72.2	44 15.1	37 12.7
男性	1363 100.0	611 44.8	507 37.2	1118 82.0	179 13.1	66 4.8
男女差(女性-男性)		-3.0	0.7	-2.3	2.0	0.4

(4) 育児・介護休業法および制度

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

“認知している”割合が68.6%、そのうち、「ある程度内容を知っている」とする割合が27.2%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、“認知している”割合(72.7%→68.3%→68.6%)は前回調査から大きな変化が見られず、「ある程度内容を知っている」とする割合(40.5%→34.0%→27.2%)が減少傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(12.1%→14.5%→7.0%)が前回調査から減少している。

女性では、“認知している”割合(76.2%→69.4%→71.6%)は前回調査から大きな変化が見られず、「ある程度内容を知っている」とする割合(42.2%→36.1%→30.2%)が減少傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(12.3%→13.8%→5.2%)が前回調査から減少している。

男性では、“認知している”割合(68.3%→69.9%→67.3%)は大きな変化が見られず、「ある程度内容を知っている」とする割合(37.9%→32.8%→24.3%)が減少傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(11.3%→11.9%→6.0%)が前回調査から減少している。

[性別]

男女とも、“認知している”割合(女性71.6%、男性67.3%)が7割前後となっている。

「ある程度内容を知っている」とする割合(女性30.2%、男性24.3%)が、男性より女性の方が5.9ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女とも、すべての年代で“認知している”割合は5割を超えているが、女性30歳代40歳代50歳代で8割弱、男性50歳代60歳代で7割となり、高くなっている。

また、「ある程度内容を知っている」とする割合が、女性20歳代(38.1%)30歳代(39.6%)で約4割、女性40歳代(34.8%)、50歳代(33.8%)で3割強となり、女性の若い世代ほど高くなっている。

一方、「知らない」とする割合では、男性20歳代(31.3%)、30歳代(30.2%)、40歳代(31.6%)で約3割となり、男性の若い世代ほど高くなっている。

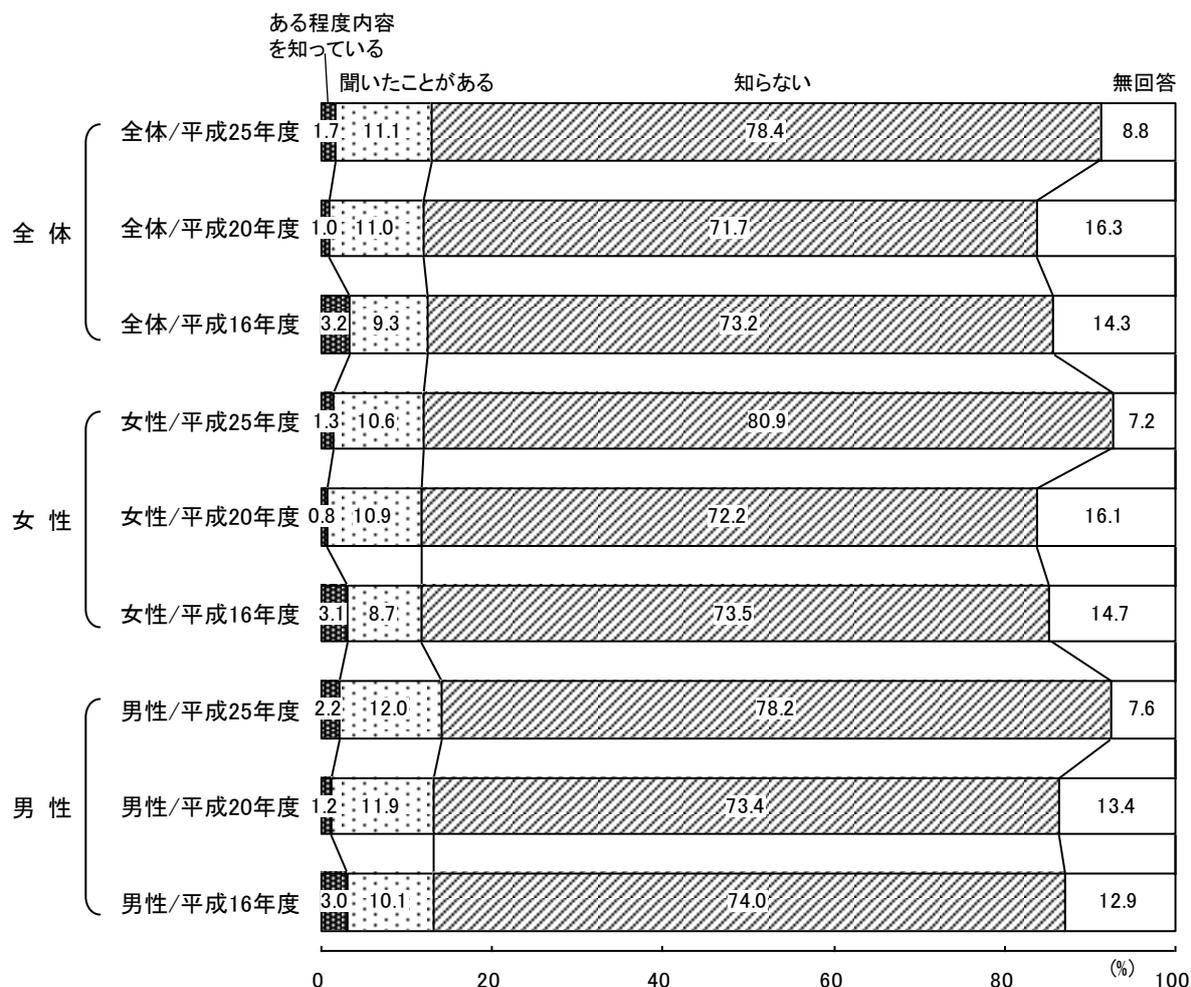
問27(4)「育児・介護休業法および制度」の周知状況

上段:実数 下段:横%	合計	ある程度 内容を知 っている	聞いたこ とがある	“認知して いる”	知らない	無回答
全体	3495 100.0	950 27.2	1447 41.4	2397 68.6	854 24.4	244 7.0
女性・20歳代	168 100.0	64 38.1	60 35.7	124 73.8	41 24.4	3 1.8
女性・30歳代	321 100.0	127 39.6	119 37.1	246 76.7	74 23.1	1 0.3
女性・40歳代	339 100.0	118 34.8	146 43.1	264 77.9	71 20.9	4 1.2
女性・50歳代	314 100.0	106 33.8	143 45.5	249 79.3	57 18.2	8 2.5
女性・60歳代	393 100.0	95 24.2	172 43.8	267 68.0	102 26.0	24 6.1
女性・70歳以上	400 100.0	76 19.0	159 39.8	235 58.8	105 26.3	60 15.0
女性	1938 100.0	586 30.2	802 41.4	1388 71.6	450 23.2	100 5.2
男性・20歳代	112 100.0	31 27.7	44 39.3	75 67.0	35 31.3	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	52 27.5	79 41.8	131 69.3	57 30.2	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	55 24.1	95 41.7	150 65.8	72 31.6	6 2.6
男性・50歳代	220 100.0	60 27.3	98 44.5	158 71.8	52 23.6	10 4.5
男性・60歳代	321 100.0	82 25.5	149 46.4	231 71.9	74 23.1	16 5.0
男性・70歳以上	292 100.0	51 17.5	121 41.4	172 58.9	73 25.0	47 16.1
男性	1363 100.0	331 24.3	586 43.0	917 67.3	364 26.7	82 6.0

男女差(女性-男性)                    5.9            -1.6            4.3            -3.5            -0.8

(5) ポジティブアクション(積極的改善措置)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合(78.4%)が8割弱となり、「認知している」割合(12.8%)が、1割強となっている。

[経年比較](H16→H20→H25)

全体では、「認知している」割合(12.5%→12.0%→12.8%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(73.2%→71.7%→78.4%)が前回調査から増加している。

なお、「無回答」の割合(14.3%→16.3%→8.8%)が前回調査から減少している。

女性では、「認知している」割合(11.8%→11.7%→11.9%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(73.5%→72.2%→80.9%)が前回調査から増加している。

なお、「無回答」の割合(14.7%→16.1%→7.2%)が前回調査から減少している。

男性では、「認知している」割合(13.1%→13.1%→14.2%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(74.0%→73.4%→78.2%)が前回調査から増加している。

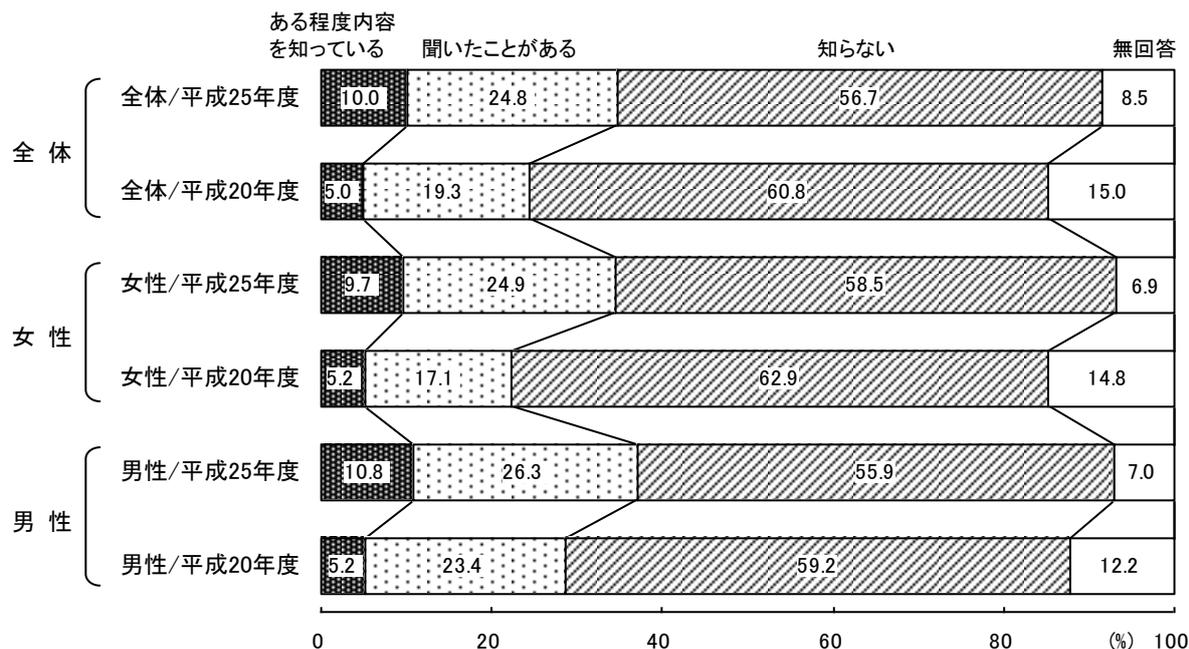
なお、「無回答」の割合(12.9%→13.4%→7.6%)が前回調査から減少している。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性80.9%、男性78.2%となり、「認知している」割合が女性11.9%、男性14.2%となっている。

(6) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が 56.7%、「認知している」割合が 34.8%となっている。

[経年比較] (H20→H25)

全体及び男女とも、つぎのとおり、「認知している」割合、「ある程度内容を知っている」とする割合とも増加している。

全体では、「認知している」割合 (24.3%→34.8%)、「ある程度内容を知っている」とする割合 (5.0%→10.0%) がともに増加し、「無回答」の割合 (15.0%→8.5%) が減少している。

女性では、「認知している」割合 (22.3%→34.6%)、「ある程度内容を知っている」とする割合 (5.2%→9.7%) がともに増加し、「無回答」の割合 (14.8%→6.9%) が減少している。

男性では、「認知している」割合 (22.3%→34.6%)、「ある程度内容を知っている」とする割合 (5.2%→10.8%) がともに増加し、「無回答」の割合 (12.0%→7.0%) が減少している。

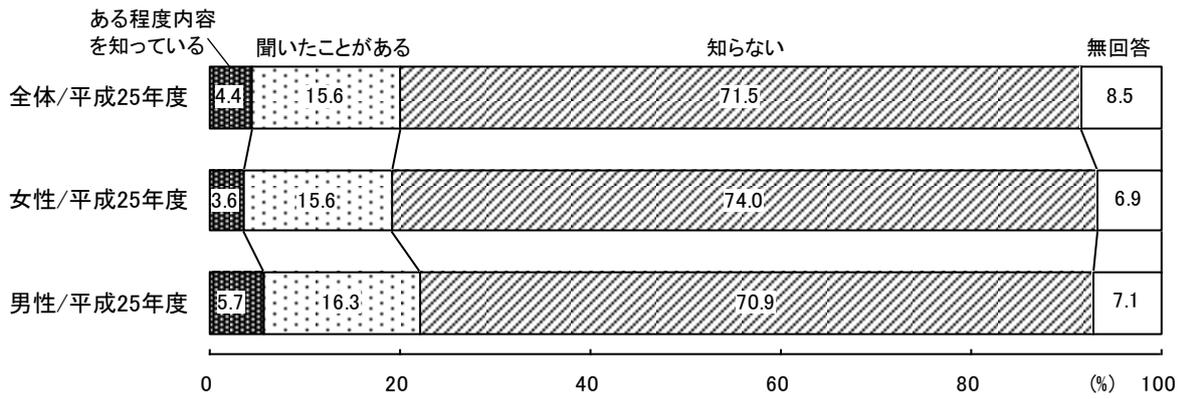
[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性 58.5%、男性 55.9%となり、「認知している」割合が女性 34.6%、男性 37.1%となっている。

なお、「ある程度内容を知っている」とする割合が、女性 9.7%、男性 10.8%となっている。

(7)ダイバーシティ(多様な人材の活用)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が 71.5%、「認知している」割合が 20.0%となっている。

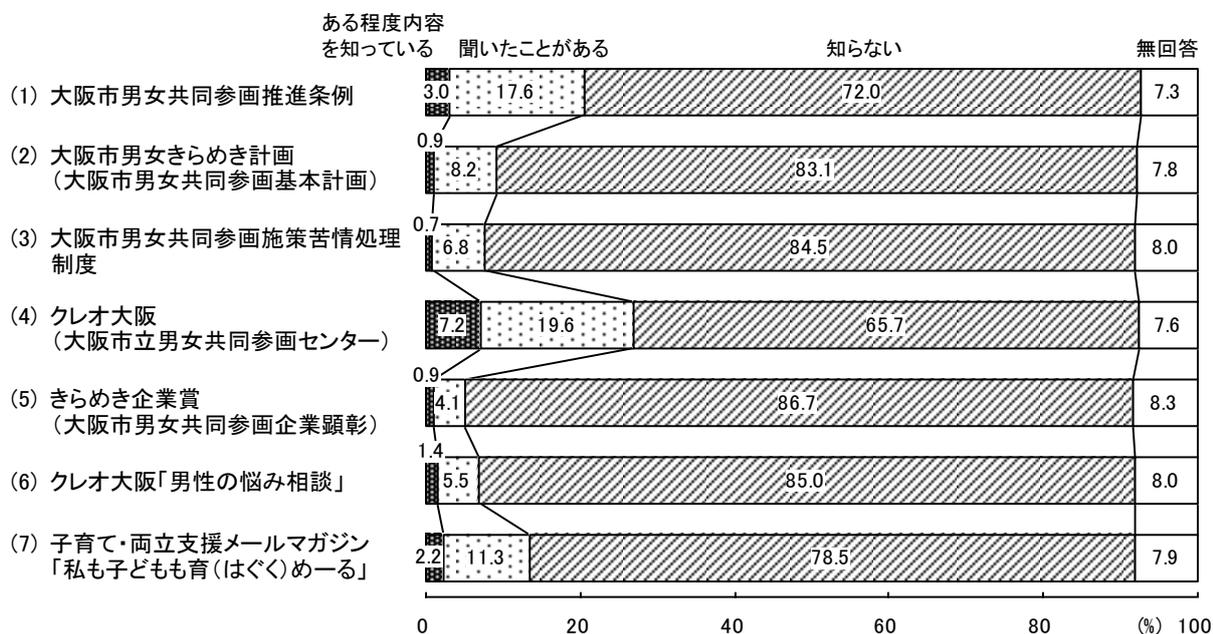
[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性 74.0%、男性 70.9%となり、「認知している」割合(女性 19.2%、男性 22.0%)がを上回っている。

問 28 大阪市では男女共同参画社会の実現をめざして施策に取り組んでいますが、次にあげる項目のうちで、あなたがご存じのものはありますか。

(1)から(7)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

SA/全体：3,495



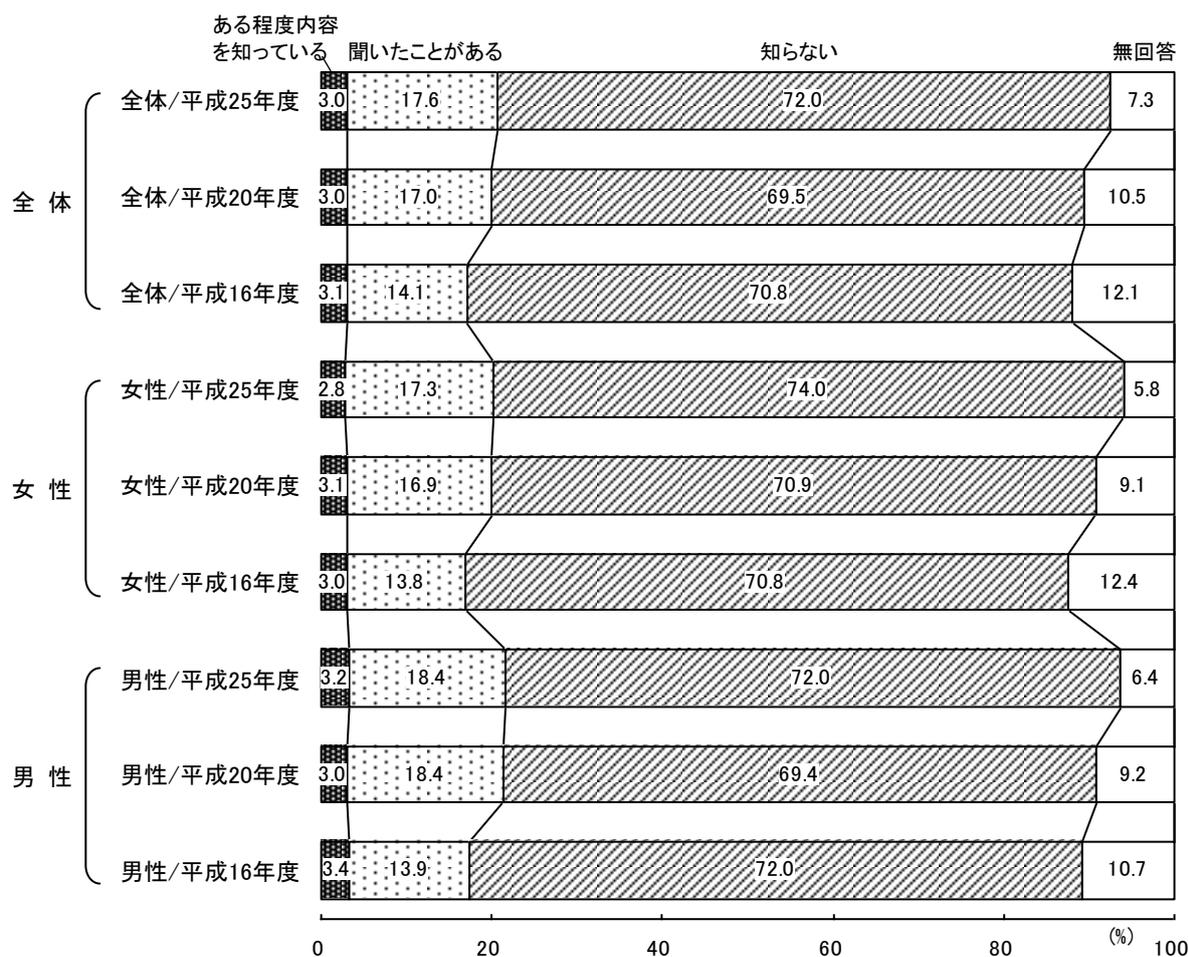
“認知している”割合は、「クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)」が 26.8%と最も高く、次いで、「大阪市男女共同参画推進条例」(20.6%)、「子育て・両立支援メールマガジン「私も子どもも育(はぐく)めーる」(13.5%)となっている。

項目	“認知している”割合
(4)クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)	26.8%
(1)大阪市男女共同参画推進条例	20.6%
(7)子育て・両立支援メールマガジン「私も子どもも育(はぐく)めーる」	13.5%
(2)大阪市男女きらめき計画(大阪市男女共同参画基本計画)	9.1%
(3)大阪市男女共同参画施策苦情処理制度	7.5%
(6)クレオ大阪「男性の悩み相談」	6.9%
(5)きらめき企業賞(大阪市男女共同参画企業顕彰)	5.0%

※“認知している”＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

(1)大阪市男女共同参画推進条例

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が72.0%となり、「認知している」割合が20.6%となっている。

[経年比較](H16→H20→H25)

全体では、「認知している」割合(17.2%→20.0%→20.6%)、「知らない」とする割合(70.8%→69.5%→72.0%)ともに大きな変化が見られない。

なお、「無回答」の割合(12.1%→10.5%→7.3%)が減少傾向となっている。

女性では、「認知している」割合(16.8%→20.0%→20.1%)が平成16年度から平成20年度で増加し、「知らない」とする割合(70.8%→70.9%→74.0%)ともに大きな変化が見られない。

なお、「無回答」の割合(12.4%→9.1%→5.8%)が減少傾向となっている。

男性では、「認知している」割合(17.3%→21.4%→21.6%)が平成16年度から平成20年度で増加し、「知らない」とする割合(72.0%→69.4%→72.0%)ともに大きな変化が見られない。

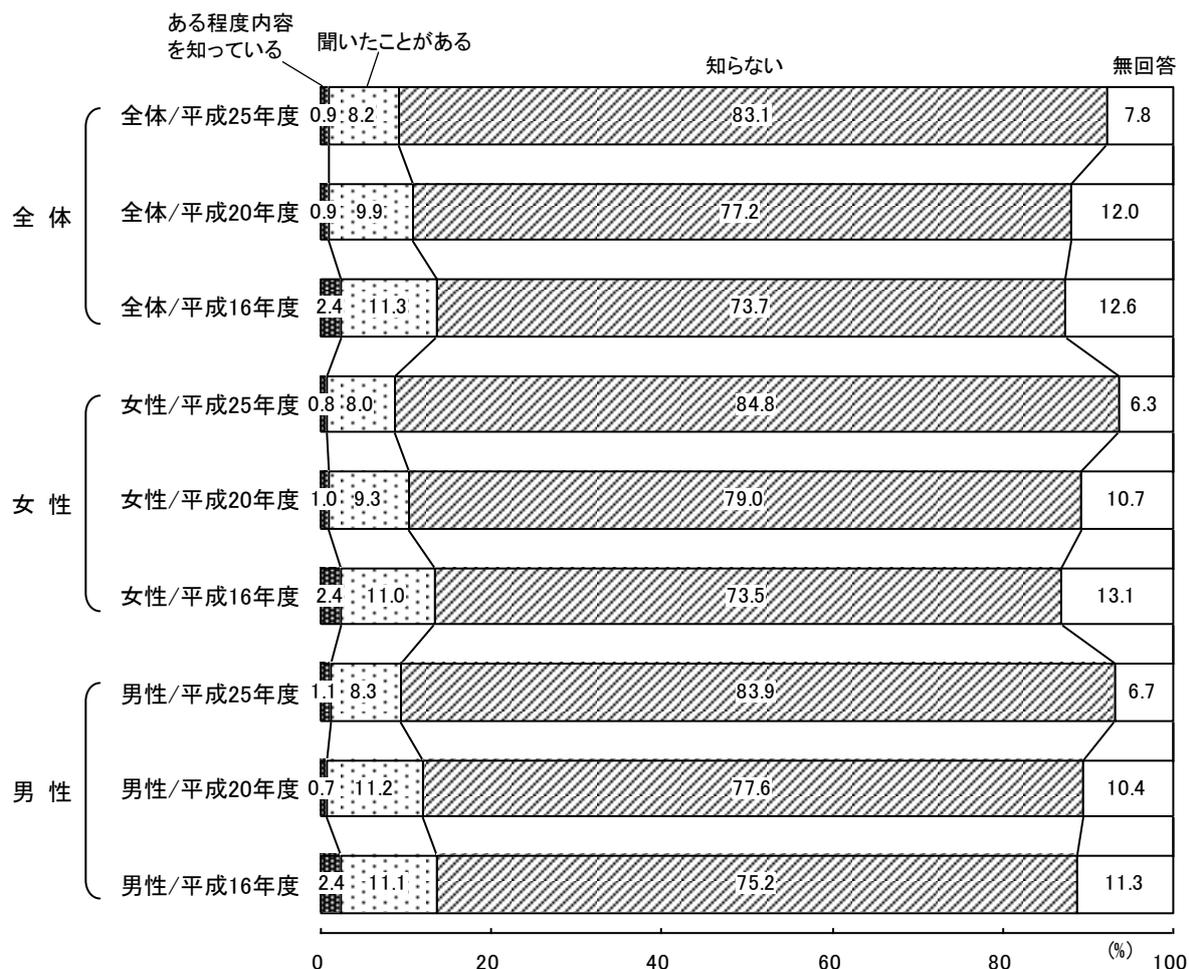
なお、「無回答」の割合(10.7%→9.2%→6.4%)が減少傾向となっている。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性74.0%、男性72.0%となり、「認知している」割合が(女性20.1%、男性21.6%)を上回っている。

(2)大阪市男女きらめき計画(大阪市男女共同参画基本計画)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が83.1%となり、「認知している」割合が、9.1%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「認知している」割合(13.7%→10.8%→9.1%)が減少傾向、「知らない」とする割合(73.7%→77.2%→83.1%)が増加傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(12.6%→12.0%→7.8%)が前回調査から減少している。

女性では、「認知している」割合(13.4%→10.3%→8.8%)が減少傾向、「知らない」とする割合(73.5%→79.0%→84.8%)が増加傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(13.1%→10.7%→6.3%)が減少傾向となっている。

男性では、「認知している」割合(13.5%→11.9%→9.4%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(75.2%→77.6%→83.9%)が増加傾向となっている。

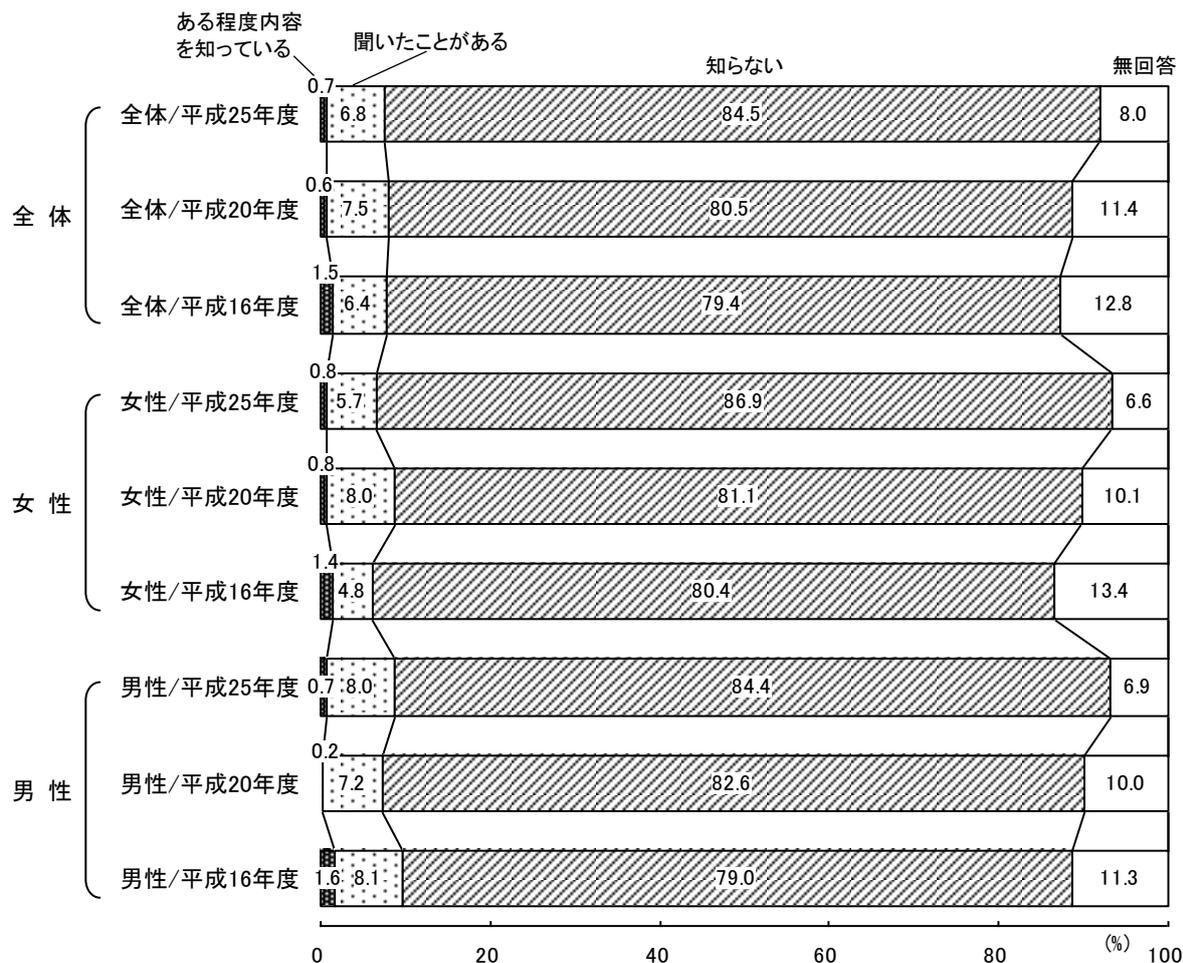
なお、「無回答」の割合(11.3%→10.4%→6.7%)も大きな変化は見られない。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性84.8%、男性83.9%と、「認知している」割合が女性8.8%、男性9.4%となっている。

### (3)大阪市男女共同参画施策苦情処理制度

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



#### [全体]

「知らない」とする割合が84.5%、「認知している」割合が7.5%となっている。

#### [経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「認知している」割合(7.9%→8.1%→7.5%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(79.4%→80.5%→84.5%)が前回調査から増加している。

なお、「無回答」の割合(12.8%→11.4%→8.0%)が前回調査から減少傾向となっている。

女性では、「認知している」割合(6.2%→8.8%→6.5%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(80.4%→81.1%→86.9%)が前回調査から増加している。

なお、「無回答」の割合(13.4%→10.1%→6.6%)が減少傾向となっている。

男性では、「認知している」割合(9.7%→7.4%→8.7%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(78.0%→82.6%→84.4%)が増加傾向となっている。

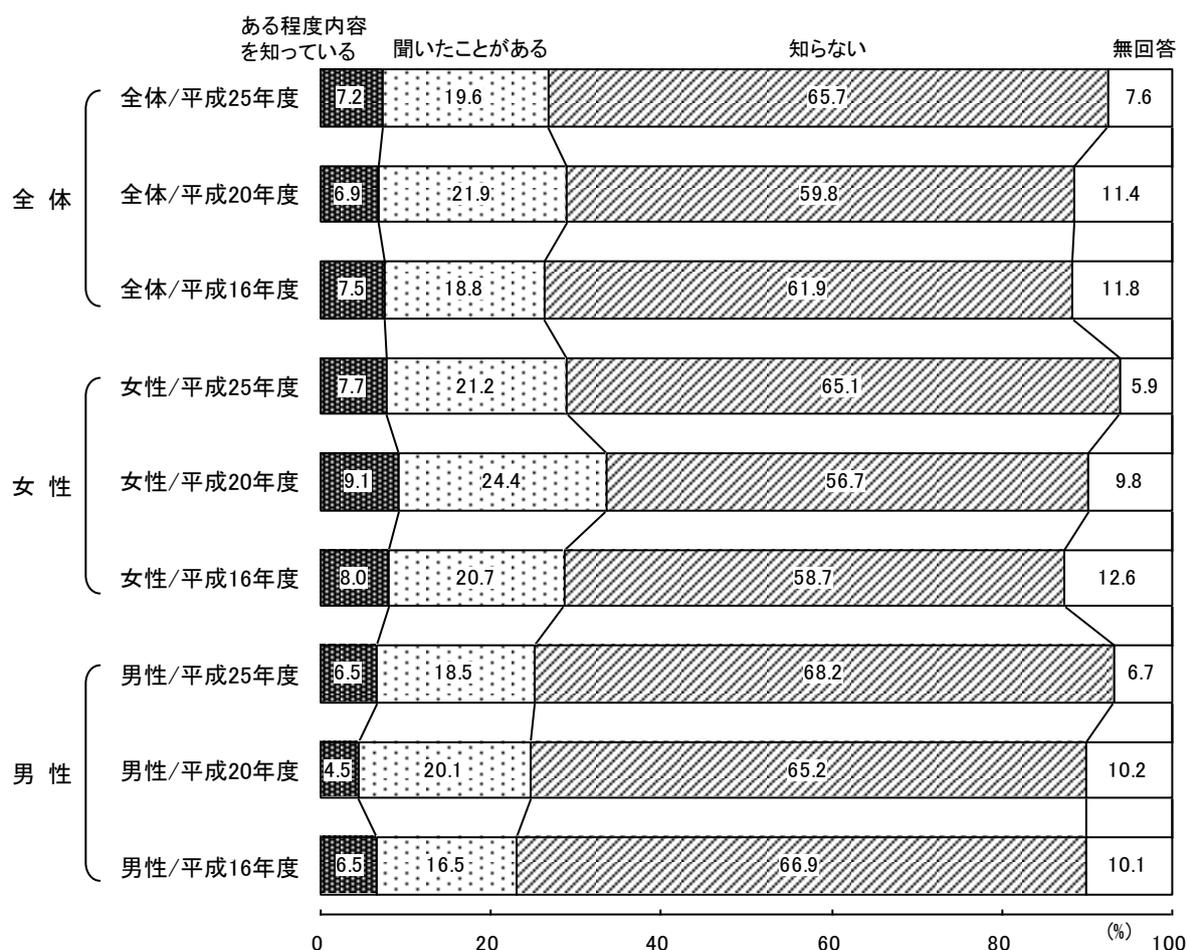
なお、「無回答」の割合(11.3%→10.0%→6.9%)も大きな変化は見られない。

#### [性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性 86.9%、男性 84.4%、「認知している」割合が女性 6.5%、男性 8.7%となっている。

(4)クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が 65.7%、「認知している」割合が 26.8%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「認知している」割合 (26.3%→28.8%→26.8%) は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合 (61.9%→59.8%→65.7%) が前回調査から増加となっている。

なお、「無回答」の割合 (11.8%→11.4%→7.6%) は大きな変化が見られない。

女性では、「認知している」割合 (28.7%→33.5%→28.9%) は平成 16 年度から平成 20 年度で増加し、平成 20 年度から平成 25 年度で減少している。

「知らない」とする割合 (58.7%→56.7%→65.1%) が前回調査から増加している。

なお、「無回答」の割合 (12.6%→9.8%→5.9%) が減少傾向となっている。

男性では、「認知している」割合 (23.0%→24.6%→25.0%)、「知らない」とする割合 (66.9%→65.2%→68.2%) とも大きな変化が見られない。

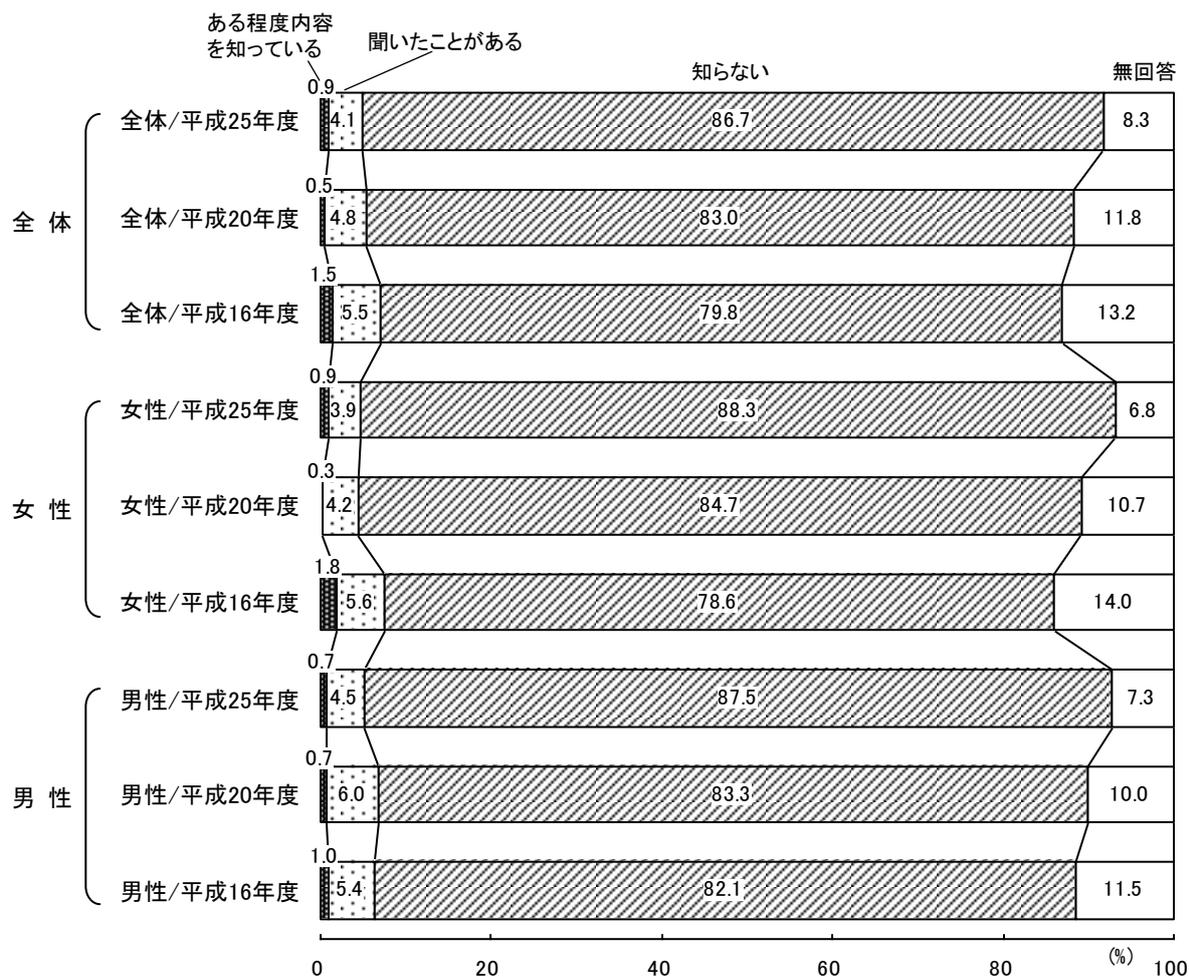
なお、「無回答」の割合 (10.1%→10.2%→6.7%) も大きな変化は見られない。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合が女性 65.2%、男性 68.2%となり、「認知している」割合 (女性 28.9%、男性 25.0%) を上回っている。

(5)きらめき企業賞(大阪市男女共同参画企業顕彰)

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が86.7%、「認知している」割合が5.0%となっている。

[経年比較] (H16→H20→H25)

全体では、「認知している」割合(7.0%→5.3%→5.0%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(79.8%→83.0%→86.7%)が増加傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(13.2%→11.8%→8.3%)が減少傾向となっている。

女性では、「認知している」割合(7.4%→4.5%→4.8%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(78.6%→84.7%→88.3%)が増加傾向となっている。

なお、「無回答」の割合(14.0%→10.7%→6.8%)が減少傾向となっている。

男性では、「認知している」割合(6.4%→6.7%→5.2%)は大きな変化が見られず、「知らない」とする割合(82.1%→83.3%→87.5%)が前回調査から増加傾向となっている。

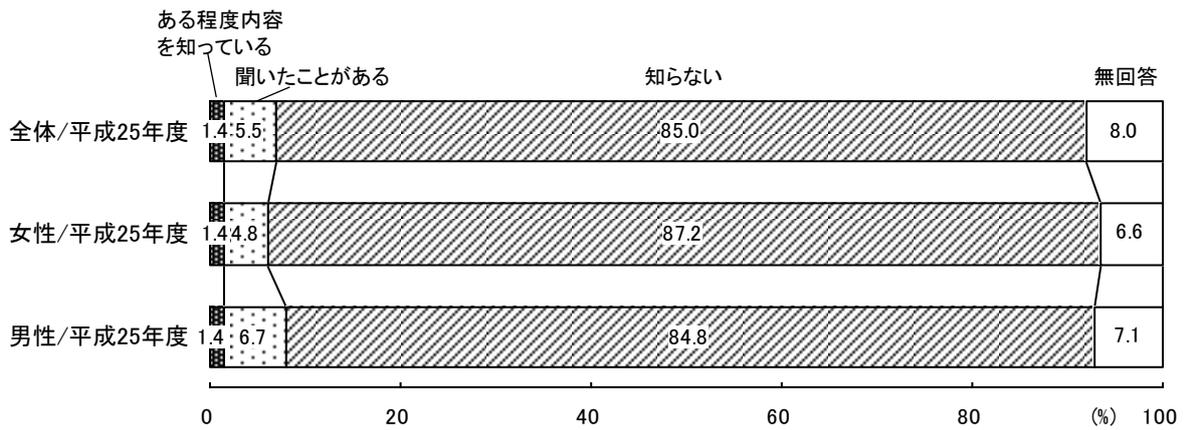
なお、「無回答」の割合(11.5%→10.0%→7.3%)も大きな変化は見られない。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合(女性 88.3%、男性 87.5%)が、「認知している」割合(女性 4.8%、男性 5.2%)を上回っている。

(6)クレオ大阪「男性の悩み相談」

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

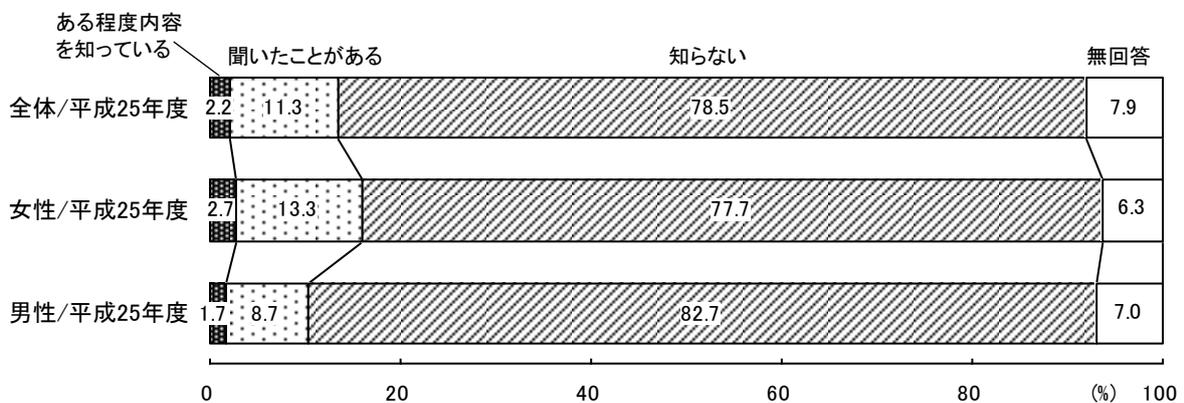
「知らない」とする割合が 85.0%、「認知している」割合が、6.9%となっている。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合(女性 87.2%、男性 84.8%)が、「認知している」割合(女性 6.2%、男性 8.1%)を上回っている。

(7)子育て・両立支援メールマガジン「私も子どもも育(はぐく)めーる」

SA/全体:3,495、女性:1,938、男性:1,363



[全体]

「知らない」とする割合が 78.5%、「認知している」割合が 13.5%となっている。

[性別]

男女とも、「知らない」とする割合(女性 77.7%、男性 82.7%)が、「認知している」割合(女性 16.0%、男性 10.4%)を上回っている。

なお、「認知している」割合が、男性より女性の方が 5.6 ポイント高くなり、一方、「知らない」とする割合が、女性より男性の方が 5.0 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

男女とも、すべての世代で「知らない」とする割合が高くなっている。

「認知している」割合が、女性 30 歳代(21.2%)、50 歳代(17.2%)、60 歳代(16.8%)で他の年代に比べて

高くなっている。

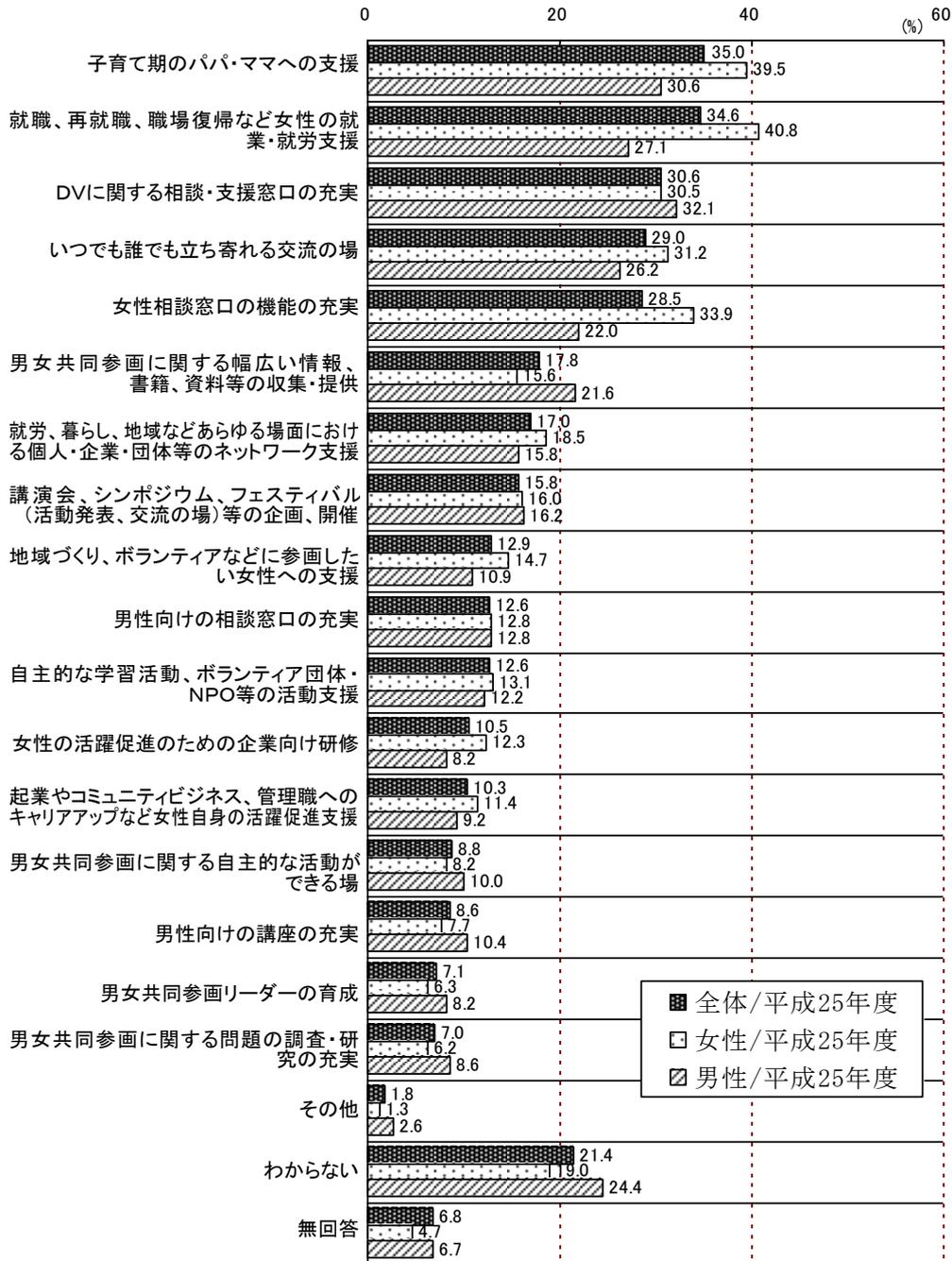
なお、「ある程度内容を知っている」割合では、女性30歳代が6.9%となっている。

問28(7)「子育て・両立支援メールマガジン」の周知状況

上段:実数 下段:横%	合計	ある程度 内容を知 っている	聞いたこ とがある	“認知して いる”	知らない	無回答
全体	3495 100.0	78 2.2	396 11.3	474 13.5	2744 78.5	277 7.9
女性・20歳代	168 100.0	4 2.4	13 7.7	17 10.1	148 88.1	3 1.8
女性・30歳代	321 100.0	22 6.9	46 14.3	68 21.2	251 78.2	2 0.6
女性・40歳代	339 100.0	9 2.7	37 10.9	46 13.6	288 85.0	5 1.5
女性・50歳代	314 100.0	5 1.6	49 15.6	54 17.2	253 80.6	7 2.2
女性・60歳代	393 100.0	8 2.0	58 14.8	66 16.8	303 77.1	24 6.1
女性・70歳以上	400 100.0	4 1.0	54 13.5	58 14.5	260 65.0	82 20.5
女性	1938 100.0	52 2.7	257 13.3	309 16.0	1506 77.7	123 6.3
男性・20歳代	112 100.0	3 2.7	5 4.5	8 7.2	102 91.1	2 1.8
男性・30歳代	189 100.0	3 1.6	18 9.5	21 11.1	167 88.4	1 0.5
男性・40歳代	228 100.0	4 1.8	20 8.8	24 10.6	199 87.3	5 2.2
男性・50歳代	220 100.0	2 0.9	26 11.8	28 12.7	181 82.3	11 5.0
男性・60歳代	321 100.0	5 1.6	24 7.5	29 9.1	272 84.7	20 6.2
男性・70歳以上	292 100.0	6 2.1	25 8.6	31 10.7	205 70.2	56 19.2
男性	1363 100.0	23 1.7	118 8.7	141 10.4	1127 82.7	95 7.0
男女差(女性-男性)		1.0	4.6	5.6	-5.0	-0.7

問 29 あなたは、「クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)」にどのような事業を期待しますか。(あてはまるもの全てに○を)

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性1,363



[全体]

「子育て期のパパ・ママへの支援」とする割合(35.0%)が最も高く、「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」(34.6%)、「DVに関する相談・支援窓口の充実」(30.6%)が上位3位となっている。

上位3位に続く項目が、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(29.0%)、「女性相談窓口の機能の充実」(28.5%)となっている。

【性別】

女性では、「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」とする割合(40.8%)が最も高く、「子育て期のパパ・ママへの支援」(39.5%)、「女性相談窓口の機能の充実」(33.9%)が上位3位となっている。

女性上位3位に続く項目は、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(31.2%)、「DVに関する相談・支援窓口の充実」(30.5%)となっている。

男性では、「DVに関する相談・支援窓口の充実」とする割合(32.1%)が最も高く、「子育て期のパパ・ママへの支援」(30.6%)、「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」(27.1%)が上位3位となっている。

男性上位3位に続く項目は、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(26.2%)、「女性相談窓口の機能の充実」(22.0%)となっている。

なお、「就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」とする割合で13.7ポイント、「女性相談窓口の機能の充実」とする割合で11.9ポイント、「子育て期のパパ・ママへの支援」とする割合で8.9ポイント、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」とする割合で5.0ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

一方、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」(女性15.6%、男性21.6%)とする割合では、6.0ポイント、女性より男性のほうが高くなっている。

【性別・年代別】

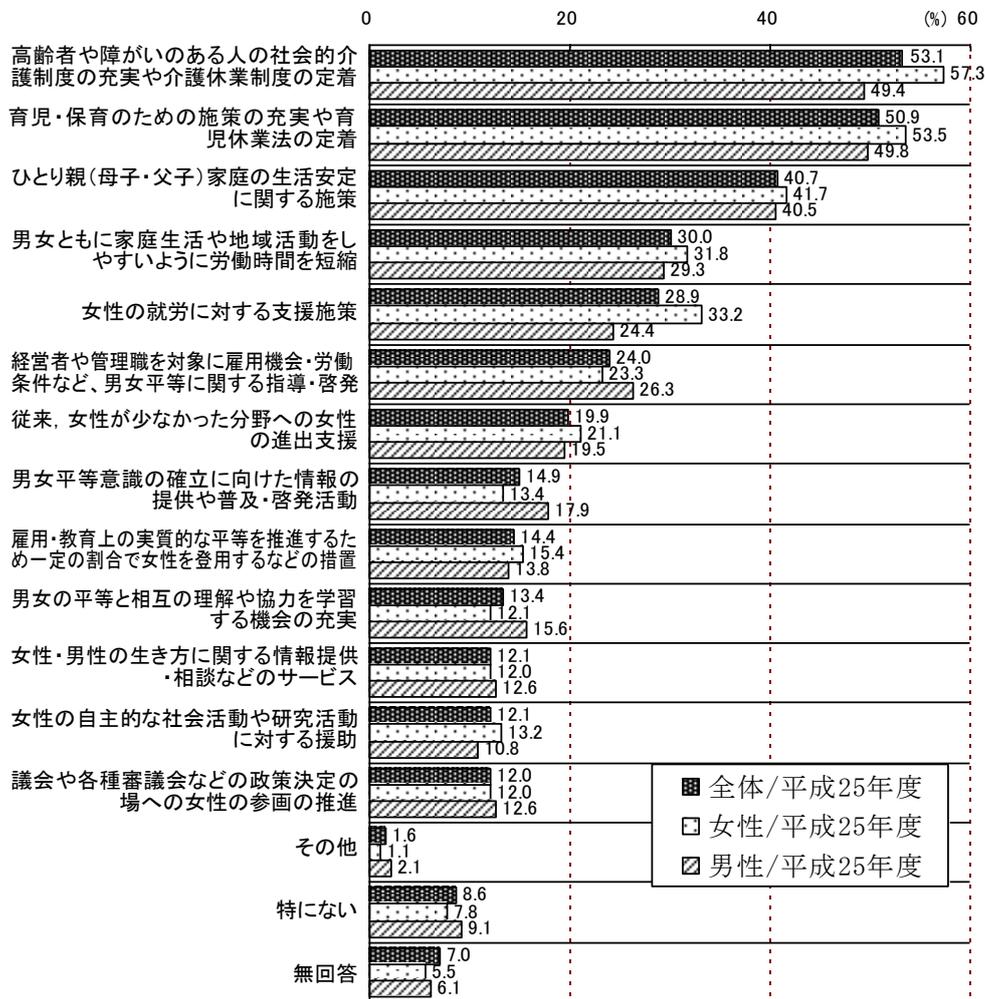
男女とも、20歳代、30歳代では、「子育て期のパパ・ママへの支援」とする割合が、女性40歳代、50歳代で「就業、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援」とする割合が、男性40歳代、50歳代、60歳代では「DVに関する相談・支援窓口の充実」とする割合が、女性60歳代、70歳以上、男性70歳以上では、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」とする割合が最も高くなっている。

性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	子育て期のパパ・ママへの支援 (35.0)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (34.6)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (30.6)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (29.0)	女性相談窓口の機能の充実 (28.5)	
女性	20歳代	子育て期のパパ・ママへの支援 (61.9)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (45.8)	女性相談窓口の機能の充実 (43.5)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (39.9)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (26.2)
	30歳代	子育て期のパパ・ママへの支援 (60.4)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (49.2)	女性相談窓口の機能の充実 (38.0)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (36.8)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (27.2)
	40歳代	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (47.5)	子育て期のパパ・ママへの支援 (39.2)	女性相談窓口の機能の充実 (38.9)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (37.2)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (25.4)
	50歳代	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (46.2)	子育て期のパパ・ママへの支援 (38.9)	女性相談窓口の機能の充実 (35.0)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (32.2)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (29.9)
	60歳代	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (36.6)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (33.3)	子育て期のパパ・ママへの支援 (30.0)	女性相談窓口の機能の充実 (28.2)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (25.2)
	70歳代以上	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (36.8)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (29.8)	女性相談窓口の機能の充実 (27.3)	子育て期のパパ・ママへの支援 (23.8)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (20.3)
	女性計	8. 就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (40.8)	子育て期のパパ・ママへの支援 (39.5)	女性相談窓口の機能の充実 (33.9)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (31.2)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (30.5)
男性	20歳代	子育て期のパパ・ママへの支援 (42.0)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (30.4)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (29.5)	女性相談窓口の機能の充実 (23.2)	
	30歳代	子育て期のパパ・ママへの支援 (48.1)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (37.0)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (27.0)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (24.9)	女性相談窓口の機能の充実 (24.9)
	40歳代	DVに関する相談・支援窓口の充実 (36.0)	子育て期のパパ・ママへの支援 (34.2)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (30.3)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (23.2)	女性相談窓口の機能の充実 (22.4)
	50歳代	DVに関する相談・支援窓口の充実 (30.5)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (29.5)	子育て期のパパ・ママへの支援 (26.4)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (24.5)	女性相談窓口の機能の充実 (22.7)
	60歳代	DVに関する相談・支援窓口の充実 (36.4)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (29.0)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (28.7)	男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供 (28.7)	子育て期のパパ・ママへの支援 (26.8)
	70歳代以上	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (25.0)	男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供 (24.3)	DVに関する相談・支援窓口の充実 (22.9)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (21.6)	子育て期のパパ・ママへの支援 (19.5)
男性計	DVに関する相談・支援窓口の充実 (32.1)	子育て期のパパ・ママへの支援 (30.6)	就職、再就職、職場復帰など女性の就業・就労支援 (27.1)	いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 (26.2)	女性相談窓口の機能の充実 (22.0)	

( )内は%

**問 30 男女共同参画社会の実現に向けて、国・府・市などの行政機関は何をするべきだと思いますか。力を入れるべきと思うものをすべて選んで番号に○をつけてください。**

MA/全体：3,495、女性：1,938、男性1,363



**[全体]**

「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」とする割合(53.1%)が最も高く、次いで、「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」(50.9%)となり、「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」(40.7%)が続いている。

上位 3 位に続くものが、「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」(30.0%)、「女性の就労に対する支援施策」(28.9%)、「経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に関する指導・啓発」(24.0%)となっている。

**[性別]**

女性では、「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」とする割合(57.3%)が最も高く、次いで、「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」(53.5%)となり、「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」(41.7%)が続いている。

上位 3 位に続くものが、「女性の就労に対する支援施策」(33.2%)、「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」(31.8%)、「経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に

関する指導・啓発」(23.3%)となっている。

男性では、「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」とする割合(49.8%)が最も高く、次いで、「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」(49.4%)、「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」(40.5%)が続いている。

上位3位に続くものが、「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」(29.3%)、「経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に関する指導・啓発」(26.3%)、「女性の就労に対する支援施策」(24.4%)となっている。

なお、「女性の就労に対する支援施策」とする割合で8.8ポイント、「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」とする割合で7.9ポイント男性より女性の方が高くなっている。

[性別・年代別]

女性20歳代、30歳代、男性20歳代から50歳代では、「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」とする割合が最も高く、中でも、女性20歳代、30歳代では70.2%、71.3%となり、高くなっている。

女性40歳代から70歳以上、男性60歳代、70歳では、「高齢者や障がいのある人の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」とする割合が最も高く、女性50歳代64.6%となり、高くなっている。

「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」とする割合では、男女とも20歳代(女性42.9%、男性39.3%)、30歳代(女性48.0、男性38.1%)で高くなっている。

「女性の就労に対する支援施策」とする割合では、女性20歳代(37.5%)、30歳代(42.1%)、40歳代(41.3%)で高くなっている。

「従来、女性の進出が少ない分野への女性の進出支援」とする割合では、女性20歳代(31.0%)、30歳代(29.6%)で高くなっている。

問30 行政機関が力を入れるべきだと思うこと

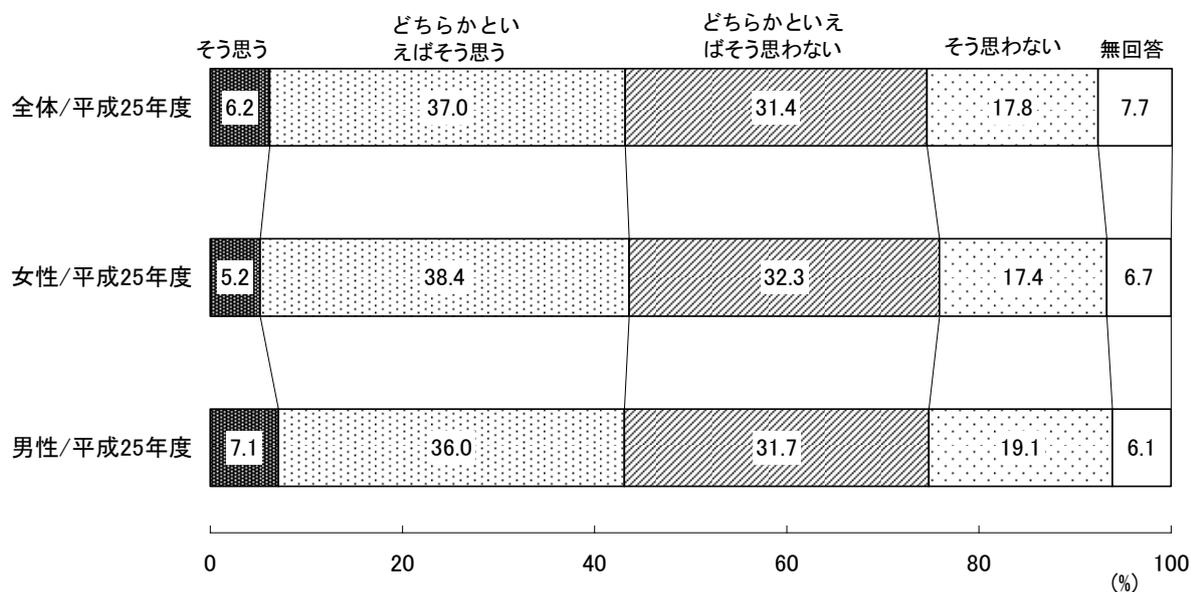
上段:実数 下段:横%	合計	施策の充実や育児休業法の定着	高齢者等の介護休業制度等の定着	ひとり親家庭の生活安定の施策	情報提供・相談などのサービスの充実	相互理解を学習する機会	女性が少ない分野への進出支援	情報の提供や普及・啓発活動	男女平等に関する指導・啓発	女性を登用するなどの措置	政策決定の場への女性の参画の推進	女性の就労に対する支援施策	社会活動や研究活動に対する援助	男女ともに労働時間を短縮	その他	特にない	無回答
全体	3495 100.0	1779 50.9	1856 53.1	1421 40.7	422 12.1	468 13.4	696 19.9	521 14.9	839 24.0	503 14.4	419 12.0	1011 28.9	423 12.1	1049 30.0	55 1.6	300 8.6	245 7.0
女性・20歳代	168 100.0	118 70.2	86 51.2	84 50.0	16 9.5	19 11.3	52 31.0	14 8.3	49 29.2	26 15.5	16 9.5	63 37.5	28 16.7	72 42.9	3 1.8	8 4.8	6 3.6
女性・30歳代	321 100.0	229 71.3	168 52.3	150 46.7	43 13.4	37 11.5	95 29.6	44 13.7	81 25.2	61 19.0	31 9.7	135 42.1	47 14.6	154 48.0	2 0.6	9 2.8	6 1.9
女性・40歳代	339 100.0	180 53.1	203 59.9	149 44.0	42 12.4	45 13.3	78 23.0	43 12.7	107 31.6	65 19.2	47 13.9	140 41.3	42 12.4	116 34.2	6 1.8	24 7.1	7 2.1
女性・50歳代	314 100.0	182 58.0	203 64.6	139 44.3	37 11.8	39 12.4	65 20.7	50 15.9	83 26.4	46 14.6	42 13.4	110 35.0	45 14.3	94 29.9	6 1.9	16 5.1	7 2.2
女性・60歳代	393 100.0	179 45.5	234 59.5	156 39.7	48 12.2	48 12.2	57 14.5	52 13.2	75 19.1	50 12.7	44 11.2	113 28.8	45 11.5	83 21.1	3 0.8	35 8.9	29 7.4
女性・70歳以上	400 100.0	147 36.8	216 54.0	131 32.8	46 11.5	46 11.5	61 15.3	56 14.0	57 14.3	51 12.8	52 13.0	83 20.8	48 12.0	96 24.0	2 0.5	80 15.0	51 12.8
女性	1938 354.4	1037 53.5	1111 57.3	809 41.7	232 12.0	234 12.1	409 21.1	260 13.4	452 23.3	299 15.4	232 12.0	644 33.2	255 13.2	616 31.8	22 1.1	152 7.8	106 5.5
男性・20歳代	112 100.0	58 51.8	36 32.1	51 45.5	11 9.8	11 17.9	20 19.6	22 15.2	17 26.8	30 9.8	11 5.4	24 21.4	13 11.6	44 39.3	2 1.8	10 8.9	3 2.7
男性・30歳代	189 100.0	109 57.7	80 42.3	87 46.0	30 15.9	31 16.4	34 18.0	28 14.8	57 30.2	15 7.9	14 7.4	47 24.9	23 12.2	72 38.1	13 6.9	14 7.4	3 1.6
男性・40歳代	228 100.0	117 51.3	113 49.6	89 39.0	27 11.8	38 16.7	43 18.9	35 15.4	64 28.1	39 17.1	29 12.7	66 28.9	22 9.6	69 30.3	5 2.2	26 11.4	6 2.6
男性・50歳代	220 100.0	112 50.9	106 48.2	90 40.9	30 13.6	31 14.1	40 18.2	42 19.1	52 23.6	33 15.0	20 9.1	51 23.2	16 7.3	78 35.5	5 2.3	21 9.5	9 4.1
男性・60歳代	321 100.0	159 49.5	187 58.3	131 40.8	42 13.1	50 15.6	69 21.5	73 22.7	92 28.7	52 16.2	62 19.3	84 26.2	42 13.1	89 27.7	1 0.3	24 7.5	20 6.2
男性・70歳以上	292 100.0	124 42.5	152 52.1	104 35.6	32 11.0	43 14.7	58 19.9	49 16.8	63 21.6	38 13.0	41 14.0	60 20.5	31 10.6	48 16.4	3 1.0	29 9.9	41 14.0
男性	1363 339.8	679 49.8	674 49.4	552 40.5	172 12.6	213 15.6	266 19.5	244 17.9	358 26.3	188 13.8	172 12.6	332 24.4	147 10.8	400 29.3	29 2.1	124 9.1	83 6.1
男女差(女性-男性)		3.7	7.9	1.2	-0.6	-3.5	1.6	-4.5	-3.0	1.6	-0.6	8.8	2.4	2.5	-1.0	-1.3	-0.6

性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (53.1)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (50.9)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (40.7)	男女ともに労働時間を短縮 (30.0)	女性の就労に対する支援施策 (28.9)	
女性	20歳代	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (70.2)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (51.2)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (50.0)	男女ともに労働時間を短縮 (42.9)	女性の就労に対する支援施策 (37.5)
	30歳代	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (71.3)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (52.3)	男女ともに労働時間を短縮 (48.0)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (46.7)	女性の就労に対する支援施策 (42.1)
	40歳代	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (59.9)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (53.1)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (44.0)	女性の就労に対する支援施策 (41.3)	男女ともに労働時間を短縮 (34.2)
	50歳代	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (64.6)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (58.0)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (44.3)	女性の就労に対する支援施策 (35.0)	男女ともに労働時間を短縮 (29.9)
	60歳代	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (59.5)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (45.5)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (39.7)	女性の就労に対する支援施策 (28.8)	男女ともに労働時間を短縮 (21.1)
	70歳代以上	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (54.0)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (36.8)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (32.8)	男女ともに労働時間を短縮 (24.0)	女性の就労に対する支援施策 (20.8)
	女性計	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (57.3)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (53.5)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (41.7)	女性の就労に対する支援施策 (33.2)	男女ともに労働時間を短縮 (31.8)
男性	20歳代	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (51.8)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (45.5)	男女ともに労働時間を短縮 (39.3)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (32.1)	経営者・管理職に雇用機会、労働条件等の男女平等に関する指導・啓発 (26.8)
	30歳代	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (57.7)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (46.0)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (42.3)	男女ともに労働時間を短縮 (38.1)	経営者・管理職に雇用機会、労働条件等の男女平等に関する指導・啓発 (30.2)
	40歳代	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (51.3)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (49.6)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (39.0)	男女ともに労働時間を短縮 (30.3)	女性の就労に対する支援施策 (28.9)
	50歳代	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (50.9)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (48.2)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (40.9)	男女ともに労働時間を短縮 (35.5)	経営者・管理職に雇用機会、労働条件等の男女平等に関する指導・啓発 (23.6)
	60歳代	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (58.3)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (49.5)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (40.8)	経営者・管理職に雇用機会、労働条件等の男女平等に関する指導・啓発 (28.7)	男女ともに労働時間を短縮 (27.7)
	70歳代以上	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (52.1)	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (42.5)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (35.6)	経営者・管理職に雇用機会、労働条件等の男女平等に関する指導・啓発 (21.6)	女性の就労に対する支援施策 (20.5)
	男性計	育児・保育の施策充実、育児休業法の定着 (49.8)	高齢者等の社会的介護制度充実、介護休業制度の定着 (49.4)	ひとり親家庭の生活安定に関する施策 (40.5)	男女ともに労働時間を短縮 (29.3)	経営者・管理職に雇用機会、労働条件等の男女平等に関する指導・啓発 (26.3)

( )内は%

問 31 あなたは、「大阪市は男性・女性がともに、仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまちである」と思いますか。(〇はひとつ)

SA/全体：3,495、女性：1,938、男性 1,363



[全体]

“そう思う”割合が 43.2%、“そう思わない”割合が 49.2%と 6.0 ポイント高くなっている。

※“そう思う”＝「どちらかといえばそう思う」＋「そう思う」

※“そう思わない”＝「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」

[性別]

“そう思う”割合は、女性 43.6%、男性 43.1%、“そう思わない”割合は女性 49.7%、男性 50.8%となり、男女とも、“そう思わない”割合が女性で 6.1 ポイント、男性 7.7 ポイント高くなっている。

[性別・年代別]

女性では、20 歳代、70 歳以上を除く世代で、“そう思わない”割合が、“そう思う”割合を上回り、その中でも、30 歳代(53.0%)、40 歳代(57.5%)、50 歳代(51.3%)では、5 割を超えている。

女性 20 歳代では、“そう思う”割合(46.5%)と“そう思わない”割合(48.2%)が二分している。

一方、女性 70 歳以上では、“そう思う”割合(46.1%)が、“そう思わない”よりも 5.0 ポイント高くなっている。

男性では 20 歳代、70 歳以上を除く世代で、“そう思わない”割合が 5 割を超えており、“そう思う”割合を上回っている。

男性 20 歳代は、“そう思う”割合(49.1%)と“そう思わない”割合(47.3%)が二分している。

男性 70 歳以上でも、“そう思う”割合(41.8%)と“そう思わない”割合(44.1%)が二分している。

なお、男女とも 40 歳代で“そう思わない”割合が女性 57.5%、男性 58.7%となり、他の年代に比べて高くなっている。

“そう思う”割合(女性 46.5%、男性 49.1%)は、男女 20 歳代で、高くなっている。

男女とも 70 歳上では、「無回答」の割合が女性 13.0%、男性 14.0%と高くなっている。

問31 「大阪市は個性と能力を十分に発揮できるまちである」か

上段:実数 下段:横%	合計	そう思う	どちらか といえ ば そう 思う	“そう 思 う”	“そう 思 わ ない”	どちらか といえ ば そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	無回答
全体	3495 100.0	215 6.2	1294 37.0	1509 43.2	1718 49.2	1096 31.4	622 17.8	268 7.7
女性・20歳代	168 100.0	8 4.8	70 41.7	78 46.5	81 48.2	56 33.3	25 14.9	9 5.4
女性・30歳代	321 100.0	15 4.7	128 39.9	143 44.6	170 53.0	103 32.1	67 20.9	8 2.5
女性・40歳代	339 100.0	12 3.5	121 35.7	133 39.2	195 57.5	124 36.6	71 20.9	11 3.2
女性・50歳代	314 100.0	13 4.1	123 39.2	136 43.3	161 51.3	113 36.0	48 15.3	17 5.4
女性・60歳代	393 100.0	21 5.3	149 37.9	170 43.2	191 48.6	130 33.1	61 15.5	32 8.1
女性・70歳以上	400 100.0	31 7.8	153 38.3	184 46.1	164 41.1	99 24.8	65 16.3	52 13.0
女性	1938 100.0	101 5.2	745 38.4	846 43.6	963 49.7	626 32.3	337 17.4	129 6.7
男性・20歳代	112 100.0	8 7.1	47 42.0	55 49.1	53 47.3	30 26.8	23 20.5	4 3.6
男性・30歳代	189 100.0	12 6.3	73 38.6	85 44.9	102 53.9	63 33.3	39 20.6	2 1.1
男性・40歳代	228 100.0	19 8.3	70 30.7	89 39.0	134 58.7	81 35.5	53 23.2	5 2.2
男性・50歳代	220 100.0	11 5.0	81 36.8	92 41.8	114 51.8	70 31.8	44 20.0	14 6.4
男性・60歳代	321 100.0	26 8.1	117 36.4	143 44.5	161 50.1	107 33.3	54 16.8	17 5.3
男性・70歳以上	292 100.0	21 7.2	101 34.6	122 41.8	129 44.1	81 27.7	48 16.4	41 14.0
男性	1363 100.0	97 7.1	490 36.0	587 43.1	693 50.8	432 31.7	261 19.1	83 6.1

男女差(女性-男性)

-1.9    2.4    0.5    -1.1    0.6    -1.7    0.6

## 9. 自由回答意見

回答者全体の15.1%から、合計582件の意見の記入があった。主な記入内容として、「男女共同参画の実現に向けて」(135件)、「男女共同参画、男女平等に関する意識」(126件)などに関する意見が寄せられている。

	合計	女性							男性							性別不明					
		計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計	20歳代	40歳代	60歳代	70歳以上	不明
記述意見数	582	322	41	69	61	53	59	39	251	26	47	51	45	50	32	9	1	2	1	4	1
<b>男女共同参画、男女平等に関する意識</b>	<b>126</b>	<b>64</b>	<b>12</b>	<b>9</b>	<b>11</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>5</b>	<b>60</b>	<b>11</b>	<b>15</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>12</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>0</b>
性別、性別役割分担・分業について	27	12	4	1	0	4	2	1	14	2	5	2	1	3	1	1	0	0	0	1	0
社会通念やしきたり、慣習を変えるべき	12	8	4	0	1	1	2	0	3	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0
まず人間としての平等が当たり前、個人の尊重を	9	3	0	2	0	1	0	0	6	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
日本社会のトップの意識改革を	9	6	1	0	2	0	1	2	3	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
男女平等、男女共同参画社会の実現は難しい	8	7	1	1	0	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
高齢者の意識改革を	8	4	0	1	2	1	0	1	4	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
男女共同参画の取組、施策内容を知らない	7	3	0	0	1	0	2	0	4	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
男女の特性や能力を生かした社会を	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
すべてを平等にするのは無理がある	7	5	1	2	1	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
女性の意識改革を	6	2	0	0	1	0	1	0	4	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
女性への優遇について	5	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
男女ともに意識改革を	4	2	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
男性の意識改革を	4	4	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本当の男女平等を実現してほしい	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専業主婦への偏見をなくすべき	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
男性への逆差別について	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	7	5	1	1	1	1	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>就労・雇用、社会参画</b>	<b>100</b>	<b>64</b>	<b>8</b>	<b>27</b>	<b>10</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>35</b>	<b>5</b>	<b>7</b>	<b>11</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>
労働条件、職場環境について	32	24	4	10	4	2	2	2	8	2	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
行政による企業の指導を	20	9	0	2	2	3	1	1	11	3	1	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0
女性の登用、就労機会の拡大を	19	10	2	7	0	0	1	0	9	0	1	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0
男性の労働条件の改善を(家庭参画のための)	12	7	0	3	1	1	1	1	4	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0
家庭生活との両立しやすい環境づくりを	9	7	1	3	1	1	1	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
職場にある男女差別、性別不平等について	4	4	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雇用に関して	4	3	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>人権について</b>	<b>17</b>	<b>8</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>9</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>0</b>						
差別について	7	5	2	0	3	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
DVについて	7	1	0	0	1	0	0	0	6	2	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0
その他(セクハラ、同性愛者等)	3	2	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>子育て・教育</b>	<b>85</b>	<b>54</b>	<b>7</b>	<b>16</b>	<b>11</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>1</b>	<b>29</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>9</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
保育・子育て支援施策の充実を	34	28	4	12	6	4	2	0	5	0	1	1	0	2	1	1	0	0	1	0	0
教育問題・教育の充実を	34	17	2	1	5	4	5	0	16	1	1	5	3	2	4	1	0	1	0	0	0
子育てと仕事の両立に関して	7	3	1	1	0	0	1	0	4	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
子育てしやすい社会環境づくりを	5	3	0	1	0	2	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男女共同参画と少子化との関わりについて	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	2	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>男女共同参画の実現に向けて</b>	<b>135</b>	<b>67</b>	<b>5</b>	<b>7</b>	<b>16</b>	<b>14</b>	<b>16</b>	<b>9</b>	<b>68</b>	<b>4</b>	<b>9</b>	<b>18</b>	<b>13</b>	<b>17</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
メディアの活用や広報活動	22	12	2	0	5	1	3	1	10	0	2	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0
行政が率先して男女共同参画を実践すべきだ	21	8	0	1	2	1	2	2	13	3	1	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0
法整備、対策の充実を	17	7	2	1	1	2	1	0	10	0	2	2	0	3	3	0	0	0	0	0	0
互いに思いやり尊重しあう社会に	12	6	0	0	1	3	2	0	6	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
安心して暮らせる社会に	10	4	0	0	0	0	3	1	6	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
生活水準の向上について	9	6	0	1	2	2	1	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
情報提供や啓発活動の充実を	9	6	0	0	1	2	1	2	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
幅広く意見を聞くことが必要	7	4	0	0	1	1	1	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済支援の充実を	6	2	0	1	0	1	0	0	4	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
相談体制の充実を	4	3	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講座やイベント等の企画を	4	2	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	14	7	0	2	1	1	1	2	7	0	0	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0
<b>その他</b>	<b>119</b>	<b>65</b>	<b>6</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	<b>14</b>	<b>19</b>	<b>50</b>	<b>2</b>	<b>10</b>	<b>5</b>	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>13</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>
行政について	53	27	4	6	2	4	7	4	25	0	3	5	7	5	5	1	1	0	0	0	0
福祉関係について	15	10	1	1	1	1	0	6	5	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
行政に期待していない	12	5	0	1	2	1	1	0	6	1	1	0	2	1	1	1	0	0	0	0	1
アンケートについて	11	6	0	0	2	1	0	3	4	1	0	0	1	0	2	1	0	1	0	0	0
男女共同参画社会よりも解決すべき問題がある	3	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	25	14	1	0	0	1	6	6	10	0	4	0	1	1	4	1	0	0	0	1	0